

陸前高田市文化財調査報告第21集

堂の前貝塚発掘調査報告書 Ⅱ

平成11年3月

陸前高田市教育委員会

発 刊 に あ た り

陸前高田市教育委員会

教育長 熊 谷 睦 男

陸前高田市は、温暖な気候のもと、多くの美しい自然に恵まれ、縄文時代から現在にいたるまで、海に川に、そして北上山系の山々から、四季折々、多くの恩恵を受け発展してまいりました。中でも海からの恵みは大きく、本市の歴史は海を除いては語れません。このことは、市内各所に立地する貝塚をはじめとした遺跡からも、その海に依った豊かな生活を伺い知ることができます。その数は現在確認されているものだけで200カ所を越え、本市は、岩手県内でも「遺跡の宝庫」と呼ぶにふさわしい地域の一つと言えるのではないのでしょうか。それだけに、市勢の発展に必要な開発と、これら貴重な遺跡の保護との両立には、特に意を注いできたところです。近年増加傾向にある、これら開発事業につきましては、関係機関と事前の協議をとり進め、調整を図っておりますが、やむを得ぬ事情により緊急発掘調査を実施するに至っております。

失われた埋蔵文化財は二度ともたに戻りません。そのため、調査にあたっては、埋蔵文化財を有効に活用するため、市内の児童・生徒を対象に、発掘体験教室を設け、体験学習を通じて次世代を担う子供達に、遺跡がもつ魅力と埋蔵文化財の重要性を認識させるうえで大変意義深いものであったと思います。

近年は、考古学ブームで、各地方から発掘調査等のニュースが毎日の様に流れますが、この様な社会情勢の中にあつての「堂の前貝塚」の緊急発掘調査の実施は、今までにもまして注目、期待されたところであり、膨大な量の出土遺物や土坑の発見等の成果がありました。

この度ここに、「堂の前貝塚発掘調査報告書Ⅱ」が刊行されましたことは、陸前高田市の先史、とりわけ本市の縄文時代中期から後期までの生活史を知る上で大変意義深いことと言えます。既刊の「堂の前貝塚発掘調査報告書Ⅰ」とあわせ、本書を地域の方々並びに研究者の方々にご活用いただき、ひいては文化財保護思想のさらなる普及啓蒙にお役立たされれば幸いです。

おわりに、この調査に際しましては、常にご指導、ご協力をいただきました岩手県教育委員会文化課と、作業に従事して下さった多くの方々、並びに関係各位、また学問的見地からご協力を賜りました諸先生方に対し、深く感謝申し上げますとともに、今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成11年3月

例 言

- 1 本書は、岩手県陸前高田市米崎町字堂の前地内に位置する堂の前貝塚の発掘調査報告書であり、平成9年度に行われた調査結果をとりまとめたものである。
- 2 調査は、「団体営農道整備事業農道久野立山線改良工事」に伴う事前の緊急発掘で、陸前高田市農政課より依頼を受け、陸前高田市教育委員会社会教育課で担当した。調査期間、調査体制は以下のとおりである。

調査期間 平成9年6月3日～平成9年8月17日

調査体制 団 長 陸前高田市教育委員会教育長 熊谷睦男

総 括 上部修一

事務局 社会教育課長補佐 菊池政雄

農政課主査 菅原耕之、同係長 津田耕節、同主任 石井泰子

同主事 東靖信、同主事 黄川田次男、同主事 佐々木帰依

調査担当者 市立博物館専門研究員 細谷英男、市立博物館主任 佐藤正彦

同 主事兼学芸員 熊谷賢、社会教育課主事 高橋和弥

- 3 野外調査は、細谷・佐藤・熊谷・高橋が行った。室内整理は、佐藤・熊谷・高橋が行った。
- 4 執筆は、Iは高橋が、II-1・V-3は熊谷が、他は佐藤が担当し、編集は佐藤が行った。
- 5 調査及び整理に際しては、以下の方々のご指導、ご助言を賜った。記して感謝を申しあげる次第である。

盛岡大学 熊谷常正氏、三陸町教育委員会 佐々木洋氏

- 6 石材鑑定は、大船渡市立博物館の白土豊氏に依頼した。

- 7 調査に際しては以下の方々のご協力をいただいた。(敬称略、順不同)

青山道子 齊藤すみ子 村上典子 菅野美代 佐藤多恵子 紺野志賀子 鈴木艶子

吉田チヨ子 上野立子 鈴木キミ子 佐藤紀代子 鈴木貞子 菅原とみ子 鈴木徳子

大和田勝子 鈴木牧子 佐藤とも子 塚越真理 渡辺和子

- 8 室内整理および報告書の作成にあたっては、次の方々のご協力をいただいた。(敬称略、順不同)

村上典子 佐藤とも子 鈴木キミ子 吉田泉 佐藤紀代子 鈴木貞子 佐々木奈穂子

青山道子 黄川田澄子 坂本優子 菅野美代

- 9 土器・石器の実測は、佐藤・坂本優子・佐々木奈穂子が行った。

- 10 掲載した土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著「新版標準土色帳」第4版によった。

目 次

発刊にあたり

例言

I 調査に至る経過及び調査過程	1
II 遺跡の立地と環境	1
1 遺跡の位置と周辺の地形	1
2 基本層序	4
III 調査と室内整理の方法	5
1 調査方法	5
2 室内整理	6
IV 発見された遺構	8
1 BI35・BJ35~37・CA34・CA37グリット検出遺構	8
BI35-1・2ピット	8
BJ35-1ピット	8
BJ36-1ピット	8
BJ37-1ピット	10
CA34-1・2ピット	10
CA37-1ピット	10
2 CC40・CD39・CD41グリット検出遺構	11
CC40-1ピット	11
CD39-1ピット	12
CD41-1ピット	12
3 CE41・E42・CF40・CF41・CF42・CG40・ CG41・CG42・CH41・CH42グリット検出遺構	12
CE41-1~6ピット	12
CE41-1・2ピット	14
CF41-3~5ピット	15
CE42-1~4ピット	15
CE42-5ピット	16
CF42-1~6ピット	16
CF42-7ピット	17
CG40-1~3ピット	17
CG41-1~3ピット	17
CG42-1ピット	18
CG42-2~4ピット	20
CH41-1ピット	20
CH42-1・2ピット	20
4 CI41・CI42・DA42・DB41・DB42・DB43 DC42・DC43・DD41グリット検出遺構	20
掘建柱建物状遺構	20
EC39-3~6ピット	40

CI41-1ピット	21
DB41-1ピット	21
DD41-1ピット	20
5 DE40~42・DF40~42・DG40~42・DH40 DH41・DI40・DI41グリット検出遺構	24
(1) 竪穴住居状遺構	24
(2) ピット	24
DE40-1~3ピット	24
DE41-1・2ピット	24
DE42-1ピット	24
DF40-1ピット	24
DF41-1~5ピット	25
DF42-1~3ピット	25
DG40-1・2ピット	25
DG40-3ピット	26
DG41-1~3ピット	26
DG42-1ピット	26
DH40-2・3ピット	26
DH41-1ピット	26
DH41-2ピット	27
DI40-1~7	27
DI41-1~3ピット	27
DI41-4ピット	31
6 DJ39~42、EA39・40、EC38~40・ ED37~39グリット検出遺構	31
(1) 溝状遺構	31
(2) ピット	33
DJ39-1・2ピット	33
DJ40-1・2ピット	33
DJ40-6ピット	33
DJ41-1ピット	33
EA39-1・2ピット	33
EA40-1~6ピット	35
EB39-1~4ピット	35
EB39-5~12ピット	37
EB40-1・2ピット	37
EB40-3~9ピット	39
EC38-1~3ピット	39
EC39-1・2ピット	39
EC38-4ピット	40
第24図 検出遺構・遺構出土遺物	43

EC40-1ピット	40
ED37-1ピット	40
ED38-1ピット	40
ED38-2~5ピット	41
ED39-1~7ピット	41
ED39-8~10ピット	43

V 遺構外出土遺物	44
1 土器	44
2 土器群のまとめ	52
3 土製品	54
4 石器	75
5 動物遺存体	79
6 アスファルト	80

挿 図 目 次

第1図 堂の前貝塚位置図	2
第2図 堂の前貝塚の地形と路線予定 箇所及び発掘箇所	3
第3図 土層柱状図	4
第4図 グリット設定図	5
第5図 遺構配置図	7
第6図 検出遺構・遺構出土遺物	9
第7図 検出遺構・遺構出土遺物	10
第8図 検出遺構	11
第9図 検出遺構	13
第10図 遺構出土遺物	14
第11図 検出遺構	18
第12図 検出遺構	19
第13図 検出遺構	22
第14図 検出遺構・遺構出土遺物	23
第15図 検出遺構	28
第16図 検出遺構	29
第17図 検出遺構・遺構出土遺物	30
第18図 検出遺構・遺構出土遺物	31
第19図 検出遺構・遺構出土遺物	32
第20図 検出遺構	34
第21図 検出遺構・遺構出土遺物	36
第22図 検出遺構・遺構出土遺物	38
第23図 検出遺構・遺構出土遺物	42

第25図 遺構外出土土器	56
第26図 遺構外出土土器	57
第27図 遺構外出土土器	58
第28図 遺構外出土土器	59
第29図 遺構外出土土器	60
第30図 遺構外出土土器	61
第31図 遺構外出土土器	62
第32図 遺構外出土土器	63
第33図 遺構外出土土器	64
第34図 遺構外出土土器	65
第35図 遺構外出土土器	66
第36図 遺構外出土土器	67
第37図 遺構外出土土器	68
第38図 遺構外出土土器	69
第39図 遺構外出土土器	70
第40図 遺構外出土土器	71
第41図 遺構外出土土器	72
第42図 遺構外出土土器	73
第43図 遺構外出土土器・土製品	74
第44図 遺構外出土石器	81
第45図 遺構外出土石器	82
第46図 遺構外出土石器	83

表 目 次

第1表 第1号掘立柱遺構のピットの 規模及び形状・出土遺物	21
第2表 ピット出土土器一覧表	55
第3表 出土動物遺存体一覧表	80
第4表 遺構外出土土器一覧	84
第5表 遺構外出土石器一覧	85
第6表 遺構外出土石器一覧	86
第7表 遺構外出土石器一覧	87
第8表 遺構外出土石器一覧	88
第9表 遺構外出土石器一覧	89
第10表 遺構外出土石器一覧	90
第11表 遺構外出土石器一覧	91

I 調査に至る経過及び調査過程

調査は、「団体営農道整備事業農道久野立山線改良事業」に伴う緊急発掘調査である。

平成7年10月6日、同事業の実施にあたり事業主体者である陸前高田市から、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づく発掘の通知が当教育委員会になされた。これを受けて当教育委員会では、工事予定地内の現地踏査等を行い、結果、事前の試掘調査が必要との判断から、現地調査書を添え、平成7年10月18日岩手県教育委員会事務局文化課に進達した。

平成7年10月23日、文化庁より確認調査（試掘）の指示があり発掘届出者へ通知した。その後、平成7年11月17日に試掘の依頼が事業主体者から当教育委員会になされた。これを受けて、岩手県教育委員会事務局文化課及び工事の担当課である当市農政課との三者間で協議を行ない、平成7年11月27日から試掘調査を開始した。

この試掘調査では、面積約274m²の調査区域を設定し、調査の結果、ピット6基と縄文土器を多量に含む遺物包含層等が検出されたため、平成7年3月11日に当教育委員会では、本調査が必要との見解を事業主体者に示した。

平成8年10月25日、この試掘の結果を受けて主体者側より本調査の依頼があり、本調査の実施に向け発掘の時期や規模、予算や交通規制等の最終的な調整を進めた。発掘調査は、予算事務や測量等の遅れから、調査着手の時期が大幅に遅れ冬季にずれ込んだ。このため、当初予定していた発掘面積約1,440m²を2カ年で調査することとし、平成8年度に480m²を（第一次調査）、残りを平成9年度（第二次調査）に実施することとした。

その後現場事務所の設営や土捨場の確保、電話の設置、発掘器材の購入等の準備をすすめ、11月1日には調査に係る道路（約400m）の全面通行止めの交通規制措置がとられ、11月5日より12月14日まで、1次発掘調査を実施した。調査の成果は、「堂の前貝塚発掘調査報告書1」にまとめた通りである。（注1）

次いで第二次発掘調査は、平成9年6月3日より8月17日まで行われ、その成果は今回報告する通りである。

（高橋和弥）

注1 佐藤正彦 熊谷賢 高橋和弥 「堂の前貝塚発掘調査報告書1 団体営農整備事業農道久野立山線改良工事」 陸前高田市教育委員会 1997年

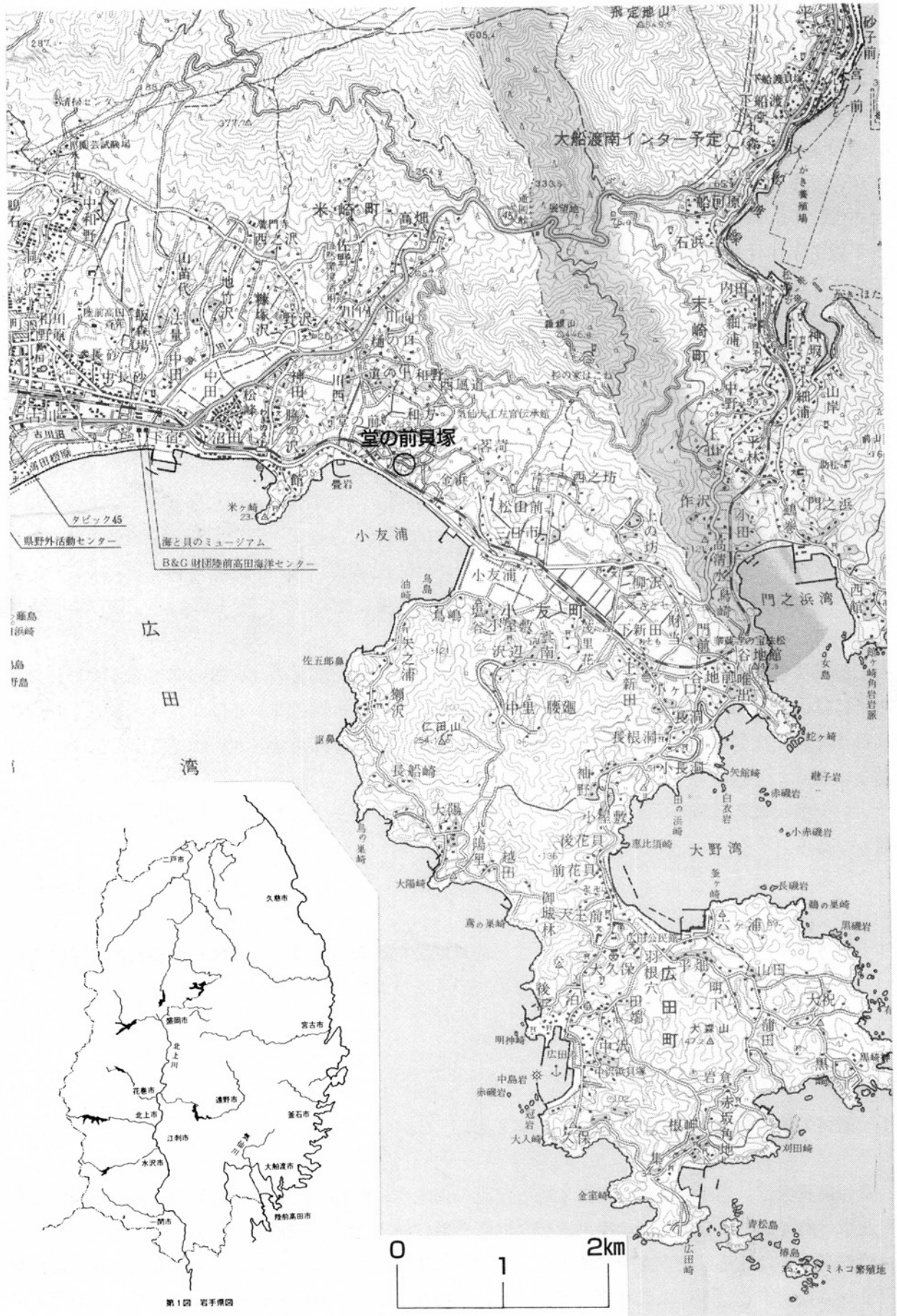
II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と周辺の地形（第1図～第2図）

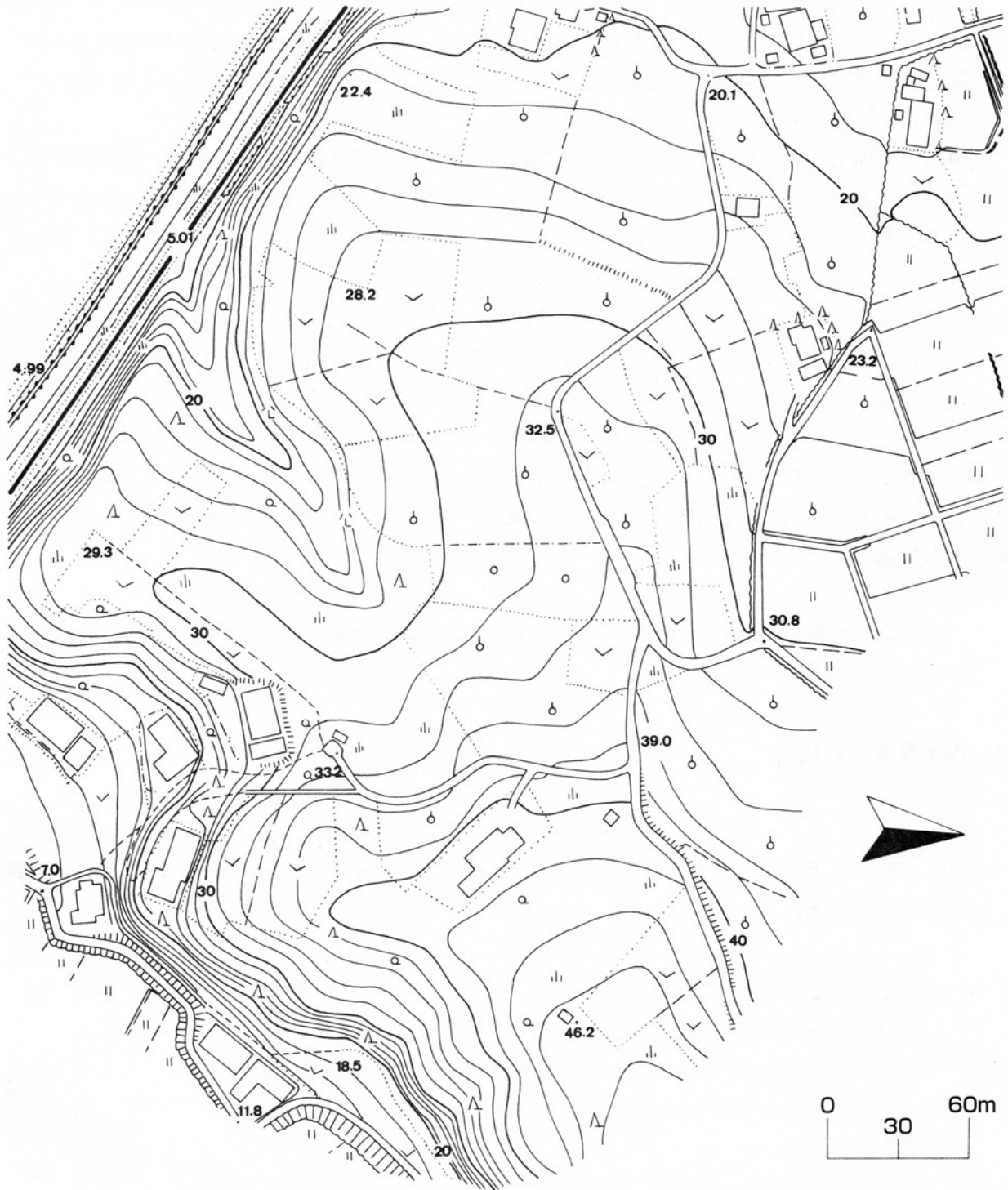
堂の前貝塚は、岩手県陸前高田市米崎町字堂の前地内に所在し、市の中心部から直線距離にして東北東へ約4km、JR大船渡線脇の沢駅より東へ約1.3kmの地点に位置している。

陸前高田市は岩手県の東南端に位置し、宮城県に隣接している。市境は、南は宮城県本吉郡唐桑町及び気仙沼市と、西は東磐井郡大東町、北は気仙郡住田町、東は大船渡市と隣接し、東南は太平洋に面している。

周辺の海岸線は、リアス式海岸特有の岬と湾が交互に連続する複雑な海岸線をなし、本市におい



第1図 堂の前貝塚位置図



第2図 堂の前貝塚の地形

ては、広田半島が南東方向の太平洋に大きく突出し、西方には、湾口部約3.5km、湾奥まで約7kmの逆U字状の広田湾を形成している。広田湾は、三陸海岸のほぼ中央にあり、北は氷上山(874.4m)、東は仁田山(254m)・大森山(147.2m)のそびえる広田半島、西は笹長根山(519.9m)に囲まれ、湾口部を南に開いている。湾奥部には住田町北境の土倉峠に源を発し、南流する総延長40kmの気仙川が注ぎ、河口付近には沖積層の低地帯を形成しており、現在市街地となっている。

堂の前貝塚の位置する米崎町は、市域のほぼ東寄りに位置し、南は広田湾に面し、西は本市高田町、北は大船渡市、東は本市小友町に接している。面積は16.45km²で南北に長い町である。町の北

側には氷上山がそびえ、山より南に延びた斜面は、標高200m以上の地帯では傾斜の急な山地となっているが、200m以下では傾斜が緩く、斜面の前面は町を北東から南西方向に横切るように広田湾に注いでいる浜田川によって開析され、高田町まで広がる長さ3kmほどの低地帯を形成している。この低地帯の東側には箱根山（標高446.8m）から南西方向に延びた傾斜の緩やかな丘陵が広がり、その一部は広田湾に突出し、米ヶ崎を形成している。

遺跡は、箱根山から南西方向に広がる丘陵の先端部にあり、標高20～30mである。遺跡の南側には広田湾が広がり、現海岸線から300mほど入った所にある。丘陵の北側には緩斜面が形成され、斜面下を勝木田川が西流し、周辺は低地となっており水田として利用されている。南側は、海蝕崖であり崖下を東西方向にJR大船渡線、県道大船渡陸前高田線が並行する形で通っている。

遺跡の所在する丘陵上は、幅員3mの未舗装道路が東西方向に丘陵を二分するように走るが、さほど宅地化は進んでおらず、リンゴなどの果樹が植栽され、一部畑地として利用されている。若干の宅地造成などによる現地の改変はあるものの、丘陵はほぼ原地形をとどめていると思われる。

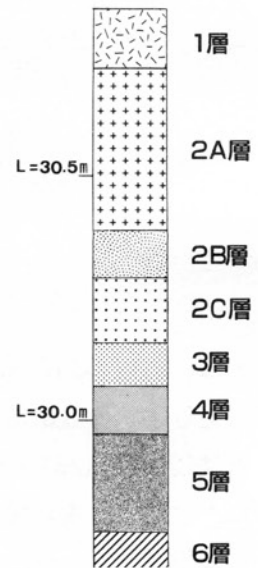
市内の多くの貝塚は明治・大正時代から発掘調査が行われてきたが、堂の前貝塚は昭和40年代まで調査されることなく、遺跡の規模や性格などは不明であった。そのため、規模や保存状態などを知るため昭和46年に発掘調査が行われた。その概要は、翌47年に「堂の前貝塚発掘調査概要」（注2）として報告されている。（熊谷 賢）

注2 及川洵・小野寺信吾・遠藤勝博 「堂の前貝塚発掘調査概要」 岩手県陸前高田市教育委員会 昭和47年3月

2 基本層序（第4図）

基本層序図は、BJ32グリットの東壁を模式的に表したもので、該区は調査区において最も層厚のある箇所、北西方向に傾斜している。層の堆積は、概括すると8層に大別される。層の概要については以下のとおりである。

- 1層 表土ないし耕作土。暗褐色（7.5YR3/3）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さは10～15cmほどである。土器、礫を多量含む。
- 2A層 黒褐色（7.5YR2/2）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さは斜面上位において20cmほどであるが、下位では最大厚35cmほどになる。土器、礫を多量含む。
- 2B層 黒褐色（7.5YR3/2）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さは斜面上位において25cmほどであるが、下位では10cmほどに薄くなる。土器、礫を少量含む。
- 2C層 黒褐色（7.5YR2/2）を呈し、固い。粘性は強く棒状になる。厚さは10cmほどである。土器を少量含む。
- 3層 黒褐色（7.5YR3/2）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さは10cmほどである。焼土を多量に含む。土器を少量含む。
- 4層 黒褐色（7.5YR2/2）を呈し、やや柔らかい。粘性は強く、棒状になる。厚さは10cmほどである。炭化物を多量に含む。土器を少量含む。



第3図
土層柱状図

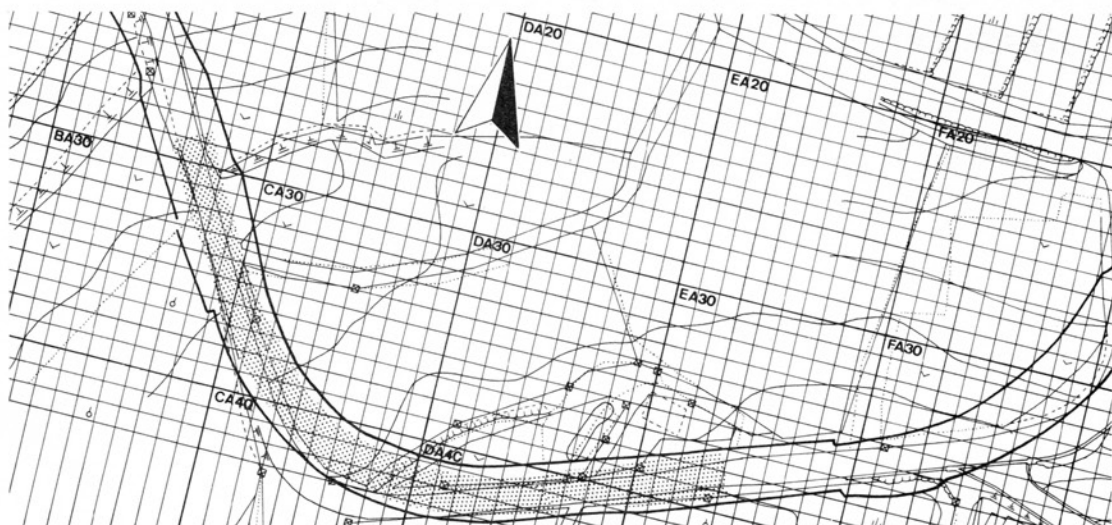
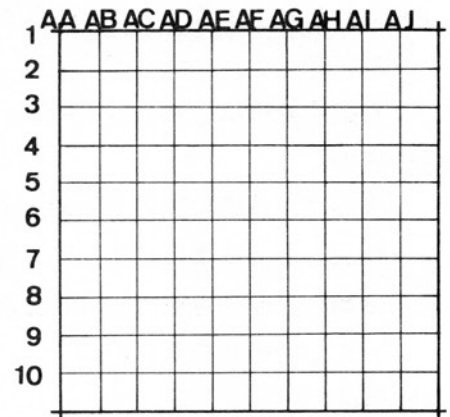
- 5層 暗褐色 (7.5YR3/3) を呈し、やや柔らかい。粘性は強く、棒状になる。厚さは20～25cmほどである。土器を少量含む。
- 6層 地山である。花崗岩の風化土 (真砂) である。暗褐色 (7.5YR3/4) を呈し、柔らかい。粘性は強く、棒状になる。

Ⅲ 調査と室内整理の方法

1 調査方法

- (1) 現道部分の碎石のみをバックホーンにより取り除く粗掘りを行い、その他はすべて手掘りによって掘り下げた。
- (2) 基軸線の設定は、任意の基準杭を原点として、それと他の基準杭の2点間を結んだ直線と、原点に直交する直線を基軸線とした。基準杭を結んだ基軸線は磁北より約2.3° 西偏している。グリットの設定は、東西方向へ30m幅で、A～Jの大区画とし、これを更に10区画に細分し、A～Jのアルファベットで、南北方向へ同様に30m幅の大区画を1～10、11～20のようにアラビア数字によって10区画に細分した。グリットの名称は各区画内における北西方向の交点の杭によりA A 1、B A 1、C A 1のように表した。
- (3) 遺物の取り上げは原則として、遺構内出土のものは、遺跡記号 (DNM)、出土年月日、遺構名、グリット名、出土層位を記録し、取り上げた。遺構外出土の遺物はグリットごとに、遺跡記号、出土年月日、出土層位を記録し取り上げた。グリット名は、各グリットの北西に位置する杭の番号を用いた。

出土遺物のうち、攪乱層出土のものと、土器細片を除く遺物は原則として、遺物番号を付け平面図や遺物カードに出土レベル、位置、層位を付して取り上げた。また、貝や骨などを含む土や焼土の一部は分析のためビニール袋に入れ、持ち帰った。



第4図 グリット設定図

- (4) 遺構の番号は、発掘時においてグリットごとに通し番号による遺構名を冠したが、整理の段階で、部分的に変更している。
- (5) 平面実測は、グリット軸に合わせた1 mメッシュを基本とし1/10の縮尺を用いた。
- (6) 写真記録は、35mmモノクロとカラースライド各1台、6×7 cmモノクロ1台を用い、各種埋土堆積状況や断面、遺物の出土状況、完掘状況などについて行った。

2 室内整理

野外調査で得られた実測図、写真、遺物の各種資料は、室内整理の段階で次のとおり処理、整理し報告書作成の基礎にするとともに資料化を行った。

(1) 土器・土製品

発掘調査後、室内に持ち帰り整理を行った。57×39×13.5センチメートルのコンテナで約150箱程度出土量がある。水洗後、各遺物に注記を行い、各出土地点、層位毎に仕分けを行い復元を行った。その後、拓本、実測、写真撮影の順で整理を行った。脆い遺物も多く見られ、酢酸ビニルエマルジョン系ボンドを用いて補強した。

(2) 石器

発掘調査後、水洗、フレーク類からの石器の抜き取り、台帳登録を行い、実測、計測、写真撮影を行った。石器は、300点を越える出土があり、データはすべてコンピューターに入力し、管理した。

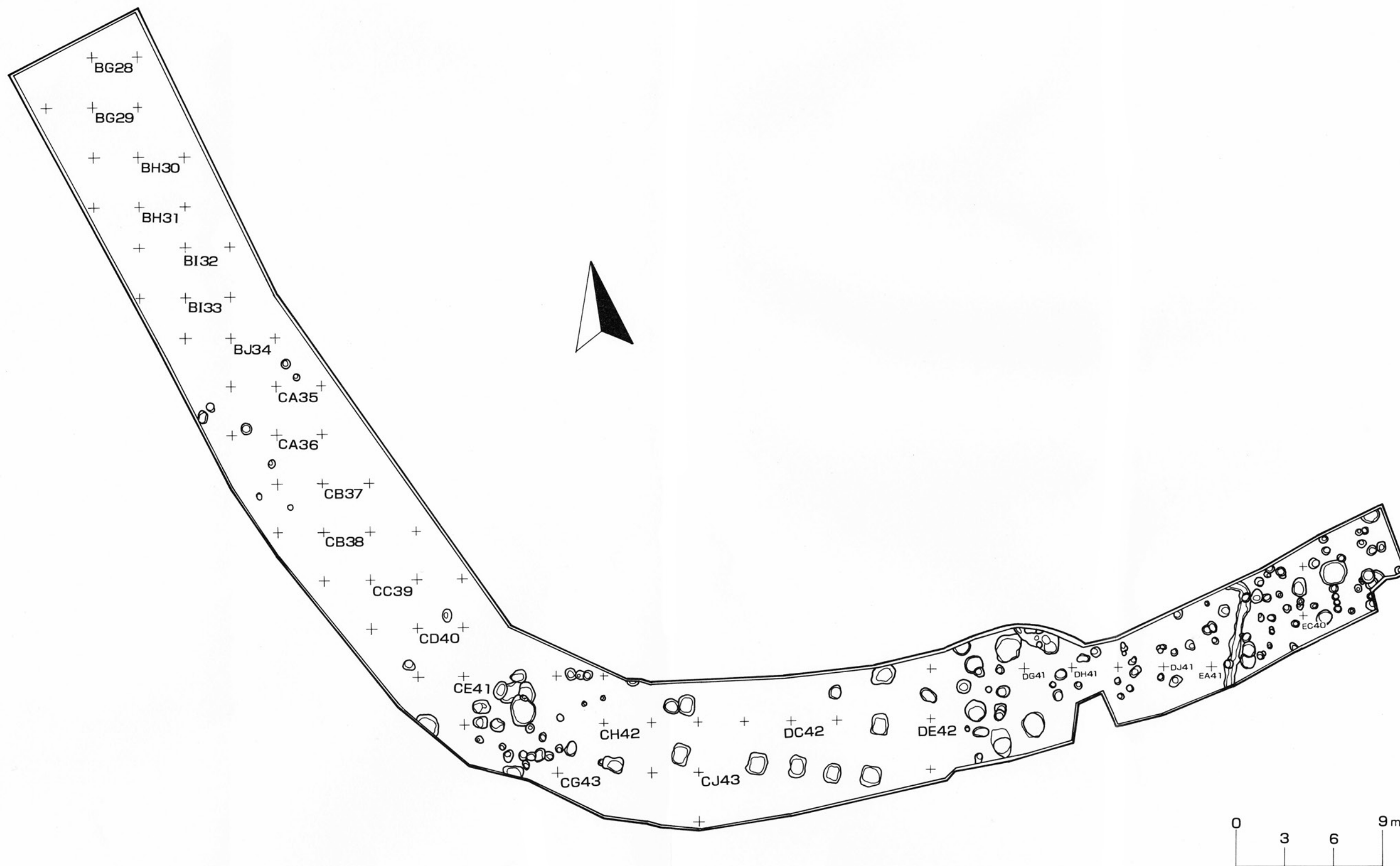
石材の分析は、外部の専門家に鑑定依頼をした。

(3) 図面

図面は、遺構に関しては遺構カード、土器・土製品・石器に関してはそれぞれの遺物カードを作成した。遺構は縮小して、遺物は実大で実測、トレースを行い図化した。各実測図は遺構毎に分類し、原図点検の上、報告書作成に必要なものについては第2原図を作成し、トレース、コピーをし、それを用いた。

(4) 写真

写真はネガと密着焼き付けのものをアルバムに貼付し整理し、カラースライドはスライドファイルに撮影順に収納した。



第5図 遺構配置図

IV 発見された遺構

平成9年度の調査において検出された遺構は、竪穴住居状遺構1基、掘立柱状遺構1基、土坑154基である。遺構の時期は、時期不明と縄文時代中期から後期にかけてである。遺構の分布は、特に標高33m付近に多く見られる。ここでは便宜的にグリットごとに説明を行う。

1 BI35・BJ35～37・CA34・CA37グリット検出遺構（第6図・第7図）

BI35・BJ35～37・CA34・CA37グリットにおいて検出した遺構は、地山面において検出したピット8基がある。検出したピットは、規則性のあるものは見られず、大きさも不均一で性格は不明である。

BI35-1ピット（第6図）

平面形は楕円形。規模は開口部が68×55cm、底部が50×48cm、深さ31cm。底面形は不整円形。壁は直壁状に立ち上がり、埋土は3層からなり、掘方・柱あたりが見られる。

〔出土遺物〕（第6図1・3、写真図版5）

出土遺物は、埋土中より磨滅の著しい土器片21点が出土した。2点を図示した。1は平縁深鉢の口縁部片である。口縁に平行する横位沈線と曲線文によって文様が描かれる。3は深鉢の体部片である。隆線と沈線によって文様が施文され、隆線の交点には刺突文を有している。

BI35-2ピット（第6図）

平面形は楕円形。規模は開口部が78×63cm、底部が68×43cm、深さ33cm。底面形は楕円形。壁は直壁状に立ち上がる。埋土は3層からなり、自然堆積。底面に45×25cmの礫を有している。

〔出土遺物〕（第6図2、写真図版5）

出土遺物は、埋土中より土器片20点が出土した。1点を図示した。3は平縁深鉢の口縁部片である。口縁に平行する沈線を有し、沈線には刺突が施される。

BJ35-1ピット（第6図）

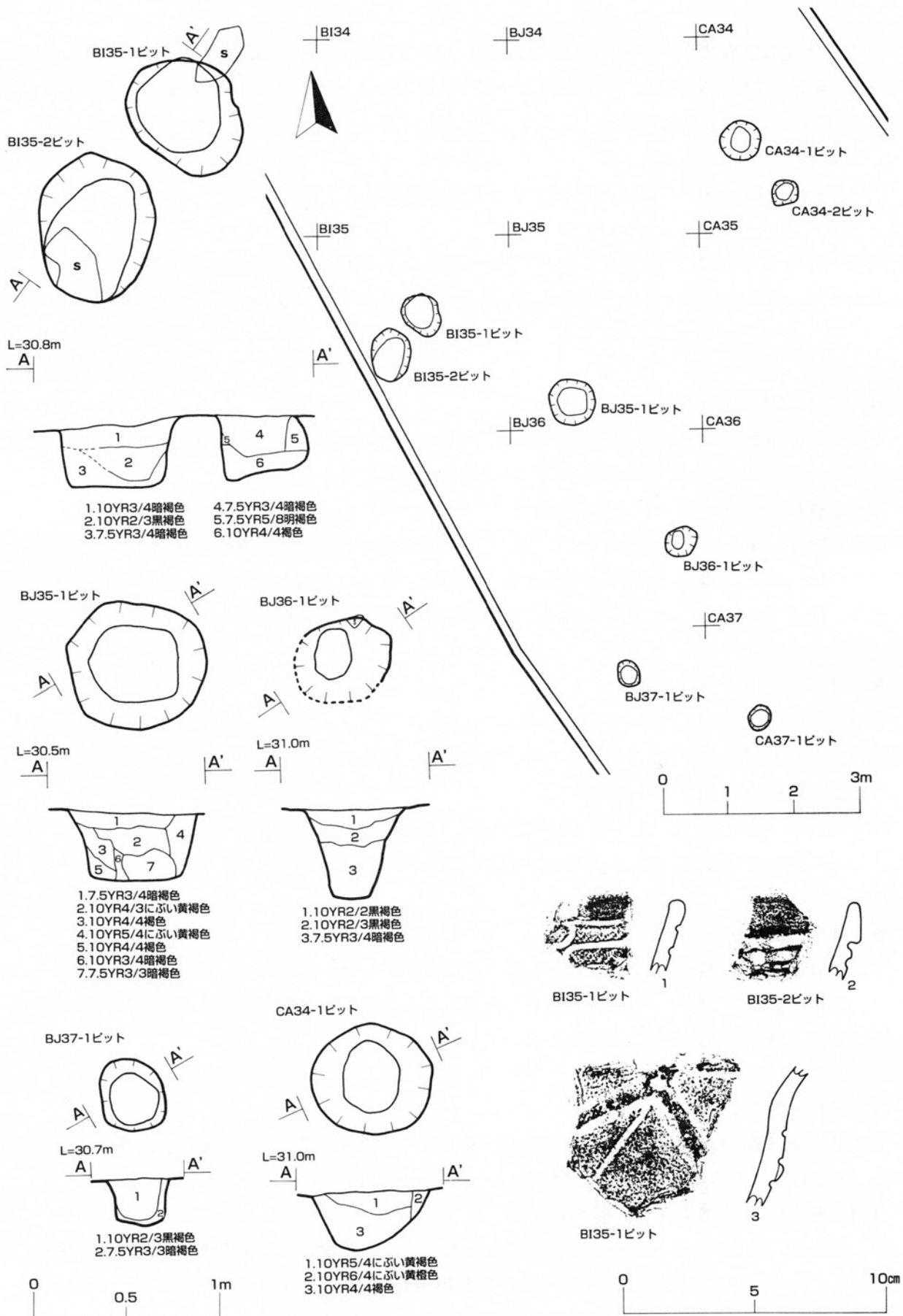
平面形は楕円形。規模は開口部が76×69cm、底部が48×42cm、深さ37cm。壁は、急傾斜で立ち上がり、埋土は7層からなり、掘方・柱あたりが見られる。出土遺物は埋土中より土器片18点が出土しているが、細片で磨滅が著しく割愛した。

BJ36-1ピット（第6図）

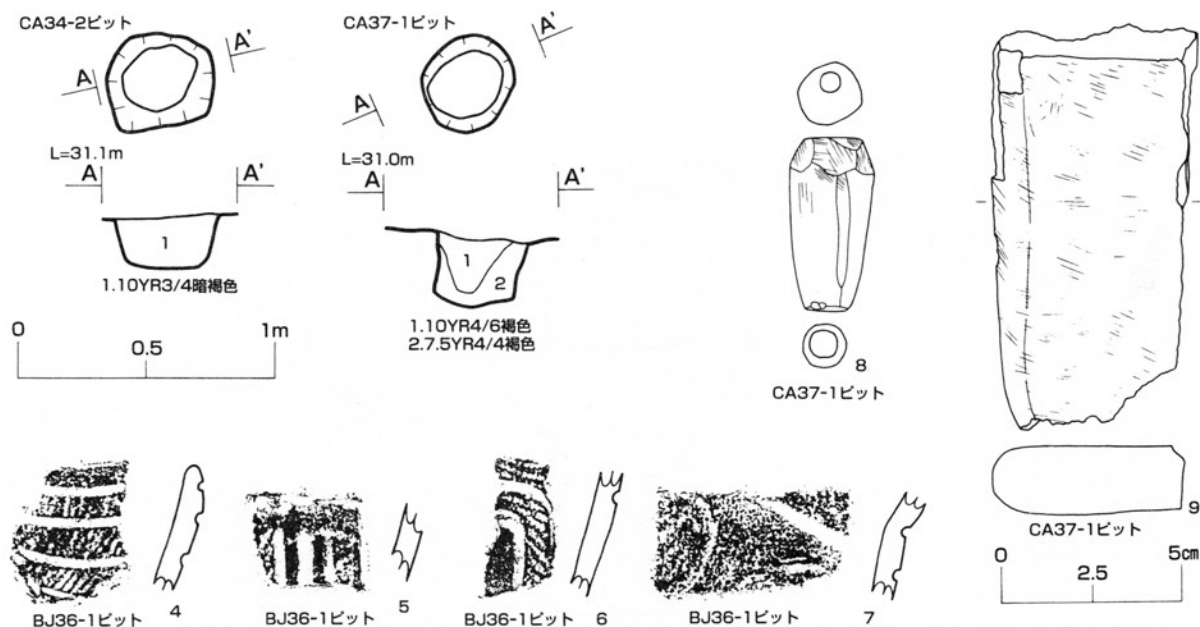
平面形は楕円形。規模は開口部が55×45cm、底部が27×19cm、深さ48cm。壁は、急傾斜で立ち上がる。埋土は3層からなり自然堆積である。

〔出土遺物〕（第7図4～7、写真図版5）

出土遺物は、埋土中より土器片41点が出土した。4点を図示した。4は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は内反する。口縁部には数条の横位沈線が施文されている。5～7は深鉢の体部片である。5は隆沈線、6・7は沈線によって曲線文が描かれている。



第6図



第7図

BJ37-1ピット (第6図)

平面形は楕円形。規模は開口部が43×37cm、底部が38×26cm、深さ25cm。壁は急傾斜で立ち上り、埋土は2層からなり、掘方・柱あたりが見られる。出土遺物は埋土中より土器片1点が出土しているが、細片で磨滅が著しく割愛した。

CA34-1ピット (第6図)

平面形は楕円形。規模は開口部が65×61cm、底部が39×30cm、深さ32cm。壁は、西壁ではやや急傾斜で立ち上がっているが、東壁は緩やかに立ち上がる。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は埋土中より土器片3点が出土しているが、細片で磨滅が著しく割愛した。

CA34-2ピット (第6図・第7図)

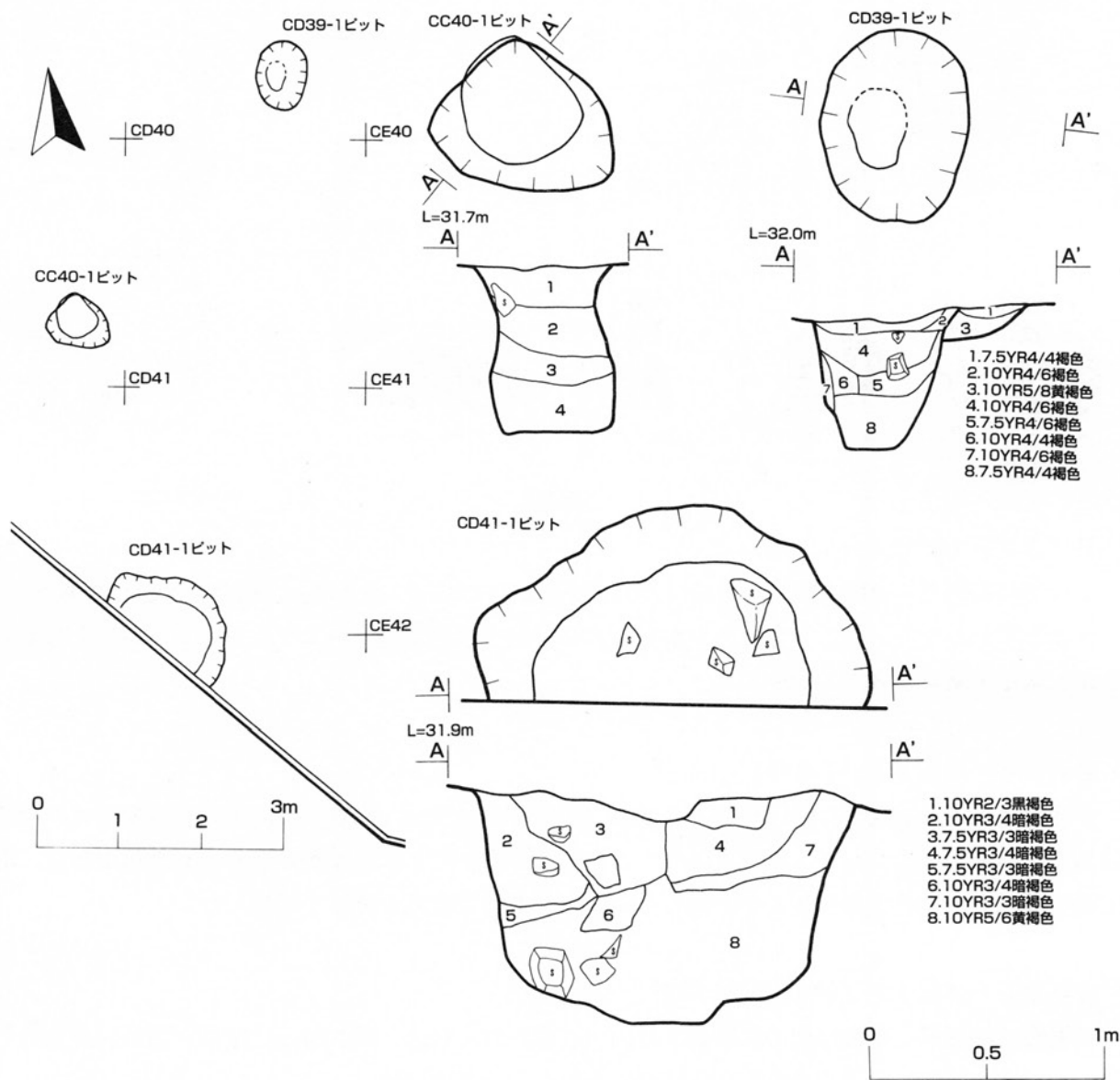
平面形は楕円形。規模は開口部が46×42cm、底部が31×24cm、深さ20cm。壁は、急傾斜で立ち上がっている。埋土は1層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。

CA37-1ピット (第6図・第7図、

平面形は楕円形。規模は開口部が41×34cm、底部が30×24cm、深さ25cm。壁は、直壁状に立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積である。

【出土遺物】 (第7図8・9、写真図版5)

出土した遺物は、土器と石器がある。土器は土器片60点、石器は、磨石1点・装身具1点が出土した。石器2点を図示した。9は磨石の破片である。表裏に擦痕を残し、すべすべしている。欠損のため全体の形状は不明であるが、石皿の可能性もある。8は装身具である。片面穿孔による孔が貫通している。



第8図

2 CC40・CD39・CD41グリット検出遺構（第8図）

CC40・CD39・CD41グリットの地山面において検出した遺構は、ピット3基である。形状・規模等、規則性のあるものは見られず、性格等不明である。

CC40-1ピット（第8図）

平面形は不整形。規模は開口部が81×63cm、底部が50×40cm、深さ70cm。断面形は頸部で締め、胴部が膨らむフラスコ状を呈している。埋土は4層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片16点（うち底部1点）があるが、磨滅が著しく割愛した。

CD39-1ピット (第8図、写真図版1-2)

平面形は楕円形。規模は開口部が 82×64 cm、底部が 34×26 cm、深さ55cm。壁は急に傾斜して立ち上がる。埋土は7層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片9点があるが磨滅が著しく割愛した。

CD41-1ピット (第8図)

CD41グリットの地山面において検出した。全体の半分程が未発掘区に広がり、形状は不明である。規模は、開口部が164cm、底部が119cm、深さ95cmである。壁は、急に傾斜して立ち上がっている。埋土は8層からなり人為的な堆積である。出土遺物は土器片57点があるが、割愛した。

3 CE41・CE42・CF40・CF41・CF42・CG40・CG41・CG42・CH41・CH42グリット検出遺構

(第9図)

CE41・CE42・CF40・CF41・CF42・CG40・CG41・CG42・CH41・CH42グリットで検出したピットは37基である。形状・規模等、規則性のあるものは見られず、性格等不明である。

CE41-1・2ピット (第9図)

CE41-2ピットがCE41-1ピットを切っている。形状は、共に楕円形を呈していると思われるが、規模は不明である。出土遺物は無い。

CE41-3ピット (第9図)

CE41-4ピットを切る。平面形は不整円。規模は開口部が 41×33 cm、底部が 17×15 cm、深さ21cmである。埋土は5層からなり、掘方・柱あたりが見られる。

[出土遺物] (第10図1・2、写真図版5)

出土した遺物は、土器と石器がある。土器は土器片18点、石器は石鏃1点が出土した。土器片1点と石鏃1点を図示した。1は深鉢の体部片である。沈線と磨消縄文によって曲線文が描かれ、CF41-4ピット出土の土器片と接合した。2は基部が尖基をなす石鏃である。身部は二等辺三角形をなし、側縁は外弧をなす。

CE41-4ピット (第9図)

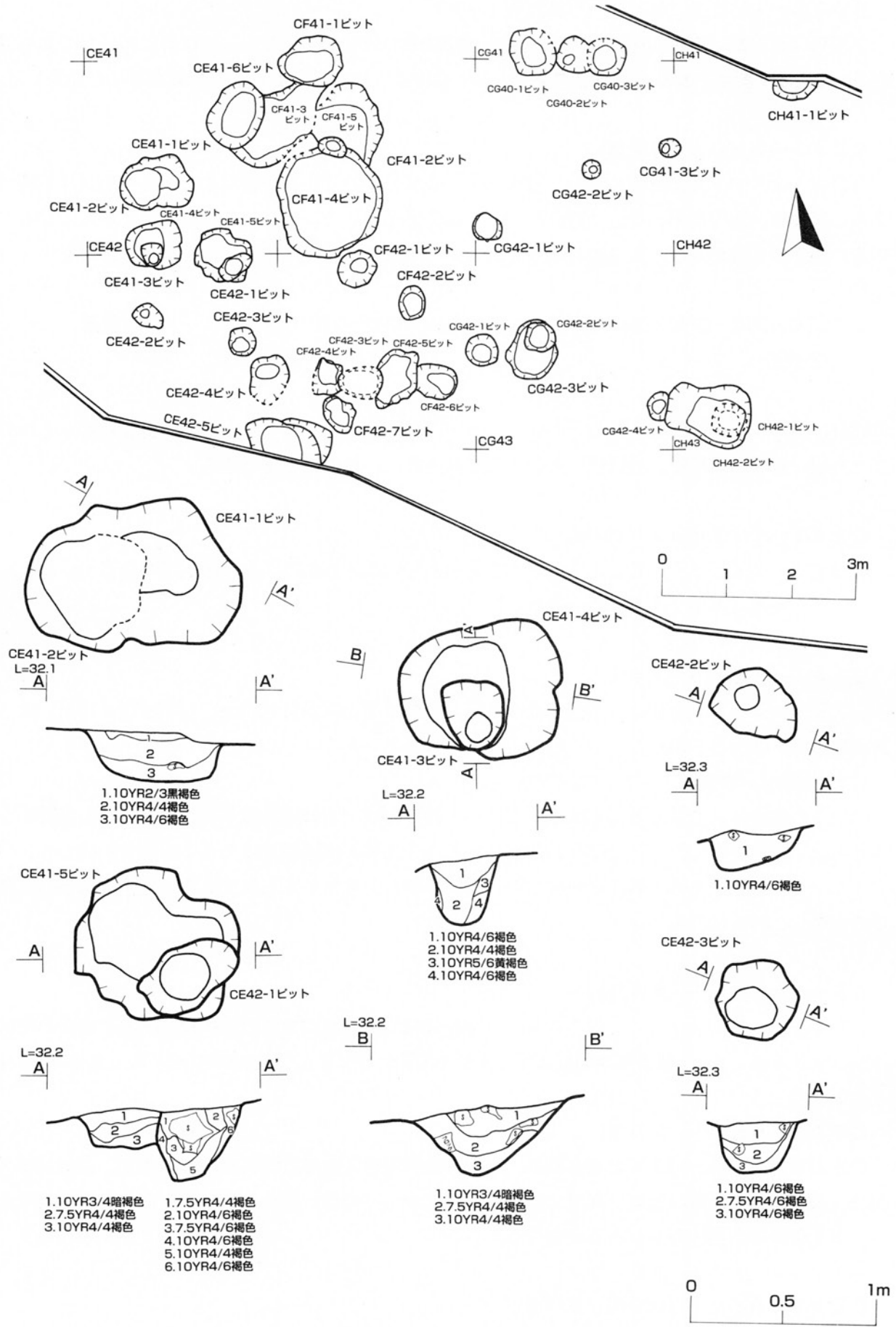
CE41-3ピットによって切られる。平面形は楕円形。規模は開口部が 88×75 cm、底部が 55×45 cm、深さ35cmである。断面形は船底状で、埋土は3層からなり、自然堆積である。出土遺物は無い。

CE41-5ピット (第9図)

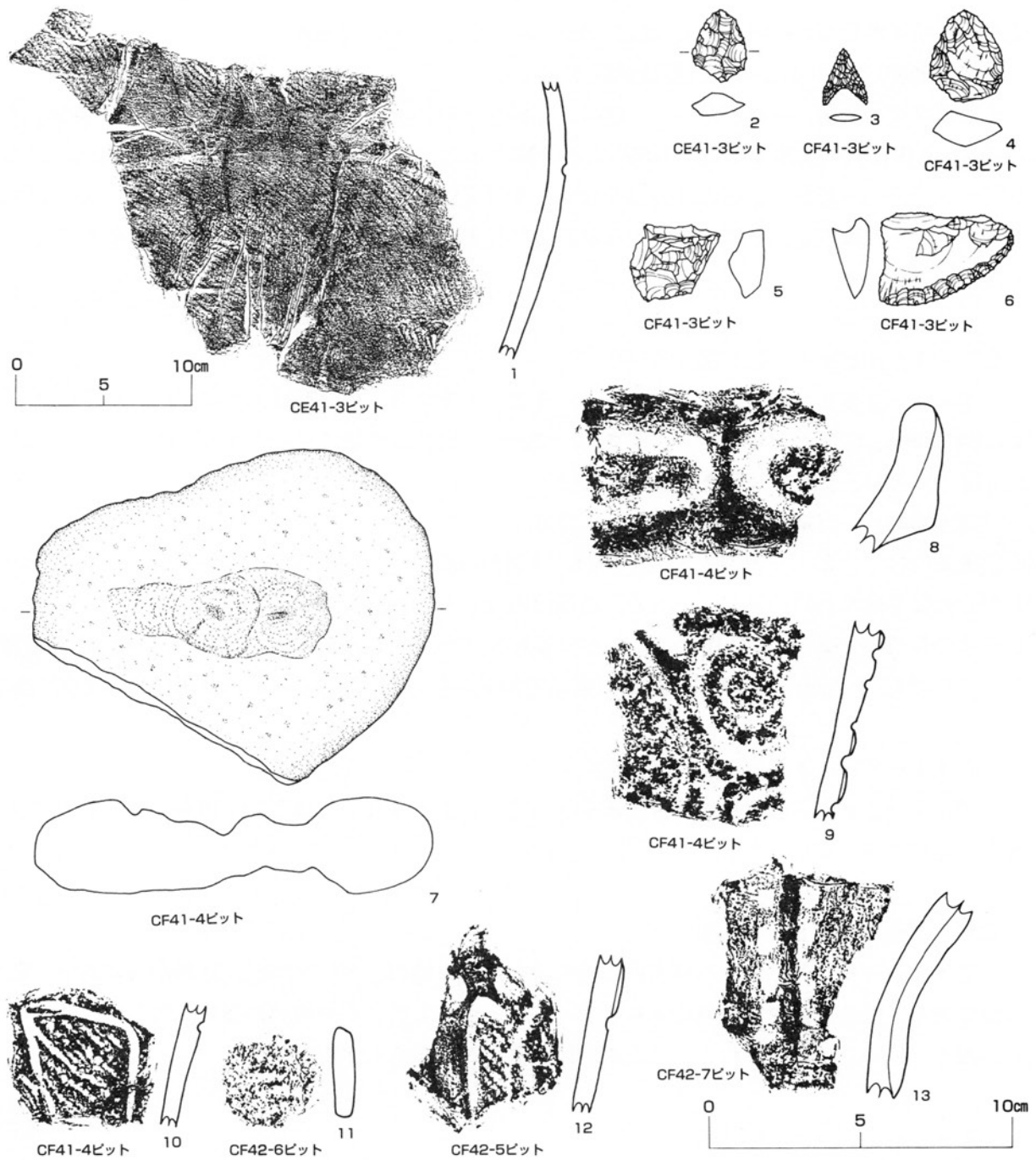
CE42-1ピットによって切られる。平面形は楕円形。規模は開口部が 83×79 cm、底部が 80×40 cm、深さ26cmである。壁は、西壁では急に立ち上がっている。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片39点があるが割愛した。

CE41-6ピット (第9図、第11図)

CF41-3ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が 90×62 cm、底部が 60×39 cm、深さ25cmである。壁は、やや急に立ち上がっている。出土遺物は土器片16点があるが割愛した。



第9図



第10図

CF41-1ピット (第9図・第11図)

CF41-3ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が 82×63 cm、底部が 60×39 cm、深さ16cmである。壁は、やや緩やかに立ち上がる。遺物の出土は無い。

CF41-2ピット (第9図・第11図)

CF41-4ピット・CF41-5ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が 44×30 cm、底部が 22×18 cm、深さ39cmである。壁は急に立ち上がり、底面は東方向に傾斜している。埋土は2層からなり、自然堆積である。出土遺物は土器片5点があるが割愛した。

CF41-3ピット (第9図・第11図)

CF41-1ピット・CE41-6ピットに切られ、CF41-5ピットを切る。平面形は、不定形。規模は開口部が180×93cm、底部が155×76cm、深さ35cmである。

〔出土遺物〕 (第10図3～6、写真図版5)

出土遺物は、土器・石器がある。土器は、土器片169点 (うち底部2点) が出土したが割愛した。石器は、石鏃1点・尖頭器1点・不定形石器2点が出土した。3は無茎の石鏃である。基部は抉れ、身部は二等辺三角形状で、側縁は外弧をなす。4は尖頭器である。基部は丸みを帯び、側縁は外弧をなす。5・6は不定形石器である。5は二辺に片刃の刃を有する。6は一辺に丸みを帯びた片刃の刃を有している。

CF41-4ピット (第9図・第11図)

CF41-2ピットに切られ、CF41-5ピットを切る。平面形は、ほぼ円形。規模は開口部が178×168cm、底部が144×142cm、深さ78cmである。壁は直壁状に立ち上がり、底面は平坦。埋土は8層からなり、自然堆積である。

〔出土遺物〕 (第10図7～10、写真図版5)

出土遺物は、土器・石器がある。土器は、土器片166点 (うち底部2点) が出土し、3点を図示した。8は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は内反する。隆沈線によって文様が意匠される。9・10は深鉢の体部片である。9は隆沈線によって渦巻き文が、10は沈線によって描かれている。石器は、石鏃1点・凹石1点が出土した。石鏃は欠損品で割愛した。7は凹石である。両面に窪みを有する。

CF41-5ピット (第9図・第11図)

CF41-2ピット・CF41-3ピット・CF41-4ピットによって切られる。平面形は不明で、規模は深さ35cmである。

CE42-1ピット (第9図)

CE41-5ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が57×33cm、底部が28×26cm、深さ32cmである。壁は、西壁では急に立ち上がっているが、東壁はやや傾斜が緩い。埋土は6層からなり、掘方・柱あたりが見られる。出土遺物は土器片20点があるが割愛した。

CE42-2ピット (第9図)

平面形は楕円形。規模は開口部が49×35cm、底部が14cm、深さ20cmである。断面形は船底状で、埋土は1層からなる。出土遺物は土器片26点があるが割愛した。

CE42-3ピット (第9図)

平面形は円形。規模は開口部が45cm、底部が29×22cm、底深さ28cmである。壁は急に立ち上がり、埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片7点があるが割愛した。

CE42-4ピット (第9図・第11図)

平面形は楕円形。規模は開口部77×61cm、底部37×22cm、深さ44cm。壁は南壁は急に立ち上がり、北壁はやや緩やかである。埋土は4層で自然堆積である。出土遺物は土器片17点があるが割愛した。

CE42-5ピット (第9図・第11図)

半分程が未発掘区に広がる。平面形は不明。規模は開口部で最大132cm、底部で75cm、深さ78cmである。壁は急に立ち上がる。底面は平坦。埋土は8層からなり自然堆積。出土遺物は無い。CE42-5ピットは、ピット1基を切っているが、残存する部分がほとんど無く、詳細は不明である。

CF42-1ピット (第9図・第11図)

平面形は楕円形、規模は開口部が60×55cm、底部が28×21cm、深さ31cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。出土遺物は無い。

CF42-2ピット (第9図・第11図)

平面形は楕円形。規模は開口部が53×41cm、底部が36×31cm、深さ10cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。底面は丸みを帯びる。埋土は3層からなり、自然堆積である。出土遺物は土器片29点(うち底部1点)があるが割愛した。

CF42-3ピット (第9図・第12図)

CF42-4ピット・CF42-5ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が68×48cm、底部が54×38cm、深さ23cmである。壁はやや急に立ち上がり、底面は凹凸が著しい。埋土は2層からなり、自然堆積である。出土遺物は土器片16点があるが割愛した。

CF42-4ピット (第9図・第12図)

CF42-3ピットによって切られる。平面形は不定形。規模は開口部が60×38cm、底部が45×32cm、深さ28cmである。壁は西壁では急に立ち上がり、底面は丸みを帯びる。埋土は3層からなり、自然堆積である。出土遺物は無い。

CF42-5ピット (第9図・第12図)

CF42-3ピットによって切られ、CF42-6ピットを切る。平面形は不定形。規模は開口部が101×70cm、底部が77×51cm、深さ22cmである。壁は東壁では緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。埋土は6層からなり、自然堆積である。

[出土遺物] (第10図12、写真図版5)

出土遺物は土器片8点がある。1点を図示した。1は深鉢の体部片である。隆沈線によって文様を意匠している。部分的に朱の彩色が見られる。

CF42-6ピット (第9図・第12図)

平面形は楕円形。規模は開口部が62×49cm、底部が46×17cm、深さ47cmである。壁は西壁では急に立ち上がり、東壁はやや緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。埋土は4層からなり、人為的堆積で、掘方・柱あたりが見られる。

[出土遺物] (第10図11)

出土遺物は土器片28点と、土製円盤1点があり、土製円盤を図示した。側縁は全周研磨され楕円形に形作られている。

CF42-7ピット（第9図・第11図）

平面形は楕円形。規模は開口部が62×49cm、底部が46×17cm、深さ47cmである。壁は西壁では急に立ち上がり、東壁はやや緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。埋土は6層からなり、人為的堆積で、掘方・柱あたりが見られる。

【出土遺物】（第10図13、写真図版5）

出土遺物は土器片38点がある。1点を図示した。13は深鉢の頸部片である。縦位の隆線の両側に、下方向からの半裁竹管による刺突文列を有している。

CG40-1ピット（第9図・第12図）

CG40-2ピットを切る。平面形は楕円形。規模は開口部が73×65cm、底部が48×33cm、深さ23cmである。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は4層からなり、人為的堆積で、掘方・柱あたりが見られる。出土遺物は土器片10点があるが割愛した。

CG40-2ピット（第9図・第12図）

CG40-1ピット・CG40-3ピットによって切られる。平面形は楕円形。規模は開口部が56×42cm、底部が18×15cm、深さ26cmである。壁は緩やかに立ち上がり、底面は丸みを帯びている。埋土は2層からなり、自然堆積である。出土遺物は土器片14点があるが割愛した。

CG40-3ピット（第9図・第12図）

CG40-2ピットを切る。平面形はほぼ円形。規模は開口部が59×57cm、底部が38×36cm、深さ27cmである。壁は緩やかに立ち上がり、底部はほぼ平坦である。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。

CG41-1ピット（第9図・第12図、写真図版1-3）

平面形は楕円形で、規模は開口部が47×42cm、底部が37×36cm、深さ25cmである。壁は急傾斜に立ち上がり、底部は平坦である。埋土は1層からなり人為的な堆積と思われ、礫を多量に含む。出土遺物は土器片5点があるが割愛した。

CG41-2ピット（第9図・第12図）

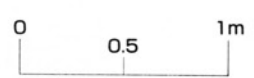
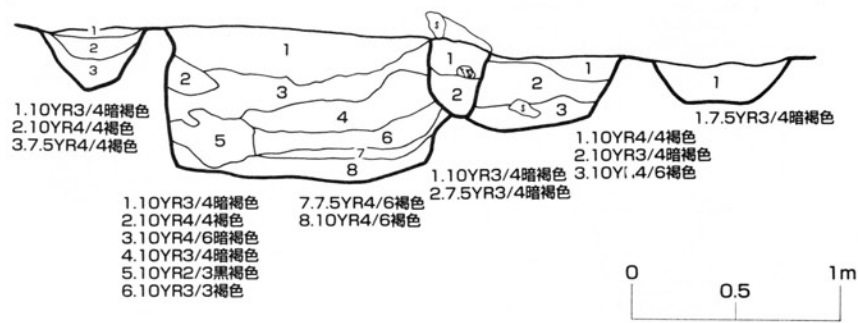
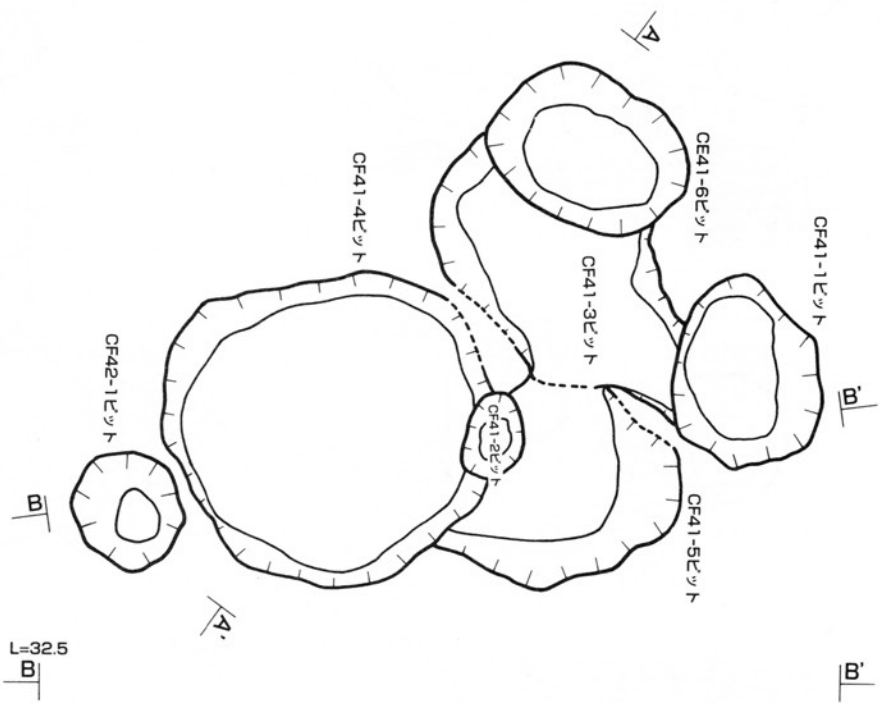
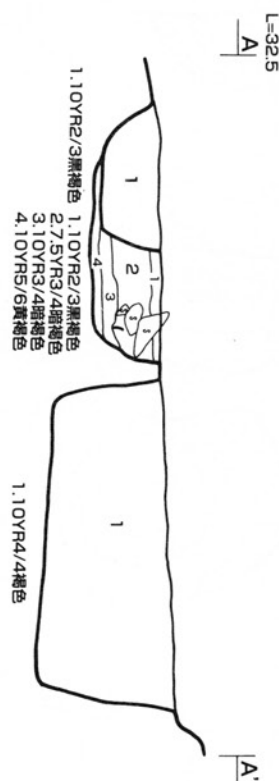
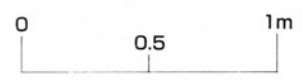
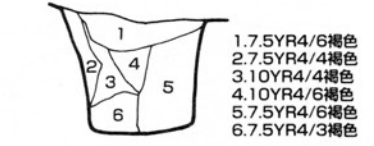
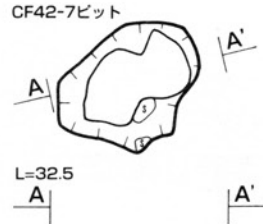
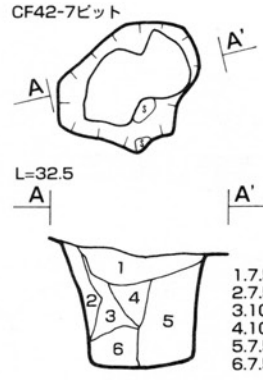
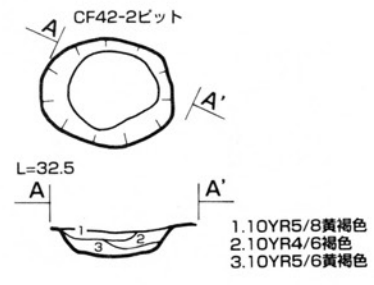
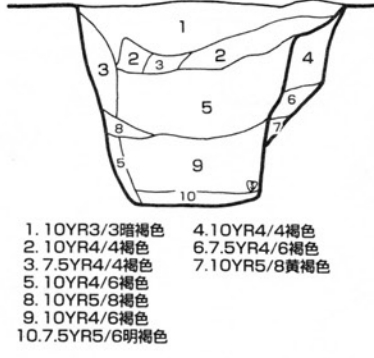
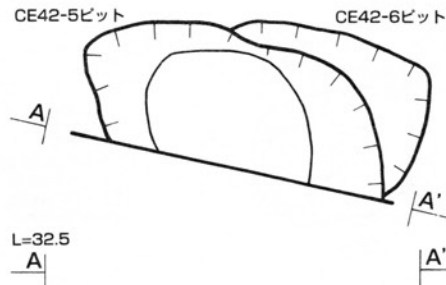
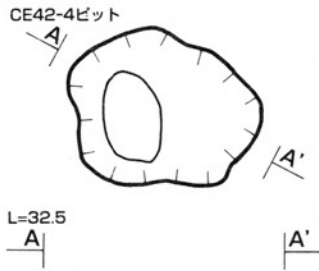
平面形は円形。規模は開口部が31cm、底部が11cm、深さ46cmである。壁は直壁状に立ち上がり、底部は平坦である。出土遺物は土器片15点があるが割愛した。

CG41-3ピット（第9図・第12図）

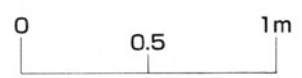
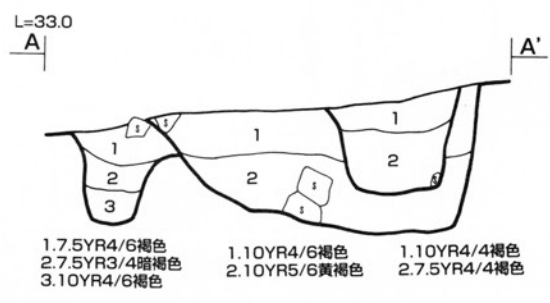
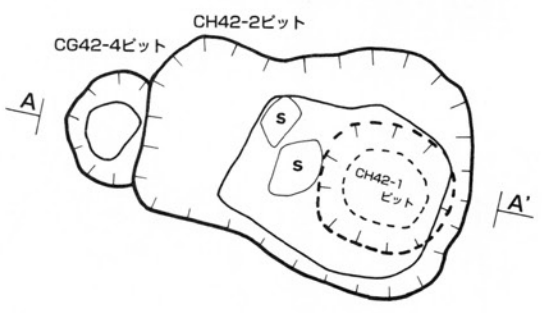
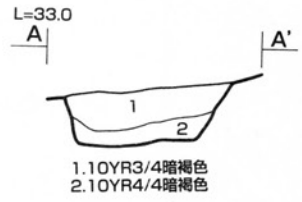
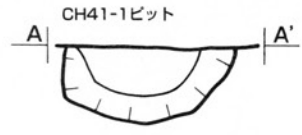
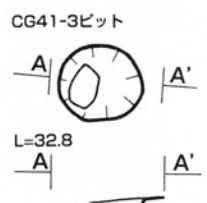
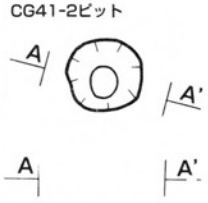
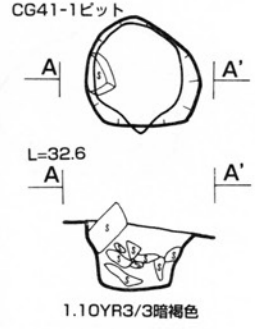
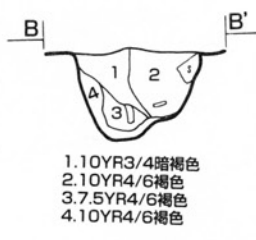
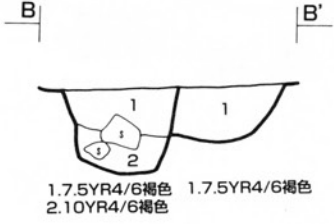
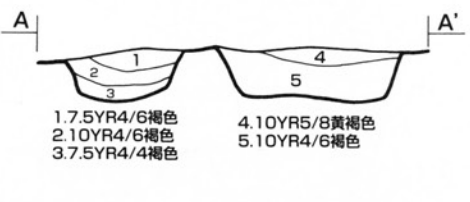
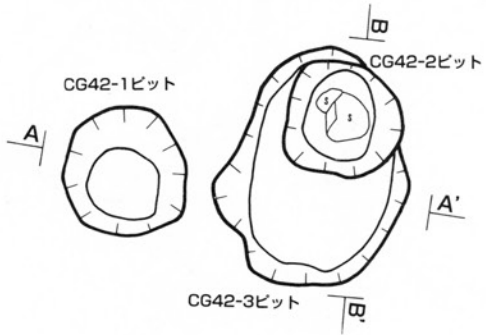
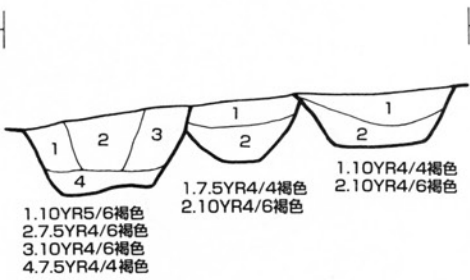
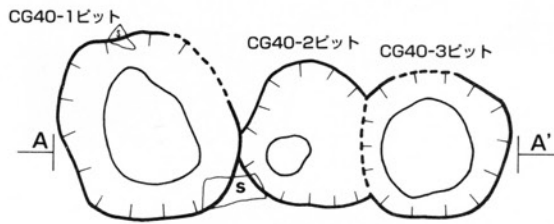
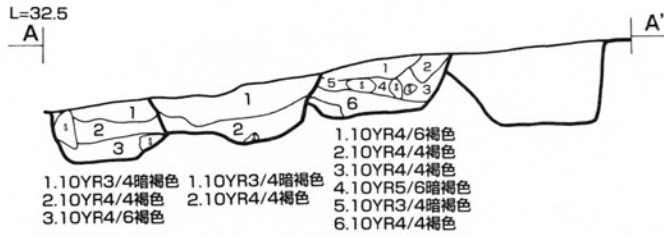
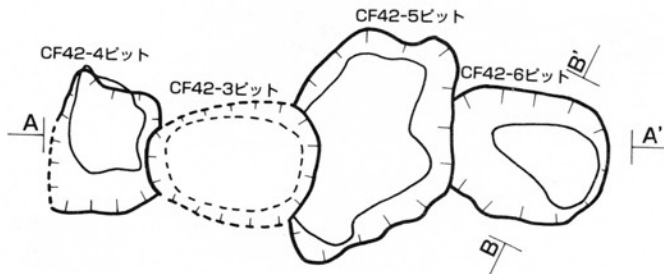
平面形は楕円形。規模は開口部34×31cm、底部16×11cm、深さ41cm。壁は直壁状に立ち上がり、底部は平坦である。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

CG42-1ピット（第9図・第12図）

平面形はほぼ円形。規模は開口部が54×49cm、底部が32×28cm、深さ21cmである。壁は緩やかに傾斜し、底部はやや丸みを帯びている。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片32点があるが割愛した。



第11図



第12図

CG42-2ピット (第9図・第12図)

CG42-3ピットを切る。平面形はほぼ円形。規模は開口部が50×47cm、底部が35×28cm、深さ34cmである。壁は急に立ち上がり、底部はほぼ平坦で、東方向に緩やかに傾斜する。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片15点があるが割愛した。

CG42-3ピット (第9図・第12図)

CG42-2ピットに切られる。平面形は楕円形。規模は開口部が94×60cm、底部が82×56cm、深さ23cmである。壁は緩やかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。

CG42-4ピット (第9図・第12図)

CH42-2ピットに切られる。平面形は楕円形。規模は開口部が45cm、底部が23cm、深さ40cmである。壁はやや急に立ち上がっている。床面は丸みを帯びている。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片8点があるが割愛した。

CH41-1ピット (第9図・第12図)

半分程が未発掘区に広がる。平面形は不明。規模は開口部で最大68cm、底部で45cm、深さ22cmである。壁はやや急に立ち上がる。底面は平坦である。埋土は2層からなり、自然堆積である。出土遺物は無い。

CH42-1ピット (第9図・第12図)

CH42-2ピットを切る。平面形はほぼ円形。規模は開口部が54×50cm、底部が35×29cm、深さ56cmである。壁は急に立ち上がり、底部はほぼ平坦である。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片22点があるが割愛した。

CH42-2ピット (第9図・第12図)

CH42-1ピットに切られる。平面形は楕円形。規模は開口部が135×97cm、底部が83×67cm、深さ40cmである。壁は東壁では急に立ち上がり、西壁は緩やかに傾斜している。底部はほぼ平坦で東方向に傾斜する。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片113点があるが割愛した。

4 CI41・CI42・DA42・DB41・DB42・DB43・DC42・DC43・DD41グリット検出遺構

(第13図・第14図)

CI41・CI42・DA42・DB41・DB42・DB43・DC42・DC43・DD41グリットで検出した遺構は、ピット11基である。うち8基は、形状が楕円形あるいは隅丸方形で、木柱痕を有し、ピットの並び等、規則性が見られ掘建柱建物状の遺構として扱った。

掘建柱建物状遺構 (第13図・第14図・第1表、写真図版1-4~8)

CI41-2・CI42-1・DA42-1・DB42-1・DB43-1・DC43-1・DC42-1・DD41-1ピットからなる掘建柱建物状の遺構である。ピットの一部は発掘区外に

拡がる。また、C I 4 2 - 1ピットとD A 4 2 - 1ピットの間には地山の大型礫が露出し、ピットは検出できなかった。方位は主軸がW - 1 6° - Nで、検出した大きさは東西方向に12.6m、南北方向に6.3mである。各ピットの形状は隅丸方形で木柱痕を残している。木柱痕の大きさは、直径20cm~60cmである。ピットの大きさは、長軸は1 m10cm~1 m40cm程で、短軸は90cm~1 m40cm程で、深さは50cm~80cm程と大型である。D B 4 2 - 1・D B 4 3 - 1・D C 4 2 - 1ピットは木柱痕周辺に大型礫を入れ補強している。この遺構の性格及び時期は不明である。

[出土遺物]

土器 (第14図-1・2、写真図版5)

各ピットより出土した土器片の数は第1表に示した通りである。大部分は細片で磨滅が著しい。C I 4 1 - 2ピットより出土した土器片2点を図示した。1・2は、深鉢の体部片である。1は沈線によって、上半には縦位の弧線が、下位には区画文が描かれている。2は隆線によって文様が描かれる。

石器 (第14図-3~5、写真図版5)

石器は、D B 4 2 - 1ピットより不定形石器1点、D C 4 2 - 1ピットより尖頭器1点、D A 4 2 - 1より磨製石斧1点が出土した。4は両刃の刃を3辺にもつもので、刃は直線的に作り出されている。3は尖頭器である。基部は丸味を帯び、側縁は外弧である。両面に一次剥離痕を残す。5は磨製石斧である。基部は欠損する。側面の面取りはしっかりしており、全面に擦痕を残す。

C I 4 1 - 1ピット (第13図・第14図)

平面形は楕円形。規模は開口部が98×78cm、底部が86×65cm、深さ16cmである。壁は西壁・東壁とも緩やかに傾斜。底部はほぼ平坦。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物は無い。

D B 4 1 - 1ピット (第13図・第14図)

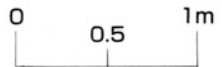
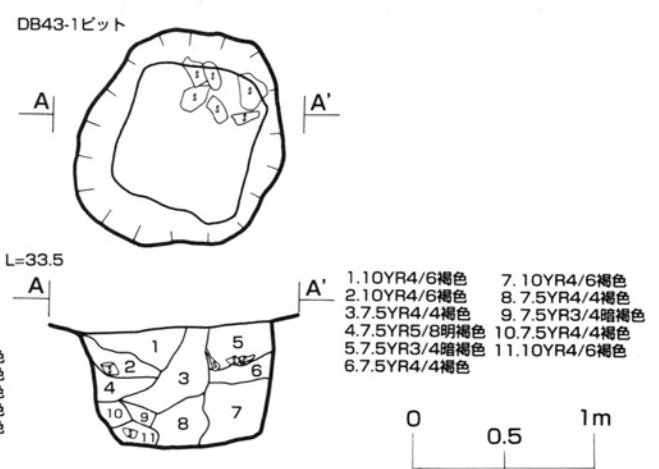
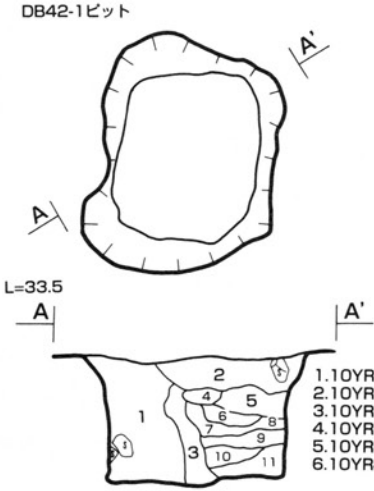
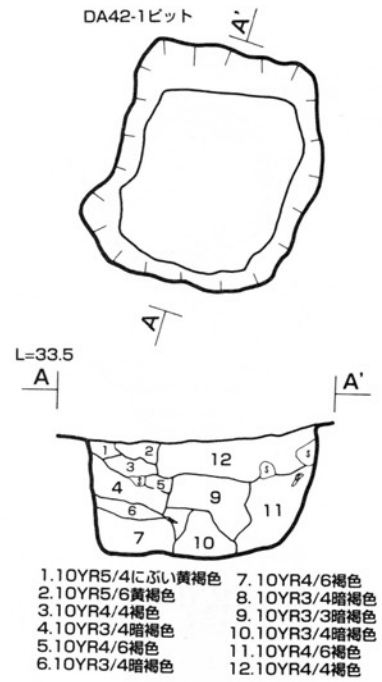
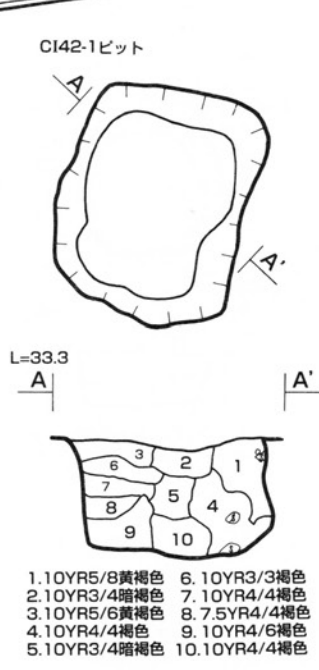
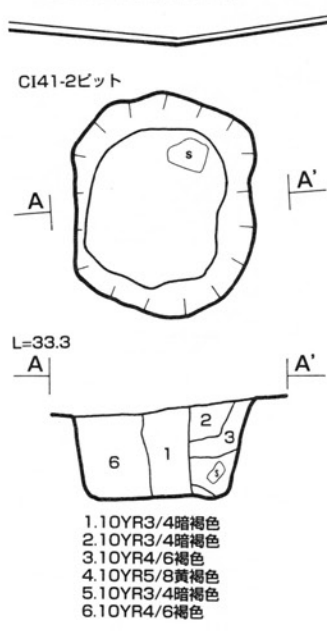
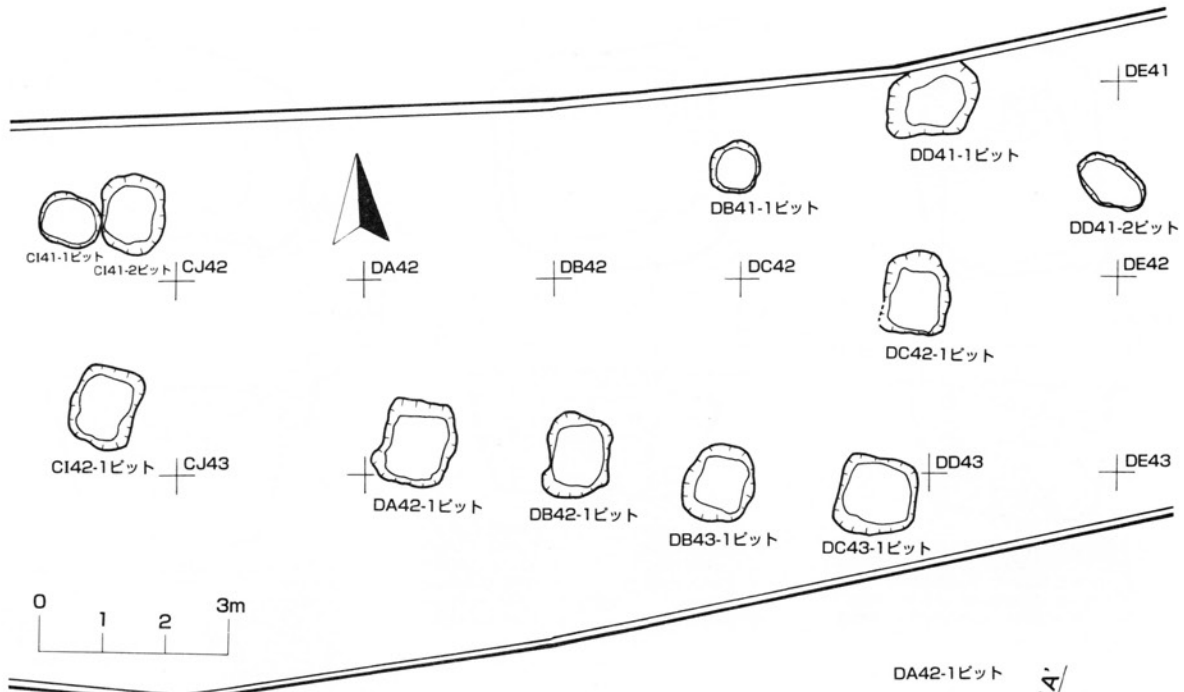
平面形は円形。規模は開口部が84×81cm、底部が66×61cm、深さ33cmである。壁は西壁・東壁では急に立ち上がる。底部には凹凸がある。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。

D D 4 1 - 2ピット (第13図・第14図)

平面形は楕円形。規模は開口部が119×76cm、底部が108×60cm、深さ17cm。壁は東壁・西壁とも緩やかに傾斜。底部には凹凸がある。埋土は1層で自然堆積。出土遺物は無い。

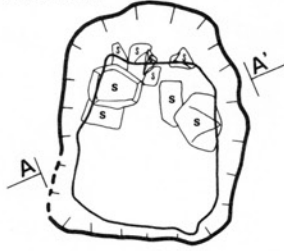
第1表 第1号掘立柱遺構のピットの規模及び形状・出土遺物

ピット番号	形状	大きさ (m)			木柱痕直径 (m)	出土遺物	図版
		長軸	短軸	深さ			
C I 4 1 - 2	隅丸方形	1.20	1.03	0.51	0.24	土器片38、うち2点図示	第14図1・2
C 1 4 2 - 1	隅丸方形	1.32	0.98	0.62	0.20	土器片27	
D A 4 2 - 1	隅丸方形	1.33	1.13	0.64	0.40	土器片27・磨製石斧1	第14図5
D B 4 2 - 1	隅丸方形	1.33	0.92	0.71	0.58	土器片6・不定型石器1	第14図4
D B 4 3 - 1	隅丸方形	1.13	1.07	0.70	0.61	土器片33	
D C 4 2 - 1	隅丸方形	1.28	1.06	0.83	0.33	土器片17・尖頭器1	第14図3
D C 4 3 - 1	隅丸方形	1.49	1.42	0.72	0.28	土器片31	
D D 4 1 - 1	楕円形	1.61	1.11	0.9	0.36	土器片24	

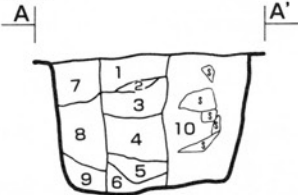


第13図

DC42-1ビット

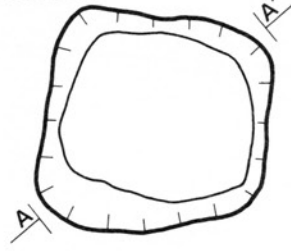


L=33.6

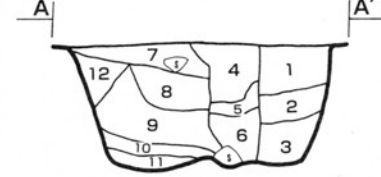


- 1. 10YR3/4暗褐色
- 2. 10YR2/3黒褐色
- 3. 10YR3/3暗褐色
- 4. 10YR3/4暗褐色
- 5. 10YR4/4褐色
- 6. 10YR4/6褐色
- 7. 10YR5/8黄褐色
- 8. 10YR4/4褐色
- 9. 10YR4/6褐色
- 10. 10YR6/8黄褐色

DC43-1ビット

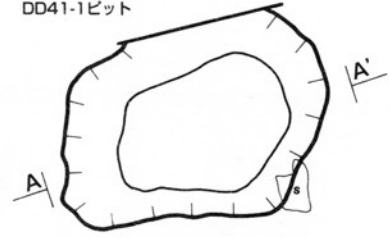


L=33.6

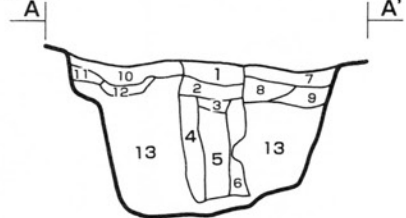


- 1. 10YR4/4褐色
- 2. 10YR3/4暗褐色
- 3. 10YR4/6褐色
- 4. 10YR3/3暗褐色
- 5. 10YR4/3にぶい黄褐色
- 6. 10YR4/4褐色
- 7. 10YR4/6褐色
- 8. 10YR4/6黄褐色
- 9. 10YR5/8黄褐色
- 10. 10YR3/4暗褐色
- 11. 10YR3/3暗褐色
- 12. 10YR4/6褐色

DD41-1ビット



L=33.8



- 1. 10YR4/3にぶい黄褐色
- 2. 10YR3/3にぶい暗褐色
- 3. 10YR2/3黒褐色
- 4. 10YR3/4暗褐色
- 5. 7.5YR3/4暗褐色
- 6. 10YR4/4褐色
- 7. 10YR4/4褐色
- 8. 10YR4/6褐色
- 9. 10YR4/6褐色
- 10. 10YR3/4暗褐色
- 11. 10YR5/8黄褐色
- 12. 7.5YR2/2黒褐色
- 13. 10YR3/4暗褐色

CI41-1ビット

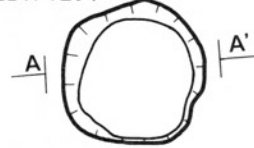


L=33.3

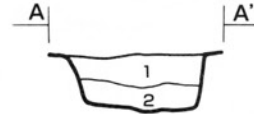


- 1. 10YR3/4暗褐色
- 2. 10YR4/6褐色

DB41-1ビット



L=33.8



- 1. 10YR3/4暗褐色
- 2. 10YR4/4褐色

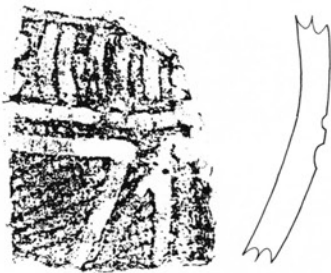
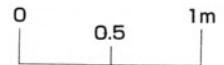
DD41-2ビット



L=33.6



- 1. 10YR4/6褐色



CI41-2ビット



CI41-2ビット



DC42-1ビット



DB42-1ビット



DA42-1ビット



第14図

5 DE40～42・DF40～DF42・DG40～DG42・DH40・DH41・DI40・DI41グリット検出遺構
(第15図～第18図)

DE40～42・DF40～DF42・DG40～DG42・DH40・DH41・DI40・DI41グリットにおいて検出した遺構は、竪穴住居状遺構1基、ピット38基である。

(1) 竪穴住居状遺構 (第15図)

DF40・DG40グリットにおいて全体の1/3程を検出した。残りは未発掘区に広がる。DG40-1・DG40-2・DG40-3ピットによって切られる。形状は楕円形と思われる。規模は開口部の最大幅が2m90cmで、深さは12cmである。壁は、西壁では緩やかに立ち上がり、東壁は急に立ち上がっている。周溝は西壁付近に長さ45cm程が見られるのみである。床面は凹凸が著しい。ピットは床面において3基検出したが、支柱穴は不明である。出土遺物は土器片27点があるが割愛した。

(2) ピット

DE40-1ピット (第15図)

平面形は不明。未発掘区に広がる。規模は、開口部の最大幅は109cm・深さ63cmで、底面に開口部56×57cm・底部の径38×39cmの不定形の小ピットを有する。出土遺物はない。

DE40-2ピット・DE40-3ピット (第15図・第16図)

DE40-2ピットは、DE40-3ピットによって切れ、ともに部分的に攪乱を受ける。DE40-2ピットは、平面形は円形。規模は、開口部117cm、底部が103cm、深さ39cm。壁は、緩やかに傾斜。底面は平坦。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物は土器片6点があるが割愛した。DE40-3ピットは、平面形は不整形円形。規模は開口部長軸が69cm、底部は39×29cm、深さ39cm。埋土は3層で人為的な堆積。出土遺物は土器片1点があるが割愛した。

DE41-1ピット (第15図)

平面形は円形。規模は、開口部が93×88cm、底部が47×40cm、深さ63cm。壁は、緩やかに傾斜。埋土は7層からなり、掘り方・柱あたりを有する。出土遺物は土器片5点があるが割愛した。

DE41-2ピット (第15図・第16図)

平面形は円形。規模は、開口部が133×128cm、底部が93×74cm、深さ32cm。壁は、緩やかに傾斜する。底面は平坦。埋土は3層からなり自然堆積。出土遺物は土器片8点があるが割愛した。

DE42-1ピット (第15図・第16図)

平面形は楕円形。規模は、開口部が32×26cm、底部が20×17cm、深さ28cm。壁は、急に立ち上がっている。埋土は1層からなり自然堆積。出土遺物はない。

DF40-1ピット (第15図)

平面形は不整形楕円形。規模は、開口部が192×150cm、底部が155×135cm、深さ29cm。出土遺物は土器片11点があるが割愛した。

DF41-1ピット (第15図・第16図)

平面形は不整形。規模は、開口部が59×53cm、底部が37×25cm、深さ36cm。壁は、緩やかに傾斜している。埋土は4層からなり自然堆積。出土遺物は土器片24点があるが割愛した。

DF41-2ピット (第15図・第16図)

平面形は不整形。規模は、開口部が39×36cm、底部が23×18cm、深さ50cm。壁は、急に立ち上がっている。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物はない。

DF41-3ピット (第15図・第16図)

平面形は楕円形。規模は、開口部が74×67cm、底部が53×50cm、深さ41cm。壁は、急に立ち上がっている。埋土は8層で掘り方・柱あたりが見られる。出土遺物は土器片29点が出土したが割愛した。

DF41-4ピット・DF41-5ピット (第15図・第16図)

DF41-4ピットがDF41-5ピットを切る。DF41-4ピットは、平面形は不整形。規模は、開口部が63×58cm、底部が50×41cm、深さ39cm。壁は、緩やかに立ち上がっている。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物はない。DF41-5ピットは、平面形は楕円形と思われる。規模は、開口部の長軸は105cm。壁は、北壁では緩やかに立ち上がり、南壁は急に立ち上がる。埋土は2層からなり、自然堆積である。出土遺物は、土器片11点があるが割愛した。

DF42-1ピット (第15図・第16図、写真図版2-1)

平面形は楕円形。規模は、開口部が96×59cm、底部が88×48cm、深さ26cm。壁は、緩やかに傾斜している。底面は平坦。埋土は2層で自然堆積である。出土遺物は、土器片3点があるが割愛した。

DF42-2ピット (第15図・第16図)

平面形は楕円形で段を有する。規模は、開口部が62×48cmで、段の下に、不整形の開口部35×39cm、底部が22×23cmの掘り込みを有する。深さは52cmである。埋土は5層からなり自然堆積である。出土遺物は、土器片11点(うち底部1点)があるが割愛した。

DF42-3ピット (第15図・第16図)

平面形はほぼ円形。規模は、開口部が119×110cm、底部が146×129cm、深さ154cm。断面形は開口部直下で締まるフラスコ状を呈している。埋土は8層からなり自然堆積である。底面は平坦である。出土遺物は、土器片78点があるが割愛した。

DG40-1ピット・DG40-2ピット (第15図)

ともに堅穴住居状遺構を切り、DG40-1ピットが、DG40-2ピットを切る。DG40-1ピットは、規模は、開口部72cm、底部が57cm、深さ深さ30cm。壁は西壁では急に、東壁は緩やかに立ち上がる。底面に直径23cm、深さ10cmの小ピットを有する。出土遺物はない。DG40-1ピットは平面形は不明。規模は、残存する開口部の最大幅が50cm、深さ22cm。出土遺物はない。

D G 4 0-3ピット (第15図)

竪穴住居状遺構を切る。平面形は楕円形。規模は、開口部36×32cm、底部22×15cm、深さ51cm。壁は直壁状。埋土は5層からなり、掘方・柱あたりを有している。出土遺物はない。

D G 4 1-1ピット (第15図・第17図)

平面形は楕円形。規模は、開口部が74×66cm、底部が61×49cm、深さ15cm。壁は緩やかに傾斜している。埋土は3層からなり自然堆積である。底面は平坦である。出土遺物はない。

D G 4 1-2ピット (第15図・第17図)

平面形は円形。規模は、開口部が38×31cm、底部が24×20cm、深さ31cmである。壁は直壁状。埋土は3層からなり、掘方・柱あたりを有している。出土遺物はない。

D G 4 1-3ピット (第15図・第17図)

平面形は楕円形。規模は、開口部が67×51cm、底部が54×40cm、深さ36cmである。壁は急に傾斜している。埋土は8層からなり、掘方・柱あたりを有している。底面は平坦である。出土遺物はない。

D G 4 2-1ピット (第15図・第17図、写真図版2-2)

平面形は円形。規模は、開口部が155×122cm、底部が153×132cm、深さ164cm。壁は、断面形が頸部直下で締まるフラスコ状を呈している。埋土は15層からなり、自然堆積。底面は平坦で、小ピットを有している。

[出土遺物] (第17図1～7、写真図版5)

出土遺物は土器と石器がある。土器は、土器片167点が出土。3点を図示した。1・2は平縁深鉢の口縁部片。口縁は、1は内反、2は外傾。文様は、1は頸部に横位の刺突を有する隆線が巡り、体部には縄文が施され、2は刺突文が施される。3は深鉢の体部片で隆線による区画文を有する。石器は、石鏃3点・不定形石器1点が出土。4は基部が平基をなすもので、側縁は外弧をなし、両面に一次剥離痕を残す。5は基部が円基のもので、側縁は基部付近で膨らんでいる。6は基部に抉りを有するもので、側縁は外弧をなす。7は不定形石器である。片刃の直線状の刃を一辺に有している。

D H 4 0-1ピット (第15図・第17図)

平面形は不整形円形。規模は、開口部が67×63cm、底部が43×32cm、深さ64cm。壁は直壁状。埋土は5層で、掘方・柱あたりを有する。底面は平坦である。出土遺物は土器片4点があるが割愛した。

D H 4 0-2ピット・D H 4 0-3ピット (第15図・第17図)

D H 4 0-2ピットがD H 4 0-3ピットによって切られる。D H 4 0-2ピットは、平面形は不明。規模は、残存部の開口部最大幅が36cm、底部最大幅が32cm。D H 4 0-3ピットは、平面形は楕円形。規模は、開口部が61×41cm、底部が53×33cm、深さ26cm。壁は急に立ち上がる。埋土は2層からなり、掘方・柱あたりを有している。ともに出土遺物はない。

D H 4 1-1ピット (第15図・第17図)

平面形は不整形円形。規模は、開口部が48×45cm、底部が29×25cm、深さ44cm。壁は、西壁では直

壁状で、東壁はやや緩く立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物はない。

DH41-2ピット (第15図・第17図、写真図版2-3)

平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が42×38cm、底部が33×25cm、深さ44cm。壁は直壁状。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片12点があるが割愛した。

DI40-1ピット・DI40-2ピット・DI40-3ピット (第15図・第18図、写真図版2-4)

DI40-1ピットが、DI40-2ピット・DI40-3ピットを切る。DI40-1ピットは平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が57×26cm、底部が45×27cm、深さ45cm。壁は急に立ち上がっている。埋土は4層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片4点があるが割愛した。DI40-2は、形状は不明。規模は深さ23cm。出土遺物はない。DI40-3ピットは、形状は楕円形。規模は深さ29cm。出土遺物はない。

DI40-4ピット・DI40-5ピット (第15図・第18図)

DI40-4ピットがDI40-5ピットを切る。DI40-4ピットは、平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が43×41cm、底部が30×21cm、深さ27cm。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は3層からなる。出土遺物はない。DI40-5ピットは、形状は不明。規模は深さ25cm。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は2層からなり自然堆積。ともに出土遺物はない。

DI40-6ピット・DI40-7ピット (第15図・第18図、写真図版2-5)

DI40-6ピットがDI40-7ピットを切る。DI40-6ピットは、平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が48×42cm、底部が29×20cm、深さ50cm。壁は直壁状。埋土は4層で、掘方・柱あたりを有する。出土遺物は土器片4点があるが割愛した。DI40-7ピットは、形状は不明。規模は深さ28cm。壁は直壁状に立ち上がっている。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

DI41-1ピット (第15図・第18図、写真図版2-6)

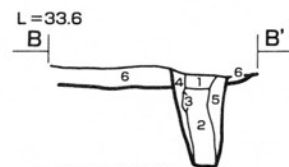
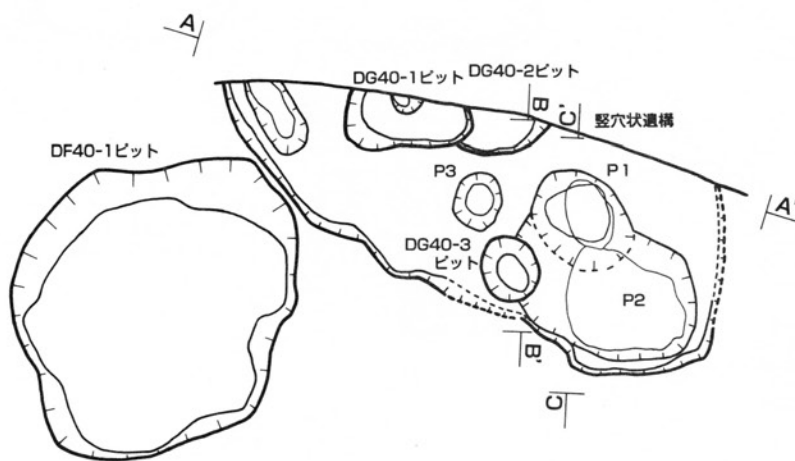
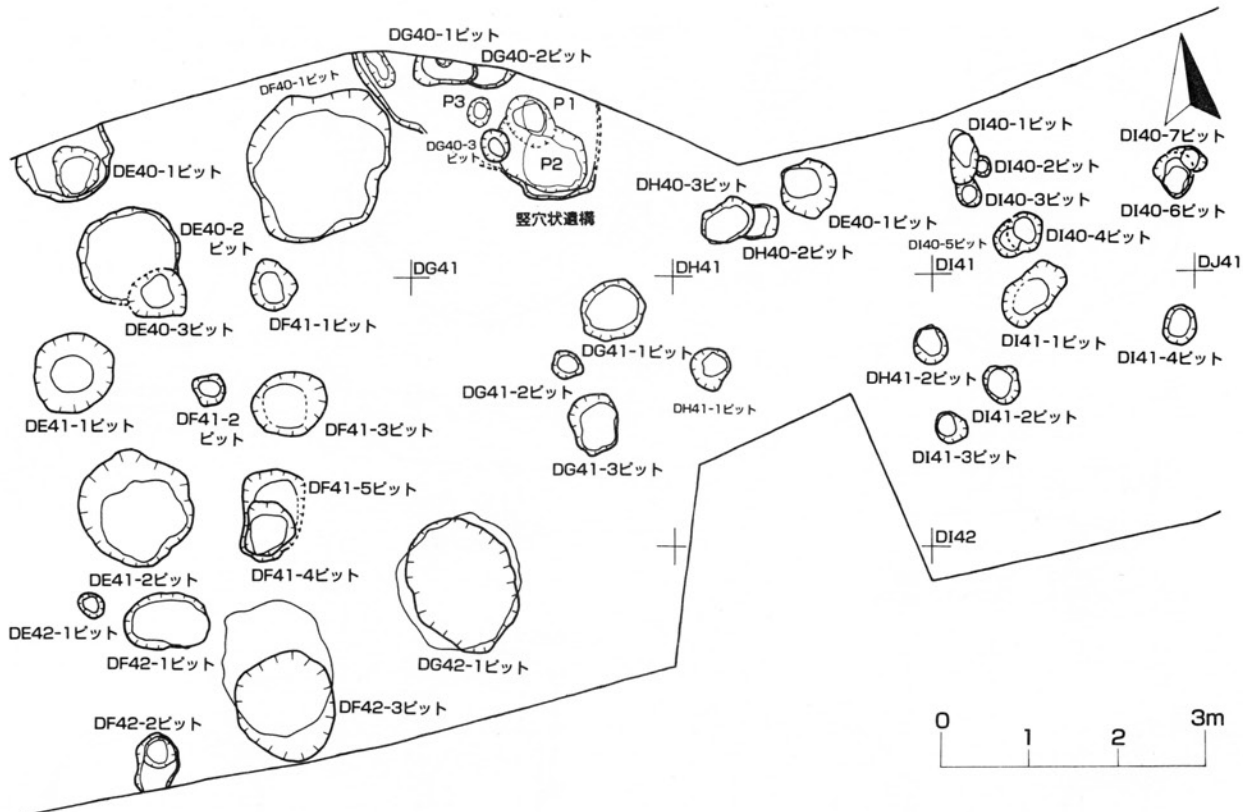
平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が83×45cm、底部が47×27cm、深さ53cm。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は4層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。

DI41-2ピット (第15図・第18図)

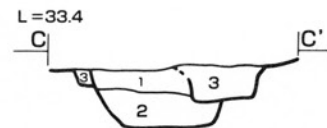
平面形はほぼ円形。規模は、開口部が45×42cm、底部が31×30cm、深さ39cm。壁は直壁状に立ち上がる。埋土は1層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

DI41-3ピット (第15図・第18図)

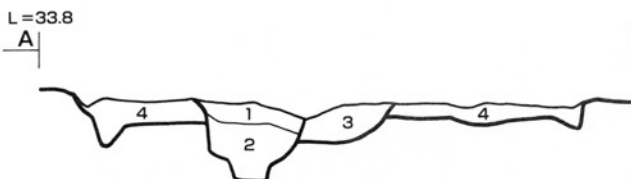
平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が38×31cm、底部が24×21cm、深さ21cm。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は無い。



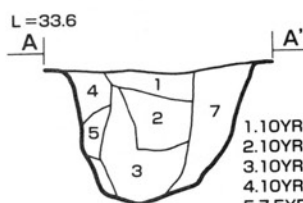
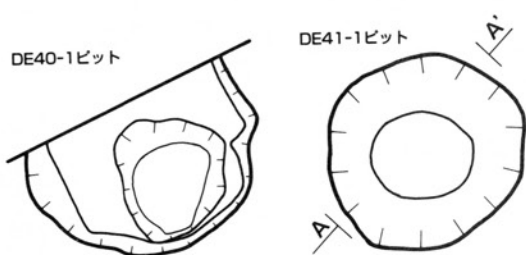
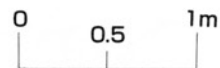
- 1. 10YR3/3暗褐色
- 2. 10YR3/4暗褐色
- 3. 10YR4/6褐色
- 4. 7.5YR3/4明褐色
- 5. 10YR3/4暗褐色
- 6. 10YR5/6黄褐色



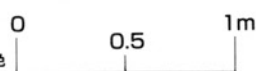
- 1. 10YR5/4にぶい黄褐色
- 2. 10YR4/6暗褐色
- 3. 10YR5/8黄褐色



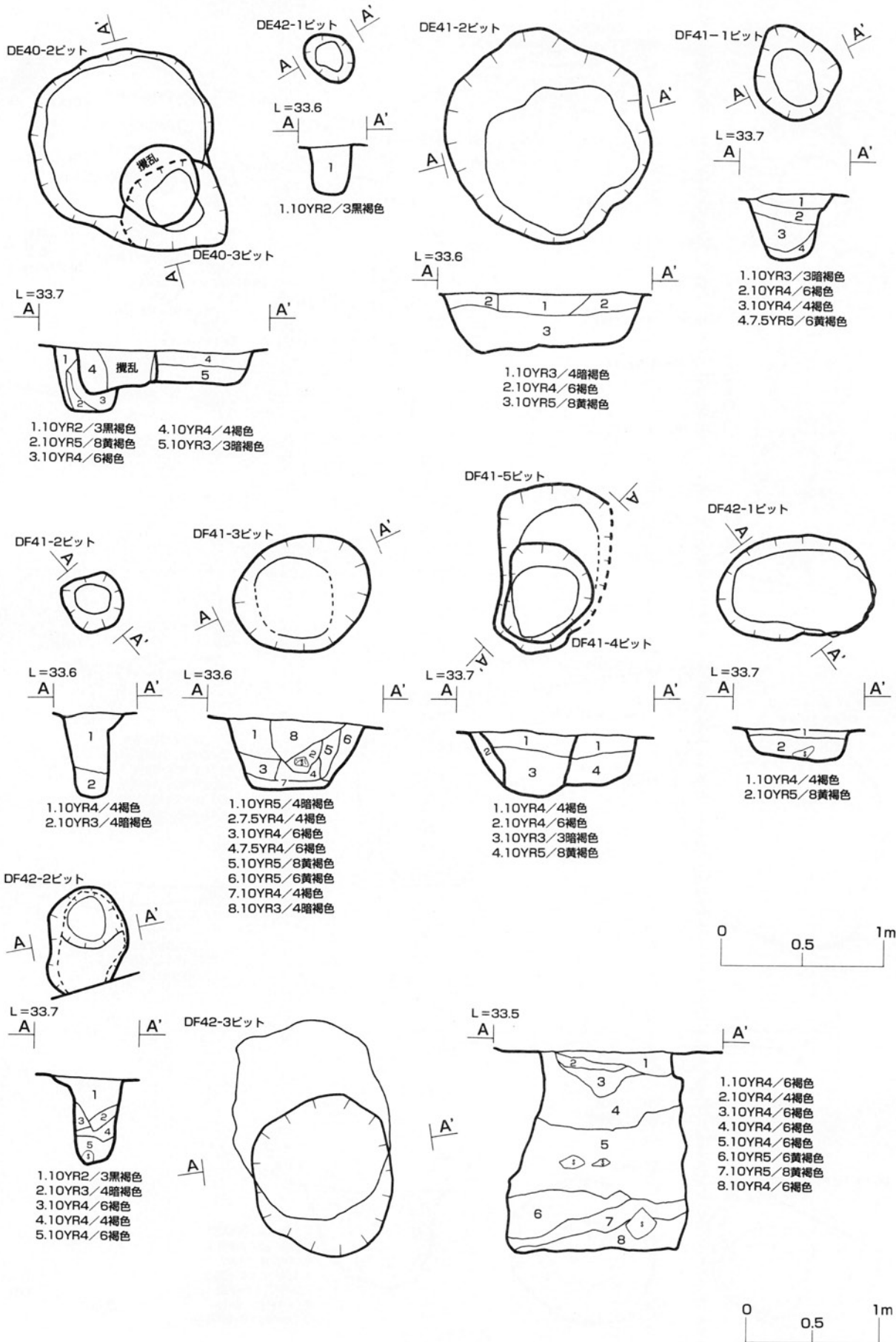
- 1. 10YR4/6褐色
- 2. 10YR4/6褐色
- 3. 10YR5/6褐色
- 4. 10YR2/3暗褐色



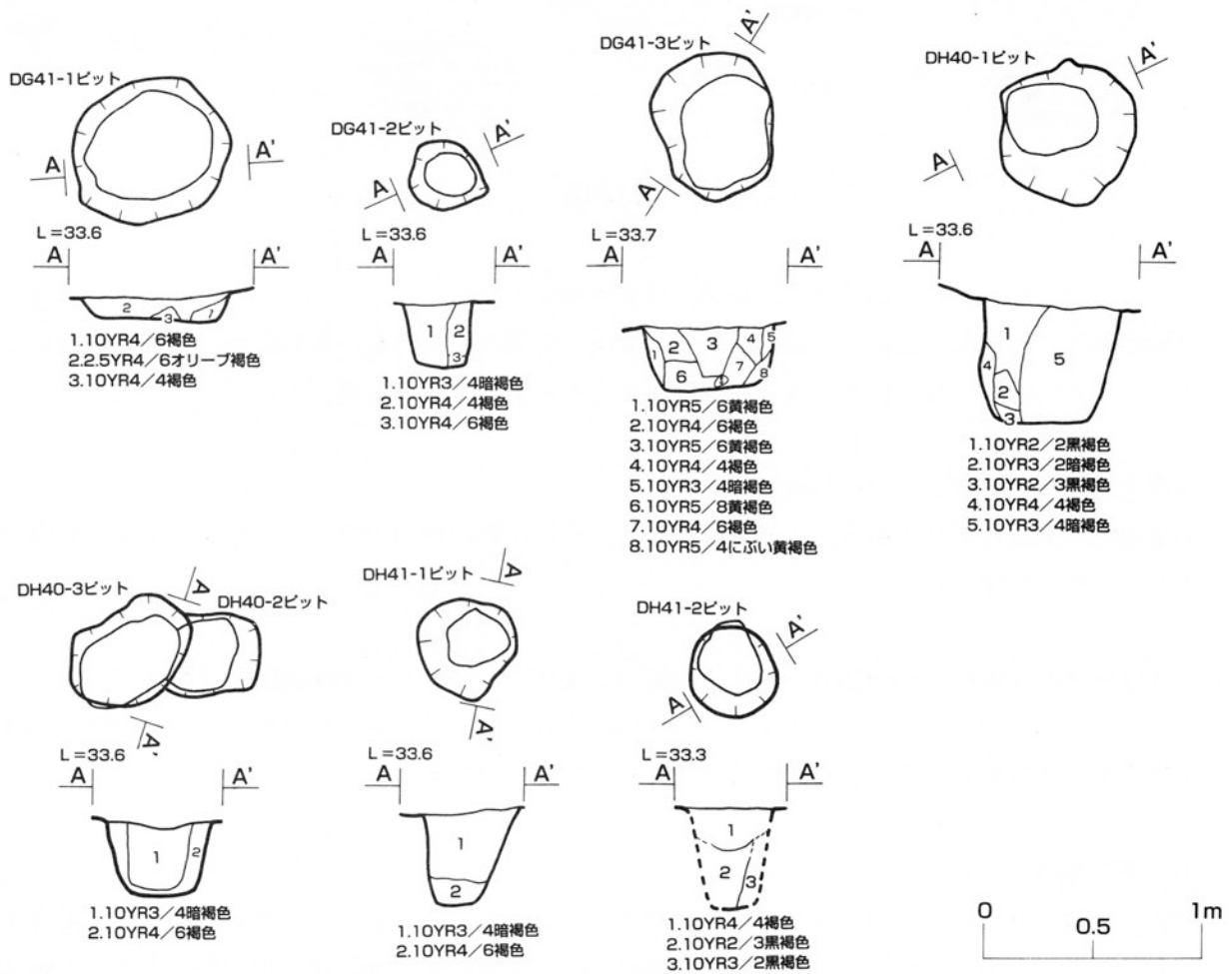
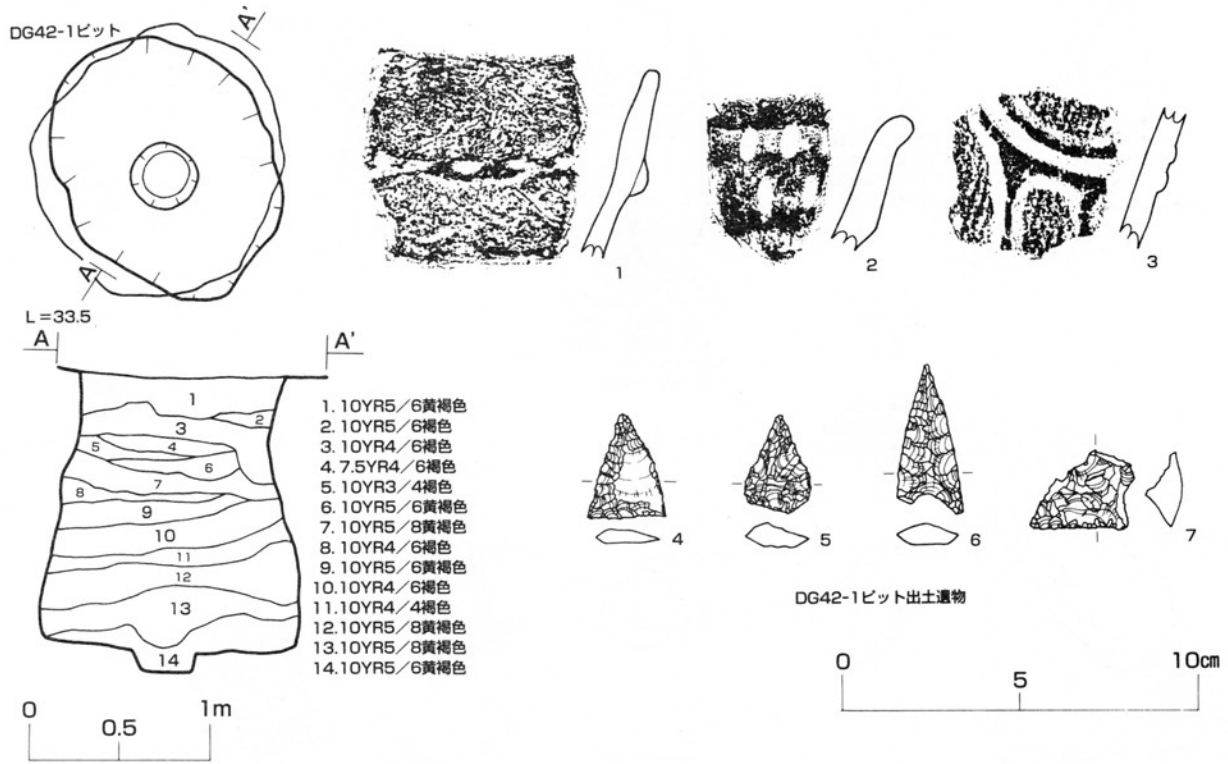
- 1. 10YR3/3暗褐色
- 2. 10YR2/2黒褐色
- 3. 10YR4/4褐色
- 4. 10YR5/8黄褐色
- 5. 7.5YR4/4褐色
- 6. 10YR4/6褐色
- 7. 10YR6/8明黄褐色

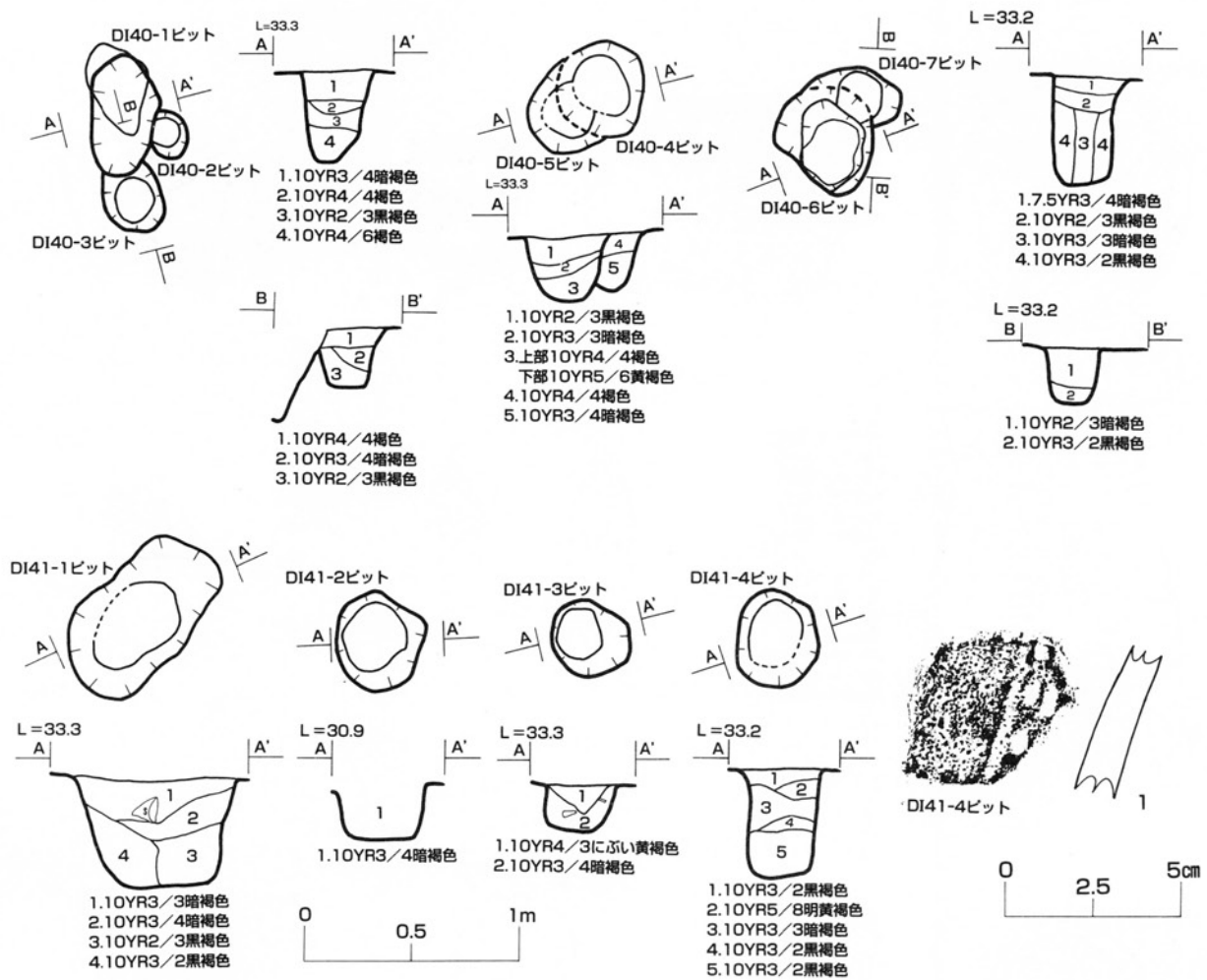


第15図



第16図





第18図

DI41-4ピット (第15図・第18図、写真図版2-7)

平面形はほぼ楕円形。規模は、開口部が43×37cm、底部が31×24cm、深さ51cm。壁は直壁状に立ち上がっている。埋土は5層からなり自然堆積である。底面は丸みを帯びる。

〔出土遺物〕(第18図1、写真図版5)

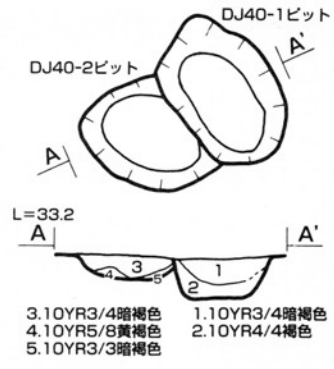
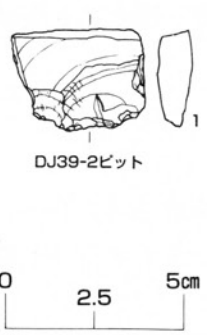
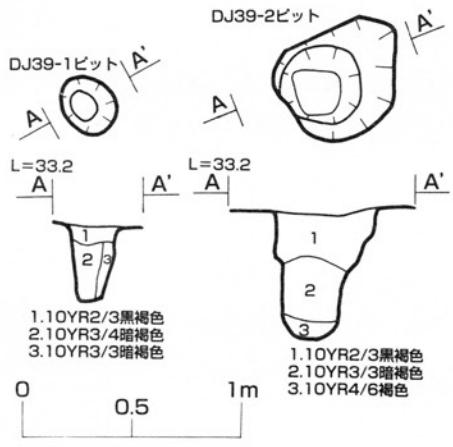
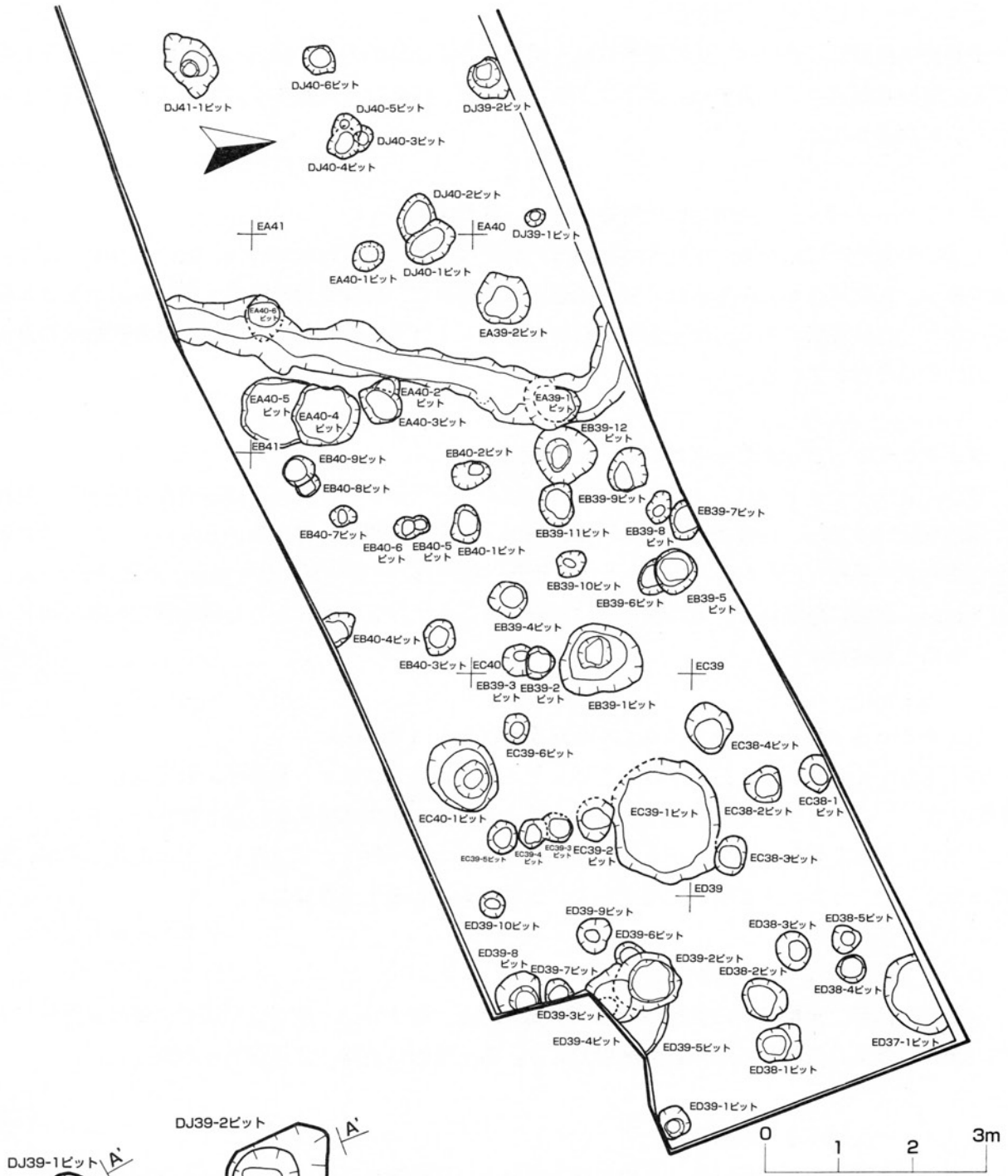
出土遺物は土器片4点である。1点を図示した。1は深鉢の体部片である。縦位の沈線と刺突文によって文様が描かれる。

6 DJ39~42、EA39・40、EB39・40、EC38~40、ED37~39グリット検出遺構 (第19図~24図)

DJ39~42・EA39・EA40・EB39・EB40・EC38~40・ED37~39グリットにおいて検出した遺構は、溝状遺構1条・土坑65基である。遺構の検出は、すべて地山面である。

(1) 溝状遺構 (第20図、写真図版2-8)

EA39~EA41グリットにおいて検出し、未調査区に広がる。EA39-1ピットに切られ、EA40-6ピットを切る。規模は、開口部の最大幅約80cm、底部の幅35cm、深さ30cm程である。主軸はN-19°-Eで、EA39グリットにおいてほぼ直角に西北西方向に折れ曲がっている。出土遺物は土器片39点があるが割愛した。



第19図

(2) ピット (写真図版4-1~3)

DJ39-1ピット (第19図)

平面形は楕円形。規模は、開口部径27cm×23cm・底部径12cm・深さ36cm。底面は、やや丸みを帯びる。壁は直壁状に立ち上がる。埋土は3層で、掘方・柱あたりを有する。出土遺物は土器片1点があるが割愛した。

DJ39-2ピット (第19図・第19図-1、写真図版5)

一部は未調査区に広がる。平面形は楕円形。規模は、開口部の長軸が60cm、底部径21cm、深さ57cmである。底面はやや丸みを帯び、壁は西壁では直壁状で、東壁は幾分傾斜している。埋土は3層からなり、自然堆積である。出土遺物は石器がある。1は不定形石器である。片刃の直線状の刃が一辺に作りだされている。

DJ40-1・DJ40-2ピット (第19図)

DJ40-1ピットがDJ40-2ピットを切る。DJ40-1ピットは平面形は楕円形。規模は開口部径73×50cm、底部径53×29cm、深さ18cm。底面は平坦で、壁は傾斜している。埋土は2層からなり自然堆積。DJ40-2ピットは平面形は楕円形。規模は開口部が65cm、底部径47×35cm、深さ11cm。底面は船底状で、壁は緩やかに傾斜する。埋土は2層からなり自然堆積である。両ピットとも出土遺物はない。

DJ40-3・DJ40-4・DJ40-5ピット (第20図)

DJ40-4ピットが、DJ40-3ピット・DJ40-5ピットを切り、DJ40-5ピットがDJ40-3ピットを切る。DJ40-4ピットは、平面形は楕円形。深さは36cmである。底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。DJ40-3ピット・DJ40-5ピットは形状は不明。規模はDJ40-5ピットが深さ42cmである。3ピットとも出土遺物はない。

DJ40-6ピット (第20図)

平面形は円形。規模は開口部径が42cm、底部径26cm、深さ47cm。底面は平坦で、壁は直壁状に立ち上がる。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

DJ41-1ピット (第20図)

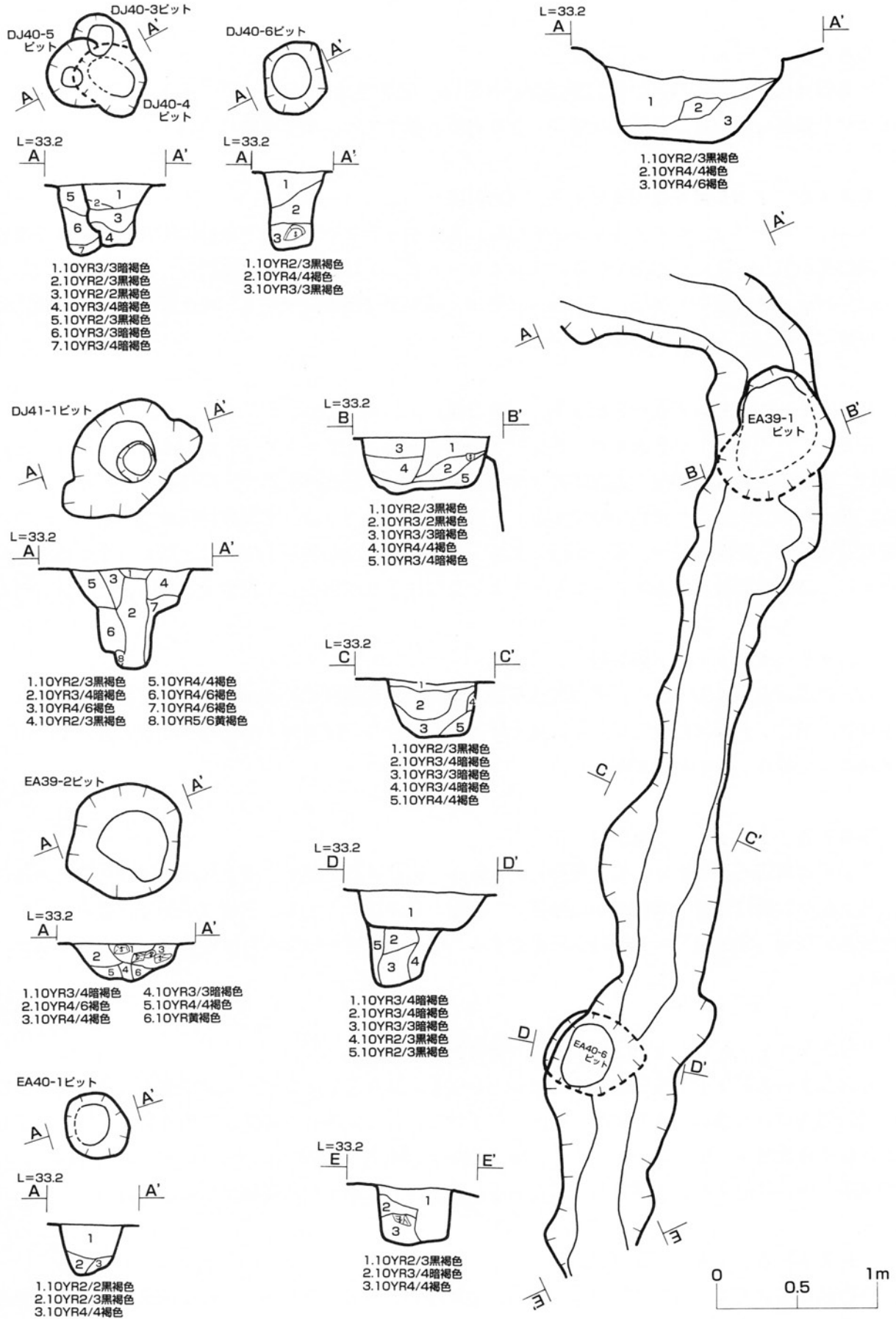
平面形は不整形円形。規模は開口部径が48×45cm、底部径29×25cm、深さ44cm。底面は平坦で、壁は中位まで直壁状で、上位は傾斜している。埋土は8層からなり掘り方・柱あたりを有している。。出土遺物はない。

EA39-1ピット (第20図)

溝状遺構を切る。平面形は不整形円形。規模は深さ33cm。底面は平坦で、壁は傾斜している。埋土は5層からなり、一部攪乱を受けている。出土遺物は土器片7点があるが割愛した。

EA39-2ピット (第20図)

平面形は不整形円形。規模は、開口部径が78×46cm、底部径72×39cm、深さ20cm。底面は船底状で、



第20図

壁は緩やかに傾斜している。埋土は6層からなり、大形礫を多く含む。出土遺物はない。

EA40-1ピット (第20図)

平面形は楕円形。規模は、開口部径が45×37cm、底部径28×23cm、深さ31cm。底面は船底状で、壁はやや傾斜している。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物はない。

EA40-2・EA40-3ピット (第21図)

EA40-3ピットがEA40-2を切る。EA40-2ピットは平面形は不明。残存部の規模は開口部が31cm、底部が23cmである。EA40-3ピットは、平面形は楕円形、規模は、開口部径が63×49cm、底部径49×30cm、深さ15cm。壁は、緩やかに傾斜している。埋土は2層からなり、自然堆積である。ともに出土遺物はない。

EA40-4・EA40-5ピット (第21図)

EA40-4ピットがEA40-5ピットを切る。EA40-4ピットは、平面形は円形で、規模は、開口部径が90×75cm、底部径79×62cm、深さ25cm。底面は平坦で、壁は緩やかに傾斜している。埋土は6層からなり自然堆積である。EA40-5ピットは、平面形は円形と思われ、規模は開口部径98cm、底部径82cm、深さ16cmである。壁は緩やかに傾斜し、埋土は2層からなり自然堆積である。出土遺物は、EA40-5ピットより土器片2点が出土したが割愛した。

EA40-6ピット (第20図)

上位は溝状遺構に切られる。平面形は不明。規模は、底部径42×28cm、深さ59cm。壁は、西壁は直壁状を呈し、東壁は傾斜している。埋土は4層からなり、掘り方・柱あたりを有している。出土遺物は、土器片7点があるが割愛した。

EB39-1ピット (第21図)

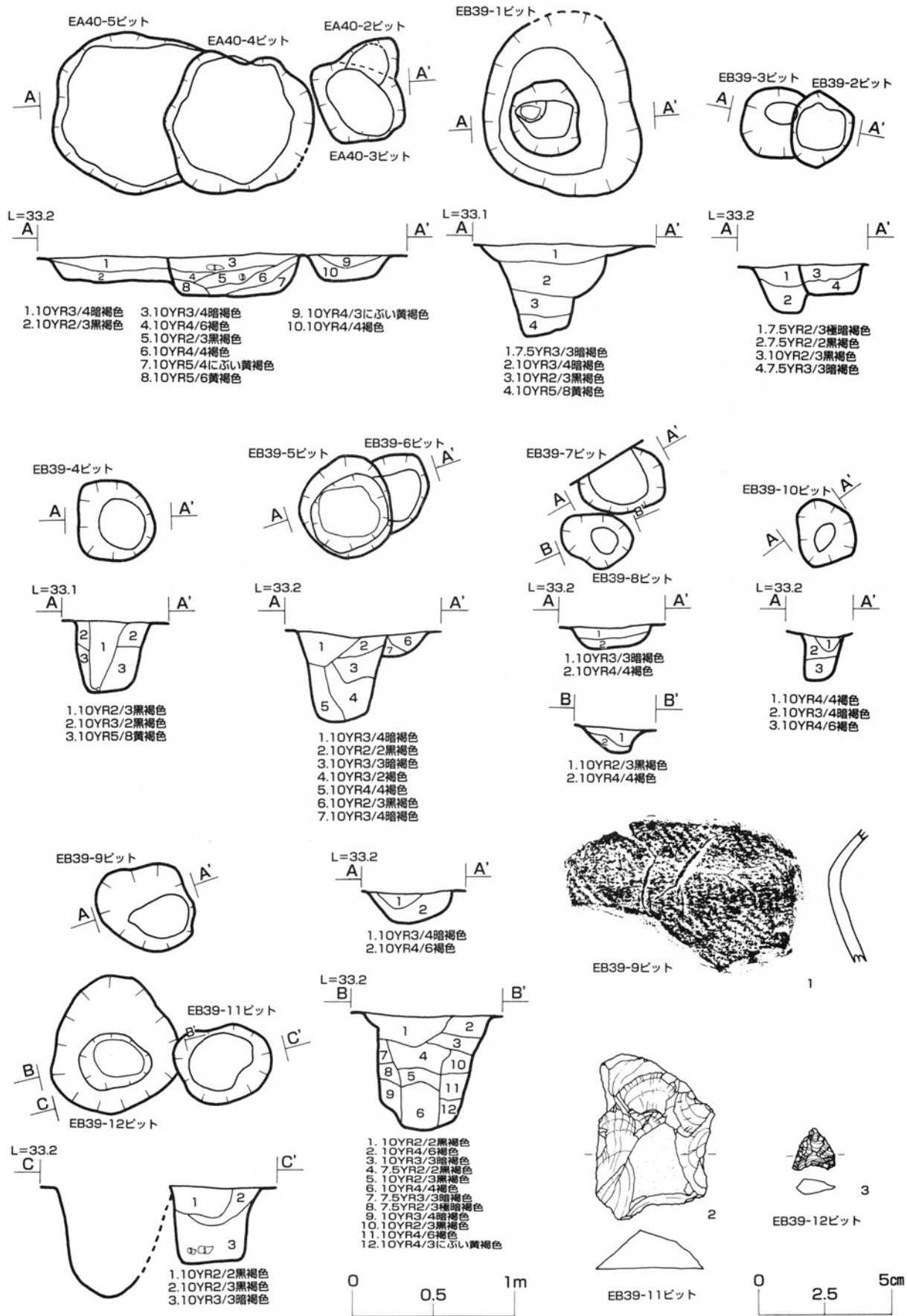
平面形は楕円形。規模は、開口部径113×91cm、底部径36×23cm、深さ56cm。壁は北壁では急に立ち上がり、開口部付近で緩やかに傾斜し、南壁では中段を有する。底面は平坦で、底面には開口部径20×12cm、底部径13×9cmの小穴を有する。埋土は4層からなり自然堆積である。出土遺物はない。

EB39-2・EB39-3ピット (第21図)

EB39-2ピットがEB39-3ピットを切る。EB39-2ピットは平面形は楕円で、規模は開口部径が46×39cm、底部径32×25cm、深さ18cm。壁は傾斜し、底面は平坦である。埋土は2層からなり自然堆積。EB39-3ピットは、規模は、開口部径が43cm、底部径19×14cm、深さ28cm。壁は緩やかに傾斜する。底面は船底状である。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物はない。

EB39-4ピット (第21図)

平面形は不整形円形。開口部径が53×48cm、底部径32×29cm、深さ43cm。壁は西壁では直壁状であるが、東壁は幾分傾斜する。底面は平坦。埋土は3層からなり、掘り方・柱あたりを有している。出土遺物は、土器片9点があるが割愛した。



第21図

EB39-5・EB39-6ピット (第21図)

EB39-5ピットがEB39-6ピットを切る。EB39-5ピットは平面形は円形。規模は開口部径が62×60cm、底部径38×30cm、深さ70cm。壁は幾分傾斜する。埋土は5層からなり人為的な堆積。EB39-6ピットは平面形は不明。残存部の規模は開口部が43cm、底部28cm、深さ21cm。埋土は2層からなり自然堆積。ともに出土遺物はない。

EB39-7ピット (第21図)

平面形は不明。規模は開口部径が53cm、底部径34cm、深さ18cm。底面は平坦。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物はない。

EB39-8ピット (第21図)

平面形は楕円形。規模は開口部径が45×28cm、底部径18×13cm、深さ15cm。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物は、土器片4点があるが割愛した。

EB39-9ピット (第21図・第21図-1、写真図版5)

平面形は不整形円形。規模は開口部径が64×49cm、底部径38×24cm、深さ20cm。底面は舟底状で、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物は、土器片5点が出土し、1点を図示した。1は深鉢の体部片である。断面形は「く」の字状に屈折し、文様は全体に地文が施される。

EB39-10ピット (第21図)

平面形は不整形円形。規模は開口部径が43×37cm、底部径19×10cm、深さ31cm。壁は急に立ち上がっている。埋土は3層からなり自然堆積。出土遺物はない。

EB39-11・EB39-12ピット (第21図、写真図版3-1~3)

EB39-11ピットがEB39-12ピットの一部を切る。EB39-11ピットは平面形は楕円形。規模は開口部径が60×46cm、底部径42×34cm、深さ40cm。埋土は3層からなり自然堆積。EB39-12ピットは平面形は不整形円形。規模は開口部径が84×75cm、底部径34×24cm、深さ81cm。壁は急に傾斜している。埋土は12層からなり人為的な堆積で、掘り方・柱あたりを有する。

【出土遺物】(第21図-2・3、写真図版5)

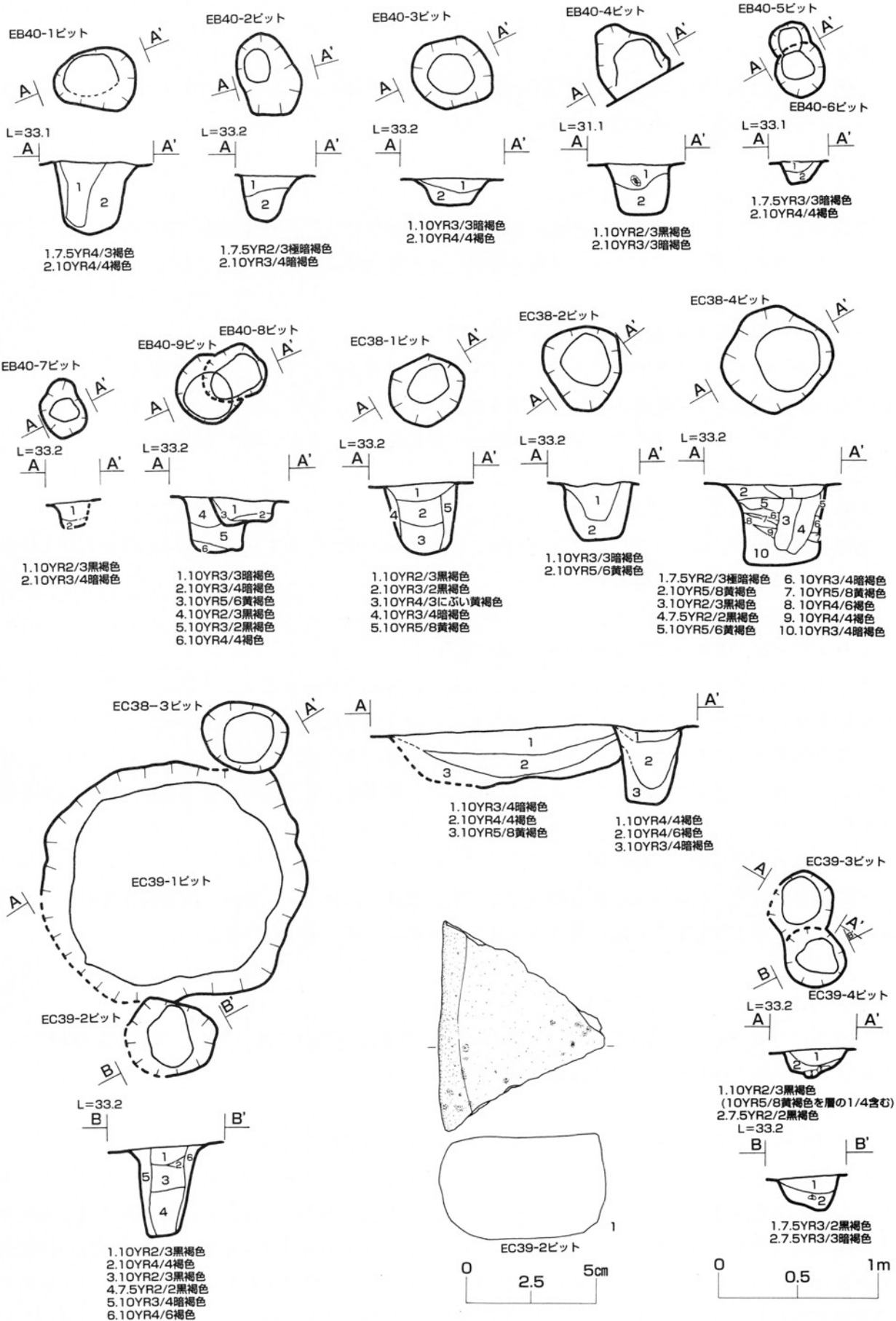
出土遺物は、EB39-11ピットより、土器片1点・不定形石器1点、EB39-12ピットより、土器片4点・石鏃1点が出土した。石鏃1点・不定形1点を図示した。2は不定形石器である。一辺に直線状な両刃の刃を有している。3は基部に抉りを有する石鏃である。側縁は外弧をなす。

EB40-1ピット (第22図)

平面形は不整形円形。規模は開口部径が58×41cm、底部径35×27cm、深さ43cm。壁は幾分傾斜する。底面は船底状。埋土は2層からなり、掘り方・柱あたりを有する。出土遺物はない。

EB40-2ピット (第22図)

平面形は楕円形。規模は開口部径51×36cm、底部径20×16cm、深さ28cm。壁は西壁は直壁状、東



第22図

壁は緩やかに傾斜する。埋土は2層で、自然堆積。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

EB40-3ピット (第22図)

平面形は楕円形。規模は開口部径52×46cm、底部径21×26cm、深さ16cm。壁は緩やかに傾斜。埋土は2層で、自然堆積。出土遺物はない。

EB40-4ピット (第22図)

未調査区へと広がる。平面形は不明。規模は、開口部径41cm、底部径26cm、深さ31cm。壁は直壁状に立ち上がる。埋土は2層からなり自然堆積。出土遺物はない。

EB40-5・EB40-6ピット (第22図)

EB40-6ピットがEB40-5ピットを切る。EB40-6ピットは平面形は楕円。規模は開口部径33×31cm、底部径21×18cm、深さ14cm。壁は緩やかに傾斜。埋土は2層からなり自然堆積。EB40-5ピットは、規模は、開口部径25cm、底部径16cm。ともに出土遺物はない。

EB40-7ピット (第22図)

平面形は楕円形。規模は開口部径35×26cm、底部径19×13cm、深さ16cm。壁は直壁状。埋土は2層で、自然堆積。出土遺物はない。

EB40-8・EB40-9ピット (第22図)

EB40-8ピットがEB40-9ピットを切る。EB40-8ピットは平面形は楕円形。規模は開口部径32×22cm、底部径33×21cm、深さ12cm。壁は幾分傾斜する。底面は平坦。埋土は3層からなり自然堆積。EB40-9ピットは、平面形は円形。規模は、開口部径41cm、底部径31cm、深さ34cmである。壁は幾分傾斜する。底面はほぼ平坦。埋土は3層からなり自然堆積。ともに出土遺物なし。

EC38-1ピット (第22図)

平面形は楕円形。規模は開口部径49×41cm、底部径28×20cm、深さ45cm。壁は幾分傾斜する。底面は船底状。埋土は5層からなり掘り方・柱あたりを有する。出土遺物はない。

EC38-2ピット (第22図)

平面形は不整形円形。規模は開口部径53×49cm、底部径32×30cm、深さ35cm。壁は幾分傾斜する。底面は平坦。埋土は2層で、自然堆積。出土遺物はない。

EC38-3・EC39-1・EC39-2ピット (第22図・写真図版3-4)

EC38-3ピット・EC39-2ピットが、EC39-1ピットの一部を切る。EC38-3ピットは平面形は楕円形。規模は開口部径55×43cm、底部径36×31cm、深さ46cm。壁は幾分傾斜する。埋土は3層で自然堆積。EC39-2ピットは、平面形は楕円形。規模は開口部径58×52cm、底部径39×27cm、深さ56cm。壁は幾分傾斜する。底面は平坦。埋土は6層からなり掘り方・柱あたりを有する。EC39-1ピットは、平面形は円形。規模は開口部径175×165cm、底部径143×132cm、深さ35cm。壁は緩やかに傾斜。底面はほぼ平坦。埋土は3層からなり自然堆積。

[出土遺物] (第22図-1、写真図版5)

出土遺物は、EC39-2ピットからのみ石器1点が出土した。1は石皿である。全体丁寧に磨かれるが、一部成形時の打痕を残す。

EC38-4ピット (第22図)

平面形は不整形。規模は開口部径71×64cm、底部径41×39cm、深さ50cm。壁は直壁状。底面は平坦。埋土は10層で、掘り方・柱あたりを有する。出土遺物は土器片3点があるが割愛した。

EC39-3・EC39-4ピット (第22図、写真図版3-5)

EC39-4ピットがEC39-3ピットを切る。EC39-4ピットは、平面形は楕円形。規模は開口部径41×37cm、底部径25×25cm、深さ28cm。断面形はU字状。埋土は2層からなり自然堆積。EC39-3ピットは、平面形は楕円形。規模は、開口部径43cm、底部径40×27cm、深さ17cm。ともに出土遺物はない。

EC39-5ピット (第23図)

平面形は楕円形。規模は開口部径46×43cm、底部径39×24cm、深さ34cm。壁はゆるやかに傾斜。底面は船底状。埋土は4層で自然堆積。出土遺物は土器片1点があるが割愛した。

EC39-6ピット (第23図、写真図版3-6)

平面形は楕円形。規模は開口部径42×34cm、底部径12×11cm、深さ31cm。壁は、幾分傾斜する。底面は船底状。埋土は3層で自然堆積。出土遺物は土器片4点があるが割愛した。

EC40-1ピット (第23図、写真図版3-7)

平面形は楕円形。規模は開口部径102×88cm、底部径26×19cm、深さ81cm。壁は、下位は直壁状、上位は緩やかに傾斜し、中段を有する。底面は平坦。出土遺物は土器片7点があるが割愛した。

ED37-1ピット (第23図)

未調査区に広がる。平面形は不明。規模は、開口部径120cm・底部径90cm・深さ51cm。底面は平坦で、壁は急角度で立ち上がっている。埋土は5層からなり、自然堆積であるが、1層と3層に小ブロック状に朱が混入する。

[出土遺物] (第23図1~5、写真図版5)

土器片38点が出土した。5点を図示した。1~4は平縁深鉢の口縁部片である。1・2は口縁に平行する数条の横位沈線を有する。3・4は口縁部が外反し、文様は、口縁部は無文で、体部には地文が施され、頸部に一条の原体の側面圧痕文を有する。5は深鉢の体部片で、横位沈線が施文される。

ED38-1ピット (第23図)

2つのピットが切り合うが、ED38-1ピットに切られるピットは形状・規模等不明である。ED38-1ピットは、平面形は円形。規模は、開口部径47cm、底部径32cm、深さ29cmである。壁

は底部付近で締まり、開口部にかけて直壁状に立ち上がる。埋土は3層で自然堆積。出土遺物はない。

ED38-2ピット (第23図)

平面形は楕円形。規模は、開口部径60×57cm、底部径46×36cm、深さ54cm。壁は、中央部付近まで直壁状に立ち上がり、中央部から開口部まで傾斜する。埋土は3層で自然堆積。出土遺物は土器片7点があるが割愛した

ED38-3ピット (第23図)

平面形は楕円形。規模は、開口部径55×47cm、底部径29×25cm、深さは30cm。底面は平坦で、壁は傾斜している。埋土は3層からなり自然堆積である。出土遺物はない。

ED38-4ピット (第23図)

平面形は円形。規模は、開口部径38cm、底部径30cm、深さ9cmである。底面は船底型で、壁は緩やかに立ち上がる。出土遺物はない。

ED38-5ピット (第23図)

平面形は円形。規模は、開口部径40cm、底部径19cm、深さ50cmである。底面は傾斜し、壁は急角度で立ち上がる。出土遺物はない。

ED39-1ピット (第23図)

平面形は円形。規模は、開口部径41cm、底部径17×19cm、深さは60cm。底面は平坦で、壁は直壁状に立ち上がる。出土遺物はない。

ED39-2・3・4・5・6 (第23図、写真図版3-8)

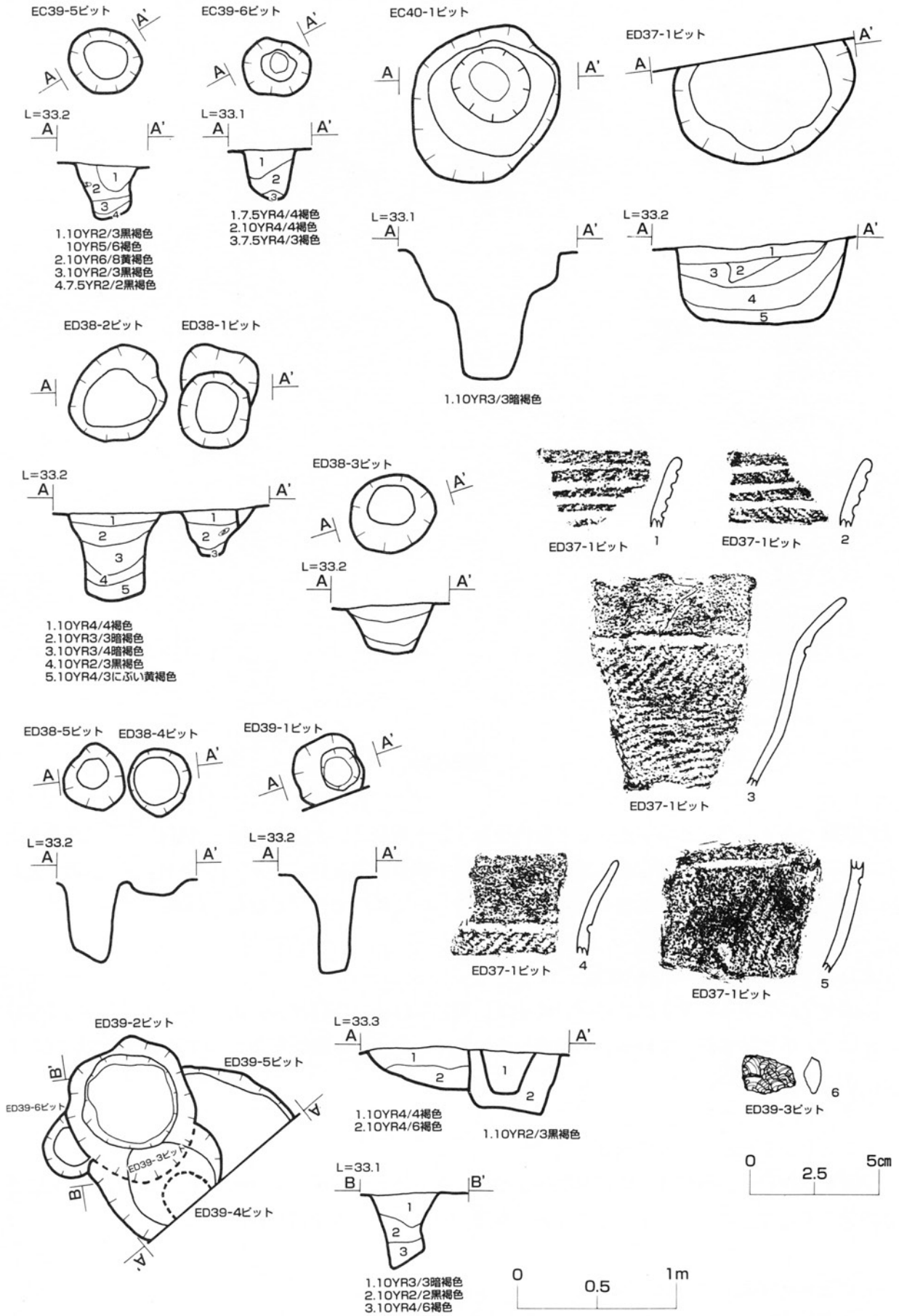
ED39-2ピットが、ED39-3ピット・ED39-5ピット・ED39-6ピットを切り、ED39-4ピットがED39-3ピットを切る。ED39-2ピットは、形状は円形で、規模は、開口部径65×61cm、底部径54×51cm、深さは41cm。ED39-3ピットは、形状は円形と思われ、規模は開口部47cm、深さは38cm。壁は傾斜しており、埋土は1層からなり自然堆積。ED39-4ピットは、形状は楕円形と思われ、規模は開口部78cm、深さは54cm。壁は傾斜しており、底面は平坦である。ED39-5ピットは、平面形は不明。残存部の規模は、開口部78cm・底部57cm・深さは26cm。壁は緩やかに傾斜し、底面は船底状を呈する。埋土は2層からなり自然堆積。ED39-6ピットは平面形は不明。残存する規模は、開口部41cm・底部28cm・深さは47cm。壁は傾斜している。埋土は3層からなり自然堆積。

[出土遺物] (第23図-6、写真図版5)

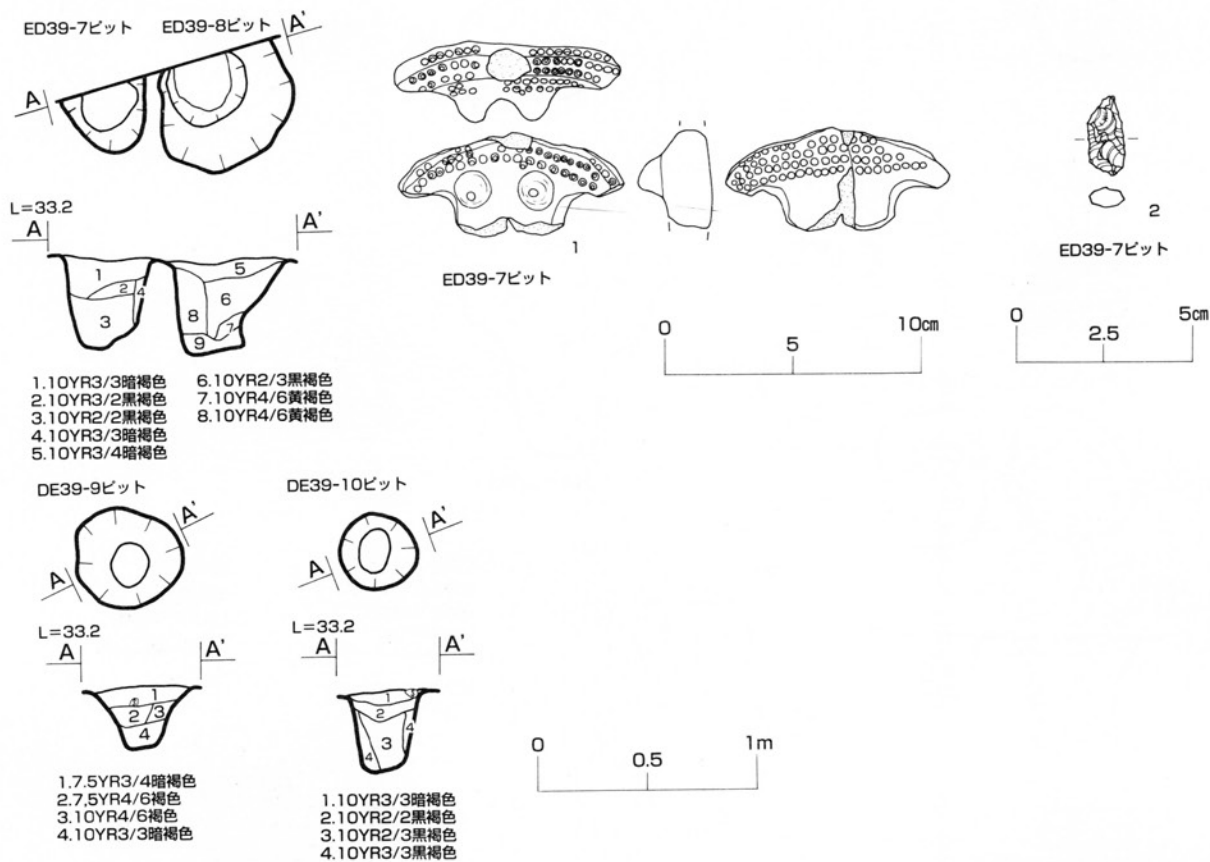
出土遺物は、ED39-2ピットからのみ石器1点が出土した。6は二辺に刃を有する不定形石器である。刃は両刃で直線的に作りだされている。

ED39-7ピット (第24図、第24図-1・2、写真図版5)

未調査区に広がる。平面形は不明。開口部39cm、底部28cm、深さは40cm。壁は幾分傾斜し、底面



第23図



第24図

は船底状である。埋土は4層からなり自然堆積。出土遺物は、土器片4点・土製品1点・石器1点がある。土製品1点・石器1点を図示した。1は土偶の胸部資料である。両面の肩部に、刺突文が施される。磨滅が著しい。2は不定形石器である。一辺に片刃の刃を有している。

ED39-8ピット (第24図)

未調査区に広がる。平面形は不明。規模は、開口部61cm、底部26cm、深さは41cm。壁は北壁では直壁状で、南壁は傾斜している。底面は平坦である。埋土は5層からなり人為的堆積の可能性が有る。出土遺物はない。

ED39-9ピット (第24図)

平面形は楕円形。規模は、開口部径49×48cm、底部径21×17cm、深さは28cm。底面は平坦で、壁は傾斜している。埋土は4層からなり自然堆積である。出土遺物はない。

ED39-10ピット (第24図)

平面形は円形。規模は、開口部径35cm、底部径20×14cm、深さは36cm。底面は平坦で、壁は幾分傾斜する。埋土は4層からなり掘り方・柱あたりを有している。出土遺物はない。

V 遺構外出土遺物

遺構外からの出土遺物は、土器・土製品・石器・石製品・動物遺存体がある。ここでは、土器・土製品・石器・石製品・動物遺存体の順に、その概要について触れる。

1 土器

土器は、53cm×35cm×13cmのコンテナ約80箱程が出土した。層位的には2層と3層より多く出土している。出土した土器の時期は、縄文時代中期・後期である。以下、縄文時代中期のものを第Ⅰ群、後期初頭から前葉のものを第Ⅱ群、後期中葉のものを第Ⅲ群、特殊な器形のもの・ミニチュア土器を第Ⅳ群、粗製の土器を第Ⅴ群として取り扱う。

第Ⅰ群土器

本群は、縄文時代中期に属すると思われるものである。出土点数は少なく、3層・4層からの出土が主である。形式的には、大木8b式・大木9式・大木10式に相当する。

第1類

大木8b式に相当するもの。文様は渦巻文を主体とする。施文方法によって細分が可能である。

A. (第33図61、写真図版8-61)

沈線による区画文を持つもの。1点のみ出土。口縁は波状口縁をなし外反する。口縁部無文帯と体部文様部は3条の横位沈線によって区画され、体部には沈線による区画文を有する。

B. (第25図1、第33図62~68、写真図版6-1、8-62~9-68)

隆沈線によって文様を意匠するもの。出土数は少ない。62~64は波状口縁をなす深鉢の口縁部片で、口縁部は外傾する。口縁には無文帯を有し、体部には区画文と渦巻文が意匠され、無文帯と体部は横位の隆沈線と刺突文列によって区画される。1は小型の鉢の体部から底部のもので、隆沈線によって区画文が描かれる。65は深鉢の頸部から体部の資料である。横位の刺突文列を有し、刺突文列の下には隆沈線による区画文と渦巻文を有する。器形は、体部の中央付近で締まり、体部上半は外傾する。66・68は口縁部に突起を有するものである。口縁は外傾し、突起より隆沈線による渦巻文が垂下する。67は、平縁深鉢の口縁部片で、口縁は内湾している。口縁に無文帯を有し、体部には隆沈線による区画文・渦巻文が描かれ、無文帯と体部は一条の隆線によって区画される。

第2類 (第33図69・70、写真図版9-69・70)

大木9式に相当すると思われるものである。出土点数は非常に少ない。69は壺の体部片である。沈線と磨消縄文によって区画文が描かれる。70は深鉢の口縁部片である。口縁には突起を有し内湾する。文様は、突起下に隆線による円文を有し、体部には隆沈線によって区画文が描かれ、区画文内には刺突が施されている。

第3類

大木10式に相当するものである。少量が出土している。沈線・隆線・刺突文によって文様を意

匠する。施文方法によって4類に分類が可能である。

A. (第25図2、第33図71～75、写真図版6-2・9-71～75)

沈線によって文様を意匠するもの。2は壺である。口縁は平縁をなし、断面形は頸部で締まり外反し、口縁部で最大幅を測る。体部には沈線と充填縄文によるS字文を有する。71～74は平縁深鉢の口縁部片で、口縁は外傾している。文様は、沈線と磨消縄文によって曲線文が描かれ、74は円文を有している。75は深鉢の体部片である。沈線による区画文に刺突文を有している。

B. (第33図76・77、写真図版9-76・77)

隆線によって文様が意匠されるものである。76は平縁深鉢の口縁部片で、口縁は外反する。口縁部は無文で、横位の隆線によって体部と区画されている。77は深鉢の体部片である。隆線と磨消縄文によって曲線文が描かれる。

C. (第25図3、第33図78～第34図81、写真図版6-3・9-78～81)

沈線と隆線によって文様が意匠されるもの。3は平縁深鉢で底部は欠損する。口縁の断面は頸部で「く」の字状に内側に屈折し、口縁は内傾しており、頸部で最大幅を測る。頸部に横位の隆線が一条巡り、口縁部無文様帯と、体部文様帯を区画している。体部には沈線と磨消縄文によって曲線文が画かれる。78～81は平縁深鉢の口縁部片で、口縁は外反する。78は横位隆線によって、口縁部帯と地文部を区画するものである。文様帯には沈線と隆線によって曲線文が画かれる。79・80は口唇部から隆線が垂下し、隆線には二個単位の刻みを有している。文様は、沈線と磨消縄文によって区画文が画かれる。81は横位隆線によって口縁部文様帯と、体部文様帯とを区画するものである。隆線に沿って横位の刺突文列を有している。

D. (第25図4、第34図82、写真図版6-4・9-82)

口縁部には刺突文列を有し、体部には沈線による曲線文が画かれるものである。4は平縁の注口土器である。口縁は内湾気味に立ち上がり、口唇部で若干外反する。注口部は口縁部に付き中空の突起を有している。82は鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、断面形は内湾で、口唇部は肥厚している。口縁部には刺突が密に施され、一部体部へと垂下している。

第Ⅱ群土器

門前式、あるいは、その前後の土器を主体とする縄文時代後期前葉に属すると思われるものである。文様は、隆線・沈線・刺突文・ボタン状貼付文・連鎖状浮線文等の組み合わせによってバラエティに富む。以下、5類に大別し説明を行う。

第1類 (第34図83、写真図版9-83)

刺突文列によって縁取られた、口縁部無文帯を有するもの。出土数は少ない。83は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は内湾する。施文は、口縁部は無文で、体部には斜縄文が施され、一条の横位の刺突文列によって無文帯と区画されている。この刺突文列には、波状部から垂下する刺突文が連結する。

第2類

隆線あるいは隆線・沈線を主体に、中空突起・橋状把手・刺突文・刻み文・ボタン状貼付文・連鎖状浮線文等の組み合わせによって文様を意匠する一群である。

A. (第34図84～89、写真図版9-84～89)

隆線に沿って刺突文列が施文される一群である。観音堂遺跡第IV群第1類の一部と八天遺跡第II群2類aに類例を見ることができる。84～89は深鉢の口縁部片で、84・86・87が波状口縁、88は小突起、85は中空突起を有する。口縁は、84が外反、85～88が内湾である。隆線は、波状部あるいは突起から斜めや弧状に下がるのが特徴で、85～87は斜めに下がった隆線は頸部で横位に展開し、体部の地文部とを区画している。84は波状部から、垂直方向から刺突された刺突文列を挟むように二条の隆線が斜めに下がるもので、口縁部と体部を区画する横位の隆線と連結する。体部には刺突を有する隆線が曲線文を画いており、この特徴は後述する第II群第2類b2の特徴に属するものであるが、隆線と刺突文列を有するという点で本類に入れた。89は小突起より斜めに下がった隆線が、口縁に平行し横位に施文され、さらに体部に垂下している。

B. 隆線上に刺突を施すもの。体部文様帯の有無によって細分が可能である。

b1. (第25図5～7、第34図90・91、写真図版6-5～7・9-90・91)

刺突を有する横位の隆線が口縁部と体部を区画し、体部には地文のみが施されるもの。崎山弁天遺跡第IV群第1類Aに相当するものである。5・6は口縁部から体部下半にかけてのもの、7は完存品である。口縁は、5は平縁、6・7は小波状口縁をなし、断面形は5・7が外傾、6は胴部で膨れ頸部で締め外反している。口縁部文様帯には、5では縦位の弧状沈線とボタン状貼付文、6では縦位の隆線を有し、7は無文である。90・91は深鉢の口縁部片である。91は口縁は内湾し、口唇部より斜めに下がった隆線が頸部を巡る。90は口縁に小突起を有するもので断面形は、内湾ぎみに立ち上がり、口唇部付近で若干外反している。小突起からは、刺突を有する隆線が垂下し、頸部の横位隆線と連結し、連結部にはボタン状貼付文を有している。

b2. (第25図8～第26図13、第34図92～第35図101、写真図版6-8～13・9-92～10-101)

体部文様帯を有するものである。8～11・13はほぼ完存、12は体部下半を欠く深鉢である。口縁は、8～12は平縁、13は波状口縁をなし、8・9・10は口唇部に小突起を有する。口縁部の断面は、9～13が外反で、8は外傾である。文様は、8・9では口縁のボタン状貼付文から、10・12では口唇部から刺突を有する縦位の隆線が垂下する。この縦位の隆線は、体部中央付近で横位の隆線と交わり、隆線の両側には沈線によって曲線文が描かれている。8・10は横位隆線にも刺突が施される。13は頸部に横位の刺突文列が巡り、体部文様帯とを区画するものである。体部文様帯には、刺突を有する隆線によって体部下半まで文様が描かれている。11は隆線を持たず、ボタン状貼付文から垂下する刺突文が直接器面に刺突されるものである。本来なら別に分類すべき資料であるが、文様が類似していることから本類に含めた。92～97、99～101は深鉢の口縁部片である。口縁は、93・94・99・101が波状口縁、95～97・100は小突起を有し、92は中空突起を有している。口縁部の断面形は、95・99・101が外反で、他は内湾である。93・94は刺突を有する隆線が口唇部から斜めに下がり、頸部において横位に巡る。92・96・97・100は頸部に横位の隆線が、95・99は縦位の隆線が、98は横位・縦位の隆線を有し、101では隆線によって曲線文が描かれている。

C. 刻みを有する隆線によって文様を意匠するもの。体部文様帯の有無によって細分が可能である。

c1. (第26図14、第35図102・103、写真図版6-14、10-102・103)

体部文様帯を持たないものである。観音堂遺跡第Ⅳ群1類の一部に類例を見ることが出来る。14は底部の一部を欠くがほぼ完存の深鉢である。口縁は幾分内湾し、4個の突起を持ち、突起の頂部は円形に膨れ、上方向からの刺突を有している。口縁部文様帯には、波状をなす二条の隆線が巡り、波頂部にはボタン状の貼付文を有している。102は平縁深鉢、103は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。ともに口縁は外反し、102では横位の隆線に、103では横位と縦位の隆線に刻みが施されている。

c2. (第27図16、第35図104～第36図108、写真図版6-16、10-104～108)

体部文様帯を有するものである。16は口縁部から底部にかけての深鉢である。口縁は二重口縁をなし、口縁部にはひねりを有する中空突起と橋状把手を有している。体部には、最大10個の刻みのある隆線と沈線・ボタン状貼付文によって曲線文が描かれている。105～108は深鉢の口縁部片、104は体部片である。体部には2個単位の刻みの施された隆線によって曲線文が描かれる。口縁部資料はすべて二重口縁をなし内湾し、106では中空突起を有している。

D. (第26図15、第27図17、第36図109～114、写真図版6-15・17、10-109～114)

ボタン状貼付文と隆線によって文様を意匠するものであるが、隆線には刺突・刻みを持たないものである。17は平縁の深鉢で全体の1/3程が欠損する。口縁は二重口縁をなし中空突起を有し、口縁部の断面形は内湾である。体部には底部付近まで隆線とボタン状貼付文によって文様が描かれる。15は波状口縁をなす深鉢の口縁部から体部上半にかけてのものである。口縁部の断面は幾分外反している。口縁部には幅の狭い無文帯を持ち、体部には隆線と沈線によって縦方向に展開する曲線文が描かれている。109～114は深鉢の口縁部片である。口縁は、109は平縁、110・111は波状口縁、112～114は二重口縁をなし貫通孔を持つ中空突起を有している。口縁部の断面形は、109・110が外反で、他は内湾である。文様は、109・111～114では隆線によって、110では隆線と沈線によって文様が描かれている。

E. (第27図18～第28図23、第36図115～第37図123、写真図版6-18～7-23、10-115～123)

ボタン状貼付文・連鎖状浮線文を有するものである。所謂、狭義の「門前式土器」に相当するもので、八天遺跡第Ⅱ群8類、観音堂遺跡第Ⅴ群2類、門前貝塚第Ⅱ群1類B(及川他 1974)に類例を見ることが出来る。18～21・23は深鉢の口縁部から体部下半にかけて、22は口縁部から底部にかけてのものである。口縁の断面形は、18～22は内湾で、23は頸部で締め外傾している。18は波状口縁をなすもので、口縁には口縁の形状に沿って一条の隆線が巡る。体部には、波頂部下の盲孔より隆線が体部下半まで懸垂している。19・22は二重口縁をなすもの、21は口唇に平行する隆線を持つものである。口縁には貫通孔を有する中空突起を持ち、19・22では突起にひねりが入っている。文様は、突起を中心に体部下半まで懸垂文が展開している。22では中空突起と橋状把手が繰り返されている。20は二重口縁をなすものであるが中空突起は欠損する。体部上半には横位のS字状の文様が描かれ、下半にはS字状の文様より縦位の隆線が垂下している。23は波状口縁をなすもので、貫通孔を有する波状部と、孔を持たない波状部とが交互に繰り返され、波頂部下には沈線によってS字文・弧状文が描かれる。体部上半にはJ字状の文様によって区画文

が描かれている。115～123は深鉢の口縁部片である。116～118・121・122は二重口縁をなし、口縁に貫通孔を有する中空突起をもつものである。115・119は波状口縁をなすものである。口縁は119では内湾し、115は内湾気味に立ち上がり口唇は外反している。波状部下には「の」の字状の文様と盲孔を有し、頸部には口縁の形状に沿って一条の隆線が巡っている。

第3類

沈線によって文様を意匠するものである。第2類で多く見られたボタン状貼付文・中空突起は少なくなり、磨消縄文が多用されるようになる。本遺跡では最も出土量が多い。

A. (第28図24、第37図124～第38図131、写真図版7-24、10-124～11-131)

口縁部文様帯のみを有し、体部には地文が施文されるものである。24は体部上半で最大幅を測るほぼ完全な深鉢である。口縁は波状口縁をなし、口縁部の断面形は、頸部で締まり外傾ぎみに立ち上がっている。口縁部文様帯には、口縁の形状に沿った横位の沈線三条と、鉤状の文様が二段施文され、体部地文部とを一条の沈線によって区画している。124～131は深鉢の口縁部片である。124・125・129・131は波状口縁をなし、126～128・130は平縁である。口縁部の断面形はすべて外反で、124～128は頸部で締まり外反している。文様は、124・125・129・130では頸部に横位沈線が巡り体部地文部とを区画し、口縁部文様帯には、124では縦位の蛇行文と刺突文列、125では縦位の蛇行文、126～128では横位の波頭文、129・130は磨消縄文によって区画文が施文されている。131は原体の側面圧痕により文様を施文しているが、一応本類に含めた。

B. (第28図25・26、第38図132～139、写真図版7-25・26、11-132～139)

ボタン状貼付文を有するものである。25は体部上半で最大幅を測る深鉢である。口縁は波状口縁をなし、口縁部の断面形は頸部で締まり内傾している。波頂部下には弧状の沈線と2個のボタン状貼付文を有し文様の中心をなしている。26は体部中央付近で最大幅を測る鉢である。口縁は平縁をなし、口縁部の断面形は内湾である。口縁には幅の狭い無文帯を有し、体部にはボタン状貼付文と沈線による曲線文を有している。ボタン状貼付文は少量の粘土を張り付けたもので、小さく簡略されたものとなっている。132～135・138・139は深鉢の口縁部片である。口縁は132・139は波状口縁、138は平縁、133～135は二重口縁をなし、134・135は貫通孔をもつ中空突起を有している。136・137は体部片である。縦位の鉤状の文様を有している。

C. (第28図27、第38図140～第39図145、写真図版7-27、11-140～145)

沈線による区画文内に刺突文を有するものである。27は体部上半で最大幅を測る深鉢である。口縁は平縁をなし4個の山形突起を有する。断面形は頸部で締まり外反する。口縁部には幅の狭い無文帯を有し、突起下に刺突文列を有している。体部上半には沈線による釣針状・弧状の文様を有する。140～145は、沈線で区画された文様内に刺突文列を有するものである。140・141・144・145は深鉢の口縁部片、142・143は体部片である。口縁はすべて平縁をなし、口縁部の断面形は、145が外反で他は内湾である。文様は、140～143・145では釣針状の文様を有している。なお、143ボタン状貼付文を有しているが本類に含めた。

D. (第29図28～35、第39図146～157、写真図版7-28～35、11-146～157)

体部に磨消縄文による倒卵形の文様を有するもの。宮戸 I b 式に相当し、八天遺跡第Ⅲ群第 3 類の一部、貝島貝塚第Ⅱ群第 2 類に類例を見ることができる。28・30・32・33・35は体部上半で最大幅を測る深鉢である。口縁は波状口縁をなし、口縁部の断面形は28・30が外傾、32・33・35は内湾である。波頂部下には、28では盲孔、30・35では貫通孔、33では円文、32では粘土塊を押圧した貼付文を有しており、体部に垂下する文様の中心となっている。28では5個の波状口縁を有し、倒卵形の文様は波状部から懸垂するもののほか、波状間から懸垂するものもあり（第29図28、体部上半右側）、二面では波状間からの懸垂文を持たない。（第29図28、体部上半左側）33では口唇部に沈線を有している。29・34は口縁部で最大幅を測る深鉢である。29では中空突起と波状口縁が交互に繰り返され、34では山形口縁をなしている。文様は、29では懸垂文の他、盲孔・S字状の沈線・刺突文列を、34では円文・「く」の字状の文様・蛇行文を有している。31は台付きの鉢の体部下半から底部にかけてのものである。底部直上まで懸垂文を有している。146～157は深鉢の口縁部片である。口縁は147～150・154～156が波状口縁、151～153・155・157は二重口縁をなし、151～153は中空突起、157は突起を有している。突起には、151では貫通孔を、152では盲孔を有しているが、153・157には孔は見られない。153・155の二重口縁の段は浅い。口縁部の断面は、149・155が外反、150が外傾で他は内湾である。体部の倒卵形の文様は、波状部、あるいは突起下の円文・貫通孔・盲孔・「の」の字状の文様より始まっており、147・149・156では円文、154は「の」の字状の文様、150～152・155では盲孔より沈線が垂下する。

E. (第40図158～162、写真図版12-158～162)

沈線と磨消縄文による区画文内に、縦位の連続S字文・蛇行文を有するものである。八天遺跡第Ⅲ群第 4 類に類例を見ることができる。158～162は深鉢の口縁部片である。口縁は159・160は波状口縁をなし、158・161・162は山形突起を有している。口縁部の断面は、158～161が外反で、162は外傾である。

F. (第30図36～42、第40図163～第41図174、写真図版7-36～8-42、12-163～174)

A～E以外のもので沈線・磨消縄文により釣針状・渦巻き状等の曲線文を意匠するものである。36は頸部で最大幅を測る深鉢である。口縁は山形口縁をなし、口縁部の断面形は内湾する。文様は口縁部に刺突文を有し、刺突文から曲線文が始まっており、体部には釣針状の文様が懸垂している。37・38・40は体部上半で若干締まり、口縁部で最大幅を測る深鉢である。口縁は37・38は山形口縁、40は波状口縁をなし、口縁部の断面形は外傾している。口縁部には幅の狭い無文帯を有し、頸部から無文帯が垂下し、釣針状の文様を描いている。37・38では沈線の末端に渦巻き状の文様を有している。40では波状部下に盲孔を有し、盲孔下には、縦に弧状の沈線が並んでいる。42は体部上半が球状に膨らみ、口縁部で最大幅を測る深鉢である。口縁は波状口縁をなし、断面形は頸部で締まり外反している。口縁には非常に幅の狭い無文帯を有し、無文帯は体部に垂下し、体部上半に釣針状の文様を描く。39は体部中央付近で最大幅を測る鉢である。口縁は平縁をなし、4個の突起を有する。口縁部の断面は、頸部で締まり、直立気味に立ち上がっている。口縁には無文帯を有し、体部には横位の楕円文と曲線文を有している。41は大型の壺の口縁部から肩部にかけてのものである。口縁は平縁をなし、断面形は外反気味に立ち上がる。口縁には無文帯を有し、肩部には曲線文が描かれている。163～173は深鉢の口縁部片である。口縁は、164・166は平縁、165・167・170は波状口縁をなし、163・168・169は山形突起を有している。口縁部の断面は、

163～165・168・171が外反、166・167・169・170・172・173は内湾である。文様は、164・168では渦巻き文、169は釣針状・渦巻き状の文様を有しているが、他はモチーフは不明である。164・165・169・171は深い沈線により文様を画いており、力強いタッチのものとなっている。沈線以外の文様もみられ、168では山形突起下に刺突文が、170では貫通孔と2個単位の刺突文が、173では刺突文を有している。174は体部下半の資料である。底部付近まで、渦巻き状の文様が施文されている。

G. (第31図43～45、第41図175～185、写真図版8-43～45、12-175～185)

平行する数条の沈線によって、直線文・弧状文・渦巻き文を描くものである。関東地方の堀の内I式に近似し、八天遺跡第Ⅲ群第6類・立石遺跡第Ⅲ群第4類・貝鳥貝塚第Ⅱ群第3類に相当するものである。43は頸部で最大幅を測るものである。口縁は波状口縁をなし、断面形は内湾する。波状部下には沈線によって縁取られた貫通孔を有している。口縁には幅の狭い口縁部文様帯をもち、口縁部文様帯には横位沈線が2条施文されている。体部には貫通孔を中心に文様を展開している。44は深鉢、45は鉢である。口縁は波状口縁をなし、断面形は体部上半が膨らみ、頸部で締まり、口縁は内湾している。ともに、無文帯・横位沈線・長楕円文による口縁部文様帯を有している。175～177・179～185は深鉢の口縁部片である。口縁は、175～177・181～183・185は平縁、179・180・184は波状口縁をなす。口縁部の断面は、179・181・184・185は内湾、176・182は外反、183は外傾、177は外反気味に立ち上がり口唇部で内側に「く」の字状に屈折し、180では頸部で締まり外傾している。176・180は幅の広い口縁部文様帯を有するものである。176は横位沈線によって、180は波頂部を中心に文様帯の上半には渦巻き文・弧状文・横位沈線が施文され、文様帯の下半は無文帯となっている。この無文帯の波頂部下には長さ2cm程の縦位の隆線を有し、隆線の上端には上方向からの盲孔を持ち、橋状把手様の印象を与える。隆線と体部文様帯の境には刺突文を有し、刺突は体部に展開する文様の中心となっている。179・181・182・184は幅の狭い口縁部文様帯を有するものである。179・184は横位の長楕円文と地文によって、182は横位の長楕円文と沈線によって、181は横位沈線と無文帯によって意匠されている。177・183は口縁部文様帯を形成するには至らないが、口唇に沿って横位の沈線を有している。178は頸部から体部にかけてのもので、口縁部文様帯には横位沈線が施される。

H. (第31図46・47、第41図186～第42図200、写真図版8-46・47、12-186～13-200)

数条の平行沈線と磨消縄文による幅の狭い帯状文を、直線状あるいは曲線状に展開し、長方形状・楕円形状・弧状等の区画文を意匠するもの。区画文はバラエティーに富む。東北北部の十腰内I式や大湯式に近似するものである。46・47は体部中央付近で最大幅を測る壺である。口縁は平縁をなし、口縁部の断面形は、46は外反、47は外傾である。ともに横位の平行沈線による口縁部文様帯を有している。体部の文様は、46では横位沈線と長楕円文が、47では体部中央付近まで縦位の曲線文が描かれ、横位の沈線によって体部下半の無文部とを区画されている。47では口縁部内面と器表面全体に朱彩が施される。186～195・197・198・200は深鉢の、196は鉢の口縁部片である。口縁は、186～189・200が波状口縁をなし、190～198は平縁をなす。口縁部の断面形は、186～193・195・197・198・200が外反、194・196は内湾で、196では口唇部が肥厚している。187・189～198・200は口縁部文様帯を有するものである。187・189は幅の狭い口縁部文様帯をなし、横位沈線と斜縄文により施文されている。190～198・200は幅の広い口縁部文様帯を有する

もので、191・197は横位沈線と無文帯、194・196は弧状文が施文され、他には長楕円文が施文されている。199は壺の体部片で、沈線によって幅の狭い区画文が意匠される。

第4類

隆線と沈線によって文様を意匠するものを一括した。第2類同様、隆線と沈線によって文様を意匠するものであるが、隆線は第2類でみられるような太いものではなく、幅の狭い極く細いもので、あまり盛り上がらない。隆線には刺突・刻みを施すものもみられるが、簡略化している。

A. (第31図48、第42図201～第43図210、写真図版8-48、13-201～210)

縦位あるいは横位の隆線を有するものである。48は壺の頸部から体部中央付近にかけてのものである。頸部に横位の隆線を2条有し、隆線には橋状突起が付く。横位隆線からは体部に隆線が垂下し、体部下半の地文部とを区画する横位隆線に交わり結合部には刺突文を有している。201・202・204～210は深鉢の口縁部片である。口縁の断面形は、201・202・204・207～209が波状口縁、210は平縁で、206は貫通孔を有する突起をもつ。口縁部の断面は、201・202・204～206が外反、207～209が内湾、210は外反気味に立ち上がり口唇部付近で内側に「く」の字状に屈折している。文様は、隆線と沈線によって施文されているが、第Ⅱ群第2類と比べると小型のボタン状貼付文を有するものもある。(201・202・204～206)隆線には刺突や刻みを有するものもみられ、201では横位隆線に刺突文・縦位隆線に刻み、208・210では斜め方向からの刻み、202では原体の側面圧痕文を有している。201・202・206～209は口縁部文様帯を有するものである。207・209は口縁に平行する隆線によって幅の狭い文様帯を、205では沈線に縁取られた幅の狭い無文帯を有する。201・202・206・208は比較的幅広の口縁部文様帯を有し、201・202・208では波頭部から、206では突起から縦位の隆線が垂下し、201・202では沈線による区画文を有している。203は壺の体部片である。縦位の平行する2条の隆線を持ち橋状の隆線が渡る。なお、208は第Ⅱ群第3類Gに含めるべき資料かもしれないが、隆線に刻みを持つことから本類に含めた。

B. (第43図211～216、写真図版13-211～216)

幅の狭い隆線と沈線によって、渦巻き状の文様や、弧状・楕円形等の区画文を描くものである。出土数は少ない。211・212・214・215は壺あるいは深鉢の体部片、213は壺の頸部片、216は壺の口縁部片である。216は口縁は平縁をなし、断面形は外反である。

第5類 (第31図49、第43図217～219、写真図版8-49、13-217～219)

刺突文を多用するものを一括した。八天遺跡第Ⅱ群第9類に相当する。出土点数は少ない。49は口縁部で最大幅を測る深鉢である。口縁は山形口縁をなし、断面形は頸部で締まり外反している。口縁には、刺突文・横位沈線・無文帯・隆線による口縁部文様帯を有しており、隆線には斜め方向からの刻みを有し、この隆線によって体部文様帯とを区画している。隆線は、口縁部の内面にもみられ、隆線の上位には一条の沈線が施文されている。体部には刺突が全面に施される。217～219は深鉢の口縁部片である。口縁は、217・218は波状口縁をなし、219は平縁をなす。口縁の断面形は、217・218が外反、219が外傾である。文様は、217は口縁部は無文で、体部には三段の指頭による刺突文を有する。218は口縁部に幅の狭い無文帯を有し、無文下には「の」の字状の沈線と指頭による刺突を有する。219は口唇部直下から横方向からの刺突文を有している。

第Ⅲ群（第31図50、写真図版8-50）

縄文時代後期中葉のものである。1点のみ出土した。50は三段の平坦面をもった石塔状の突起である。突起には横位の貫通孔を有しており、突起の基部には、沈線と刺突文列によって文様が描かれている。

第Ⅳ群（第32図51～55、第43図220、写真図版8-51～55・13-220）

特殊な器形の土器とミニチュア土器を一括した。51は器台の完存品である。上面は平坦で、縁は若干盛り上がる。平坦面は、研磨され非常にすべすべしており、煤がほぼ全面に付着している。側面には地文が施文され、径3×2cm程の楕円形の二個一対の貫通孔を四組有している。側面の上半にも煤の付着がみられ、特に貫通孔の周囲に著しく付着する。内面は、上半は熱によって変色しており、平坦面の裏側では剥落が著しい。220は器台の体部から底部にかけてのものである。体部には貫通孔を有しており、沈線と磨消縄文によって曲線文を有している。52～55はミニチュア土器である。52・53は地文のみが施文されるもので、口縁は平縁をなし。口縁部は外傾している。54は沈線によって文様が描かれるものである。口縁には山形突起を有し、口縁部は外傾している。55は高台の底部資料である。体部には刺突文を有し、第Ⅱ群第5類の特徴を有するものである。

第Ⅴ群（第32図56～60・写真図版8-56～60）

粗製土器である。大量に出土しているが、紙面の都合で大部分は割愛している。56・57・59・60は口縁が平縁をなす深鉢である。口縁の断面形は、56は頸部で最大幅を測り内湾し、57・59は幾分外傾ぎみに立ち上がり、60は頸部で締まり外反している。58は口縁が波状口縁をなす深鉢である。口縁の断面形は頸部で締まり外反している。口頸部は無文で体部には網目状の撚糸文が施文されている。

2 土器群のまとめ

第Ⅰ群

本群は縄文中期に属するもので大木8b・9・10式のものが見られたが、出土数は少なく、わずかに大木10式に良好な資料が若干見られるのみである。第1類は大木8b式に相当するもので、沈線や隆沈線によって、渦巻文を主体とする文様を施文している。第2類は大木9式に相当するものである。類として分類してはいるが、出土点数は極めて少ない。沈線・隆沈線によって縦長の区画文を意匠するが、細片のためモチーフは不明である。第3類は大木10式の土器である。施文方法によってA～D類に細分しているが、出土点数は少なく、細片のためモチーフが不明のものが多い。Aは沈線によるアルファベット文を有するもので、刺突文・盲孔を有するものも見られる。Bは隆線によって曲線文が描かれ地文は文様の外部に充填されている。Cは沈線と隆線によって文様が描かれ、方形の区画文を有するものも見られる。Dは刺突文列と沈線によって横位に展開する曲線文を有している。

第Ⅱ群

本群は縄文時代後期前葉に属すると思われるものであるが、縄文時代中期末の資料を含んでいる可能性もある。非常に多量に出土しており、出土土器の主体を成すものである。文様は、沈線・隆線・刻み・刺突・連鎖状浮線文・ボタン状貼付文等の組み合わせによってバラエティーに富み、細

分は困難を極めたが、沈線・隆線によって大別し、さらに刻み・刺突・連鎖状浮線文・ボタン状貼付文や文様・口縁部文様帯の有無等によって細分を試みている。

第1類は刺突文列によって縁取られた口縁部無文帯を有するものである。わずか1点の出土であるが、他に類例がなく類として把握した。

第2類は隆線によって文様を意匠する一群である。A～Eに細分している。Aは隆線に沿って刺突文列が施文されるもので、波状口縁や口縁に突起を有するものが見られ、隆線は波状部あるいは突起から斜めに下がり、頸部で横位に展開し、口縁部無文体と体部とを区画している。Bは隆線上に刺突を有するものである。b1は体部に文様帯を持たないものである。頸部には刺突を有する横位隆線が巡り、体部地文部とを区画している。b2は体部文様帯を持つものである。体部文様帯は13以外は、体部上半にあり、下半には地文が施文されている。刺突を有する隆線は頸部に横位に巡るものと、口縁部の小突起より縦位に垂下するものがあり、縦位に隆線が垂下するものは、隆線によって方形区画文を描き、文様は第I群第4類に類似しているが、本類は方形区画文内に沈線による曲線文が描かれている。ボタン状貼付文を有するのも本類の特徴である。器形は、体部中央が若干膨れ、口縁部が大きく開くものが多い。Cは刻みを有する隆線によって文様を意匠するものである。c1は体部文様帯を持たないものである。刻みは二個単位のもの、隆線の全面に施されるものがある。c2は体部文様帯を有するものである。口縁は二重口縁をなし、16では文様が体部下半まで垂下している。Dは隆線に刺突文・刻みを持たず、隆線・ボタン状貼付文によって文様を意匠するものである。口縁は平縁・波状口縁・二重口縁のものが見られる。文様は、二重口縁をなすものは、横位に展開するS字文を有しており、17ではJ字状の文様から区画文が体部下半まで垂下している。Eは、ボタン状貼付文・連鎖状浮線文を有する一群で、所謂狭義の門前式土器に相当するものである。出土点数は多い。口縁には中空突起を有するものが多く見られ、口縁の断面形は内反するものが多い。文様は、横位に展開したS字文の一部が体部下半まで垂下しているものと、20のように横位に展開するS字文に体部下半まで垂下する隆線が連結するもの、体部上半のみにJ字状の文様が描かれるものがある。J字状の文様は第3類において多用される文様である。

第3類は、沈線によって文様を意匠する一群で、2類とともに出土土器の主体を成すものである。文様は、J字状、倒卵形状、鉤状、数条の平行沈線による直線状・弧状・渦巻き状の文様等が多く見られ、ボタン状貼付文・中空突起は少なく、簡略されたものとなっている。A～Hに細分している。Aは、口縁部文様帯のみを有し、体部には地文が施文されるものである。口縁の断面形は外反するものが多い、文様は、縦位の蛇行文、横位の鉤状文・波頭文等が見られる。Bは、ボタン状の貼付文を有するものであるが、出土数は少ない。文様は、J字状・S字状の文様が見られるが、破片が小さく、モチーフ不明のものが多い。中空突起を有するものもある。Cは沈線による直線状・釣針状・鉤状の区画文内に刺突文列を有するものである。文様は体部上半に施文されるものが多い。Dは倒卵形の文様を持つものである。出土数は非常に多い。貝島貝塚第II群第2類、八天遺跡第III群第3類に相当するものである。器形は、体部上半で最大幅を測り、口縁の断面は内湾のものが多い。文様は、口縁部に幅の狭い無文体を有し、体部に垂下する倒卵形の文様の起点には、盲孔・貫通孔・円文等が加飾されている。Eは、沈線と磨消縄文による区画文内に、縦位の連続S字文・蛇行文を有するものであるが、出土数は少ない。口縁部の断面形は、外反・外傾で、口縁に山形突起を有するものが多い。Fは、A～E以外のもので沈線・磨消縄文によって釣針状・渦巻き状等の曲線文を意匠するものである。出土数は多い。器形は、深鉢の他に、鉢・壺がみられる。口縁部の断面形は、内湾するものは少なく、外反・外傾のものが多い。37・38・40は第II群第2類

b2の簡略化した文様となっている。Gは、平行する数条の沈線によって直線文・弧状文・渦巻き文を描くものである。関東の堀之内I式に近似し、貝島第II群第3類、立石遺跡第III群第4類の一部、八天遺跡第III群第6類に相当するものである。口縁の断面形は、内湾するものと、頸部で締まり外反するものがある。口縁部文様帯を有するものも見られ、体部に垂下する沈線は弧状の文様より垂下している。Hは、数条の平行沈線と磨消縄文による幅の狭い帯状文によって、長方形・楕円形状・弧状等の区画文を有するものである。出土数は多いが破片が多い。器形は、深鉢のほかに鉢・壺が見られる。

第4類は、隆線と沈線によって文様を意匠するものである。Aは縦位あるいは横位の隆線を有するものである。隆線によって区画された口縁部文様帯を持つものが多く見られ、体部には平行する沈線によって曲線文が描かれている。Bは幅の狭い隆線と沈線によって、渦巻き状の文様や、弧状・楕円形等の区画文を描くもので、十腰内I式に相当すると思われるが、出土数は少なく、細片のものが多く、モチーフ等不明である。

第5類は、刺突文を多用するものである。三十稲場式土器に類似するが出土数が少なく、詳細は不明である。

第III群

縄文時代後期中葉のものである。口縁部の突起がわずかに1点出土したのみである。

第IV群

特殊な器形の土器とミニチュア土器を一括した。51は器台である。内面は熱による変色及び剥落が見られ、外面の平坦面に煤が付着していることから、調理に使用されたものと思われる。ミニチュア土器は、台付きのものも見られ、文様は地文のみのもの、沈線によるもの、刺突が施されるものがある。

第V群

粗製土器である。多量に出土しているが、大部分の資料を割愛している。口縁部に無文帯を有するものも見られ、地文は、網目状撚糸文・撚糸文・斜縄文・櫛曳き文等がある。

3 土製品 (第43図221~227、写真図版14-221~234)

出土した土製品は、管状土錘・耳飾り・土偶・器種不明のもの・土製円盤である。

(1) 管状土錘 (第43図222、写真図版14-222)

222は縦断面が楕円形・横断面が円形の土錘である。大きさは、長さ34mm・幅18.4mm・厚さ18.2mmである。径3mm程の貫通孔を有している。

(2) 耳飾り (第43図221・225、写真図版14-221・225)

耳飾りは2点出土した。221は中央に貫通孔を有するものである。片面は欠損する。孔を中心に、刺突文が放射状にひろがっている。225は渦巻き状の文様を有するものである。半分は欠損する。渦巻き状の文様は、両面に施されている。

(3) 土偶 (第43図224・226・227、写真図版14-224・226・227~229・231)

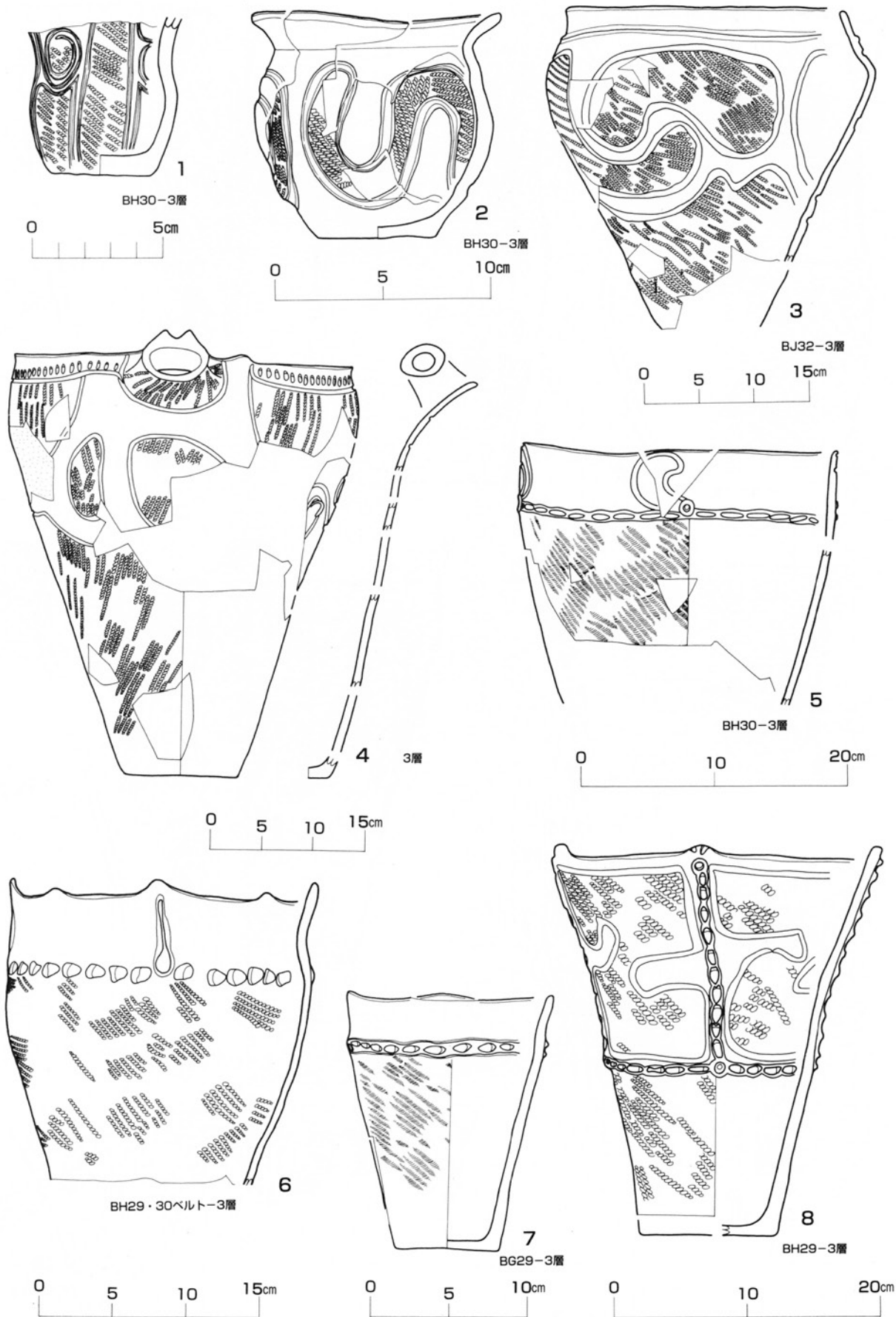
土偶は5点が出土した。224・226は腹部資料である。腹部及び背面に刺突文が施されている。227は、胸部・腹部・腕が残存するものである。文様は腹部に縦位の沈線が施文されるのみである。図版14-228・229は腕の破片である。

(4) 器種不明のもの (第43図223、写真図版14-223・230・231・233・234)

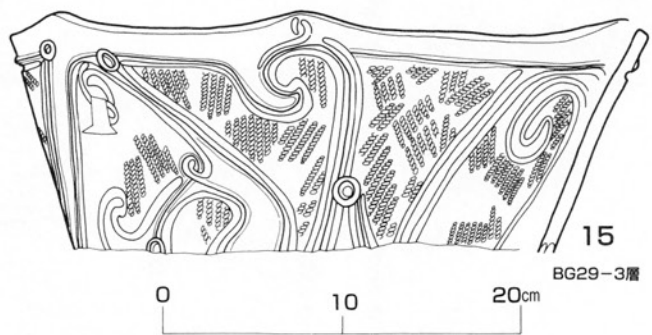
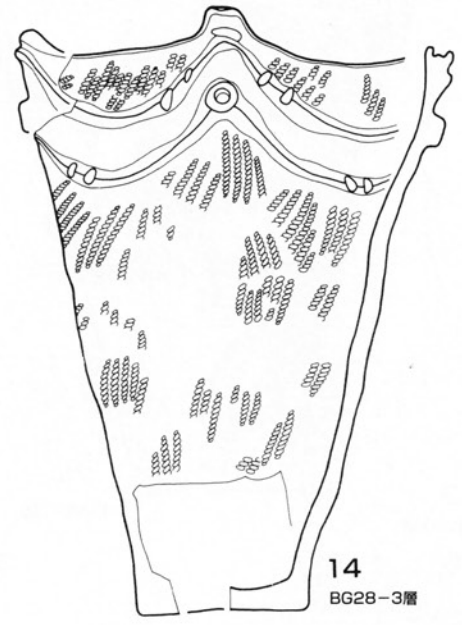
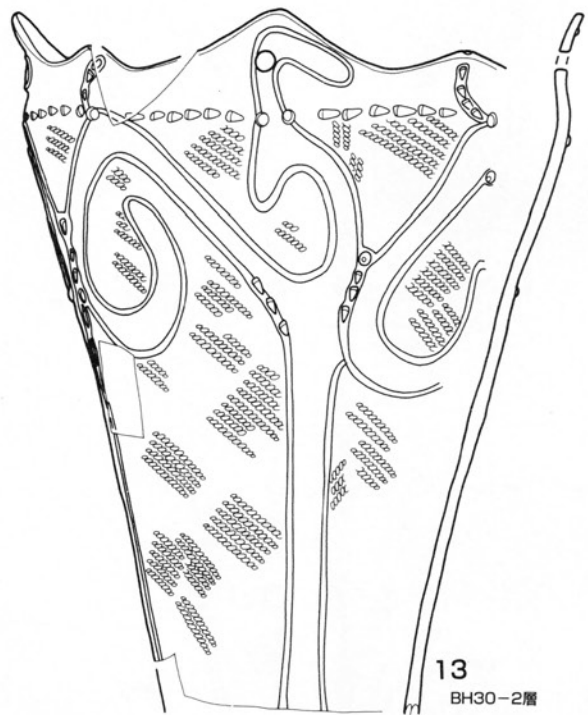
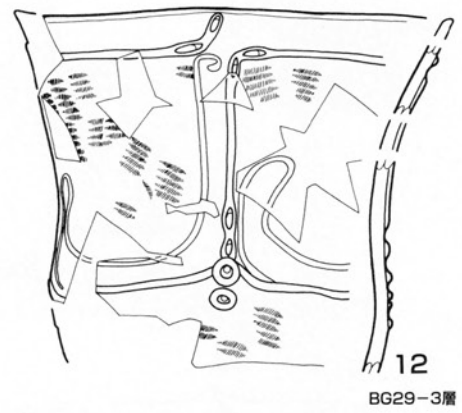
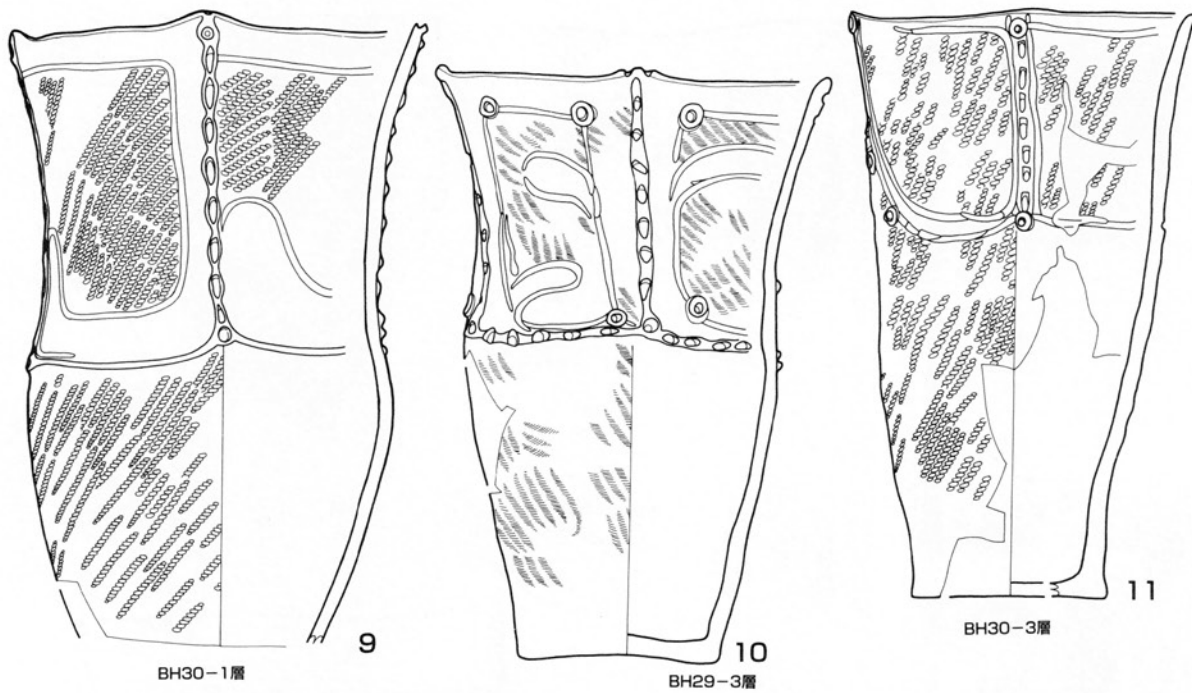
223は、形状が三角形をなし、沈線と2個の貫通孔・2個の盲孔によって人面状の装飾が施されるものである。側縁は研磨され仕上げは丁寧である。230は、正方形の土器片に3個の貫通孔・1個の盲孔を有するものである。側縁は一部研磨せれているが、打ち欠き痕を残している。231はきこの型土製品の可能性を有するものである。茎の部分は欠損する。233は楕円形状のものであるが、全体的に磨滅が著しい。234は釣り鐘状のものである。頂部には貫通孔を有している。

第2表 ピット出土石器一覧表

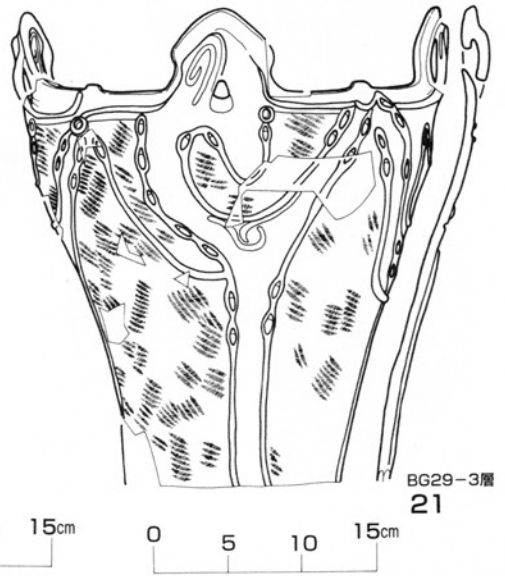
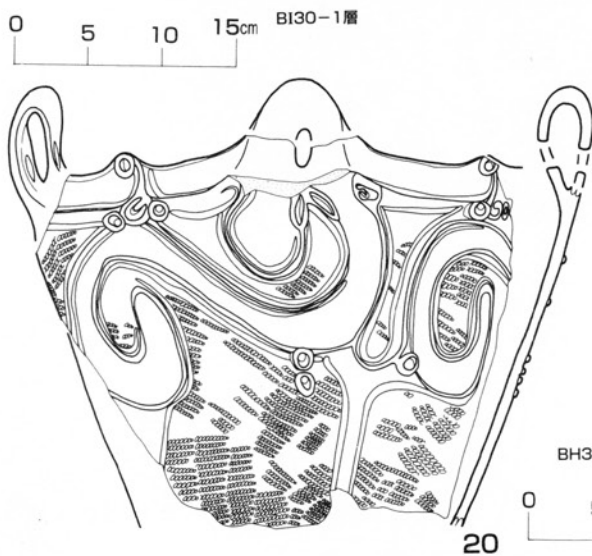
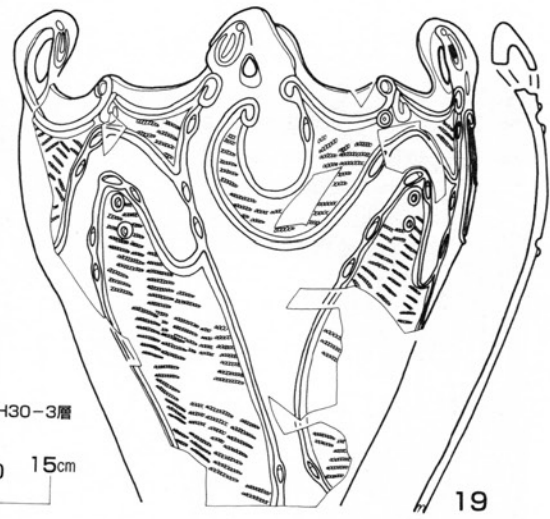
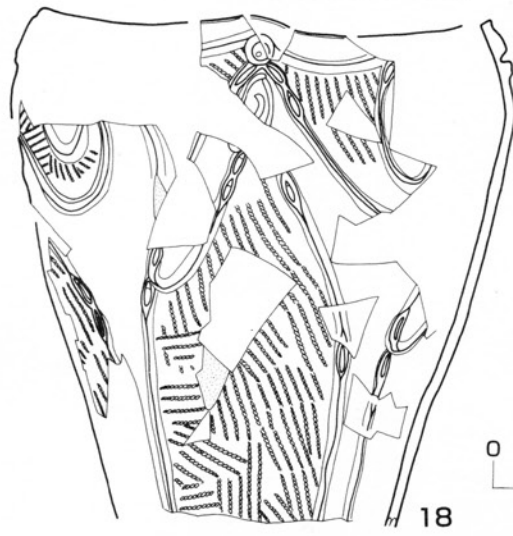
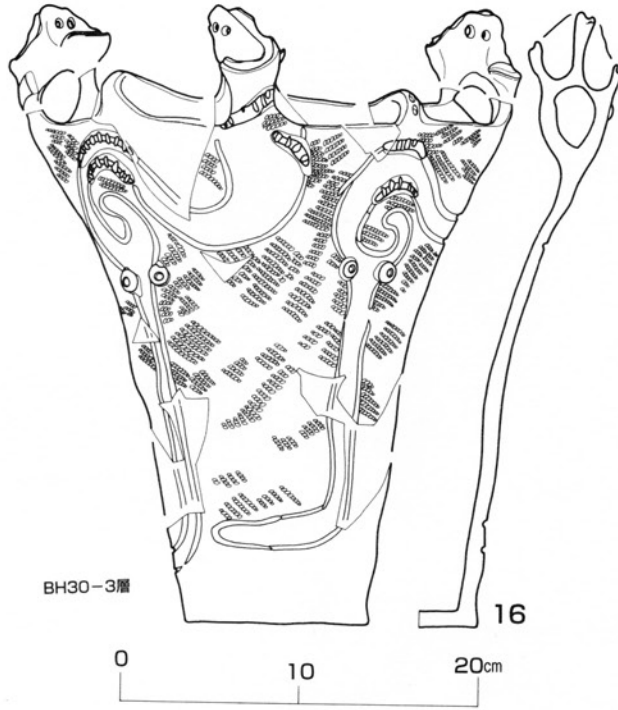
図 版	ピットNo	器 種	分 類	石 材	長 さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
第7図-8、写真図版5	CA37-1ピット	装身具		凝灰質細粒砂岩	47.9	24.0	24.3	31.30	9652
第7図-9、写真図版5	CA37-1ピット	磨石		中粒砂岩	112.7	56.5	22.0	265.00	10412
第10図-2、写真図版5	CE41-3ピット	石鏃	II-3	チャート	23.8	17.5	7.0	2.50	9794
第10図-3、写真図版5	CF41-3ピット	石鏃	II-2-B	チャート	18.8	15.1	2.0	0.30	9878
第10図-4、写真図版5	CF41-3ピット	尖頭器	II-B-a	チャート	32.0	24.0	9.0	6.10	9890
第10図-5、写真図版5	CF41-3ピット	不定形石器	IV	チャート	29.8	25.3	13.0	9.30	9887
第10図-6、写真図版5	CF41-3ピット	不定形石器	I-A-a	珪質頁岩	30.6	41.7	12.0	12.80	9881
第10図-7、写真図版5	CF41-4ピット	凹石		中粒砂岩	133.6	109.4	31.0	396.00	9644
第14図-3、写真図版5	DC42-1ピット	尖頭器	II-B-a	チャート	25.2	17.6	9.0	4.00	9883
第14図-4、写真図版5	DB42-1ピット	不定形石器	III	チャート	42.2	41.4	13.0	22.60	9882
第14図-5、写真図版5	DA42-1ピット	磨製石斧	B	安山岩	109.8	53.6	27.4	253.00	10013
第17図-4、写真図版5	DG42-1ピット	石鏃	II-1-B	珪質頁岩	28.8	21.8	4.0	2.10	9888
第17図-5、写真図版5	DG42-1ピット	石鏃	II-3	チャート	26.0	19.0	6.0	2.70	9893
第17図-6、写真図版5	DG42-1ピット	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	41.9	18.2	6.0	3.00	9889
第17図-7、写真図版5	DG42-1ピット	不定形石器	I-A-b	チャート	32.4	23.6	10.0	5.00	9865
第19図-1、写真図版5	DJ39-2ピット	不定形石器	I-A-b	細粒砂岩	36.4	28.6	9.0	14.50	9892
第21図-2、写真図版5	EB39-11ピット	不定形石器	IV	珪質頁岩	61.0	53.2	17.0	47.00	9879
第21図-3、写真図版5	EB39-11ピット	石鏃	II-2-A	チャート	16.2	16.5	6.0	1.10	10410
第22図-1、写真図版5	EC39-2ピット	石皿		細粒砂岩	80.0	64.0	41.2	211.00	10009
第23図-6、写真図版5	ED39-3ピット	不定形石器		チャート	22.2	14.7	7.0	2.30	9884
第24図-2、写真図版5	ED39-8ピット	不定形石器	I-A-b	チャート	21.8	10.8	6.0	1.20	9880



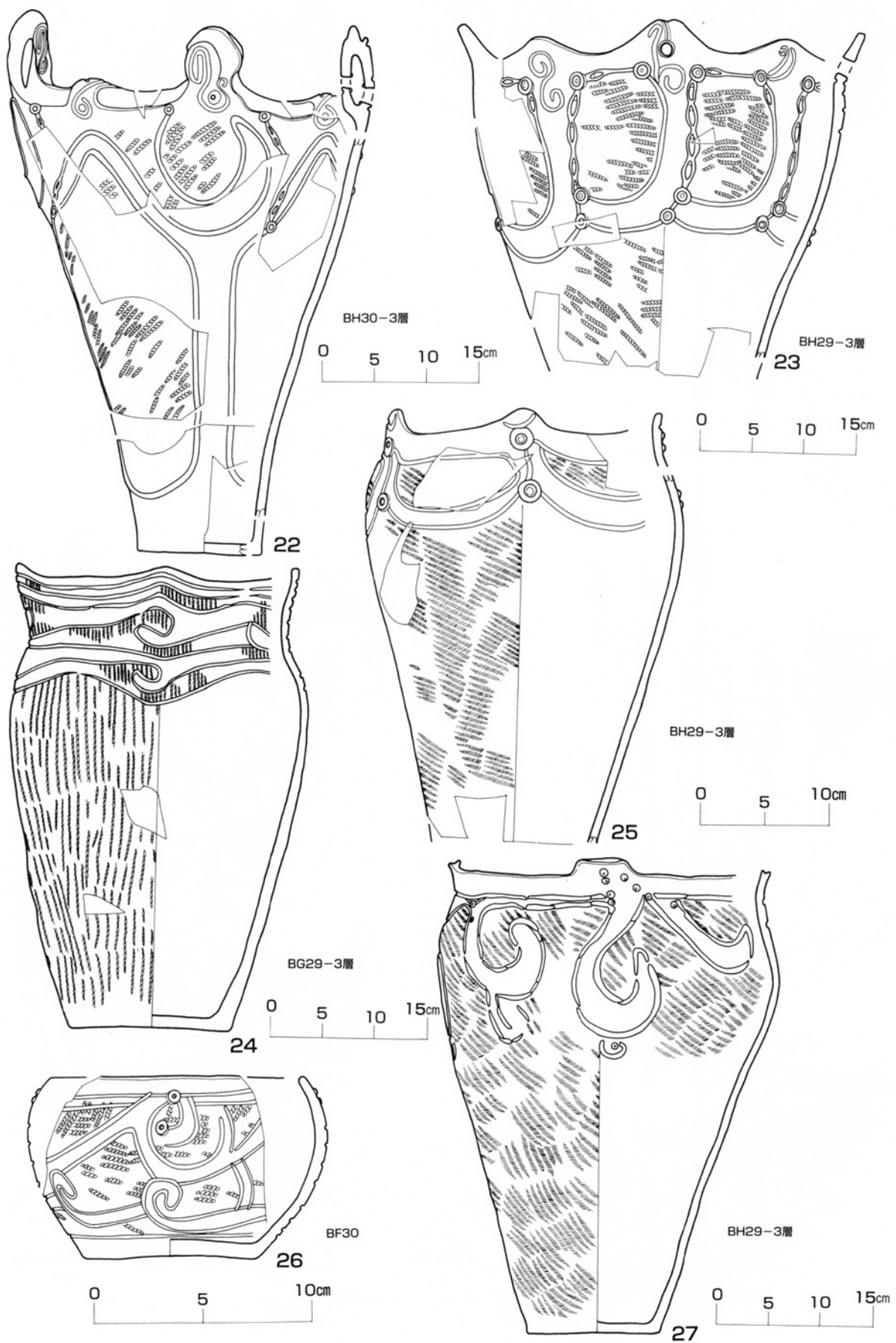
第25図 遺構外出土土器



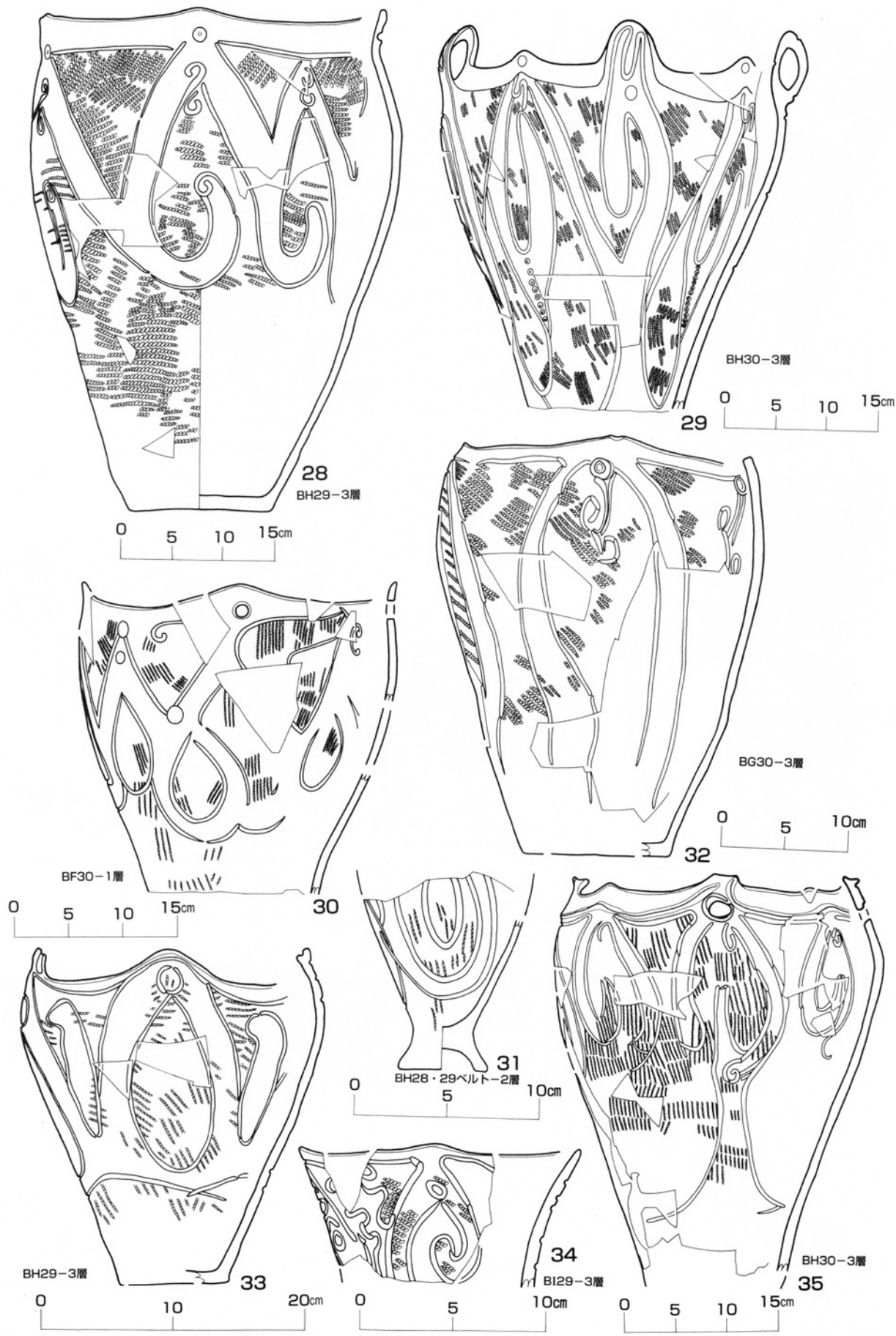
第26圖 遺構外出土土器



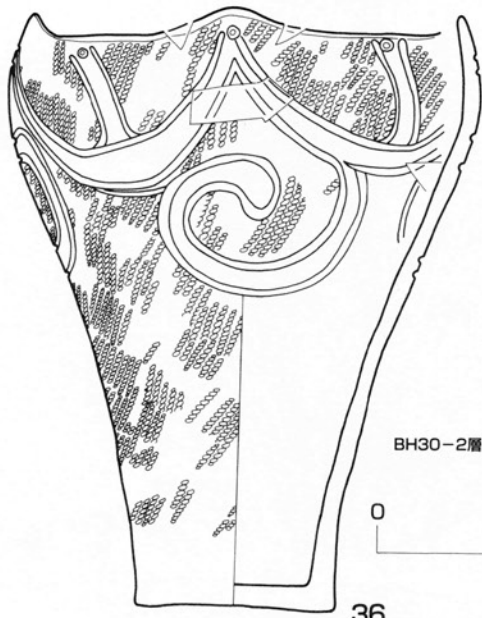
第27圖 遺構外出土土器



第28図 遺構外出土土器

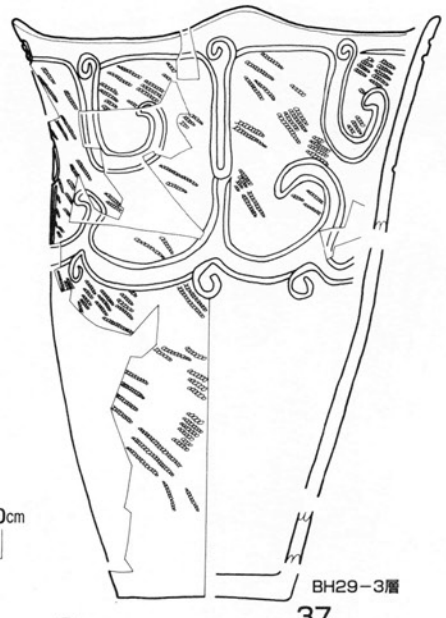


第29図 遺構外出土土器



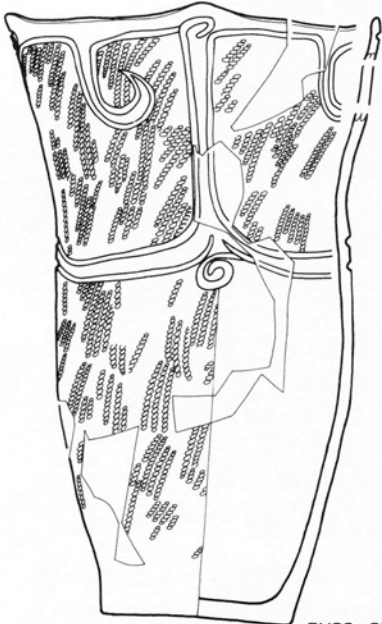
BH30-2層

36



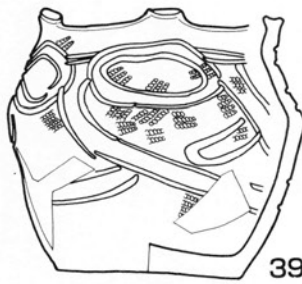
BH29-3層

37



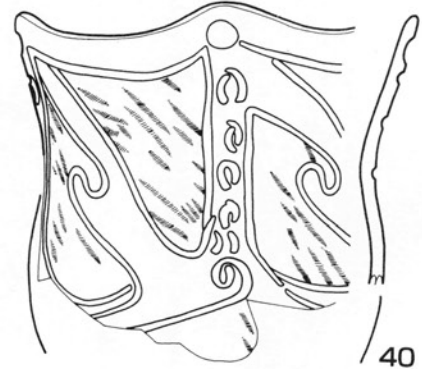
BH29-3層

38



BH28・29ベルト-2層

39



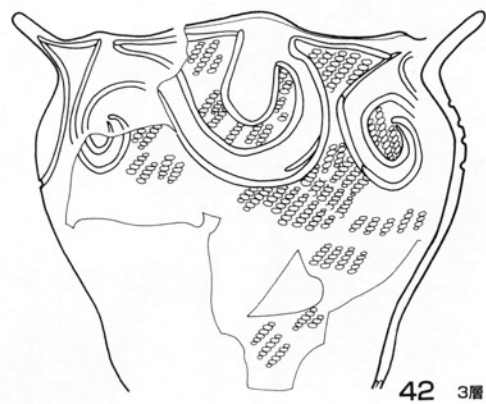
BH29-3層

40



BG29-3層

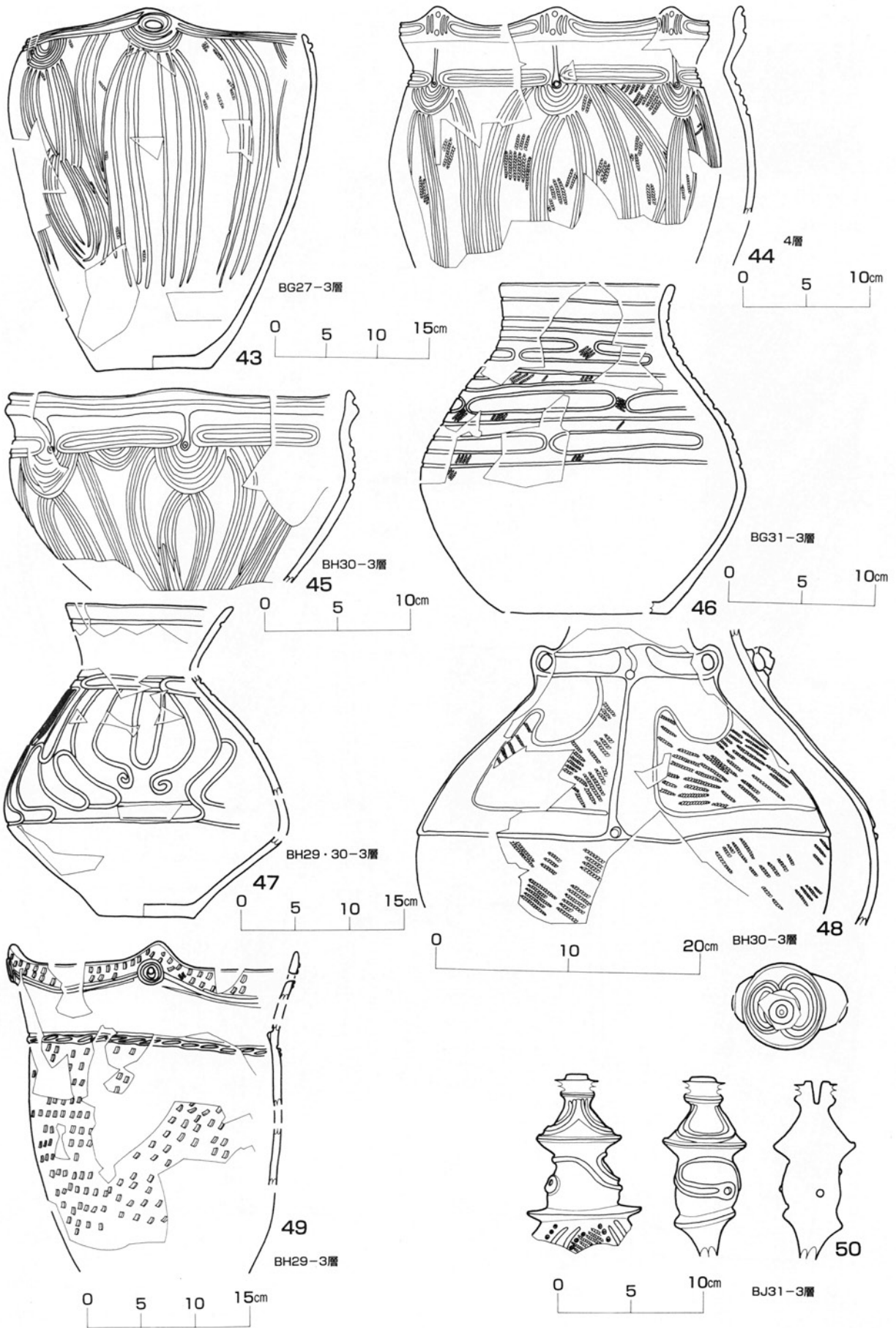
41



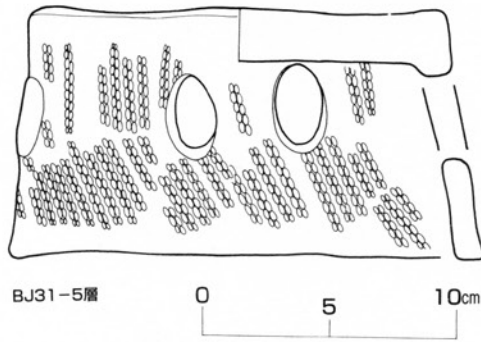
3層

42

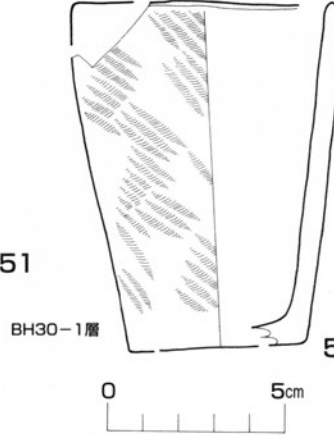
第30図 遺構外出土土器



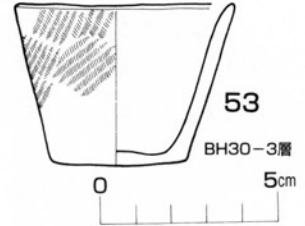
第31圖 遺構外出土土器



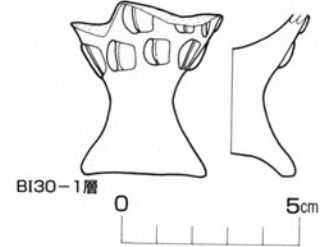
51



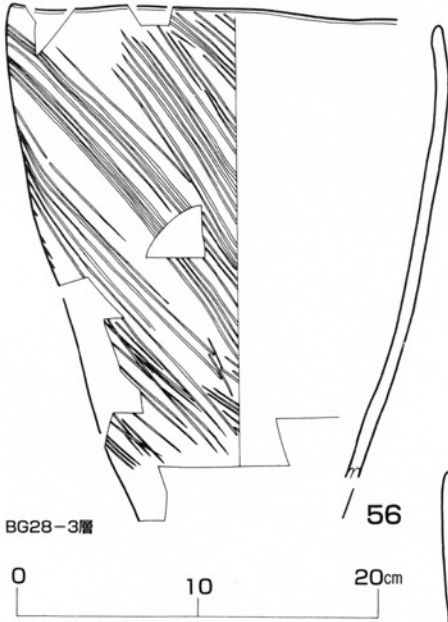
52



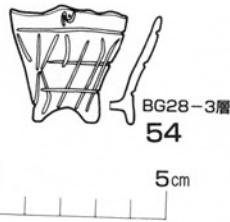
53



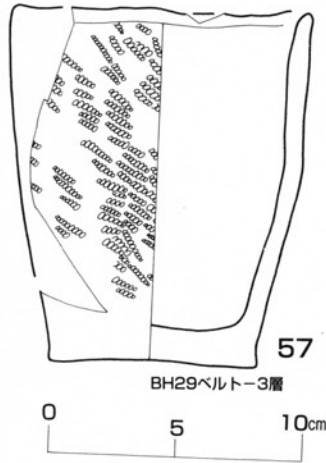
55



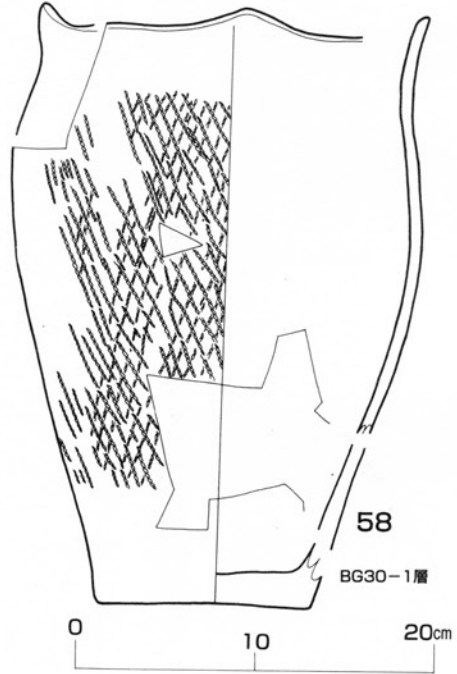
56



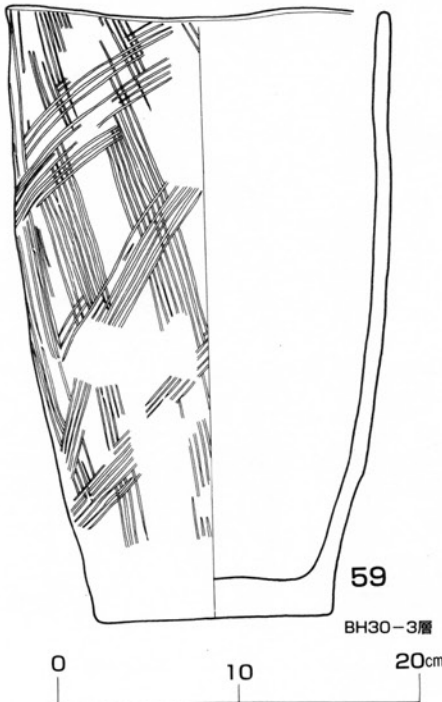
54



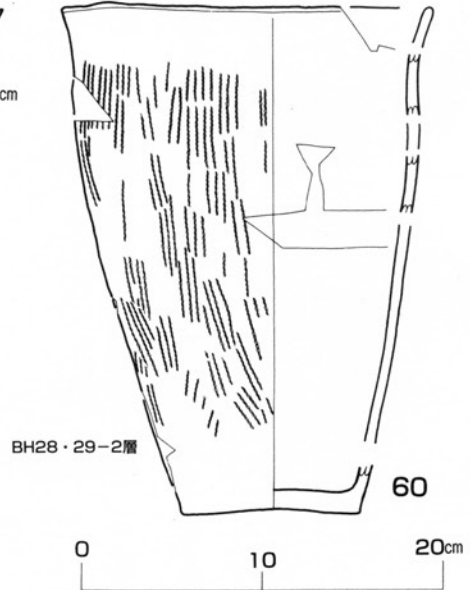
57



58

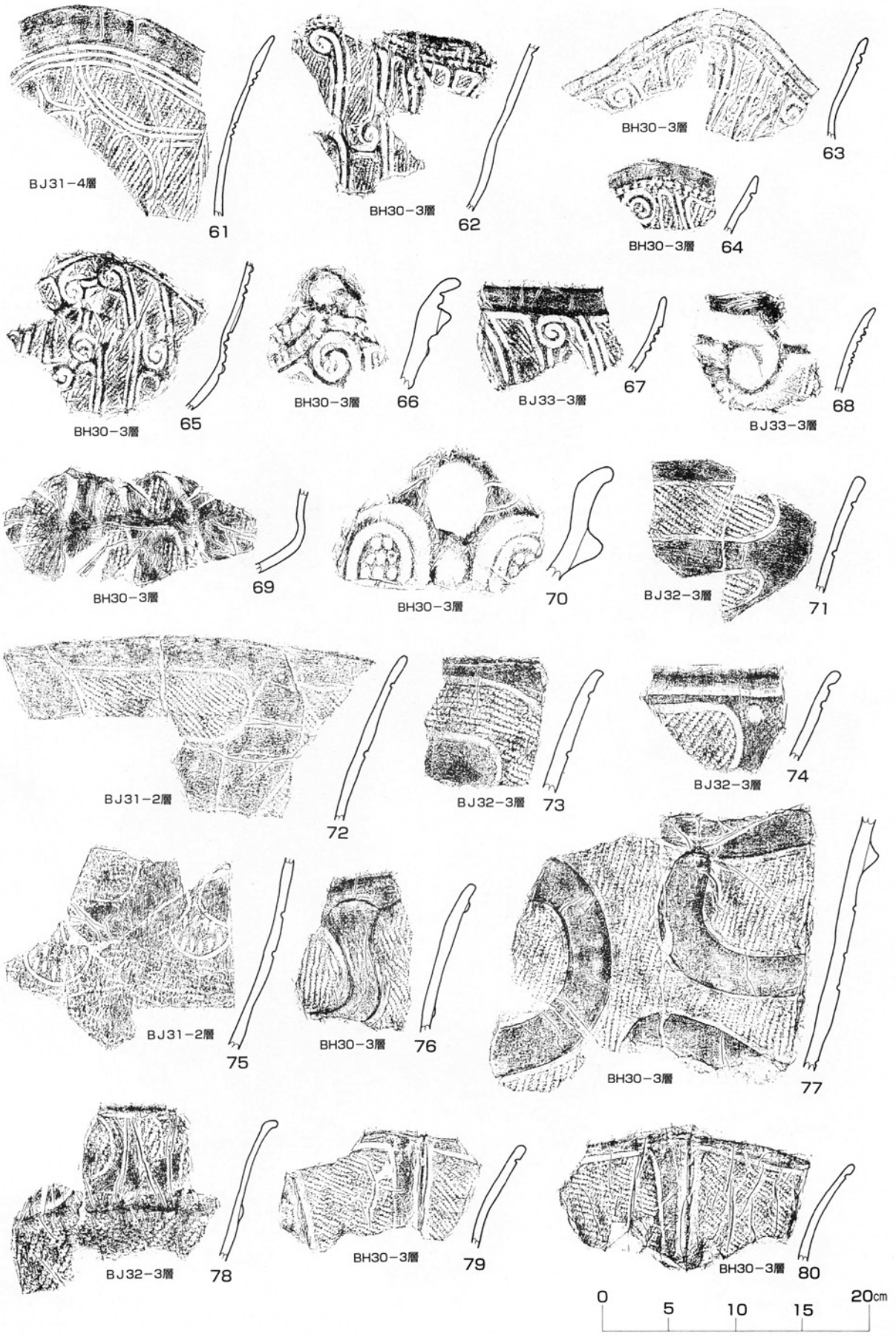


59

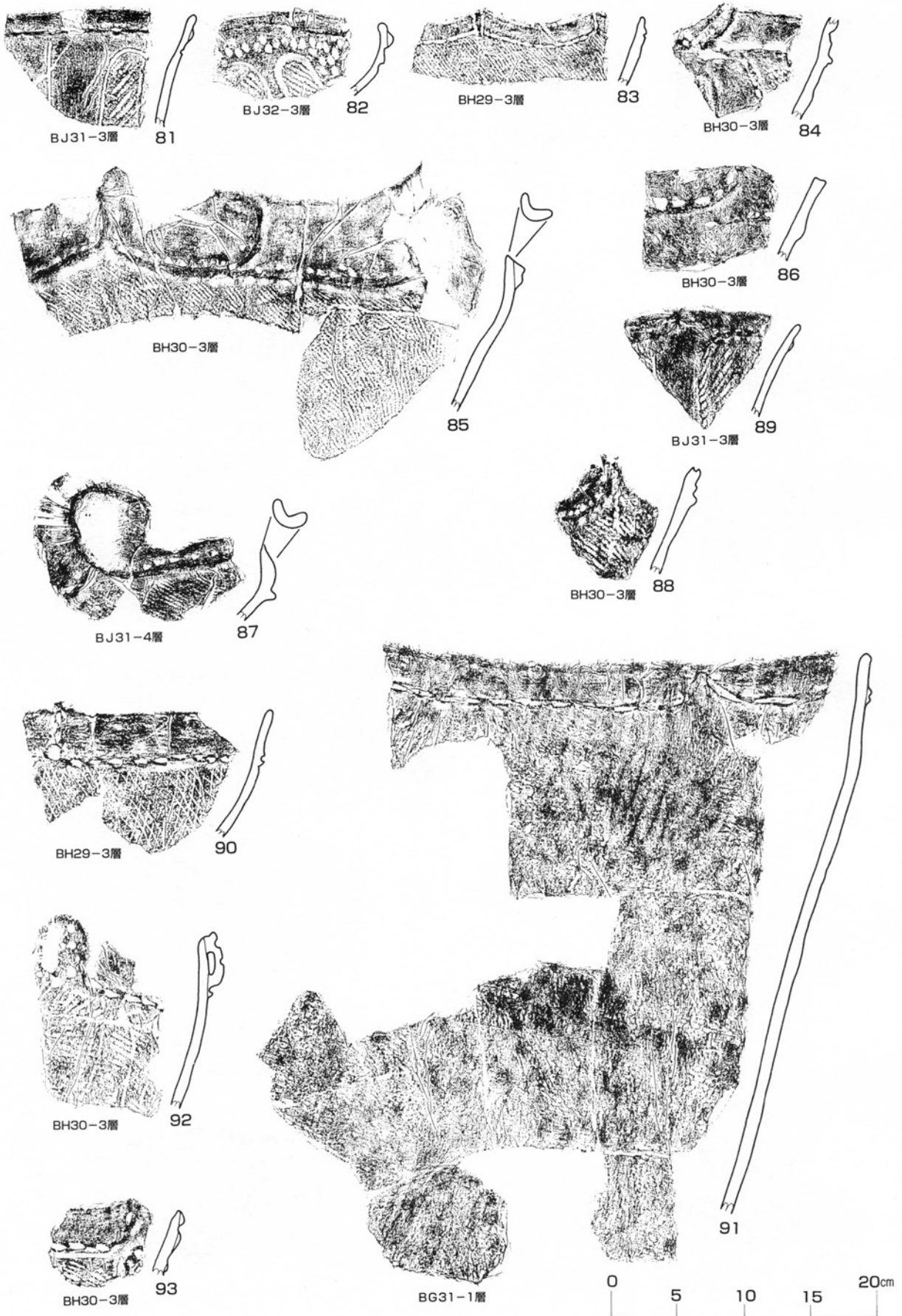


60

第32図 遺構外出土土器



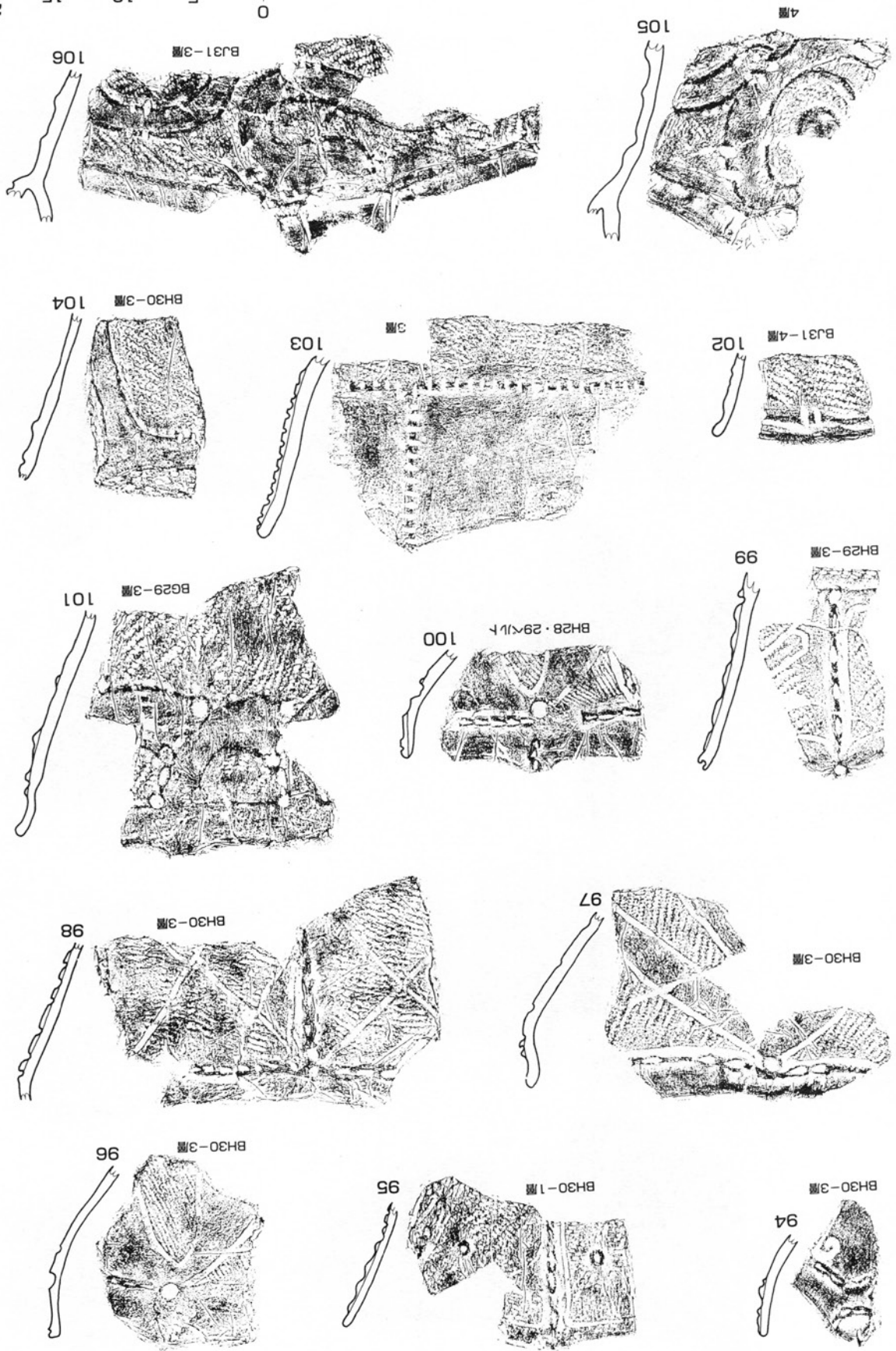
第33圖 遺構外出土土器

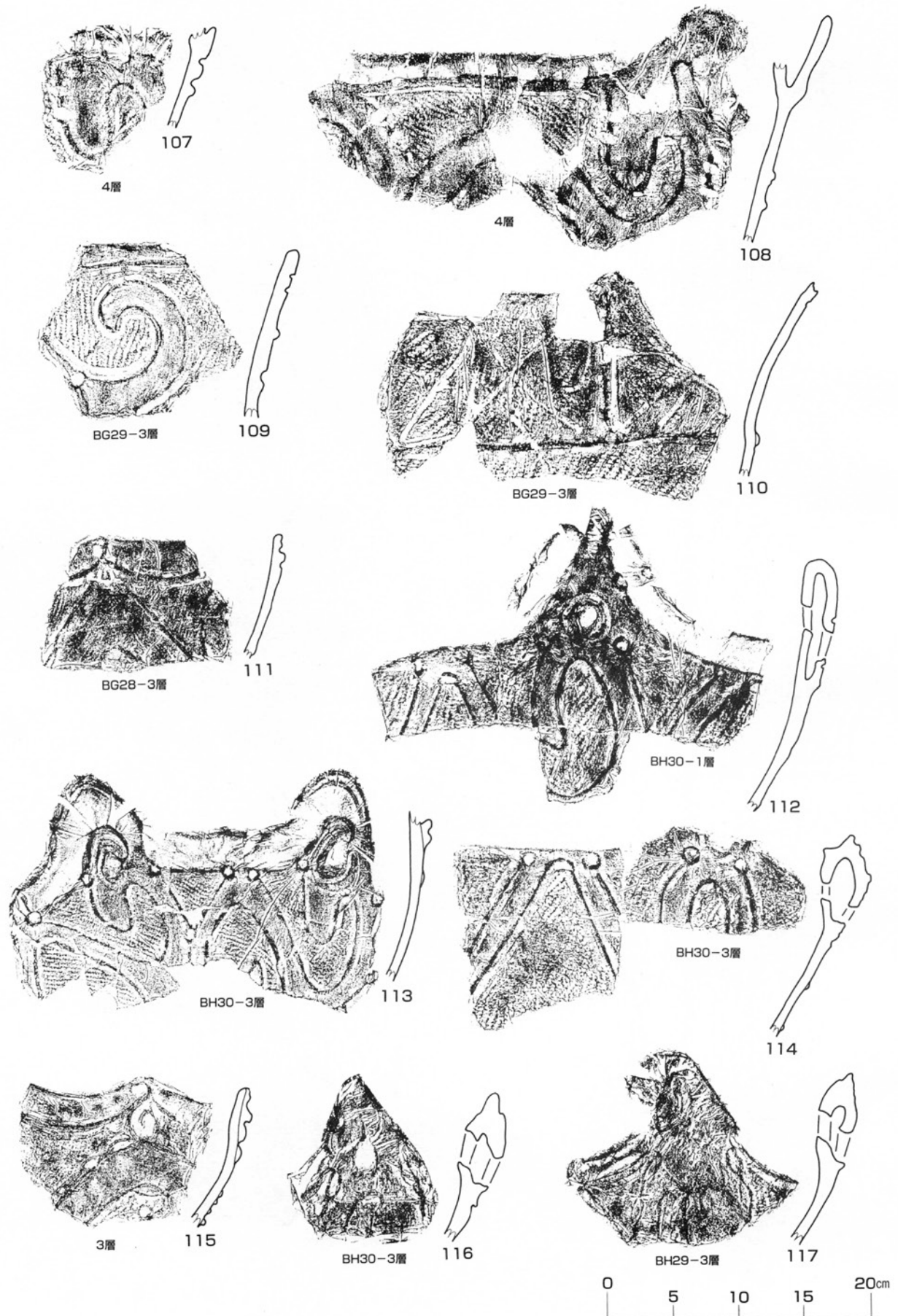


第34圖 遺構出土土器

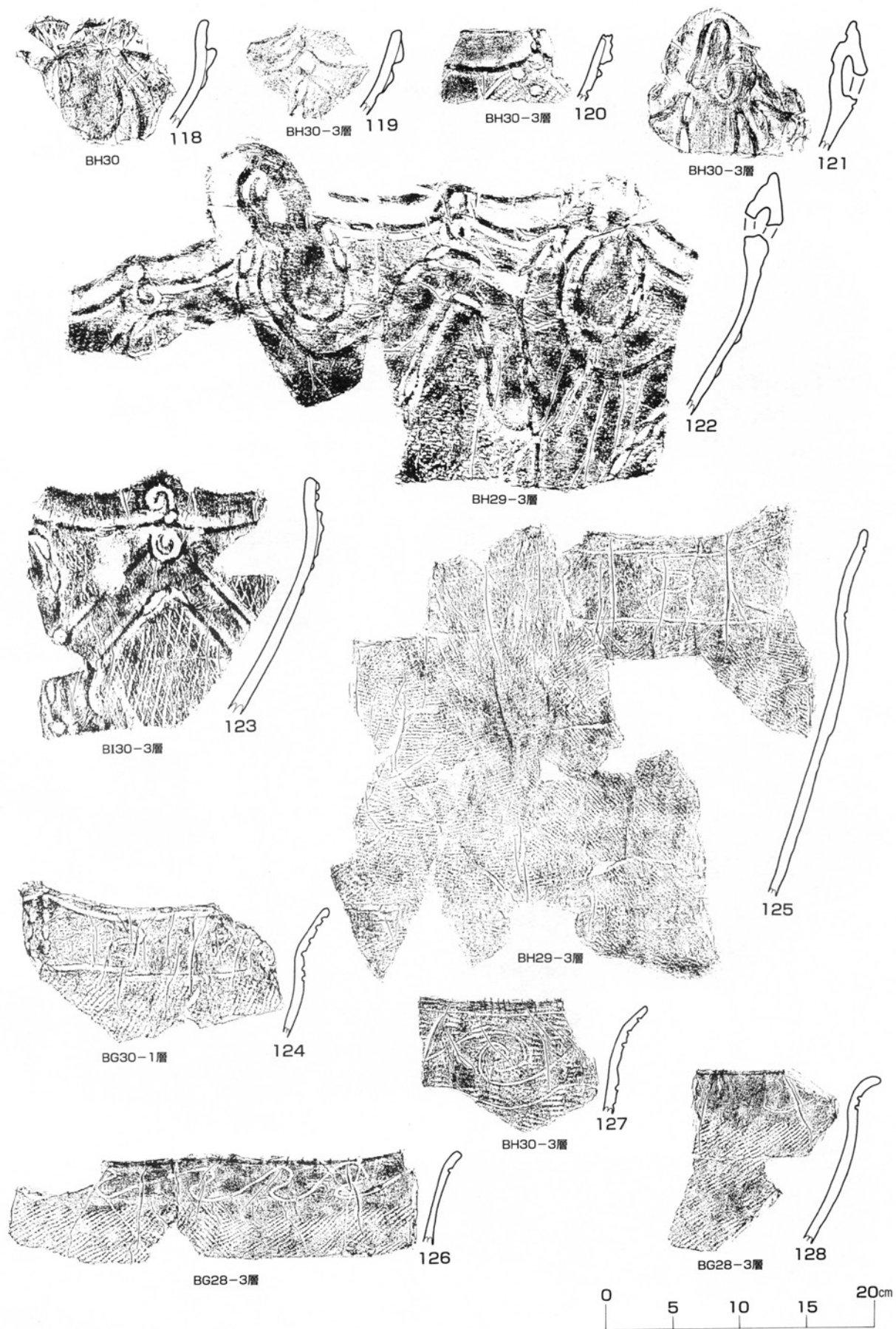
第35圖 遺構外出土器

0 5 10 15 20cm

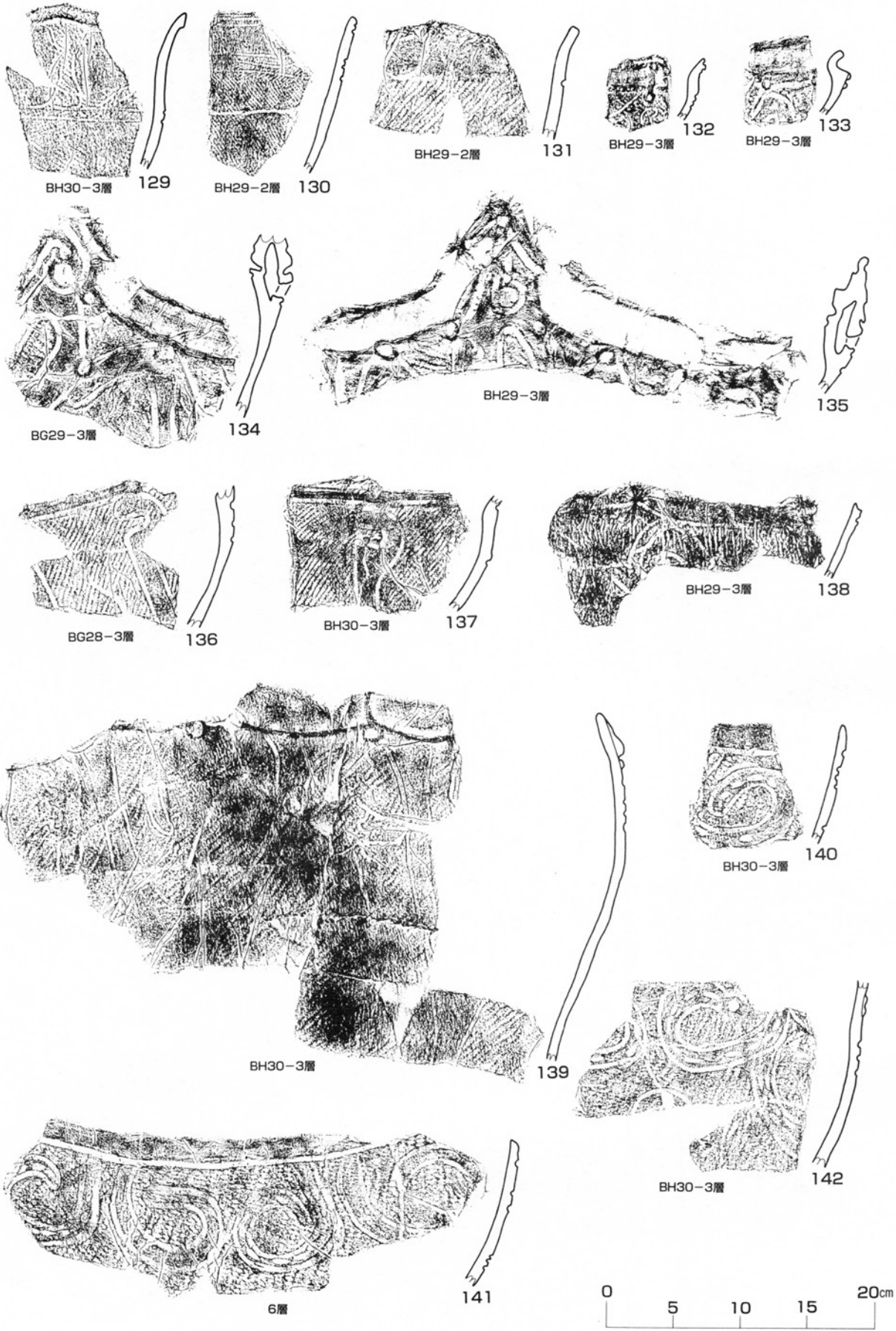




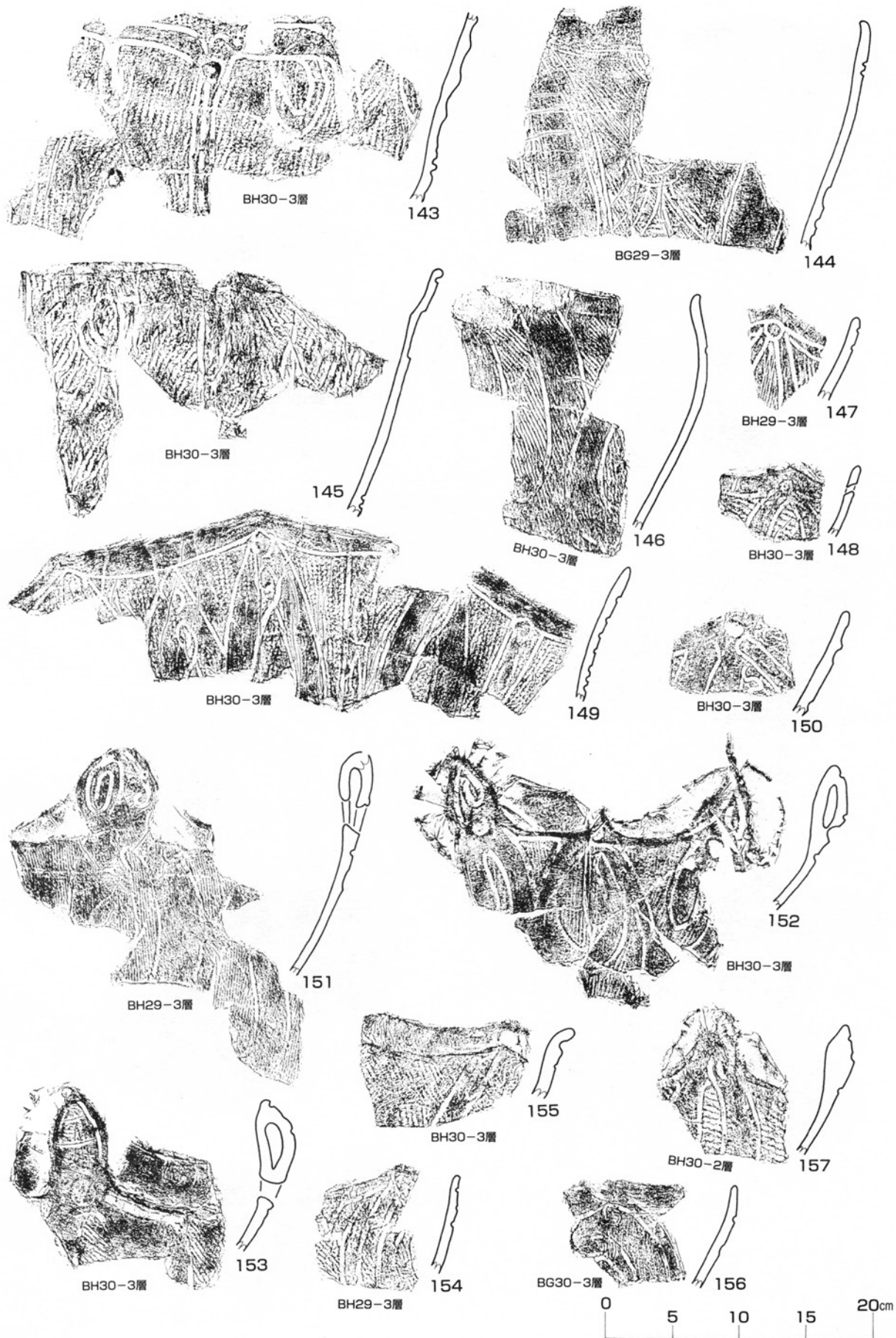
第36圖 遺構外出土土器



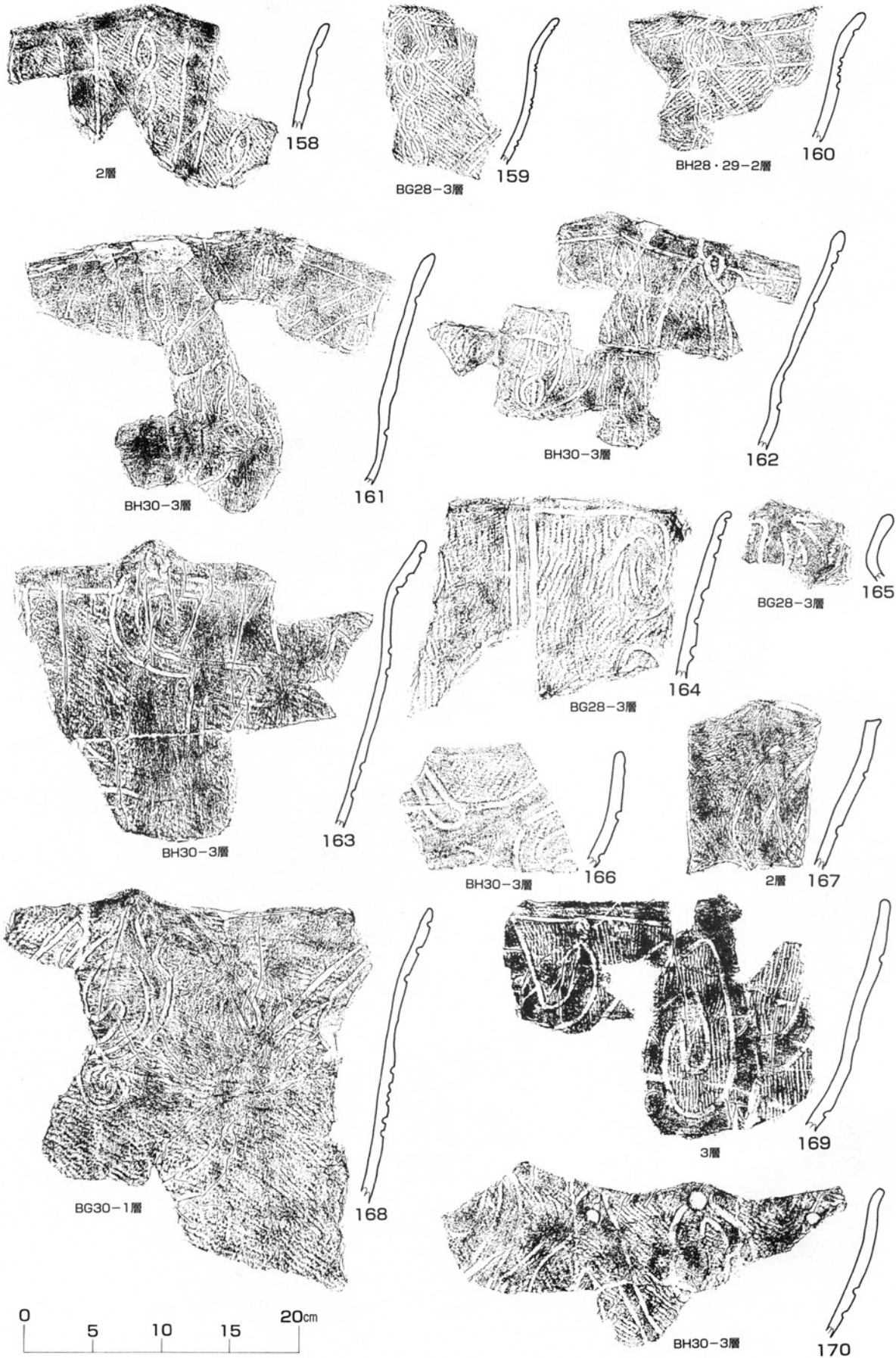
第37圖 遺構外出土土器



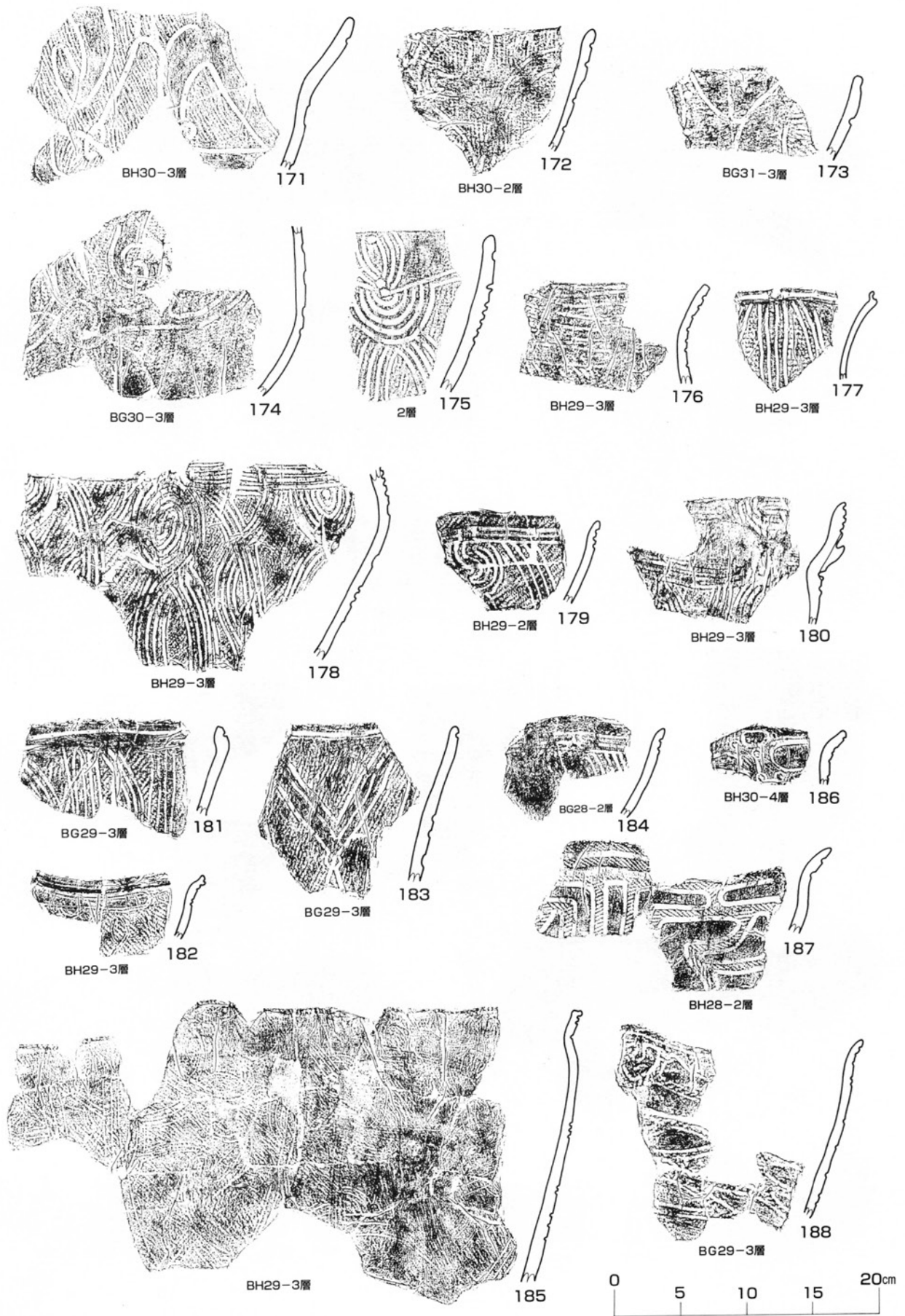
第38圖 遺構外出土土器



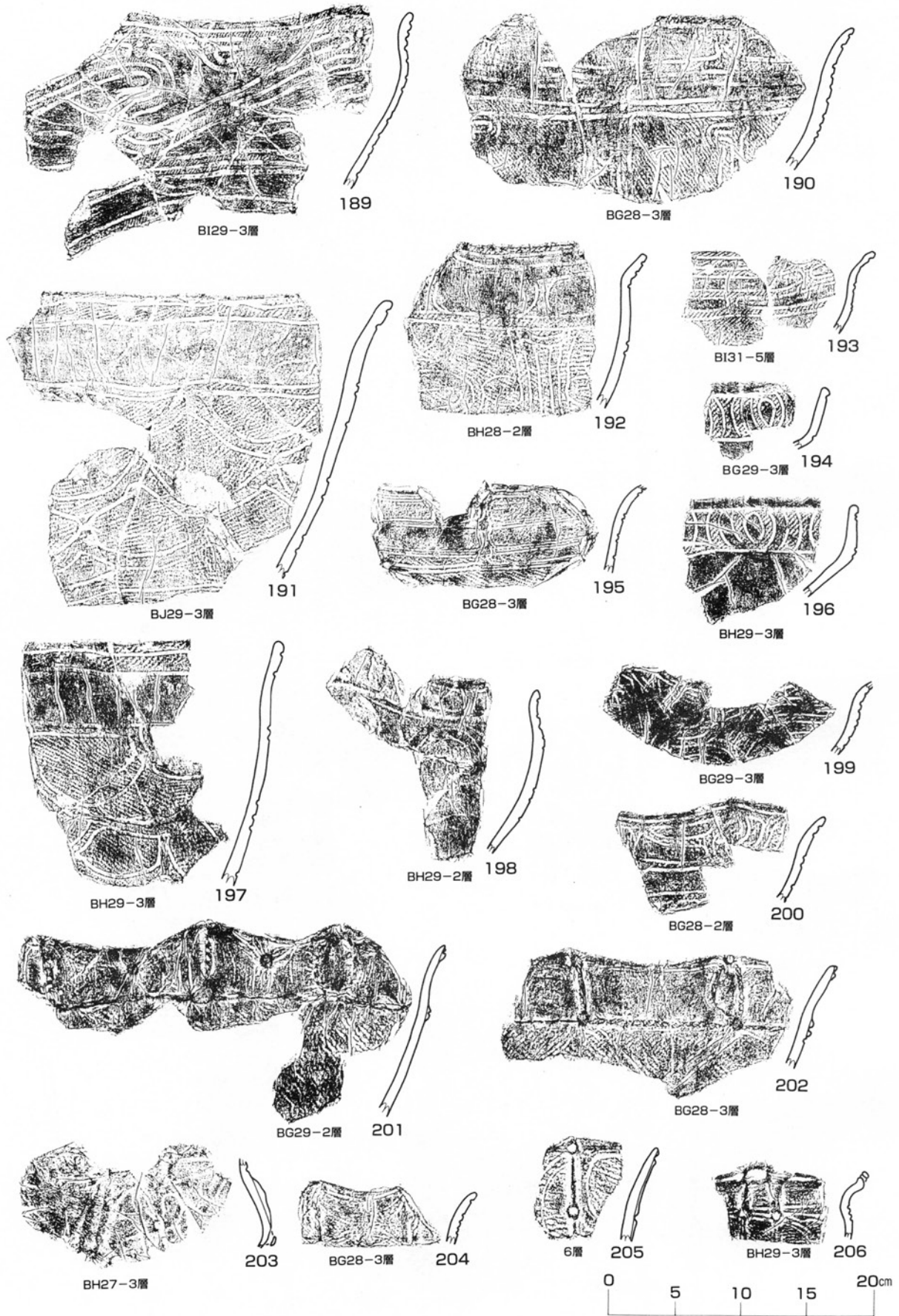
第39圖 遺構外出土土器



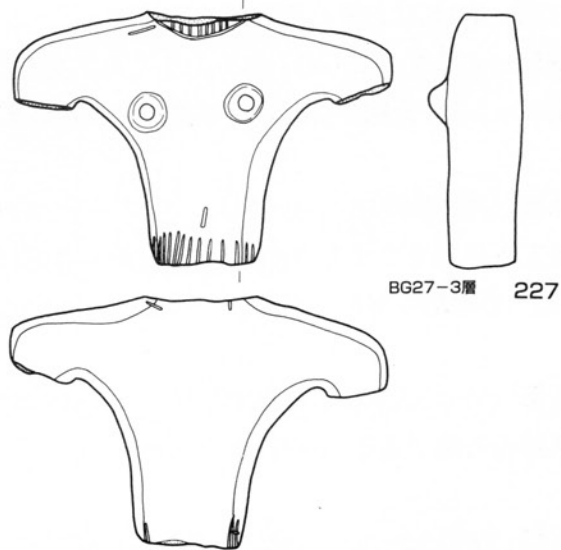
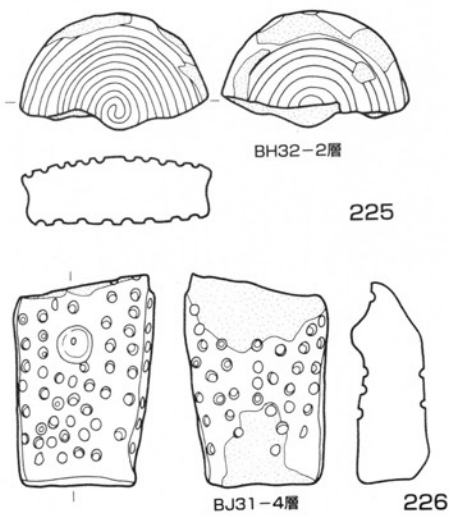
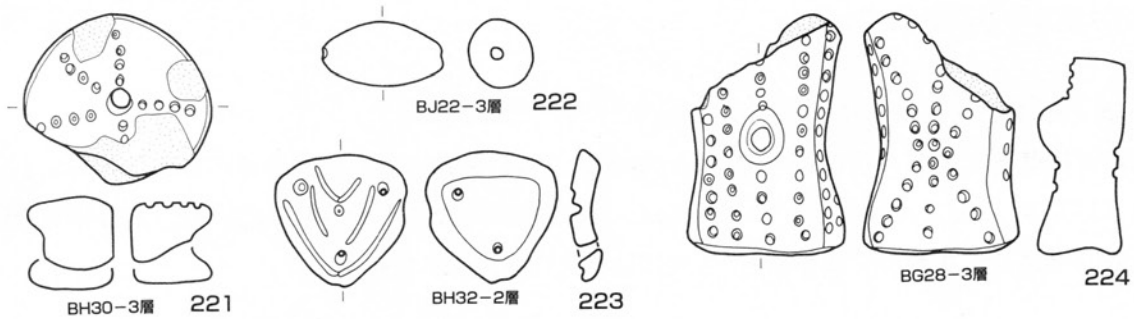
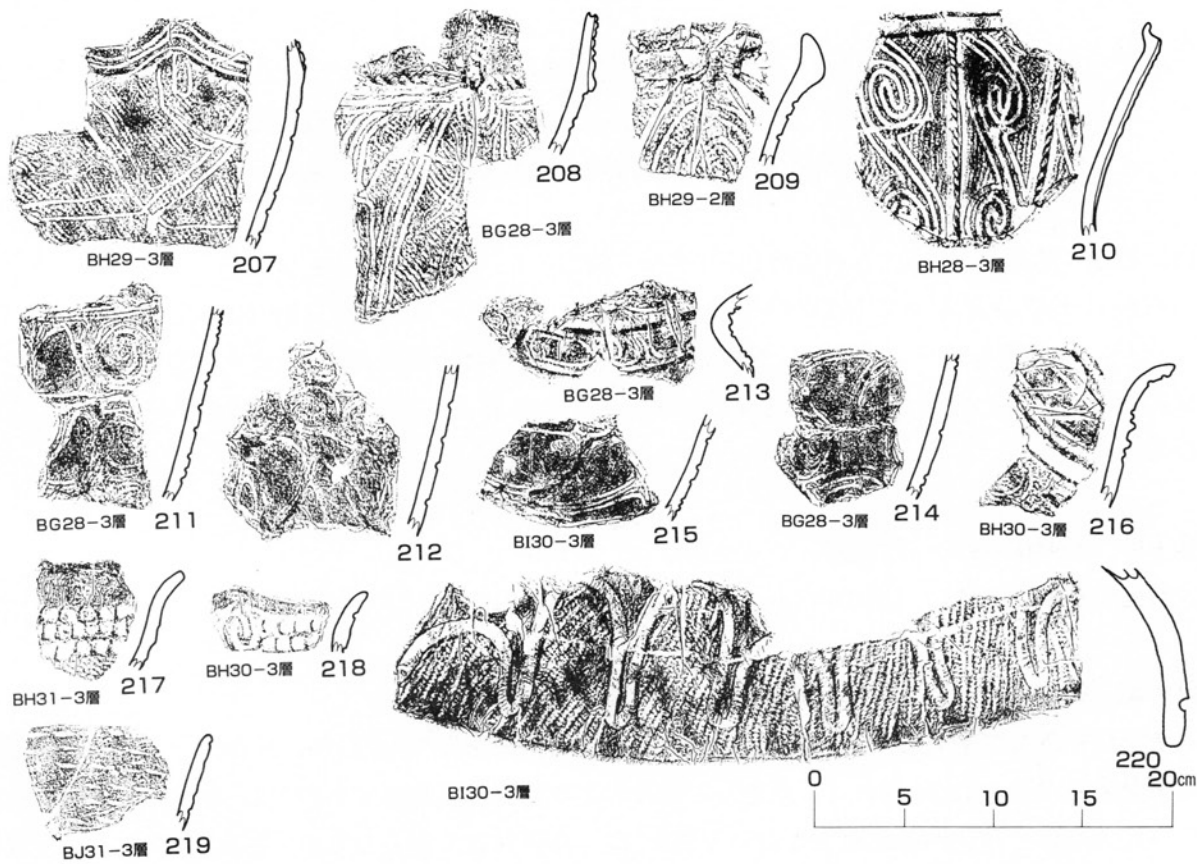
第40圖 遺構外出土土器



第41圖 遺構外出土土器



第42圖 遺構外出土土器



第43図 遺構外出土土器・土製品

4、石器（第44図～46図、写真図版15～20、第4表～第11表）

出土した石器は、石鏃344点・尖頭器14点・石錐8点・石匙11点・不定形石器230点・打製石斧2点・磨製石斧23点・石皿7点・敲石2点・磨石3点・石製円盤10点・礫石器2点・凹石5点・石棒10点・石錘1点・石製品1点・線刻石1点の、総計672点である。以下、器種ごとに説明を行う。

(1) 石鏃（第44図1～19、写真図版15-1～16-342）

石鏃は未製品を含めて342点出土した。石質は、チャート248点（72.52%）・珪質頁岩65点（19.01%）・黒曜石16点（4.68%）・細粒砂岩5点・蛋白石4点・凝灰質頁岩2点で、他に珪質凝灰岩・玄武岩があるが、いずれも出土は1点である。茎部の有無・基部の形状・側縁の形状によって細分が可能である。

第Ⅰ群（第44図1～5、写真図版15-1～34）

有茎の石鏃である。34点が出土したが、無茎の石鏃に比べると数は少ない。

第1類（第44図1・2、写真図版15-1～7）

基部が平基をなすもの。7点出土した。身部が正三角形をなすもの（1、写真1・2）と二等辺三角形をなすもの（2、写真3～7）がある。側縁の形状は、外弧をなすもの（2、写真3）、直線的なもの（1、写真1・4）、内弧をなすもの（写真5・6）、基部付近で膨らむもの（写真7）がある。茎部は写真4は短く作り出されている。

第2類（第44図3・4、写真図版15-8～18）

基部が凹基をなすもの。11点出土した。身部は二等辺三角形をなす。側縁の形状は、外弧をなすもの（写真9～13）、直線的なもの（写真12～16）、内弧をなすもの（4、写真17）、基部付近で膨らむもの（写真18）がある。茎部は3・写真16は短く作り出されている。

第3類（第44図5、写真図版15-19～29）

基部が尖基をなすもの。11点出土した。身部は二等辺三角形形状で、側縁は、外弧をなすもの（5、写真21～25）、直線的なもの（写真26～29）がある。

第4類（写真図版15-30～34）

基部が円基をなすもの。5点出土した。身部は二等三角形形状をなし、側縁は外弧をなすもの（写真30）、直線的なもの（写真32～34）、基部付近で膨らむもの（写真31）がある。

第Ⅱ群（第44図6～19、写真図版15-35～16-295）

無茎の石鏃である。246点出土した。

第1類（第44図6～8、写真図版15-36～67）

基部が平基をなすもの。32点出土した。

A、（第44図6・7、写真図版15-36～40）

身部が正三角形のもの。5点出土した。側縁は、外弧をなすもの（6、写真36～39）と内弧をなすもの（7、写真40）がある。

B、（第44図8、写真図版15-41～67）

身部が二等辺三角形のもの。27点出土した。側縁は、外弧をなすもの（写真45～51）、直線的なもの（8、写真52～64）、内弧のもの（写真65・66）、基部付近で膨らむもの（写真67）がある。

第2類（第44図9～13、写真図版15-68～16-275）

基部が凹基のもの。206点出土した。

A、（第44図9、写真図版15-83～100）

身部が正三角形のもの。18点出土した。側縁は、外弧をなすもの（9、写真83～93）と、直線的なもの（写真94～98）、基部付近で膨らむもの（写真99・100）がある。基部の抉りは、浅いもの（写真83～87、95・96・99）と、深いもの（9、写真88～93・97・98・100）がある。

B、（第44図10～12、写真図版15-101～16-272）

身部が二等辺三角形のもの。167点出土した。側縁は、外弧をなすもの（10・11、写真127～173）、直線的なもの（12、写真174～220）、内弧のもの（写真221～236）、基部付近が膨らむもの（写真237～272）がある。基部の抉りは浅いもの（10、写真102～112・127～145・176～193・221～228・237～244）と深いもの（11・12、写真113～126・146～173・194～219・229～236・245～272）、非常に深いもの（写真220）がある。

C、（第44図13、写真図版16-273～275）

身部が二等辺三角形のもので、基部の長さが側縁の長さより長いものである。3点出土した。側縁は、外弧をなすもの（写真273）、基部付近が膨らむもの（13、写真274・275）がある。基部の抉りは写真273・275は浅い。

第3類（第44図14～16、写真図版16-276～284）

基部が尖基をなすものである。9点出土した。身部は、14は正三角形で、他は二等辺三角形である。側縁は、外弧をなすもの（14・15、写真276～281）、直線的なもの（写真282・283）、基部付近が膨らむもの（16、写真284）がある。

第4類（第44図17～19、写真図版16-285～295）

基部が円基をなすものである。11点出土した。身部はすべて二等辺三角形で、側縁は、外弧をなすもの（17、写真286～293）、直線的なもの（18、写真294）、内弧をなすもの（19、写真295）がある。

第5類（写真図版16-296～342）

欠損により形状の不明のもの（写真307～342）、未製品（写真296～305）を一括した。形状不明のものは36点、未製品は11点出土している。

(2) 尖頭器 (第44図20~23、写真図版16-343~357)

尖頭器は15点出土した。基部の形状は、平基をなすもの (I:20・21、写真345~350)、円基をなすもの (II:22~23、写真351~357) がある。身部の形状は、22は正三角形をなし (A)、他は二等辺三角形形状である (B)。側縁は、21・写真357が直線状で (a)、他は外弧である (b)。

(3) 石錐 (第44図24・25、写真図版16-358~365)

石錐は8点出土した。頭部と身部が明瞭に区分されるもの (I) と頭部と身部の境界が不明瞭なもの (II) に細分が可能である。

(4) 石匙 (第44図26~29、写真図版16-366~375・17-521)

石匙は11点出土した。身部の形状は、横長のもの (I) と縦長のもの (II) がある。刃は、片刃のもの (A:26・28、写真367・369~372) と、両刃のもの (B:27・29、写真368・373~375・521) のものがある。刃を一辺にもつもの (a)、二辺に刃を有するもの (b)、三辺に刃を有するもの (c) がある。写真368は柄を欠損する。

(5) 不定形石器 (第44図30~50、写真図版16-376~18-605)

不定形石器は229点出土し、石鏃に次いで数が多い。刃の数・形状によって細分が可能である。

第Ⅰ群 (第44図30~34、写真図版16-376~17-520・18-522)

一辺に刃を有するもの。146点出土した。刃には、片刃のもの (A) ・両刃のもの (B) が見られ、形状は、丸みを帯びるもの (a) ・直線的なもの (b) ・ノッチを有するもの (c) がある。

第Ⅱ群 (第44図35~42、写真図版18-523~556)

二辺に刃を有するもの。34点出土した。刃には、片刃のもの (A) ・両刃のもの (B) ・一辺が片刃で他は両刃のもの (C) がある。刃の形状は、丸みを帯びるもの (a) ・直線的なもの (b) ・一辺が丸みをおび他は直線的なもの (c) ・一辺にノッチを有し他は丸みを帯びるもの (d) がある。

第Ⅲ群 (第44図43~47、写真図版18-557~563)

三辺に刃を有するものである。7点出土した。刃には、片刃のもの (A) ・両刃のもの (B) ・二辺が片刃で一辺が両刃のもの (C)、二辺が両刃で一辺は片刃のもの (D) がある。刃の形状は、二辺が丸みを帯び一辺が直線的なもの (a)、二辺が直線的で一辺が丸みを帯びるもの (b)、一辺にノッチを有し二辺が直線的なもの (c)、一辺にノッチを有し一辺が直線的で他の一辺が丸みを帯びるもの (d) がある。

第Ⅳ群 (第44図48、写真18-564)

全周に刃部を有するものである。1点のみ出土した。刃は両刃で、形状は楕円形を呈している。

第Ⅴ群 (第44図49、写真図版18-565~567)

両極剥離によるものである。3点出土した。刃は片刃で、裁断面を有するもの (49、写真565・566) と、持たないもの (写真567) がある。

第Ⅵ群（第44図50、写真図版18-568~605）

マイクロフレーキングを有するものである。38点出土した。

(6) 打製石斧（第44図51、写真図版18-606・607）

2点出土した。写真606は刃部は欠損する。51は片面のみ加工されている。

(7) 磨製石斧（第45図52~57、写真図版18-608~19-629）

21点出土した。蛇紋岩製の極めて大型のもの（A）ものと、小型のもの（B）、未製品（C）がある。大型のものは、刃部・頭部は幾分丸みを帯びている。刃部には使用痕が見られず、祭祀用具であろう。小型のものは、刃部は丸みを帯びており、頭部は、尖るもの（a）、丸みを帯びるもの（b）、平坦に作り出されるもの（c）がある。

(8) 磨石（写真図版19-630~633）

4点出土した。自然礫を利用したものである。写真630は楕円礫を利用したもので平坦面を有している。写真631~633は不定形の礫を用いたもので、部分的に研磨されている。

(9) 石皿（写真46図58・59、写真図版19-634~640）

7点出土したが、完形のものはない。脚を有するもの（A）と、持たないものがあるが（B）、細片のため、不明のものが多い。

(10) 敲石（第46図60、写真図版19-641・642）

2点出土した。自然礫を利用したもので、写真641は楕円礫の側面に、60は礫の先端に敲打痕を有している。

(11) 石棒（写真図版19-644~20-653）

10点出土した。自然礫の一部を研磨したもの（A）と、全体を成形しているもの（B）がある。

(12) 石製円盤（第46図63・64、写真図版20-655~664）

10点出土した。扁平な礫の側面を打ち欠き、円形・楕円形に整形されたもの（A）、研磨が施されているもの（B）がある。

(13) 礫石器（写真図版20-665・666）

2点出土した。扁平な礫の側縁の両面を打ち欠き、刃を設けたものである。

(14) 石錘（写真図版20-667）

1点出土した。扁平な楕円礫の両側縁を打ち欠いたものである。

(15) 凹石（第46図65、写真図版20-668~672）

5点出土した。自然礫に凹みを有するもの（A）と、石棒の欠損品に凹みを有するもの（B）がある。

(16) 線刻を有するもの (第46図61、写真図版19-643)

1点出土した。安山岩礫の片面に7本の沈線を有するが、モチーフは不明である。

(17) 石製品 (第46図62、写真図版19-654)

1点出土した。珪質岩製で、一部欠損する。全体丁寧に研磨されており、貫通孔を有している。

5、動物遺存体 (写真図版20-673~680)

堂の前貝塚出土動物遺存体種名表

腹足綱	アカニシ
二枚貝綱	1 マガキ
	2 ウバガイ
	3 オオノガイ
哺乳綱	1 ネズミ科の一種
	2 イノシシ
	3 シカ

1997年度の堂の前貝塚の発掘調査で出土した動物遺存体は、重量にして約500gである。これらには、焼けて白色化した小破片や粉状を呈するものなども多く含まれている。関節部の残るものを中心に同定を行ったところ、種同定できた資料は25点であった。同定の結果、軟体動物4種(腹足綱1種、二枚貝綱3種)、脊椎動物哺乳綱3種が確認された。出土内容については第11表に示した。以下、各動物遺存体について触れる。

アカニシ：BH31-2層より1点が出土している。殻頂部を欠くが、軸唇部などの破片が残存する。

マガキ：貝類では最も出土量が多くBH31-2層より左殻1点、右殻1点、BJ31-3層より右殻2点、BJ32-5層より左殻1点、右殻1点の合計6点が出土している。BH31-2層から出土している右殻は、殻高98.6mm、殻長71.9mmで、岩場から剥がすためについたと考えられる筋痕(貝柱)の位置する腹縁側に打ち欠いた痕跡を有する。また、腹縁に沿うように殻頂部に向かって1cmほどの位置に直径7~8mmの楕円形や半円形の孔が3つ穿ってある。

ウバガイ：BI30-3層より右殻1点が出土している。表面がかなり摩耗、剥落している。

オオノガイ：BH30-4層より左殻1点が出土している。特徴的な大きくさじ状を呈する靱帯受のみが残存する。

ネズミ科の一種：BJ32-5層より臼歯の遊離歯が1点出土している。

イノシシ：CA33-2層より右中節骨1点、BH29-3層より右尺骨1点、BJ31-5層左下顎第3後臼歯1点、左下顎関節突起1点、左踵骨近位骨端1点の合計5点が出土している。このうち右尺骨と左踵骨近位骨端は、骨端の癒着していない若獣のものである。

また、右中節骨、右尺骨、左踵骨近位骨端は、受熱による色調変化が見られ、白色化している。右中節骨は、骨端の癒着が完了しており成獣のものであるが、一般的なイノシシの成獣の中節骨よりやや寸詰まりであり、病変などで見られるような形態の変化が認められることから奇形骨と思われる。

シカ：CA33-2層より左基節骨遠位端1点、BJ31-3層より左足根骨1点、腰椎1点、右中節骨遠位端1点、BJ32-3層より中手・中足骨遠位骨端1点、BJ33-3層より基節骨？1点、BJ32-5層より右踵骨1点、右距骨1点、鹿角1点、腰椎1点の合計10点が出土している。

BJ32-3層出土の中手・中足骨遠位骨端のみが若獣のもので、これ以外はすべて成獣のものである。BJ31-3層出土の腰椎と、BJ32-5層出土の4点すべては熱を受けていないが、これ以外の資料はすべて受熱による色調変化が見られ、白色化している。

小破片などが多い中、BJ32-5層出土の資料は、比較的保存状態が良好であり右踵骨、右距骨はほぼ完形である。また、鹿角は角幹部の資料であるが破損していない一方は、打痕が見られ、折り取られている。

前回1996年度に出土した動物遺存体は、すべてFF32埋設土器周辺の炭化物範囲から出土し、熱を受け白色化し、食料とはならない鹿角も熱を受け白色化していた（注1）のに対し、今回出土した動物遺存体は、遺構からの出土ではなく熱を受け白色化している資料と、熱を受けない資料の両方が見られ、鹿角は熱を受けていないことなどから性格の異なるものと思われる。

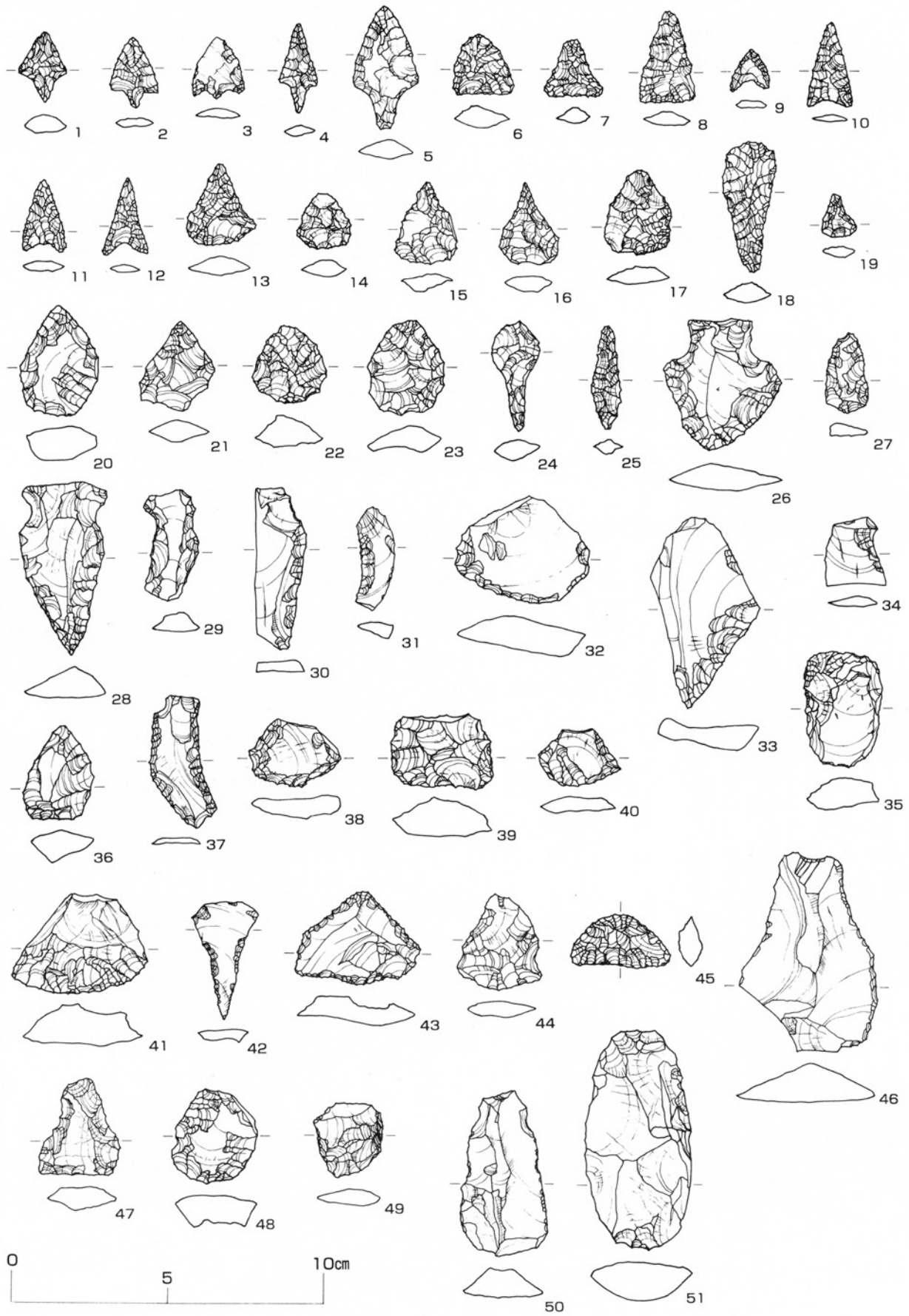
注1：陸前高田市文化財調査報告書第18集「堂の前貝塚発掘調査報告書1」平成9年3月

第3表 出土動物遺存体一覧表

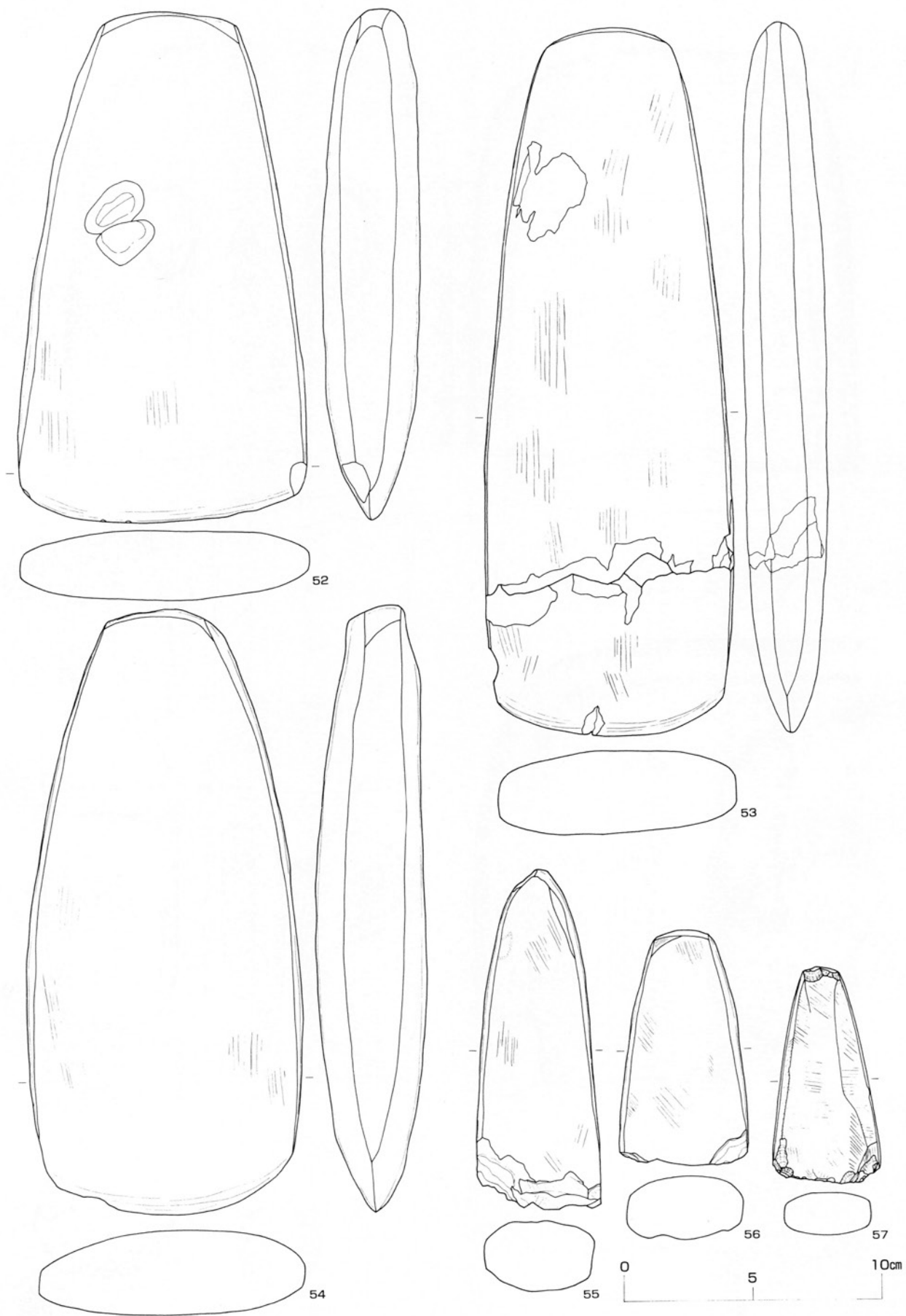
グリット	層位	種名	部位	数	受熱による色調変化	齢	備考
BH31	2層	マガキ	右殻	1			穿孔品？
BH31	2層	マガキ	左殻	1			
CA33	2層	シカ	左基節骨遠位端	1	有（焼けて白色化）	成獣	奇形骨
CA33	2層	イノシシ	右中節骨	1	有（焼けて白色化）	成獣	
BH29	3層	イノシシ	右尺骨	1	有（焼けて白色化）	若獣	
BI30	3層	ウバガイ	右殻	1			
BJ31	3層	シカ	左足根骨	1	有（焼けて白色化）	成獣	
BJ31	3層	シカ	腰椎	1	無	成獣	
BJ31	3層	シカ	右中節骨遠位端	1	有（焼けて白色化）	成獣	
BJ31	3層	マガキ	右殻	2			
BJ31	3層	アカニシ		1			
BJ32	3層	シカ	中手・中足骨遠位端	1	有（焼けて白色化）	若獣	
BJ33	3層	シカ	基節骨？	1	有（焼けて白色化）	成獣	
BH30	4層	オオノガイ	左殻	1			
BJ31	5層	イノシシ	左下顎第3後臼歯	1	無	成獣	
BJ31	5層	イノシシ	左下顎関節突起	1	無	成獣	
BJ31	5層	イノシシ	左踵骨近位骨端	1	有（焼けて白色化）	若獣	
BJ32	5層	ネズミ科の一種	遊離歯	1	無	成獣	
BJ32	5層	マガキ	左殻	1			
BJ32	5層	マガキ	右殻	1			
BJ32	5層	シカ	右踵骨	1	無	成獣	
BJ32	5層	シカ	右距骨	1	無	成獣	
BJ32	5層	シカ	鹿角（角幹部）	1	無	成獣	加工痕有り
BJ32	5層	シカ	腰椎	1	無	成獣	

6 アスファルト（写真図版14-235・236）

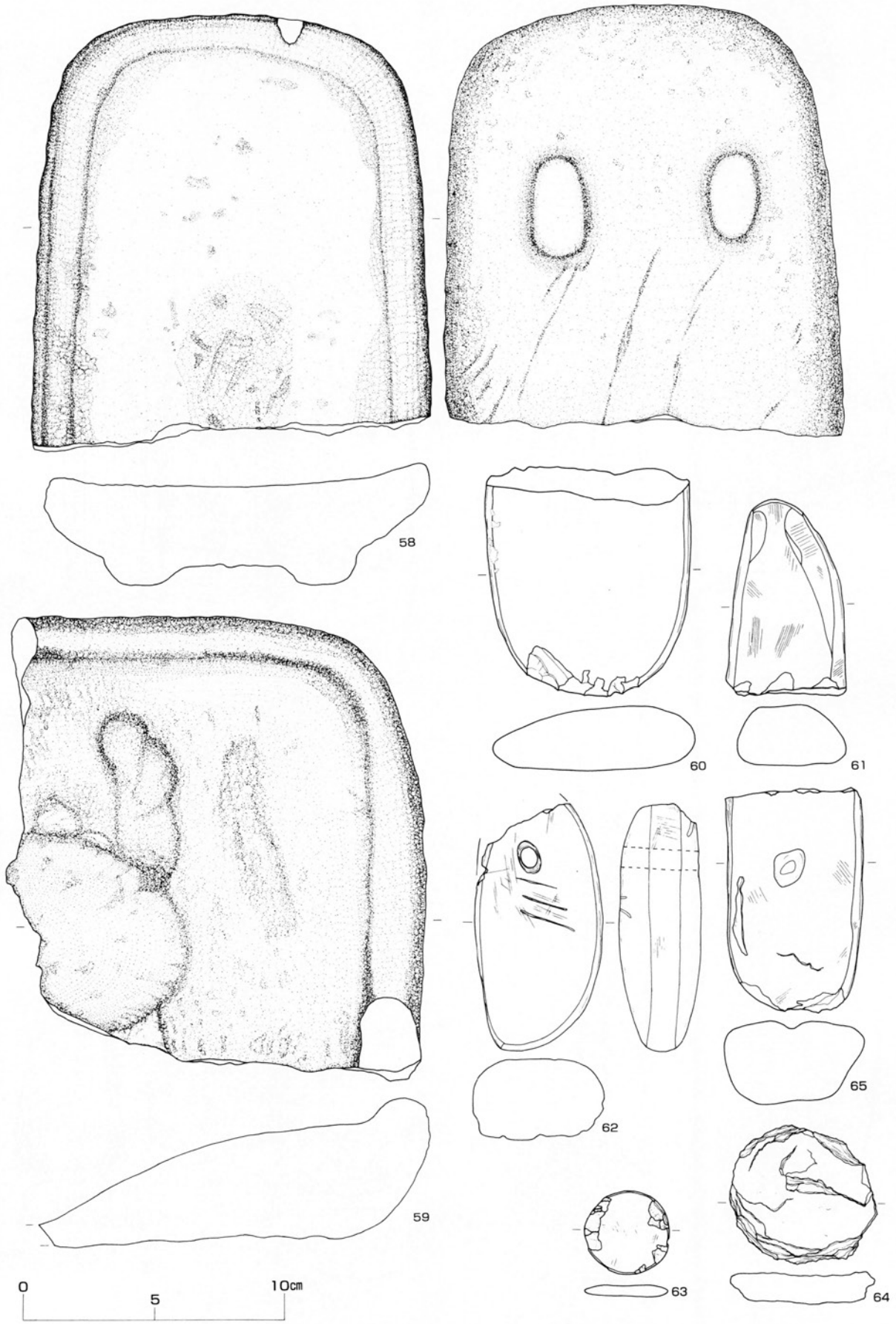
平成8年度の発掘調査において、アスファルト2点が出土した。未報告であったので、本書をもって報告する。重量は、3.3g、5.5gである。共に一面に自然面を残している。



第44圖 遺構外出土石器



第45図 遺構外出土石器



第46図 遺構外出土石器

第4表 遺構外出土石器一覧表

図	版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号		
第44図1、 第44図2、	写真図版15-1	BH29	1	石鏃	I-1	チャート	13.9	11.3	3.0	0.30	9740		
	写真図版15-2	CG41	3	石鏃	I-1	チャート	22.2	14.7	5.0	1.20	9787		
第44図3、	写真図版15-3	BH29	3	石鏃	I-1	チャート	22.0	15.2	3.3	0.70	9504		
	写真図版15-4	BF	1	石鏃	I-1	チャート	22.5	14.2	3.3	0.60	10199		
	写真図版15-5	BH29	3	石鏃	I-1	チャート	21.6	12.7	3.6	0.70	9603		
	写真図版15-6	BH30	2	石鏃	I-1	チャート	16.6	13.0	3.5	0.40	9488		
	写真図版15-7	BJ32	2	石鏃	I-1	細粒砂岩	25.0	13.2	3.0	0.60	10223		
	写真図版15-8	BI30	1	石鏃	I-2	チャート	13.1	15.5	3.3	0.40	10046		
	写真図版15-9	BG28	不	石鏃	I-2	チャート	19.8	10.5	4.6	0.55	9498		
	写真図版15-10	BJ31	2	石鏃	I-2	チャート	26.0	16.4	6.0	1.35	9402		
	第44図4、	不明	不明	2	石鏃	I-2	チャート	19.2	16.4	4.0	1.10	9394	
		写真図版15-11	BG28	不	石鏃	I-2	チャート	15.6	12.4	2.8	0.40	9496	
		写真図版15-12	BJ32	5	石鏃	I-2	チャート	22.0	16.8	4.0	0.90	9493	
		写真図版15-13	BJ11	5	石鏃	I-2	チャート	16.1	12.1	3.2	0.50	10127	
		写真図版15-14	BG28	不	石鏃	I-2	チャート	19.4	10.8	2.6	0.40	9499	
		写真図版15-15	BG30	1	石鏃	I-2	チャート	20.2	11.6	3.7	0.70	10119	
		第44図5、	写真図版15-16	BH29	3	石鏃	I-2	珪質頁岩	27.6	12.4	4.0	0.80	9502
			写真図版15-17	不明	2	石鏃	I-2	珪質頁岩	22.4	14.3	5.0	1.00	9894
			写真図版15-18	BJ22	3	石鏃	I-3	チャート	13.4	12.2	3.5	0.45	9410
			写真図版15-19	不明	2	石鏃	I-3	チャート	17.0	16.6	3.2	0.90	9770
			写真図版15-20	BG31	不	石鏃	I-3	チャート	22.8	9.5	2.5	0.55	9517
			写真図版15-21	BG27	2	石鏃	I-3	細粒砂岩	30.5	14.0	5.7	1.70	10205
			写真図版15-22	BJ33	1	石鏃	I-3	珪質頁岩	39.2	20.4	7.0	3.15	9398
			写真図版15-23	CD41	3	石鏃	I-3	珪質頁岩	21.3	12.6	3.9	0.80	9903
			写真図版15-24	CD39	2	石鏃	I-3	珪質頁岩	35.6	15.4	6.5	2.90	9899
			写真図版15-25	BJ33	3	石鏃	I-3	チャート	17.2	11.6	2.4	0.40	10222
			写真図版15-26	BJ32	1	石鏃	I-3	玄武岩	32.0	19.5	3.8	1.70	9920
			写真図版15-27	CA34	不	石鏃	I-3	チャート	14.4	10.2	3.3	0.40	9781
			写真図版15-28	CA33	2	石鏃	I-3	細粒砂岩	24.2	13.6	4.0	0.75	9391
写真図版15-29			BH29	不	石鏃	I-4	チャート	31.3	13.0	3.8	1.40	9907	
写真図版15-30			EC41	2	石鏃	I-4	珪質頁岩	35.4	16.8	3.1	1.30	9924	
写真図版15-31			CA36	1	石鏃	I-4	珪質頁岩	25.5	10.8	5.7	1.40	9439	
写真図版15-32			BJ33	1	石鏃	I-4	チャート	15.6	8.8	4.0	0.30	9400	
写真図版15-33			BG31	3	石鏃	I-4	珪質頁岩	21.4	11.9	3.2	0.70	10212	
第44図6、			写真図版15-34	BJ32	3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	16.1	15.7	3.0	0.50	10072
			写真図版15-35	BG28	3	石鏃	II-1-A	チャート	18.9	19.7	7.0	2.30	10070
			写真図版15-36	BG29	不	石鏃	II-1-A	珪質頁岩	22.9	21.4	6.1	2.20	9915
	写真図版15-37		BG30	1	石鏃	II-1-A	珪質頁岩	19.4	18.9	6.0	2.00	10116	
	写真図版15-38		DF42	1	石鏃	II-1-A	チャート	14.6	14.4	3.7	0.60	9790	
	第44図7、		写真図版15-39	BH31	2	石鏃	II-1-A	チャート	17.4	19.1	5.3	1.20	9792
			写真図版15-40	BH30	3	石鏃	II-1-B	黒曜石	18.4	13.0	3.4	0.70	9564
			写真図版15-41	BJ11	5	石鏃	II-1-B	細粒砂岩	19.1	18.9	4.1	1.40	10126
			写真図版15-42	CA33	2	石鏃	II-1-B	チャート	21.0	18.0	5.3	2.00	10226
		写真図版15-43	BH30	2	石鏃	II-1-B	チャート	17.6	13.7	2.9	0.80	9982	
		写真図版15-44	BG30	1	石鏃	II-1-B	凝灰質頁岩	28.1	12.6	4.3	1.50	10117	
		写真図版15-45	BH29	3	石鏃	II-1-B	珪質頁岩	19.2	13.8	2.9	0.80	9469	
		写真図版15-46	不明	不	石鏃	II-1-B	チャート	24.3	18.6	6.2	3.30	9450	
		写真図版15-47	BF	1	石鏃	II-1-B	珪質頁岩	15.4	12.2	2.9	0.50	10197	
		写真図版15-48	BH29	3	石鏃	II-1-B	チャート	19.9	23.5	6.3	2.20	9911	
		写真図版15-49	BH	3	石鏃	II-1-B	チャート	21.2	17.4	7.3	2.20	9914	
		写真図版15-50	BH29	3	石鏃	II-1-B	チャート	20.3	18.0	5.6	1.80	9452	
		第44図8、	写真図版15-51	CA38	不	石鏃	II-1-B	チャート	25.2	23.1	6.8	2.50	9786
			写真図版15-52	BG29	2	石鏃	II-1-B	チャート	23.1	18.6	8.1	3.20	10068
			写真図版15-53	BI30	2	石鏃	II-1-B	チャート	28.6	17.6	6.0	2.00	9411
			写真図版15-54	BH29	3	石鏃	II-1-B	珪質頁岩	23.4	19.5	4.8	1.50	9454
			写真図版15-55	BI32	2	石鏃	II-1-B	チャート	19.5	15.0	3.6	0.80	9588
			写真図版15-56	BH30	3	石鏃	II-1-B	チャート	19.1	15.4	3.5	0.70	9984
			写真図版15-57	BH29	不	石鏃	II-1-B	チャート	24.7	20.2	7.9	3.00	9763
			写真図版15-58	BG27	2	石鏃	II-1-B	チャート	23.4	13.8	6.4	1.30	10204
			写真図版15-59	BH30	2	石鏃	II-1-B	チャート	33.4	27.2	7.7	4.50	9981
			写真図版15-60	BH30	1	石鏃	II-1-B	チャート	23.8	22.0	4.8	2.30	9444
写真図版15-61			BG29	3	石鏃	II-1-B	タンバク石	18.6	18.7	5.4	1.90	9783	
写真図版15-62			BH30	2	石鏃	II-1-B	黒曜石	26.0	16.2	4.7	1.35	9427	
写真図版15-63			BI30	2	石鏃	II-1-B	チャート	24.6	20.4	9.4	3.00	9428	
写真図版15-64			BJ30	3	石鏃	II-1-B	珪質頁岩	30.8	12.0	5.0	1.40	9460	
写真図版15-65			BH29	1	石鏃	II-1-B	チャート	20.3	18.4	4.3	1.00	9798	
写真図版15-66	BJ32		2	石鏃	II-1-B	珪質頁岩	26.4	17.4	4.5	1.20	9397		
写真図版15-67	BH29		2	石鏃	II	チャート	16.8	10.4	2.3	0.30	9784		
写真図版15-68	BI32		2	石鏃	II	チャート	13.4	7.2	1.7	0.10	9597		
写真図版15-69	BI32		2	石鏃	II	チャート	17.2	11.2	1.9	0.20	9596		
写真図版15-70	BJ32		1	石鏃	II	チャート	13.4	15.3	2.8	0.40	9785		
写真図版15-71	BG29		1	石鏃	II	珪質頁岩	16.3	18.8	4.4	1.00	10208		
写真図版15-72	BH30		1	石鏃	II	チャート	15.0	9.3	2.7	0.30	10028		
写真図版15-73	BJ32		不	石鏃	II	チャート	12.9	14.8	2.5	0.50	9485		
写真図版15-74	BH30		2	石鏃	II	チャート	16.4	17.8	2.4	0.60	9468		
写真図版15-75	BG29		1	石鏃	II	チャート	9.8	12.9	3.0	0.30	9465		
写真図版15-76	BH30		1	石鏃	II	チャート	12.1	16.1	3.4	0.60	9480		
写真図版15-77	BG29		不	石鏃	II	チャート	15.1	13.6	2.4	0.40	9916		
写真図版15-78	BI30	3	石鏃	II	チャート	12.1	16.8	2.7	0.50	9768			
写真図版15-79	BI32	2	石鏃	II	タンバク石?	12.7	16.7	2.2	0.30	9598			
写真図版15-80	CA33	2	石鏃	II	チャート	10.2	16.0	2.8	0.40	10225			
写真図版15-81	BJ33	3	石鏃	II	チャート	19.5	15.3	3.2	0.50	10221			
写真図版15-82	BH29	1	石鏃	II-2-A	チャート	14.8	16.1	2.5	0.50	9795			
写真図版15-83	BH29	1	石鏃	II-2-A	チャート	17.2	16.6	3.6	0.90	9788			
写真図版15-84	CG41	3	石鏃	II-2-A	チャート	17.2	16.6	3.6	0.90	9788			
写真図版15-85	BJ32	3	石鏃	II-2-A	チャート	24.7	22.3	7.7	3.40	10074			

第5表 遺構外出土石器一覽表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号	
第44図9、	写真図版15-86	BG29	3	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	16.7	16.8	3.0	0.60	9408
	写真図版15-87	BG28	不明	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	10.8	9.8	1.7	0.20	9494
	写真図版15-88	BH29	1	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	14.1	11.3	2.0	0.30	9743
	写真図版15-89	BJ33	2	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	16.9	14.4	4.8	0.80	9481
	写真図版15-90	BI30	2	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	16.4	14.2	3.5	0.60	9412
	写真図版15-91	BI32	2	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	12.4	12.5	3.0	0.30	9592
	写真図版15-92	CF41	2	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	15.8	16.8	3.0	0.40	9395
	写真図版15-93	BH30	4	石鏃	Ⅱ-2-A	珪質頁岩	18.6	17.2	2.5	0.70	9466
	写真図版15-94	BH29	1	石鏃	Ⅱ-2-A	黒曜石	16.0	15.6	2.7	0.50	9741
	写真図版15-95	BI30	3	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	16.1	15.6	2.5	0.50	9791
	写真図版15-96	CE41	3	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	15.2	14.4	2.5	0.35	9405
	写真図版15-97	BH28	1	石鏃	Ⅱ-2-A	珪質頁岩	19.2	18.0	2.5	0.50	10215
	写真図版15-98	BH30	3	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	11.0	11.5	2.7	0.30	9505
	写真図版15-99	BH29	1	石鏃	Ⅱ-2-A	チャート	17.0	16.7	4.6	1.00	9744
	写真図版15-100	BH30	2	石鏃	Ⅱ-2-A	黒曜石	13.7	12.6	2.1	0.30	9983
	写真図版15-101	BH29	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	17.5	14.5	3.1	0.60	9859
	写真図版15-102	BG29	2	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	15.9	14.2	5.0	1.00	10042
	写真図版15-103	BH30	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	17.6	17.3	3.8	1.00	9748
	写真図版15-104	BJ32	3	石鏃	Ⅱ-2-B	黒曜石	14.8	14.9	3.0	0.70	10073
	写真図版15-105	BJ32	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	14.5	13.8	2.9	0.70	9486
	写真図版15-106	BH29	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	16.2	15.5	3.3	0.70	9910
	写真図版15-107	BH30	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	17.2	18.3	3.4	1.00	9482
	写真図版15-108	BJ32	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	16.0	13.6	4.0	0.70	9387
	写真図版15-109	BI30	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	14.8	15.6	3.0	0.60	9385
	写真図版15-110	BH30	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	18.3	17.8	3.5	0.80	9392
	写真図版15-111	CB37	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	18.2	17.7	3.0	1.00	9396
	写真図版15-112	BJ32	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	20.0	18.0	4.0	1.30	9386
	写真図版15-113	BI31	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	15.4	14.2	3.1	0.50	9775
	写真図版15-114	BJ32	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	20.6	10.9	4.5	1.45	9393
	写真図版15-115	BH30	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	16.8	13.6	3.5	0.50	9860
	写真図版15-116	BG27	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	14.3	15.0	2.7	0.40	10203
	写真図版15-117	BG28	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	22.3	15.8	5.1	1.10	10207
	写真図版15-118	BH30	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	19.0	19.4	3.0	0.95	9422
	写真図版15-119	BI30	1	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	19.2	17.4	2.8	0.70	10045
	写真図版15-120	BH30	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	15.6	16.1	2.7	0.60	9862
	写真図版15-121	BH31	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	16.1	17.2	3.8	0.90	9913
	写真図版15-122	CE40	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	19.4	16.9	4.2	1.10	9767
	写真図版15-123	BJ31	5	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	19.6	17.5	3.3	0.90	10137
	写真図版15-124	BH28	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	13.5	15.0	2.5	0.40	10214
	写真図版15-125	BH32	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	15.0	15.8	3.2	0.60	9607
	写真図版15-126	BH28	1	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	16.2	18.0	2.8	0.70	10217
	写真図版15-127	BH30	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	23.3	16.5	6.6	2.20	9431
	写真図版15-128	不明	不明	石鏃	Ⅱ-2-B	タンパク石	18.0	12.2	3.2	0.50	9610
	写真図版15-129	BH29	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	14.3	12.0	2.7	0.40	9757
	写真図版15-130	BH30	3	石鏃	Ⅱ-2-B	黒曜石	21.4	12.0	3.2	0.50	9413
	写真図版15-131	BH29	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	22.1	16.7	6.3	2.30	9739
	写真図版15-132	BJ30	4	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	15.8	11.8	2.6	0.40	9419
	写真図版15-133	BJ32	2	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質凝灰岩	27.7	17.2	3.2	1.30	9782
	写真図版15-134	BH30	2	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	18.8	16.1	3.5	0.90	9749
	写真図版15-135	BG29	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	18.8	16.3	4.8	1.30	9446
	写真図版15-136	BH29	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	19.3	14.2	3.4	0.60	9797
	写真図版15-137	BG31	不明	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	21.8	17.0	3.0	0.70	9516
	写真図版15-138	BJ31	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	20.0	16.0	14.5	1.20	9918
	写真図版15-139	BH29	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	17.7	15.5	4.5	1.10	9758
	写真図版15-140	BG28	不明	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	23.4	11.9	3.7	0.80	9495
	写真図版15-141	BJ31	5	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	27.2	14.2	1.9	0.60	10135
	写真図版15-142	BH30	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	27.0	19.1	4.6	1.90	9750
	写真図版15-143	BH30	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	20.0	15.5	5.0	1.30	9423
	写真図版15-144	BH31	2	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	19.5	19.0	3.4	1.00	9789
	写真図版15-145	BH30	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	15.1	13.5	3.5	0.50	9421
	写真図版15-146	BG29	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	15.2	10.6	3.0	0.40	9490
	写真図版15-147	BH30	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	22.7	14.2	2.0	0.60	10055
	写真図版15-148	BG28	不明	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	18.7	10.4	2.4	0.40	9497
	写真図版15-149	BI30	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	16.9	13.7	2.6	0.40	10048
	写真図版15-150	BG29	1	石鏃	Ⅱ-2-B	黒曜石	14.2	10.7	2.4	0.30	9489
	写真図版15-151	BG31	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	25.9	11.2	3.1	0.50	10076
	写真図版15-152	BJ32	5	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	18.5	13.5	3.0	0.60	9492
	写真図版15-153	BG29	1	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	18.0	15.1	2.4	0.40	10211
	写真図版15-154	BI30	1	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	19.2	13.6	3.4	0.60	10043
	写真図版15-155	BJ31	2	石鏃	Ⅱ-2-B	黒曜石	20.8	14.6	4.0	1.15	9404
	写真図版15-156	BH29	1	石鏃	Ⅱ-2-B	黒曜石	14.5	12.7	2.6	0.40	9742
	写真図版15-157	BH29	3	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	22.4	13.4	2.5	0.60	9503
	写真図版15-158	BH30	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	19.1	17.8	2.6	0.80	9474
	写真図版15-159	BF	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	21.5	17.6	3.0	0.60	10198
	写真図版15-160	BG27	2	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	16.4	12.2	2.5	0.50	10202
	写真図版15-161	BG28	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	15.4	13.0	4.0	0.50	9382
	写真図版15-162	BJ32	不明	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	23.8	16.0	4.0	0.80	9515
	写真図版15-163	BH30	3	石鏃	Ⅱ-2-B	黒曜石	17.0	13.2	3.0	0.50	9416
	写真図版15-164	BH29	1	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	19.3	14.2	3.4	0.70	9796
	写真図版15-165	BJ31	5	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	15.0	13.6	2.8	0.40	10136
	写真図版15-166	BH30	4	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	24.0	13.2	2.6	0.60	9467
	写真図版15-167	BG31	3	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	20.9	13.3	2.2	0.40	9508
	写真図版15-168	CD41	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	16.2	11.9	2.5	0.40	9902
	写真図版15-169	BG28	不明	石鏃	Ⅱ-2-B	珪質頁岩	20.0	15.3	4.0	0.80	9501
	写真図版15-170	BH29	3	石鏃	Ⅱ-2-B	チャート	24.5	18.8	2.9	0.80	9473

第6表 遺構外出土石器一覽表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
写真図版15-171	BH30	1	石鏃	II-2-B	チャート	19.8	16.3	3.4	0.90	10056
写真図版15-172	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	21.6	14.2	2.8	0.30	9472
写真図版15-173	BI32	2	石鏃	II-2-B	チャート	18.0	14.2	3.8	0.80	9590
写真図版15-174	BH30	1	石鏃	II-2-B	チャート	18.4	11.4	3.4	0.70	10058
写真図版15-175	BG30	1	石鏃	II-2-B	チャート	19.7	12.8	3.0	0.70	10118
写真図版15-176	不明	探	石鏃	II-2-B	チャート	19.4	10.2	2.5	0.40	9484
写真図版15-177	BF30	不明	石鏃	II-2-B	チャート	13.2	14.5	4.5	0.60	10200
写真図版15-178	BH30	1	石鏃	II-2-B	チャート	14.3	12.7	3.1	0.40	9479
写真図版15-179	BH30	1	石鏃	II-2-B	チャート	13.5	11.9	2.5	0.30	9861
写真図版15-180	CB36	1	石鏃	II-2-B	チャート	18.1	17.6	5.3	1.40	9456
写真図版15-181	BI31	5	石鏃	II-2-B	チャート	17.1	15.4	3.0	0.50	9608
写真図版15-182	BJ33	2	石鏃	II-2-B	チャート	18.9	15.3	3.8	0.80	9511
写真図版15-183	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	15.7	13.2	2.6	0.40	9773
写真図版15-184	BH30	1	石鏃	II-2-B	チャート	13.7	11.7	1.9	0.30	10057
写真図版15-185	BI32	2	石鏃	II-2-B	チャート	19.1	14.6	3.0	0.50	9593
写真図版15-186	BG28	3	石鏃	II-2-B	チャート	19.4	17.6	3.0	0.80	9406
写真図版15-187	BG28	3	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	20.3	14.1	3.5	0.70	10071
写真図版15-188	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	16.5	15.1	2.5	0.50	9756
写真図版15-189	BJ32	2	石鏃	II-2-B	チャート	19.8	12.4	2.9	0.40	9780
写真図版15-190	BH30	3	石鏃	II-2-B	チャート	24.2	23.7	7.9	3.80	9424
写真図版15-191	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	18.3	13.1	4.2	0.60	9912
写真図版15-192	BJ32	4	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	25.0	16.0	2.9	0.80	10113
写真図版15-193	BH30	2	石鏃	II-2-B	チャート	20.1	16.7	2.9	0.60	9864
写真図版15-194	BI30	3	石鏃	II-2-B	チャート	18.6	13.2	3.0	0.40	9384
写真図版15-195	BH30	1	石鏃	II-2-B	チャート	19.0	14.3	3.0	0.60	9509
写真図版15-196	BJ29	3	石鏃	II-2-B	チャート	23.6	14.1	2.3	0.50	10080
写真図版15-197	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	19.6	14.0	4.2	0.70	9761
写真図版15-198	BI31	3	石鏃	II-2-B	チャート	19.8	16.2	3.0	0.60	9414
写真図版15-199	CB37	1	石鏃	II-2-B	チャート	19.0	14.3	3.0	0.60	10227
写真図版15-200	BJ31	2	石鏃	II-2-B	チャート	17.4	16.2	5.5	0.65	9390
写真図版15-201	BJ32	2	石鏃	II-2-B	黒曜石	15.2	12.6	1.8	0.30	9487
写真図版15-202	BH30	1	石鏃	II-2-B	チャート	19.6	16.0	3.4	0.40	9606
写真図版15-203	CB39	2	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	16.7	13.7	2.9	0.40	10078
写真図版15-204	BH30	2	石鏃	II-2-B	チャート	23.7	14.0	3.0	0.50	9425
写真図版15-205	BJ33	1	石鏃	II-2-B	細粒砂岩	17.8	10.6	3.0	0.30	9399
写真図版15-206	BI32	2	石鏃	II-2-B	チャート	19.8	17.2	3.0	0.60	9586
写真図版15-207	BI30	3	石鏃	II-2-B	チャート	17.9	13.2	3.3	0.60	9917
写真図版15-208	BH29	1	石鏃	II-2-B	チャート	23.4	13.7	2.6	0.40	9905
写真図版15-209	BG28	3	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	19.9	12.4	2.5	0.40	10069
写真図版15-210	BH30	3	石鏃	II-2-B	チャート	16.6	15.1	3.1	0.50	9512
写真図版15-211	BH28	1	石鏃	II-2-B	チャート	19.8	14.6	2.3	0.40	10216
写真図版15-212	BI30	1	石鏃	II-2-B	チャート	18.7	13.2	3.1	0.40	10051
写真図版15-213	BG28	不明	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	18.6	14.5	3.2	0.50	9500
写真図版15-214	BG29	2	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	13.7	13.0	2.4	0.40	10063
写真図版15-215	BI29	3	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	17.5	15.7	3.5	0.60	10219
写真図版16-216	BI32	2	石鏃	II-2-B	チャート	20.0	13.9	4.0	0.60	9595
写真図版16-217	BH30	1	石鏃	II-2-B	チャート	14.0	11.2	2.5	0.40	10029
写真図版16-218	BH30	2	石鏃	II-2-B	チャート	18.3	19.4	3.0	0.65	9409
写真図版16-219	不明	不明	石鏃	II-2-B	チャート	20.6	9.9	4.3	0.70	9609
写真図版16-220	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	21.7	13.2	2.4	0.40	9771
写真図版16-221	BG29	不明	石鏃	II-2-B	チャート	20.0	11.8	2.5	0.35	9407
写真図版16-222	BH30	3	石鏃	II-2-B	チャート	26.0	19.2	3.8	0.80	9418
写真図版16-223	BJ33	3	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	24.8	16.2	3.2	0.70	10220
写真図版16-224	BG28	不明	石鏃	II-2-B	チャート	22.7	14.3	3.4	0.60	9470
写真図版16-225	DD41	2	石鏃	II-2-B	チャート	23.2	15.7	3.7	0.80	9800
写真図版16-226	BI32	2	石鏃	II-2-B	チャート	18.6	9.9	2.8	0.40	9779
写真図版16-227	BJ30	3	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	17.0	13.0	2.0	0.40	9477
写真図版16-228	BH30	3	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	25.9	19.7	4.6	1.50	9491
写真図版16-229	BH30	2	石鏃	II-2-B	チャート	23.4	16.3	2.4	0.40	9747
写真図版16-230	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	26.2	13.9	3.3	0.70	9793
写真図版16-231	BJ31	5	石鏃	II-2-B	チャート	18.1	12.6	2.5	0.30	10133
写真図版16-232	BI32	2	石鏃	II-2-B	チャート	24.6	13.4	2.8	0.70	9594
写真図版16-233	BH30	1	石鏃	II-2-B	チャート	19.8	13.9	2.3	0.30	9863
写真図版16-234	BH29	1	石鏃	II-2-B	チャート	21.0	14.2	2.5	0.40	9605
写真図版16-235	不明	1	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	15.6	12.1	3.1	0.40	10079
写真図版16-236	BH30	3	石鏃	II-2-B	チャート	8.5	17.0	3.0	4.50	9417
写真図版16-237	BI29	3	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	19.4	13.3	3.2	0.50	10218
写真図版16-238	BH30	3	石鏃	II-2-B	チャート	16.9	14.0	4.2	0.70	9506
写真図版16-239	BJ32	不明	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	16.5	17.0	5.4	1.20	9513
写真図版16-240	BJ31	5	石鏃	II-2-B	チャート	18.1	12.3	2.4	0.40	10134
写真図版16-241	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	28.3	18.4	3.6	1.30	9760
写真図版16-242	BJ30	3	石鏃	II-2-B	チャート	21.4	16.8	2.9	0.80	9475
写真図版16-243	BG31	3	石鏃	II-2-B	タンバク石?	15.0	15.0	2.7	0.50	10075
写真図版16-244	BH30	3	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	23.3	16.8	5.3	2.00	9462
写真図版16-245	BI30	1	石鏃	II-2-B	チャート	23.1	18.5	2.9	0.80	10050
写真図版16-246	BI30	1	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	21.1	13.1	2.6	0.40	10052
写真図版16-247	BG29	2	石鏃	II-2-B	チャート	20.5	15.9	3.1	0.90	10064
写真図版16-248	BG29	2	石鏃	II-2-B	チャート	24.3	11.2	3.9	0.90	10066
写真図版16-249	BJ32	不明	石鏃	II-2-B	黒曜石	14.7	13.2	2.7	0.40	10224
写真図版16-250	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	24.2	12.9	2.2	0.50	9755
写真図版16-251	CF39	3	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	23.2	15.6	2.8	0.60	10077
写真図版16-252	BI30	1	石鏃	II-2-B	チャート	26.6	16.9	4.4	1.00	10049
写真図版16-253	BI32	2	石鏃	II-2-B	珩質頁岩	24.0	15.8	4.0	0.60	9587
写真図版16-254	BG31	3	石鏃	II-2-B	チャート	20.0	12.5	2.4	0.30	9507
写真図版16-255	BH29	1	石鏃	II-2-B	チャート	21.4	14.4	3.5	0.70	9738

第44図12、

第7表 遺構外出土石器一覧表

図	版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号	
第44図13、	写真図版16-256	BG30	1	石鏃	II-2-B	凝灰質頁岩	24.5	22.9	2.0	0.40	10120	
	写真図版16-257	BH30	2	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	22.2	14.2	2.5	0.45	9426	
	写真図版16-258	BJ11	5	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	21.7	16.9	3.0	0.60	10128	
	写真図版16-259	CD40	2	石鏃	II-2-B	チャート	24.5	16.8	4.3	1.30	9900	
	写真図版16-260	CD41	2	石鏃	II-2-B	チャート	15.6	14.6	3.0	0.30	9901	
	写真図版16-261	BH30	3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	21.0	16.6	3.0	0.70	9415	
	写真図版16-262	BH30	1	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	24.8	14.2	2.6	0.50	9510	
	写真図版16-263	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	24.3	14.6	1.8	0.30	9471	
	写真図版16-264	BG29	1	石鏃	II-2-B	チャート	23.6	15.0	2.7	0.50	10209	
	写真図版16-265	BJ30	3	石鏃	II-2-B	チャート	22.6	14.7	3.1	0.80	9476	
	写真図版16-266	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	18.9	16.3	2.9	0.50	9602	
	写真図版16-267	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	14.8	14.5	2.3	0.40	9762	
	写真図版16-268	CA38	3	石鏃	II-2-B	チャート	27.4	16.8	2.9	0.60	9896	
	写真図版16-269	BH29	3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	22.6	16.9	2.6	0.50	9759	
	写真図版16-270	BF30	不	石鏃	II-2-B	チャート	21.7	14.4	3.6	0.60	10213	
	写真図版16-271	BI30	1	石鏃	II-2-B	チャート	16.2	14.0	2.7	0.40	10047	
	写真図版16-272	BH29	3	石鏃	II-2-B	チャート	19.2	14.0	3.2	0.50	9754	
	写真図版16-273	BG30	1	石鏃	II-2-C	チャート	21.6	19.5	4.2	1.70	10121	
	写真図版16-274	BJ31	3	石鏃	II-2-C	チャート	25.6	21.7	6.1	2.50	9919	
	写真図版16-275	BH30	1	石鏃	II-2-C	黒曜石	13.1	15.2	3.1	0.50	10062	
	第44図14、	写真図版16-276	BJ32	不	石鏃	II-3	チャート	16.5	17.0	5.4	1.20	9514
		写真図版16-277	BH29	1	石鏃	II-3	チャート	17.2	13.4	2.3	0.60	9858
	第44図15、	写真図版16-278	BH30	1	石鏃	II-3	珪質頁岩	25.0	19.5	6.9	2.80	10054
		写真図版16-279	不明	不	石鏃	II-3	チャート	19.0	14.7	5.6	1.30	9769
	第44図16、	写真図版16-280	CD39	2	石鏃	II-3	チャート	19.6	18.1	5.2	1.90	9898
		写真図版16-281	BJ11	5	石鏃	II-3	チャート	26.1	18.4	7.5	2.70	10130
		写真図版16-282	BH30	1	石鏃	II-3	チャート	20.5	16.8	5.2	1.60	10061
		写真図版16-283	BG29	2	石鏃	II-3	珪質頁岩	21.5	13.9	2.8	0.70	10065
		写真図版16-284	BG29	2	石鏃	II-3	珪質頁岩	25.9	18.6	5.9	2.20	10067
		写真図版16-285	BJ32	2	石鏃	II-4	黒曜石	16.6	14.6	4.0	0.90	9436
	第44図17、	写真図版16-286	CA34	2	石鏃	II-4	チャート	20.0	19.7	4.3	1.50	9599
		写真図版16-287	BJ32	1	石鏃	II-4	チャート	26.3	20.5	6.5	3.30	9921
		写真図版16-288	CC38	2	石鏃	II-4	チャート	27.3	13.8	6.7	2.20	9923
		写真図版16-289	BJ30	4	石鏃	II-4	チャート	22.5	19.2	3.5	1.30	9420
	第44図18、 第44図19、	写真図版16-290	BI31	3	石鏃	II-4	チャート	27.3	18.4	6.5	2.90	9432
		写真図版16-291	CD39	2	石鏃	II-4	黒曜石	20.0	16.3	8.5	2.40	9897
		写真図版16-292	BJ27	不	石鏃	II-4	チャート	33.6	23.2	6.0	3.80	9459
		写真図版16-293	BH28	1	石鏃	II-4	珪質頁岩	21.5	16.5	6.3	2.20	10232
写真図版16-294		BI30	1	石鏃	II-4	珪質頁岩	41.4	16.2	6.4	3.80	10053	
写真図版16-295		BJ11	5	石鏃	II-4	珪質頁岩	14.0	11.0	3.4	0.40	10129	
写真図版16-296		BG27	2	石鏃	II-5	珪質頁岩	16.2	15.7	4.2	1.00	10201	
写真図版16-297		BJ31	3	石鏃	II-5	チャート	19.0	17.4	5.0	1.60	9965	
写真図版16-298		CD39	2	石鏃	II-5	チャート	24.8	13.0	5.0	1.60	9971	
写真図版16-299		BH30	3	石鏃	II-5	チャート	23.4	15.2	4.6	1.60	9565	
写真図版16-300		BH29	3	石鏃	II-5	珪質頁岩	19.3	13.0	2.3	0.50	9776	
写真図版16-301		BH31	不	石鏃	II-5	珪質頁岩	20.3	16.5	6.2	1.70	10098	
写真図版16-302		BJ32	2	石鏃	II-5	チャート	22.0	14.9	6.0	1.50	9388	
写真図版16-303		BJ32	1	石鏃	II-5	チャート	18.3	19.4	5.2	1.80	9922	
写真図版16-304		不明	不	石鏃	II-5	珪質頁岩	23.3	14.1	6.5	1.60	10236	
写真図版16-305	BJ31	3	石鏃	II-5	チャート	16.9	11.4	3.2	0.50	10132		
写真図版16-306	BH29	1	石鏃	II-5	チャート	17.2	14.0	4.1	1.30	9734		
写真図版16-307	CA38	3	石鏃	II-5	チャート	14.9	11.8	2.5	0.30	9895		
写真図版16-308	BG31	不	石鏃	II-5	チャート	15.3	12.1	3.7	0.80	9521		
写真図版16-309	不明	不	石鏃	II-5	チャート	14.2	14.3	4.5	0.60	9612		
写真図版16-310	BH29	3	石鏃	II-5	チャート	15.0	14.2	3.4	0.50	9600		
写真図版16-311	BG29	不	石鏃	II-5	チャート	12.7	7.9	2.5	0.30	9527		
写真図版16-312	BI30	1	石鏃	II-5	チャート	17.0	8.3	2.3	0.30	10044		
写真図版16-313	BH29	3	石鏃	II-5	チャート	17.0	8.6	2.7	0.30	9604		
写真図版16-314	BH30	1	石鏃	II-5	チャート	23.6	20.3	5.1	1.50	10060		
写真図版16-315	不明	3	石鏃	II-5	チャート	16.5	11.3	3.0	0.40	9745		
写真図版16-316	不明	不	石鏃	II-5	チャート	13.6	13.9	4.8	0.60	9611		
写真図版16-317	BG29	1	石鏃	II-5	チャート	14.6	13.3	2.4	0.40	9523		
写真図版16-318	BH29	1	石鏃	II-5	チャート	12.4	9.8	3.0	0.30	9904		
写真図版16-319	BH30	1	石鏃	II-5	チャート	10.9	10.1	2.6	0.20	10059		
写真図版16-320	BH30	1	石鏃	II-5	チャート	13.0	16.5	4.7	0.90	9526		
写真図版16-321	BI32	2	石鏃	II-5	チャート	16.2	16.7	3.1	0.70	9591		
写真図版16-322	BI32	2	石鏃	II-5	チャート	11.7	10.6	2.8	0.20	9589		
写真図版16-323	BG29	不	石鏃	II-5	チャート	16.4	13.8	2.2	0.50	9530		
写真図版16-324	BF	1	石鏃	II-5	チャート	17.6	8.4	4.2	0.50	10177		
写真図版16-325	BH29	1	石鏃	II-5	チャート	12.8	8.4	4.3	0.40	9906		
写真図版16-326	BH29	1	石鏃	II-5	チャート	18.1	10.5	3.9	0.70	9908		
写真図版16-327	BH29	1	石鏃	II-5	チャート	13.0	10.2	2.5	0.30	9909		
写真図版16-328	BH29	2	石鏃	II-5	チャート	15.5	9.9	2.8	0.30	9774		
写真図版16-329	BH29	2	石鏃	II-5	チャート	10.0	14.7	10.8	0.20	9772		
写真図版16-330	BI30	3	石鏃	II-5	チャート	23.6	20.4	6.0	2.35	9383		
写真図版16-331	BJ27	不	石鏃	II-5	チャート	27.5	15.9	5.0	1.70	9478		
写真図版16-332	BI32	1	石鏃	II-5	チャート	16.5	7.7	3.5	0.40	9961		
写真図版16-333	BH29	2	石鏃	II-5	チャート	12.2	12.6	2.8	0.30	9766		
写真図版16-334	BH29	1	石鏃	II-5	チャート	15.1	9.7	2.3	0.30	9765		
写真図版16-335	BH29	1	石鏃	II-5	チャート	9.1	7.8	2.7	0.10	9764		
写真図版16-336	BJ32	2	石鏃	II-5	珪質頁岩	30.7	17.6	4.0	1.90	9389		
写真図版16-337	BJ33	2	石鏃	II-5	チャート	19.2	16.4	3.1	1.00	9483		
写真図版16-338	BG29	1	石鏃	II-5	チャート	18.2	16.0	3.2	0.70	10210		
写真図版16-339	BH29	3	石鏃	II-5	チャート	21.4	15.6	4.4	1.40	9601		
写真図版16-340	BJ31	3	石鏃	II-5	チャート	25.1	21.3	6.2	3.30	10131		

第8表 遺構外出土石器一覽表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号	
第44図20、 第44図21、 第44図22、	写真図版16-341	BG29	1	石鏃	Ⅱ-5	チャート	24.6	12.0	3.5	1.10	10172
	写真図版16-342	BG29	1	石鏃	Ⅱ-5	黒曜石	21.4	15.7	5.5	1.30	9445
	写真図版16-343	BH32	2	尖頭石器		チャート	22.4	19.5	8.9	4.00	9455
	写真図版16-344	BJ28	3	尖頭石器		珩質頁岩	33.0	21.1	8.5	4.50	9429
	写真図版16-345	BI30	3	尖頭石器	B-a	チャート	21.1	15.0	9.0	2.90	9954
	写真図版16-346	BH30	1	尖頭石器	I-B-a	チャート	27.7	22.2	10.7	5.40	10030
	写真図版16-347	BI30	3	尖頭石器	I-B-a	チャート	25.8	21.6	9.1	4.80	9435
	写真図版16-348	BG29	礫	尖頭石器	I-B-a	チャート	28.0	21.7	8.9	2.50	9976
	写真図版16-349	BH29	3	尖頭石器	I-B-a	珩質頁岩	34.2	23.4	11.1	8.70	9453
	写真図版16-350	BG28	3	尖頭石器	I-B-a	チャート	28.2	20.7	10.2	4.80	10109
	写真図版16-351	不明	1	尖頭石器	Ⅱ-A-b	チャート	24.5	22.2	10.9	4.60	10110
	写真図版16-352	BH29	1	尖頭石器	Ⅱ-B-a	チャート	26.2	17.3	8.4	3.00	9614
	写真図版16-353	BI30	1	尖頭石器	Ⅱ-B-a	チャート	29.8	24.1	18.6	14.2	10108
	写真図版16-354	BH29	3	尖頭石器	Ⅱ-B-a	珩質頁岩	29.2	22.5	9.3	4.90	9975
	写真図版16-355	BJ32	2	尖頭石器	Ⅱ-B-a	チャート	23.3	17.1	7.6	2.30	10233
	写真図版16-356	BI30	3	尖頭石器	Ⅱ-B-a	チャート	29.8	24.7	11.3	6.50	9958
	写真図版16-357	BH30	1	尖頭石器	Ⅱ-B-b	チャート	32.5	30.8	7.9	7.10	9451
第44図23、	写真図版16-358	BG29	礫	石錐		珩質頁岩	18.1	6.1	3.7	0.50	9978
	写真図版16-359	BH30	2	石錐	I	チャート	20.3	18.0	7.1	2.70	9876
	写真図版16-360	BI30	1	石錐	I	チャート	34.8	15.5	7.6	2.40	10081
	写真図版16-361	BG29	1	石錐	I	珩質頁岩	29.3	22.7	5.6	3.00	9522
	写真図版16-362	BH29	3	石錐	Ⅱ	チャート	31.1	15.6	9.6	4.10	9461
	写真図版16-363	BI30	2	石錐	Ⅱ	チャート	32.8	8.8	6.0	1.35	9430
	写真図版16-364	BH30	1	石錐	Ⅱ	チャート	25.4	19.7	6.3	1.80	10031
	写真図版16-365	BJ31	2	石錐	Ⅱ	珩質頁岩	24.2	21.6	11.3	2.40	9438
第44図24、	写真図版16-366	BI32	2	石匙		チャート	23.2	23.6	6.7	4.00	10194
	写真図版16-367	BJ33	4	石匙	I-A-a	チャート	41.5	37.1	9.8	11.8	9519
	写真図版17-521	BH30	4	石匙	I-B-a	チャート	66.7	42.3	8.0	15.40	9518
	写真図版16-368	BG28	2	石匙	I-B-b	チャート	24.9	14.0	4.4	1.50	10206
第44図25、	写真図版16-369	BJ31	2	石匙	Ⅱ-A-a	チャート	32.5	11.6	4.5	1.50	9403
	写真図版16-370	BJ33	3	石匙	Ⅱ-A-a	珩質頁岩	50.0	24.8	24.8	8.90	10195
	写真図版16-371	BJ32	5	石匙	Ⅱ-A-a	チャート	60.1	20.1	4.8	5.70	9520
	写真図版16-372	BJ31	5	石匙	Ⅱ-A-a	珩質頁岩	52.8	28.7	11.8	13.60	10139
	写真図版16-373	BG27	2	石匙	Ⅱ-B-a	溶結凝灰岩	68.3	24.2	7.4	12.30	10196
	写真図版16-374	BG30	1	石匙	Ⅱ-B-a	珩質頁岩	49.8	16.3	7.9	5.60	10115
	写真図版16-375	BH29	3	石匙	Ⅱ-B-a	珩質頁岩	34.5	17.2	7.7	4.00	9977
	写真図版16-376	BJ31	5	不定形石器	I-A-a	チャート	20.3	16.2	9.6	4.00	10149
	写真図版16-377	BH30	1	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	20.9	18.8	4.3	1.90	10023
	写真図版16-378	BJ31	3	不定形石器	I-A-a	チャート	25.1	19.1	10.1	4.40	9555
第44図26、 第44図27、 第44図28、 第44図29、	写真図版16-379	BJ11	5	不定形石器	I-A-a	チャート	40.6	20.8	8.7	7.70	10159
	写真図版16-380	BH29	3	不定形石器	I-A-a	チャート	22.2	18.1	5.7	1.90	9561
	写真図版16-381	BH32	2	不定形石器	I-A-a	チャート	23.1	30.0	10.6	8.00	9549
	写真図版16-382	BH30	3	不定形石器	I-A-a	黒曜石	25.1	23.8	10.0	5.70	9566
	写真図版16-383	BG29	2	不定形石器	I-A-a	タタキ石	34.6	29.5	10.5	11.20	10086
	写真図版16-384	BH30	3	不定形石器	I-A-a	チャート	24.2	23.7	7.9	3.80	9447
	写真図版16-385	BH30	1	不定形石器	I-A-a	チャート	27.0	18.2	9.5	3.70	9525
	写真図版16-386	BJ32	2	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	42.7	21.6	7.9	7.40	10093
	写真図版16-387	不明	礫	不定形石器	I-A-a	チャート	21.1	18.4	10.4	3.50	9567
	写真図版16-388	不明	礫	不定形石器	I-A-a	チャート	18.0	16.1	4.7	1.10	9584
	写真図版16-389	BH32	2	不定形石器	I-A-a	チャート	43.8	32.2	9.4	13.40	9536
	写真図版16-390	BG29	2	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	55.2	19.0	9.1	9.40	10106
	写真図版16-391	BH29	礫	不定形石器	I-A-a	チャート	42.1	22.1	9.5	6.70	9529
	写真図版16-392	BH28	2	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	27.6	20.1	9.9	5.10	9570
	写真図版16-393	CA34	2	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	28.2	16.7	15.9	1.70	9574
	写真図版16-394	BJ31	5	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	26.0	18.2	10.4	5.00	10155
	写真図版16-395	BH29	3	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	39.7	33.4	7.9	10.00	9943
	写真図版17-396	BH29	2	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	51.5	19.1	10.2	7.40	9875
	写真図版17-397	BH29	1	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	38.6	31.4	12.8	10.60	9930
	写真図版17-398	BH29	2	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	37.2	27.3	8.3	7.00	9931
	写真図版17-399	BH29	3	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	36.5	21.3	8.2	6.50	9778
	写真図版17-400	BH29	2	不定形石器	I-A-a	チャート	26.3	22.3	8.6	4.70	9934
	写真図版17-401	BJ31	3	不定形石器	I-A-a	チャート	34.0	25.7	9.0	5.00	10161
	写真図版17-402	BH29	3	不定形石器	I-A-a	チャート	31.3	22.3	12.0	9.00	9936
	写真図版17-403	BH29	3	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	48.3	24.9	12.0	13.20	9945
	写真図版17-404	BH29	1	不定形石器	I-A-a	チャート	32.2	23.6	8.3	6.10	9948
写真図版17-405	BG27	2	不定形石器	I-A-a	珩質頁岩	23.6	14.4	4.3	1.40	10165	
写真図版17-406	BJ31	5	不定形石器	I-A-a	黒曜石	17.6	14.1	3.8	0.90	9966	
写真図版17-407	BF	1	不定形石器	I-A-b	チャート	31.0	19.5	13.6	8.00	10176	
写真図版17-408	BH30	1	不定形石器	I-A-b	細粒砂岩	60.0	28.5	8.4	13.70	10415	
写真図版17-409	BJ27	礫	不定形石器	I-A-b	チャート	28.8	20.6	8.0	5.10	9562	
写真図版17-410	BG27	礫	不定形石器	I-A-b	珩質頁岩	26.2	17.0	4.5	3.00	9563	
写真図版17-411	BJ31	5	不定形石器	I-A-b	珩質頁岩	38.1	26.5	17.3	14.30	10143	
写真図版17-412	BH30	3	不定形石器	I-A-b		22.0	17.4	8.3	3.60	10239	
写真図版17-413	BH29	3	不定形石器	I-A-b	チャート	26.5	14.7	10.8	3.10	9560	
写真図版17-414	BJ31	3	不定形石器	I-A-b	チャート	27.3	16.1	7.2	3.00	10160	
写真図版17-415	BH28	2	不定形石器	I-A-b	チャート	22.4	11.3	4.6	1.10	9569	
写真図版17-416	不明	1	不定形石器	I-A-b	チャート	56.8	30.4	8.7	15.80	10235	
写真図版17-417	BH30	1	不定形石器	I-A-b	珩質凝灰岩	28.3	23.8	8.2	4.30	10234	
写真図版17-418	BH33	3	不定形石器	I-A-b	チャート	28.1	26.8	9.8	7.80	9580	
写真図版17-419	不明	1	不定形石器	I-A-b	チャート	23.1	20.0	4.4	2.20	9577	
写真図版17-420	BJ31	5	不定形石器	I-A-b	チャート	32.3	35.0	12.1	12.10	10152	
写真図版17-421	BF	1	不定形石器	I-A-b	チャート	19.7	11.5	3.1	0.70	10178	
写真図版17-422	不明	1	不定形石器	I-A-b	チャート	31.6	15.6	11.2	3.70	9579	
写真図版17-423	BH28	1	不定形石器	I-A-b	珩質頁岩	22.0	19.6	12.1	4.90	10180	
写真図版17-424	BH28	1	不定形石器	I-A-b	珩質凝灰岩	31.8	15.8	8.4	4.10	10182	

第9表 遺構外出土石器一覽表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
写真図版17-425	BJ31	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	52.7	33.6	13.0	14.90	10162
写真図版17-426	CD41	3	不定形石器	I-A-b	チャート	19.0	12.7	2.8	0.60	10190
写真図版17-427	BI29	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	33.6	22.8	5.0	4.20	10183
写真図版17-428	CA33	1	不定形石器	I-A-b	チャート	25.6	20.4	6.2	2.70	10187
写真図版17-429	BJ31	5	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	16.3	18.7	3.9	0.90	10147
写真図版17-430	CC38	2	不定形石器	I-A-b	細粒砂岩	51.2	17.5	10.1	8.40	10188
写真図版17-431	BF	1	不定形石器	I-A-b	チャート	24.1	20.9	8.5	2.70	10175
写真図版17-432	BH29	3	不定形石器	I-A-b	チャート	21.2	20.2	7.1	2.50	9944
写真図版17-433	BG30	1	不定形石器	I-A-b	タンパク石?	20.4	21.8	11.2	5.90	10125
写真図版17-434	CG41	3	不定形石器	I-A-b	流紋岩	60.5	50.7	18.5	44.70	10018
写真図版17-435	BH30	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	22.1	25.3	6.5	3.10	9986
写真図版17-436	不明	群	不定形石器	I-A-b	チャート	27.1	18.1	8.8	3.80	9974
写真図版17-437	CF41	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	34.8	43.6	8.0	7.80	9973
写真図版17-438	BJ31	5	不定形石器	I-A-b	チャート	34.3	32.6	10.8	14.00	9968
写真図版17-439	BJ31	5	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	26.0	20.6	6.8	3.30	9967
写真図版17-440	BJ32	1	不定形石器	I-A-b	チャート	34.1	12.6	10.7	3.90	9962
写真図版17-441	BH30	2	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	25.3	23.5	11.1	6.40	9753
写真図版17-442	BI30	3	不定形石器	I-A-b	チャート	30.6	25.7	12.5	7.10	9955
写真図版17-443	BH30	2	不定形石器	I-A-b	チャート	21.0	18.3	9.7	2.80	9752
写真図版17-444	BH29	3	不定形石器	I-A-b	チャート	42.1	20.2	9.6	6.00	9940
写真図版17-445	BH29	3	不定形石器	I-A-b	チャート	86.6	50.4	12.8	46.30	9939
写真図版17-446	BH29	2	不定形石器	I-A-b	チャート	26.7	19.8	9.4	3.60	9933
写真図版17-447	BH29	1	不定形石器	I-A-b	チャート	24.0	19.1	5.4	2.20	9928
写真図版17-448	BH29	1	不定形石器	I-A-b	チャート	17.3	15.5	4.4	1.20	9927
写真図版17-449	BH29	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	35.7	27.2	9.8	8.60	9868
写真図版17-450	BI30	3	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	36.3	14.9	8.4	4.60	9956
写真図版17-451	BH29	1	不定形石器	I-A-b	チャート	24.3	17.3	6.6	2.30	9735
写真図版17-452	BH29	1	不定形石器	I-A-b	チャート	37.1	15.8	19.9	4.80	9544
写真図版17-453	BJ31	5	不定形石器	I-A-b	チャート	55.2	43.4	21.9	39.10	10142
写真図版17-454	BH30	3	不定形石器	I-A-b	チャート	36.6	29.7	7.6	4.80	9464
写真図版17-455	BJ32	2	不定形石器	I-A-b	チャート	33.9	20.9	10.4	6.10	9550
写真図版17-456	BG30	1	不定形石器	I-A-b	チャート	35.8	24.4	13.7	8.40	10122
写真図版17-457	BH30	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	31.8	27.5	9.5	6.40	9531
写真図版17-458	BJ32	3	不定形石器	I-A-b	細粒砂岩	51.5	17.1	4.1	4.30	10096
写真図版17-459	BJ32	2	不定形石器	I-A-b	チャート	32.2	27.1	14.3	14.10	10095
写真図版17-460	BJ32	2	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	30.5	23.6	9.3	6.30	10094
写真図版17-461	BJ31	3	不定形石器	I-A-b	チャート	25.7	17.2	7.3	2.20	9553
写真図版17-462	BH30	1	不定形石器	I-A-b	珪質頁岩	37.9	18.1	6.8	2.40	10024
写真図版17-463	BG28	3	不定形石器	I-A-b	チャート	37.4	17.8	10.2	7.20	9558
写真図版17-464	BH29	1	不定形石器	I-A-c	珪質頁岩	25.5	18.5	5.2	2.50	9872
写真図版17-465	BH32	2	不定形石器	I-A-c	黒曜石	31.2	12.1	5.1	1.70	9548
写真図版17-466	BJ31	5	不定形石器	I-A-c	チャート	36.5	17.6	10.7	8.30	10144
写真図版17-467	BJ22	3	不定形石器	I-B-a	チャート	20.7	15.1	7.3	2.40	9552
写真図版17-468	BJ33	2	不定形石器	I-B-a	チャート	23.1	27.7	8.1	4.80	9551
写真図版17-469	BH30	1	不定形石器	I-B-a	チャート	21.4	23.0	9.6	5.30	9532
写真図版17-470	BJ32	2	不定形石器	I-B-a	チャート	23.4	24.6	8.0	3.80	9437
写真図版17-471	BJ32	3	不定形石器	I-B-a	チャート	30.4	12.3	4.1	2.20	9443
写真図版17-472	BJ31	2	不定形石器	I-B-a	チャート	35.4	15.4	8.5	3.60	9533
写真図版17-473	BJ31	5	不定形石器	I-B-a	チャート	29.7	22.6	13.2	9.70	10156
写真図版17-474	BG28	2	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	42.5	33.0	10.0	15.50	10167
写真図版17-475	BJ31	5	不定形石器	I-B-a	チャート	26.3	23.7	11.6	7.10	10146
写真図版17-476	BG29	1	不定形石器	I-B-a	チャート	15.2	17.7	5.9	1.40	10174
写真図版17-477	BH29	1	不定形石器	I-B-a	チャート	31.0	18.9	9.1	4.10	9870
写真図版17-478	BH28	1	不定形石器	I-B-a	チャート	28.0	21.9	10.5	4.50	10179
写真図版17-479	BG28	2	不定形石器	I-B-a	チャート	19.7	16.5	7.7	2.80	10087
写真図版17-480	CD41	3	不定形石器	I-B-a	チャート	31.0	15.5	7.6	2.70	10191
写真図版17-481	BI30	3	不定形石器	I-B-a	チャート	39.6	16.0	9.4	2.60	9957
写真図版17-482	BG30	1	不定形石器	I-B-a	凝灰質頁岩	35.7	31.9	6.4	9.20	10123
写真図版17-483	BG30	1	不定形石器	I-B-a	チャート	27.2	28.4	8.3	5.70	10124
写真図版17-484	BJ31	5	不定形石器	I-B-a	珪質頁岩	32.1	13.4	6.3	2.30	10148
写真図版17-485	BI30	1	不定形石器	I-B-b	チャート	28.6	19.9	6.1	2.50	10090
写真図版17-486	BJ31	3	不定形石器	I-B-b	チャート	16.7	15.5	8.2	1.70	9554
写真図版17-487	CA33	3	不定形石器	I-B-b	チャート	21.3	16.5	3.4	1.00	9539
写真図版17-488	BH30	2	不定形石器	I-B-b	チャート	28.6	26.4	11.4	7.00	9542
写真図版17-489	BH30	2	不定形石器	I-B-b	チャート	30.6	19.5	7.4	4.30	9541
写真図版17-490	BH30	1	不定形石器	I-B-b	チャート	39.0	21.4	11.5	7.70	9540
写真図版17-491	BH30	1	不定形石器	I-B-b	チャート	20.0	16.7	4.6	1.60	9545
写真図版17-492	BJ32	2	不定形石器	I-B-b	チャート	28.0	15.1	6.7	2.10	9538
写真図版17-493	BH29	1	不定形石器	I-B-b	チャート	31.2	25.5	9.8	6.70	9867
写真図版17-494	BF29	補	不定形石器	I-B-b	チャート	14.4	18.6	5.2	0.90	9546
写真図版17-495	BH29	1	不定形石器	I-B-b	チャート	25.8	18.5	10.1	5.20	9869
写真図版17-496	BH30	3	不定形石器	I-B-b	チャート	26.1	14.1	8.7	3.00	10026
写真図版17-497	BH30	3	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	30.1	19.4	10.5	5.00	10025
写真図版17-498	BH30	3	不定形石器	I-B-b	チャート	48.5	37.1	14.5	19.60	9987
写真図版17-499	BI32	2	不定形石器	I-B-b	タンパク石?	26.2	22.9	11.7	5.10	9613
写真図版17-500	BH29	3	不定形石器	I-B-b	チャート	25.7	13.0	3.2	1.10	9938
写真図版17-501	BI30	3	不定形石器	I-B-b	チャート	32.5	22.0	18.5	6.20	9953
写真図版17-502	BH30	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	64.5	33.6	14.4	21.00	9949
写真図版17-503	BG31	3	不定形石器	I-B-b	チャート	24.8	17.5	8.3	3.30	10083
写真図版17-504	BJ31	5	不定形石器	I-B-b	チャート	24.2	14.5	7.5	2.10	10153
写真図版17-505	BG29	1	不定形石器	I-B-b	チャート	23.4	13.8	6.0	1.90	10173
写真図版17-506	BH28	2	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	21.9	14.2	2.7	0.70	9568
写真図版17-507	BG27	2	不定形石器	I-B-b	チャート	40.9	22.6	9.6	7.20	10166
写真図版17-508	BG29	1	不定形石器	I-B-b	珪質頁岩	64.0	37.0	12.4	31.80	10169
写真図版17-509	CA34	2	不定形石器	I-B-b	チャート	36.9	25.6	12.1	8.60	9575

第10表 遺構外出土石器一覧表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号	
第44図33、	写真図版17-510	CB37	1	不定形石器	I-B-b	チャート	43.4	50.7	11.2	18.90	10186
	写真図版17-511	BJ31	5	不定形石器	I-B-b	チャート	27.0	17.8	7.7	3.20	10154
	写真図版17-512	CD41	3	不定形石器	I-B-b	チャート	15.2	14.5	6.8	1.60	10189
	写真図版17-513	BI31	5	不定形石器	I-B-b	チャート	28.6	29.5	7.4	5.10	9582
	写真図版17-514	CE40	2	不定形石器	I-B-b	チャート	60.5	36.5	8.6	15.50	10192
	写真図版17-515	CE40	2	不定形石器	I-B-b	チャート	20.5	19.7	7.5	2.80	10193
	写真図版17-516	CE40	2	不定形石器	I-B-b	タンバク石?	25.5	23.7	8.1	6.10	10228
	写真図版17-517	BJ31	5	不定形石器	I-B-b	チャート	34.0	10.7	6.7	2.30	10151
	写真図版17-518	BG27	2	不定形石器	I-B-b	チャート	31.3	19.8	8.0	5.50	10163
	写真図版17-519	BH30	1	不定形石器	I-B-b	チャート	18.0	12.4	8.1	1.50	10414
第44図34、	写真図版17-520	BI32	2	不定形石器	I-B-c	チャート	25.6	24.1	8.4	5.00	9572
	写真図版18-522	BJ32	2	不定形石器	I-B-c	珪質頁岩	22.2	19.3	5.2	1.70	10184
	写真図版18-523	BH29	1	不定形石器	II-A-a	チャート	23.1	19.0	5.8	2.50	9736
	写真図版18-524	BH29	2	不定形石器	II-A-a	珪質頁岩	42.7	35.4	7.5	8.40	9733
	写真図版18-525	CD41	3	不定形石器	II-A-a	珪質頁岩	34.2	21.3	4.5	3.10	9972
	写真図版18-526	BH30	1	不定形石器	II-A-a	チャート	26.5	15.2	4.3	1.70	9947
	写真図版18-527	CB37	1	不定形石器	II-A-a	珪質頁岩	18.7	13.0	3.0	0.80	10185
	写真図版18-528	BG31	3	不定形石器	II-A-a	珪質頁岩	56.3	27.1	7.3	10.40	10112
	写真図版18-529	BI30	3	不定形石器	II-A-b	珪質頁岩	53.2	25.8	7.2	11.40	10092
	写真図版18-530	BG28	3	不定形石器	II-A-b	チャート	39.1	23.7	7.7	6.80	9556
第44図35、	写真図版18-531	BG29	2	不定形石器	II-A-b	珪質頁岩	24.7	18.9	4.2	1.60	10085
	写真図版18-532	BH29	2	不定形石器	II-A-b	チャート	14.3	12.2	5.3	0.70	9932
	写真図版18-533	BH29	1	不定形石器	II-A-b	珪質頁岩	19.4	25.1	5.7	2.50	9929
	写真図版18-534	BI30	3	不定形石器	II-A-b	チャート	35.7	24.8	10.2	10.00	9960
	写真図版18-535	BH29	1	不定形石器	II-A-b	チャート	21.8	18.4	7.0	2.60	9543
	写真図版18-536	BI30	1	不定形石器	II-A-c	珪質頁岩	54.0	27.7	9.7	5.10	10107
	写真図版18-537	BH30	1	不定形石器	II-A-c	チャート	29.8	20.0	12.3	6.40	9433
	写真図版18-538	BG28	3	不定形石器	II-A-c	珪質頁岩	22.3	17.4	3.4	1.40	9441
	写真図版18-539	BG29	1	不定形石器	II-A-c	チャート	25.9	17.6	6.3	3.30	10171
	写真図版18-540	BJ31	5	不定形石器	II-A-d	珪質頁岩	41.1	18.2	2.9	2.50	10140
第44図36、	写真図版18-541	BH30	1	不定形石器	II-B-a	チャート	34.1	31.3	8.7	8.40	10409
	写真図版18-542	BI30	1	不定形石器	II-B-a	珪質頁岩	37.2	23.9	8.1	7.90	10091
	写真図版18-543	BG29	2	不定形石器	II-B-a	珪質頁岩	38.8	21.4	16.4	4.40	10084
	写真図版18-544	BH29	1	不定形石器	II-B-b	チャート	32.9	16.5	6.5	3.00	9737
	写真図版18-545	BH30	1	不定形石器	II-B-b	タンバク石?	20.3	26.9	9.3	3.70	9448
	写真図版18-546	BI30	3	不定形石器	II-B-b	チャート	32.4	23.0	12.2	10.30	9959
	写真図版18-547	BH29	1	不定形石器	II-B-b	チャート	17.7	15.9	6.9	1.90	9866
	写真図版18-548	BJ32	3	不定形石器	II-B-c	チャート	30.4	12.3	6.3	2.40	9442
	写真図版18-549	BH30	3	不定形石器	II-B-c	タンバク石?	32.2	15.0	7.6	3.60	9951
	写真図版18-550	BH30	1	不定形石器	II-B-c	チャート	20.5	17.9	4.9	2.00	9434
第44図37、	写真図版18-551	BJ31	5	不定形石器	II-B-c	チャート	27.4	21.9	8.9	4.20	10150
	写真図版18-552	BH30	2	不定形石器	II-C-a	チャート	41.8	32.6	11.3	12.90	9449
	写真図版18-553	BH30	2	不定形石器	II-C-a	珪質頁岩	31.0	24.0	6.9	5.50	9950
	写真図版18-554	BJ33	3	不定形石器	II-C-a	チャート	36.4	19.4	9.3	6.00	9537
	写真図版18-555	BH30	2	不定形石器	II-C-b	珪質頁岩	36.9	20.0	4.5	2.00	9571
	写真図版18-556	BH30	2	不定形石器	II-C-b	チャート	14.0	14.8	3.4	0.80	9524
	写真図版18-557	BI30	1	不定形石器	III-A-a	珪質頁岩	29.0	27.5	8.0	6.90	10088
	写真図版18-558	BH30	4	不定形石器	III-A-a	チャート	38.5	29.8	9.8	7.90	9528
	写真図版18-559	BJ31	3	不定形石器	III-B-a	珪質頁岩	28.6	26.9	8.0	5.20	9964
	写真図版18-560	BG29	3	不定形石器	III-B-b	チャート	31.3	16.4	7.7	3.30	9457
第44図40、	写真図版18-561	BH29	3	不定形石器	III-C-b	珪質頁岩	49.8	44.2	14.0	14.90	9946
	写真図版18-562	BJ31	5	不定形石器	III-C-d	珪質頁岩	63.5	44.5	18.5	30.60	10141
	写真図版18-563	BH29	2	不定形石器	III-C-c	チャート	30.7	25.7	8.7	5.50	9777
	写真図版18-564	BG28	2	不定形石器	IV	チャート	25.2	29.5	10.4	9.50	10168
	写真図版18-565	BI30	1	不定形石器	V	チャート	24.0	21.4	7.5	3.90	10089
	写真図版18-566	BH29	1	不定形石器	V	チャート	35.9	25.0	13.2	11.10	9871
	写真図版18-567	CA38	不明	不定形石器	V	チャート	32.9	23.1	14.0	10.30	9970
	写真図版18-568	BH29	1	不定形石器	VI	チャート	28.3	14.6	2.9	1.20	9873
	写真図版18-569	BJ32	2	不定形石器	VI	チャート	31.7	23.6	11.2	8.00	10229
	写真図版18-570	不明	不明	不定形石器	VI	チャート	20.6	20.5	2.4	0.80	9585
第44図41、	写真図版18-571	BH30	1	不定形石器	VI	珪質頁岩	38.4	19.3	9.8	5.40	10097
	写真図版18-572	BG28	3	不定形石器	VI	チャート	28.6	12.8	2.4	0.70	9559
	写真図版18-573	CA33	1	不定形石器	VI	玄武岩	29.3	29.2	14.1	9.90	9969
	写真図版18-574	BH31	1	不定形石器	VI	チャート	20.1	19.7	7.1	2.30	9952
	写真図版18-575	BI30	3	不定形石器	VI	チャート	35.8	35.4	9.6	14.80	9440
	写真図版18-576	BJ11	5	不定形石器	VI	珪質頁岩	30.1	21.7	7.6	4.70	10157
	写真図版18-577	BG29	1	不定形石器	VI	珪質頁岩	39.1	23.0	8.7	5.60	10230
	写真図版18-578	BJ31	5	不定形石器	VI	チャート	29.7	21.8	7.3	5.10	10145
	写真図版18-579	BI30	3	不定形石器	VI	珪質頁岩	43.6	18.9	7.1	6.30	10416
	写真図版18-580	BJ33	2	不定形石器	VI	細粒砂岩	27.7	15.3	6.0	2.50	9458
第44図42、	写真図版18-581	BH30	2	不定形石器	VI	チャート	19.6	10.9	6.2	0.90	9751
	写真図版18-582	BH30	3	不定形石器	VI	チャート	26.6	21.5	7.2	2.80	10027
	写真図版18-583	BH32	2	不定形石器	VI	チャート	23.2	17.9	7.1	3.10	9547
	写真図版18-584	CF39	3	不定形石器	VI	珪質頁岩	59.2	36.2	8.8	11.30	10082
	写真図版18-585	BH29	2	不定形石器	VI	チャート	39.8	26.0	10.6	8.60	9746
	写真図版18-586	BH28	1	不定形石器	VI	チャート	31.6	20.5	6.3	3.40	10181
	写真図版18-587	不明	不明	不定形石器	VI	珪質頁岩	64.0	39.3	20.0	30.60	10231
	写真図版18-588	BJ31	3	不定形石器	VI	チャート	28.2	18.0	11.3	3.10	9980
	写真図版18-589	BH29	3	不定形石器	VI	チャート	22.1	26.7	8.3	4.40	9941
	写真図版18-590	BH29	3	不定形石器	VI	珪質頁岩	27.6	24.0	5.2	2.70	9937
第44図43、	写真図版18-591	BH29	2	不定形石器	VI	チャート	39.2	29.3	12.3	11.40	9935
	写真図版18-592	BG29	不明	不定形石器	VI	珪質頁岩	19.0	11.7	6.8	1.50	9926
	写真図版18-593	BJ32	1	不定形石器	VI	チャート	17.3	21.8	6.9	2.10	9963
	写真図版18-594	BG29	不明	不定形石器	VI	チャート	28.2	17.3	8.2	3.00	9925
	写真図版18-595	不明	不明	不定形石器	VI	チャート	20.6	19.0	7.1	2.30	9583

第11表 遺構外出土石器一覧表

図版	地点	層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号	
第44図50、 写真図版18-596 写真図版18-597	写真図版18-596	BJ31	5	不定形石器	VI	珪質頁岩	52.6	28.5	11.4	13.00	10138
	写真図版18-597	BJ31	2	不定形石器	VI	チャート	28.4	14.8	4.0	1.95	9401
	写真図版18-598	BJ11	5	不定形石器	VI	珪質頁岩	35.3	30.2	10.2	9.20	10158
第44図51、 第45図52、 第45図53、 第45図54、 第45図55、 第45図56、 第45図57、	写真図版18-599	BH30	3	不定形石器	VI	珪質頁岩	42.7	32.7	14.0	18.10	9985
	写真図版18-600	BH29	1	不定形石器	VI	珪質頁岩	29.5	14.6	7.5	2.60	9874
	写真図版18-601	BH29	3	不定形石器	VI	チャート	24.8	23.5	6.7	3.40	9581
	写真図版18-602	不明	3	不定形石器	VI	チャート	24.0	16.3	5.7	1.90	9578
	写真図版18-603	不明	3	不定形石器	VI	チャート	28.6	21.9	11.8	4.80	9576
	写真図版18-604	BG27	2	不定形石器	VI	珪質頁岩	30.2	27.0	7.6	6.80	10164
	写真図版18-605	CA34	2	不定形石器	VI	チャート	27.3	11.9	5.8	1.60	9573
	写真図版18-606	CA36	2	打製石斧	VI	中粒砂岩	82.4	48.8	22.2	106.00	10019
	写真図版18-607	BJ31	5	打製石斧	A	細粒砂岩	69.5	33.5	14.1	37.30	10104
	写真図版18-608	BH30	3	磨製石斧	A	蛇紋岩	197.0	112.3	38.6	1069.0	9619
	写真図版18-609	BG30	1	磨製石斧	A	蛇紋岩	274.0	95.0	29.3	1194.0	9617
	写真図版18-610	BG30	1	磨製石斧	A	蛇紋岩	233.0	106.7	39.7	1415.0	9618
	写真図版18-611	BG28	3	磨製石斧	B	安山岩	72.2	38.7	23.4	126.00	9622
	写真図版18-612	BH30	2	磨製石斧	B	花崗質岩	131.6	47.9	29.6	269.00	9624
写真図版19-613	不明	3	磨製石斧	B	カンラン岩	75.2	49.2	23.7	145.00	9625	
写真図版19-614	BG29	3	磨製石斧	B	安山岩	90.5	49.7	25.3	198.00	9626	
写真図版19-615	CD39	3	磨製石斧	B	カンラン岩	80.0	49.4	19.8	140.00	9627	
写真図版19-616	BH	3	磨製石斧	B	安山岩	88.2	54.3	22.8	168.00	10006	
写真図版19-617	BH	3	磨製石斧	B	細粒砂岩	83.7	41.5	16.4	80.00	10007	
写真図版19-618	CC38	2	磨製石斧	B	細粒砂岩	82.2	42.4	21.5	124.00	10008	
写真図版19-619	CD39	2	磨製石斧	B	溶結凝灰岩	115.0	45.6	30.1	230.00	9630	
写真図版19-620	BI31	5	磨製石斧	B	石英安山岩	62.0	35.5	26.2	70.00	9623	
写真図版19-621	BI30	1	磨製石斧	B	石英砂岩	87.2	53.5	26.8	223.00	9636	
写真図版19-622	BJ32	3	磨製石斧	B	安山岩	38.7	35.6	22.8	46.00	9638	
写真図版19-623	BG28	3	磨製石斧	B	中粒砂岩	99.0	41.2	20.9	134.00	10103	
写真図版19-624	BH30	3	磨製石斧	B	閃緑岩	62.7	34.0	13.3	50.00	9641	
写真図版19-625	BJ33	3	磨製石斧	B	珪質頁岩	82.6	47.7	23.3	173.00	9642	
写真図版19-626	BH30	3	磨製石斧	B	安山岩	65.7	35.8	21.8	85.00	9620	
写真図版19-627	CB38	3	磨製石斧	B	安山岩	119.1	40.5	31.7	250.00	10014	
写真図版19-628	BG28	3	磨製石斧	B	蛇紋岩	98.0	49.0	22.3	192.00	10102	
写真図版19-629	CA34	2	磨製石斧	C	玄武岩	153.5	55.2	28.2	345.00	10016	
写真図版19-630	BG30	3	磨製石斧	B	閃緑岩	121.3	89.8	47.0	825.00	9631	
写真図版19-631	CE40	2	磨石	B	溶結凝灰岩	207.0	77.0	38.8	871.00	10010	
写真図版19-632	BH30	3	磨石	B	中粒砂岩	86.0	42.1	18.0	118.00	9621	
写真図版19-633	CG41	3	磨石	B	細粒砂岩	109.0	34.3	36.5	198.00	10015	
写真図版19-634	EG37	3	石皿	B	粗粒砂岩	42.2	58.0	16.5	50.40	10238	
写真図版19-635	不明	2	石皿	B	珪質頁岩	92.8	84.3	44.2	445.00	9632	
第46図58、 第46図59、 第46図60、 第46図61、 第46図62、	写真図版19-636	BI30	2	石皿	B	珪質頁岩	157.3	150.7	37.9	1092.0	9628
	写真図版19-637	BG30	3	石皿	B	花崗質岩	169.2	110.0	63.7	1029.0	9650
	写真図版19-638	CB39	3	石皿	B	溶結凝灰岩	165.4	163.1	49.0	1490.0	9649
	写真図版19-639	CA36	2	石皿	B	溶結凝灰岩	90.2	58.5	22.2	118.00	10017
	写真図版19-640	BJ32	3	石皿	B	溶結凝灰岩	105.8	65.0	27.0	11.80	9629
	写真図版19-641	BJ31	2	敲打	B	花崗岩	110.0	92.9	58.5	897.00	9646
	写真図版19-642	CB40	3	敲打	B	中粒砂岩	84.6	78.2	25.1	296.00	10011
	写真図版19-643	CA39	1	器種不明	B	安山岩	72.6	45.1	23.5	127.00	10111
	写真図版19-644	BJ31	2	石棒	B	細粒砂岩	69.6	32.3	19.0	67.00	9643
	写真図版20-645	BJ32	4	石棒	B	細粒砂岩	61.5	19.1	14.2	23.30	10105
	写真図版20-646	BJ31	3	石棒	B	中流砂岩	187.0	78.8	36.7	628.00	9656
	写真図版20-647	不明	9	石棒	B	溶結凝灰岩	193.0	92.6	70.8	2400.0	10022
	写真図版20-648	BI30	1	石棒	B	花崗質岩	212.0	62.6	43.9	973.00	9633
	写真図版20-649	BG30	3	石棒	B	溶結凝灰岩	122.4	44.1	30.0	164.00	9645
写真図版20-650	BG28	3	石棒	B	中粒砂岩	34.5	23.3	17.3	20.20	10413	
写真図版20-651	BJ31	4	石棒	B	玄武岩	205.0	63.3	54.9	1150.0	9651	
写真図版20-652	BJ32	3	石棒	B	細粒砂岩	16.6	36.5	27.2	240.00	9639	
写真図版20-653	不明	3	石棒	B	中粒砂岩	63.3	23.5	12.3	28.30	9979	
第46図62、 第46図63、 第46図64、 第46図65、	写真図版20-654	BH30	3	飾垂品	B	珪質頁岩	96.0	49.5	30.8	163.00	10032
	写真図版20-655	BI30	3	石製円盤	B	細粒砂岩	45.7	39.7	9.2	25.30	9616
	写真図版20-656	BH29	3	石製円盤	B	珪質頁岩	36.0	33.0	4.1	4.40	9615
	写真図版20-657	BG28	3	石製円盤	B	粘板岩	50.0	44.9	10.6	34.30	10002
	写真図版20-658	BI30	1	石製円盤	B	花崗質岩	56.4	49.7	15.0	65.00	9640
	写真図版20-659	BH30	3	石製円盤	B	細粒砂岩	40.6	39.0	7.5	15.80	10101
	写真図版20-660	BH32	1	石製円盤	B	細粒砂岩	51.2	44.4	15.7	37.50	10099
	写真図版20-661	BG28	3	石製円盤	B	中粒砂岩	48.8	46.0	8.7	32.90	10003
	写真図版20-662	CC38	2	石製円盤	B	細粒砂岩	32.1	31.5	4.3	7.20	10004
	写真図版20-663	CE39	2	石製円盤	B	中粒砂岩	47.7	45.2	8.2	24.80	10005
	写真図版20-664	BH30	3	石製円盤	B	粘板岩	57.0	51.6	11.6	45.90	10100
	写真図版20-665	BJ31	2	礫石器	B	中粒砂岩	122.2	91.5	52.0	727.00	9647
	写真図版20-666	BH	3	礫石器	B	安山岩	179.0	98.7	40.7	897.00	10012
	写真図版20-667	BH29	3	石錘	B	溶結凝灰岩	103.0	68.9	17.7	145.00	9637
写真図版20-668	BH30	2	凹石	B	アブライト	82.4	61.8	30.8	221.00	10020	
写真図版20-669	BJ30	1	凹石	B	溶結凝灰岩	130.4	64.6	47.2	565.00	9648	
写真図版20-670	BG30	3	凹石	B	中粒砂岩	165.0	51.7	40.7	570.00	9634	
第46図65、	写真図版20-671	EB40	4	凹石	B	細粒砂岩	82.2	52.7	32.5	241.00	9635
	写真図版20-672	BG27	3	凹石	B	粗粒砂岩	109.6	83.5	38.5	446.00	10021



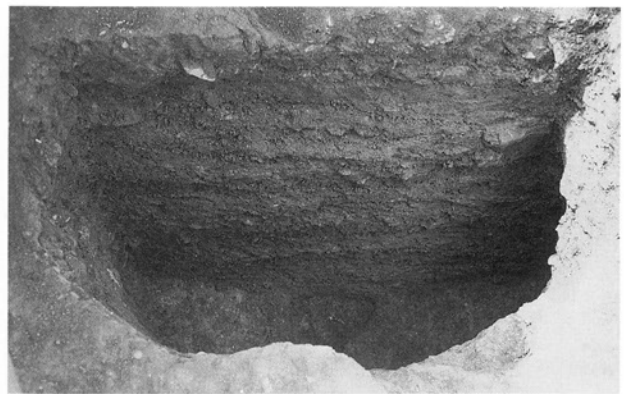
1. 遺構検出状況



2. CD39-1ピット 完掘状況



3. CG41-1ピット 半掘状況



4. DA42-1ピット 半掘状況



5. DC42-1ピット 半掘状況



6. DC43-1ピット 完掘状況



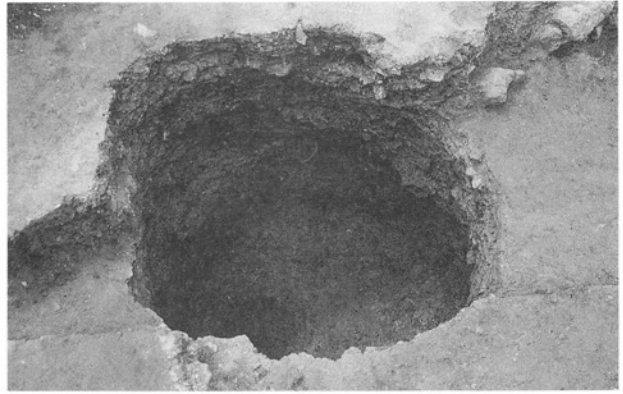
7. DD41-1ピット 完掘状況



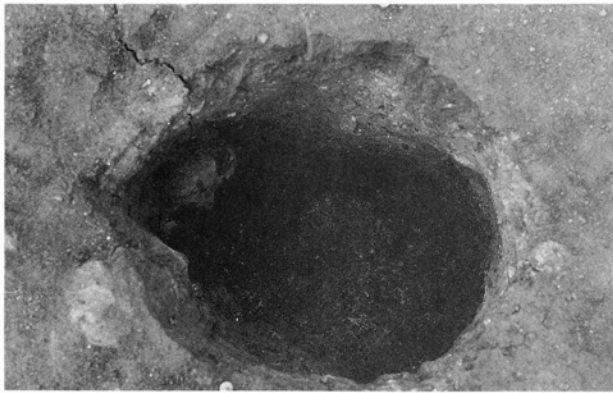
8. 遺構 完掘状況



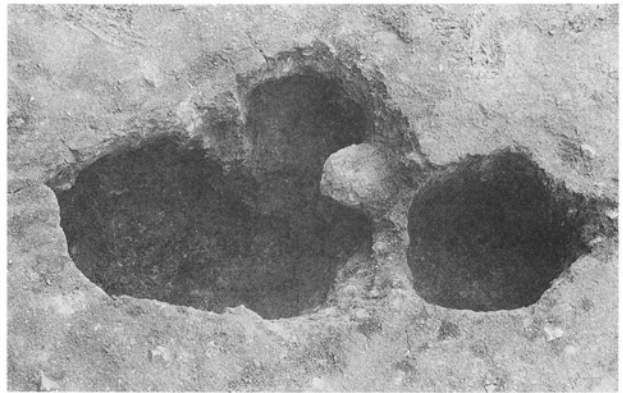
1. DF42-1ピット 完掘状況



2. DG42-1ピット 完掘状況



3. DH41-2ピット 完掘状況



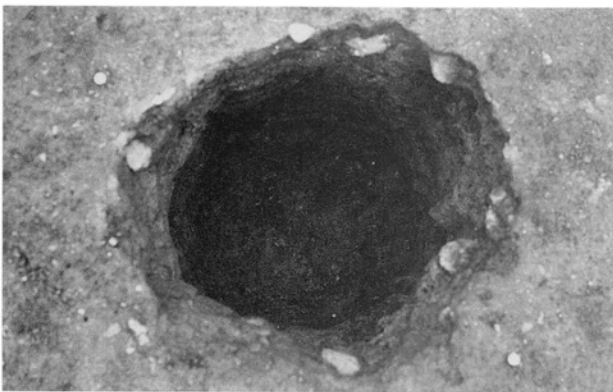
4. DI40-1ピット・DI40-2ピット・DI40-3ピット 完掘状況



5. DI40-6ピット・DI40-7ピット 完掘状況



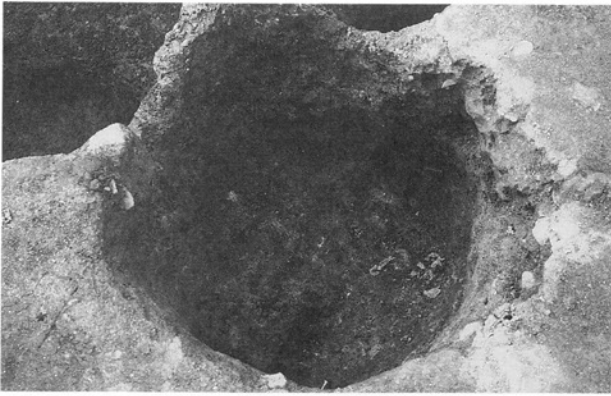
6. DI41-1ピット 完掘状況



7. DI41-4ピット 完掘状況



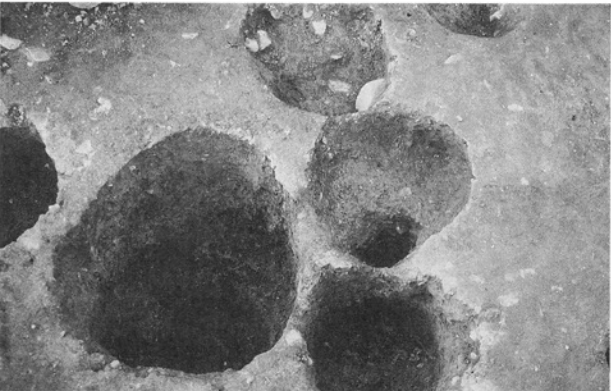
8. 溝・遺構 完掘状況



1. EB39-1ピット 完掘状況



2. EB39-12ピット 完掘状況



3. EB39-11ピット 完掘状況



4. EC38-3ピット 完掘状況



5. EC39-3ピット 完掘状況



6. EC39-6ピット 完掘状況



7. EC40-1ピット 完掘状況



8. ED39-2ピット・ED39-3ピット・ED39-4ピット
ED39-5ピット・ED39-6ピット 完掘状況

写真図版 3



1. 遺構 完掘状況



2. 遺構 完掘状況



3. 遺構 完掘状況



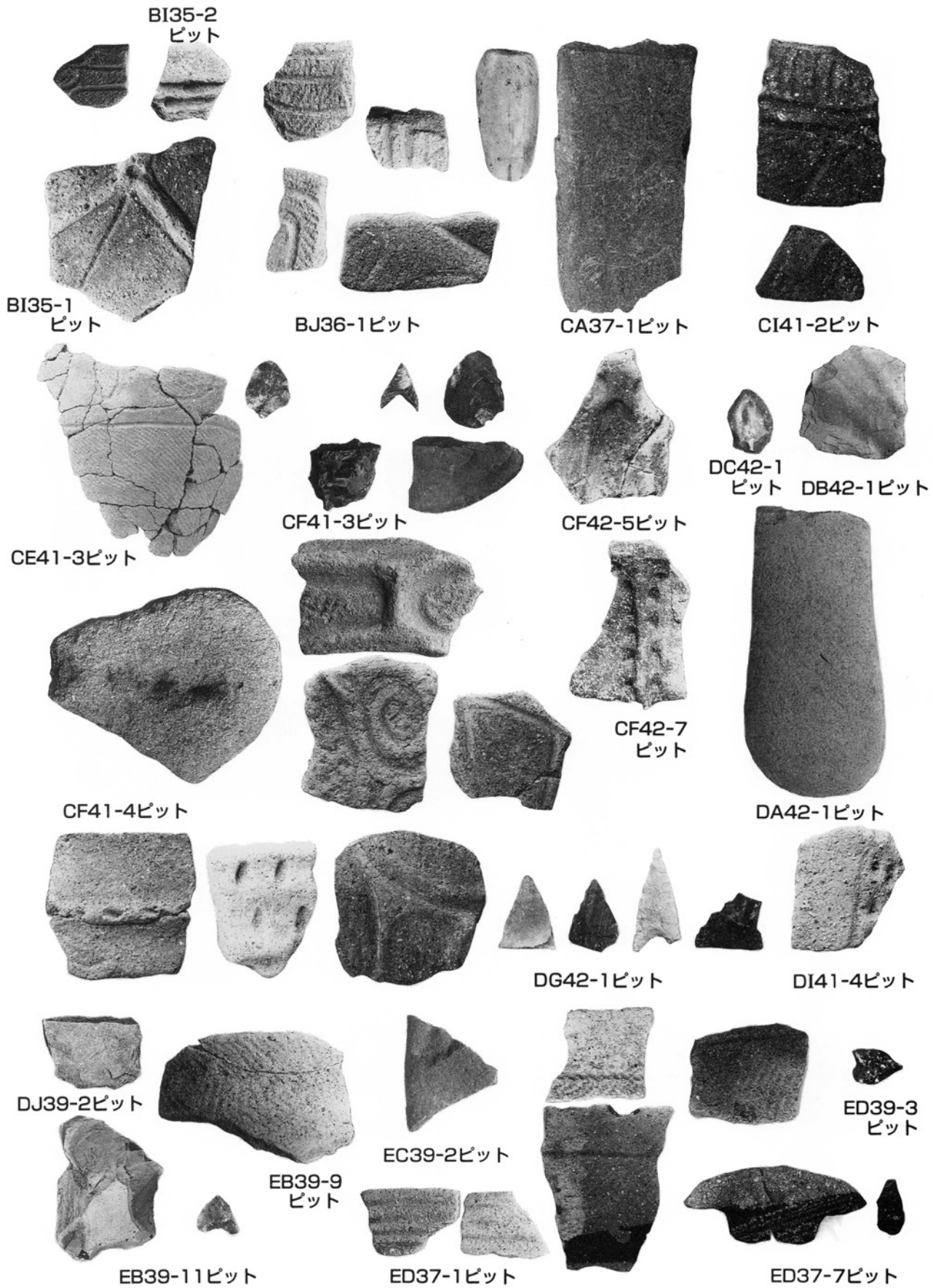
4. 土器出土状況

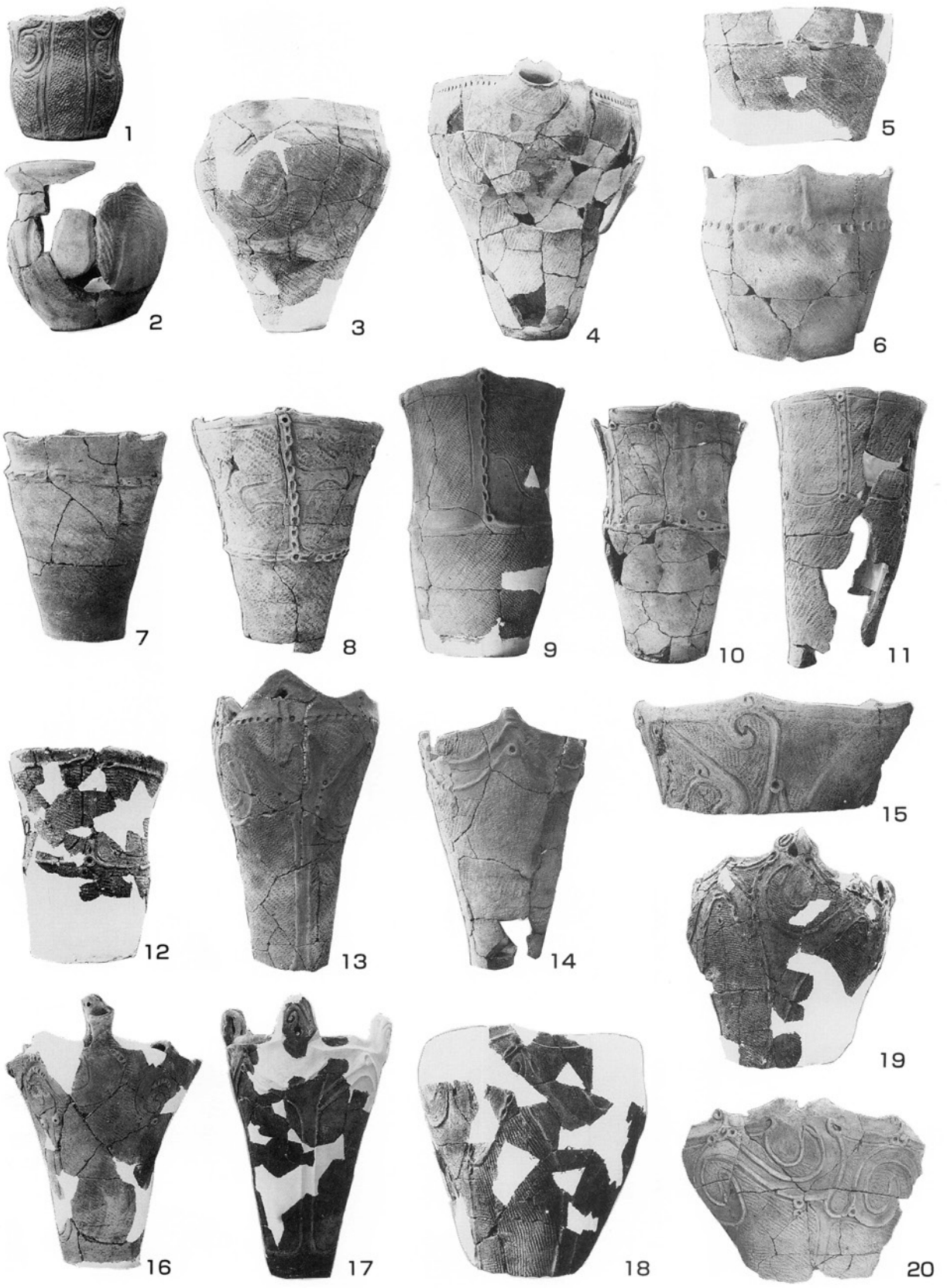


5. 土器出土状況

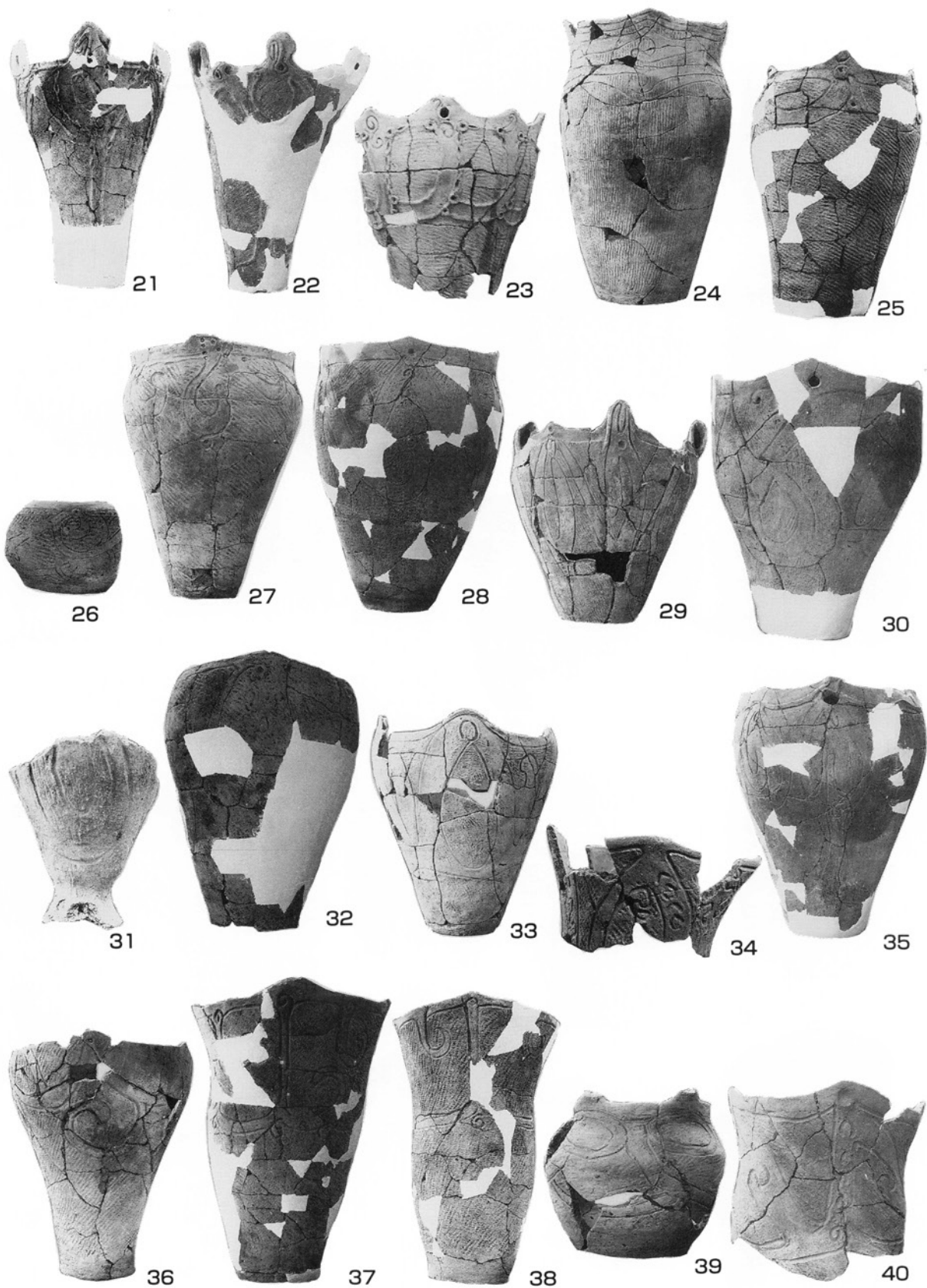


6. 土器出土状況

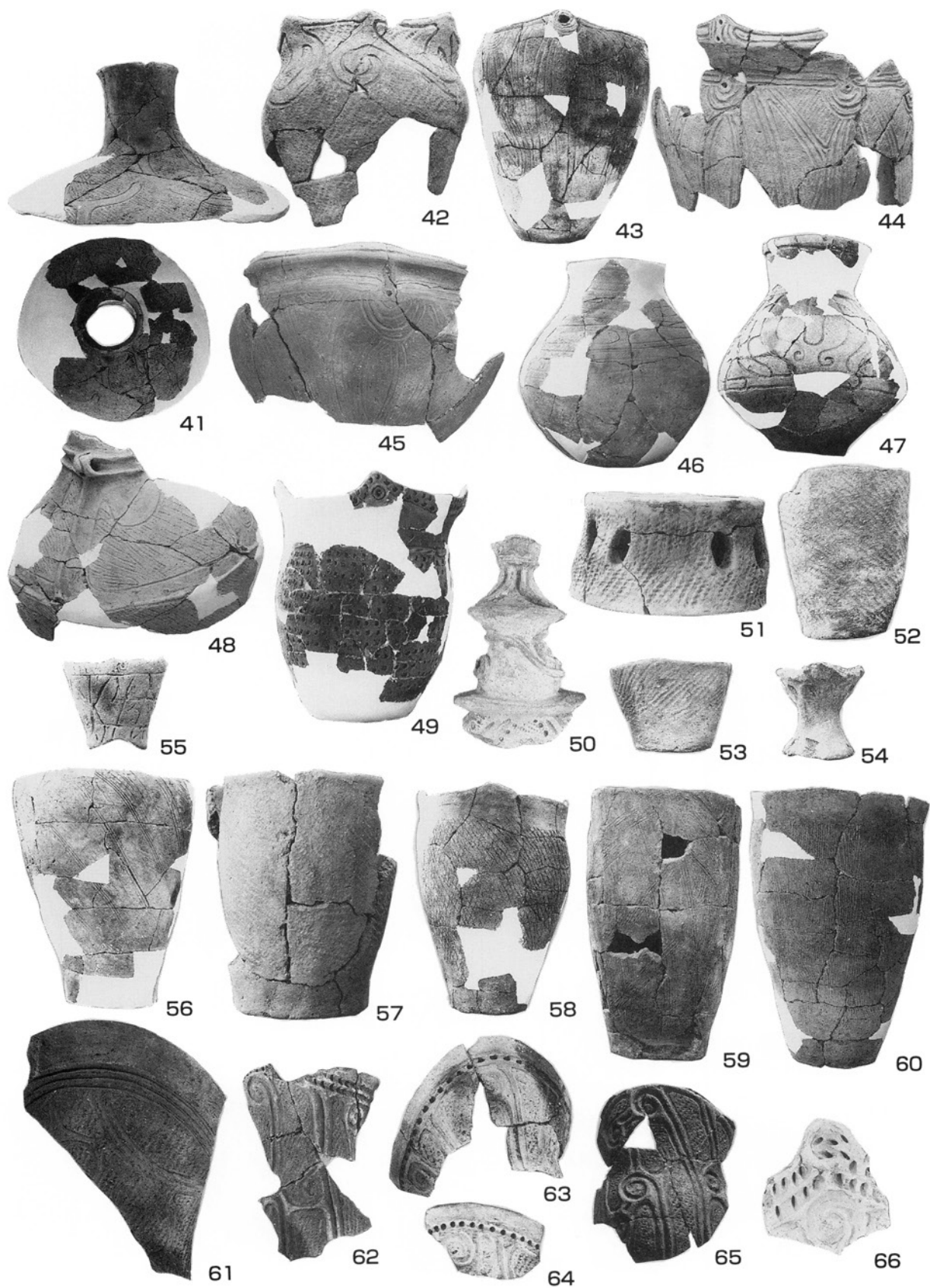




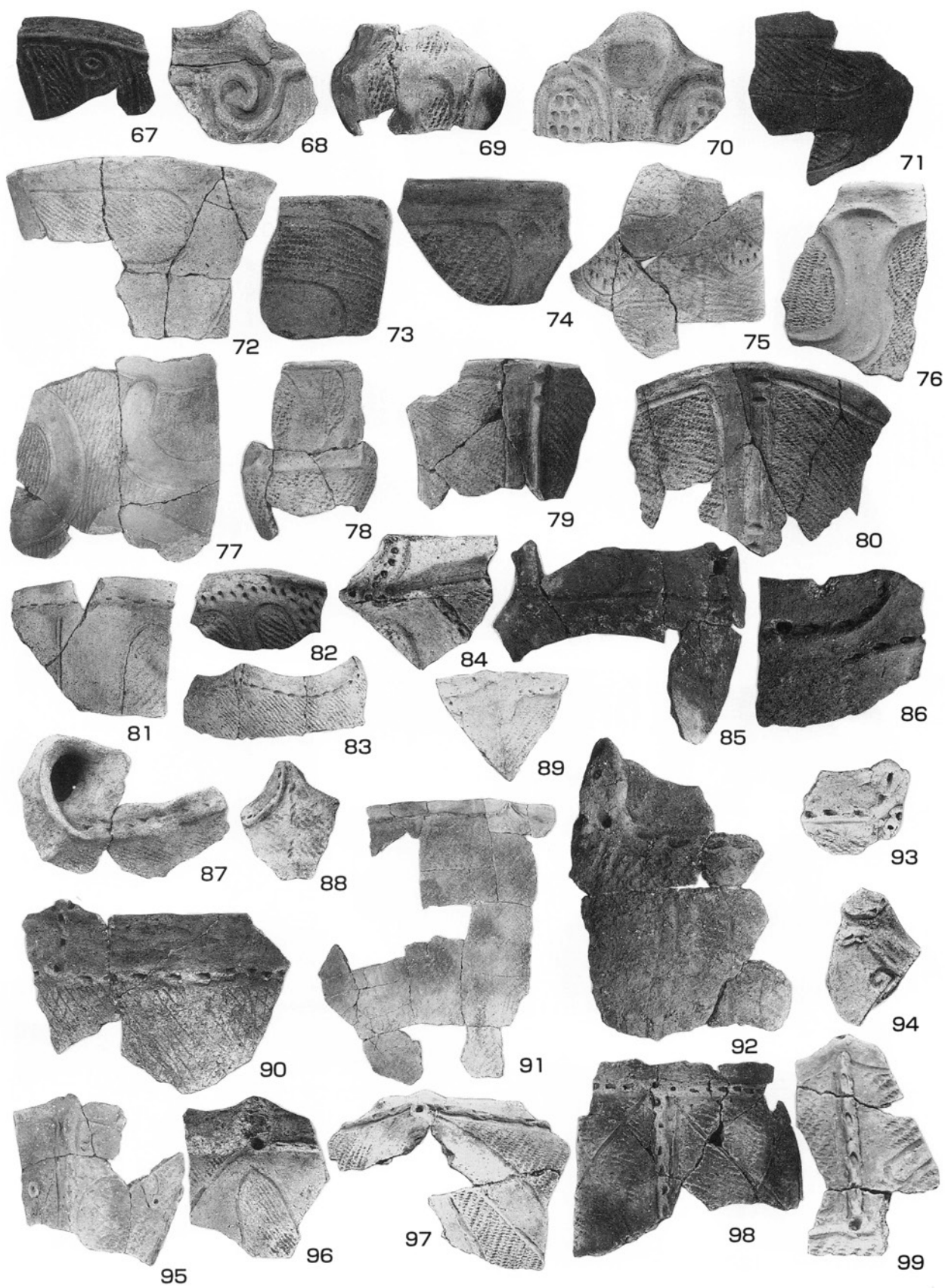
写真图版 6



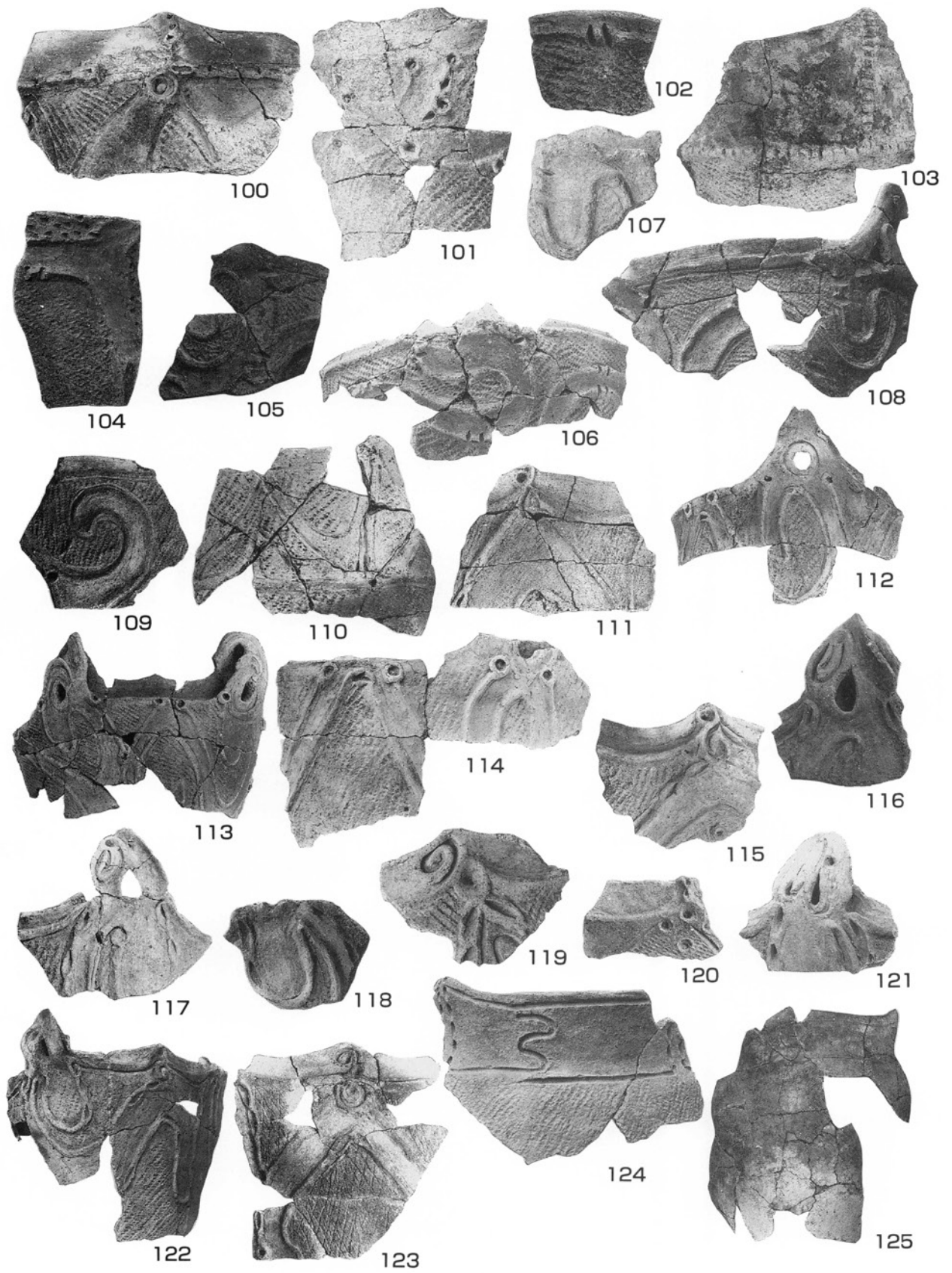
写真图版 7



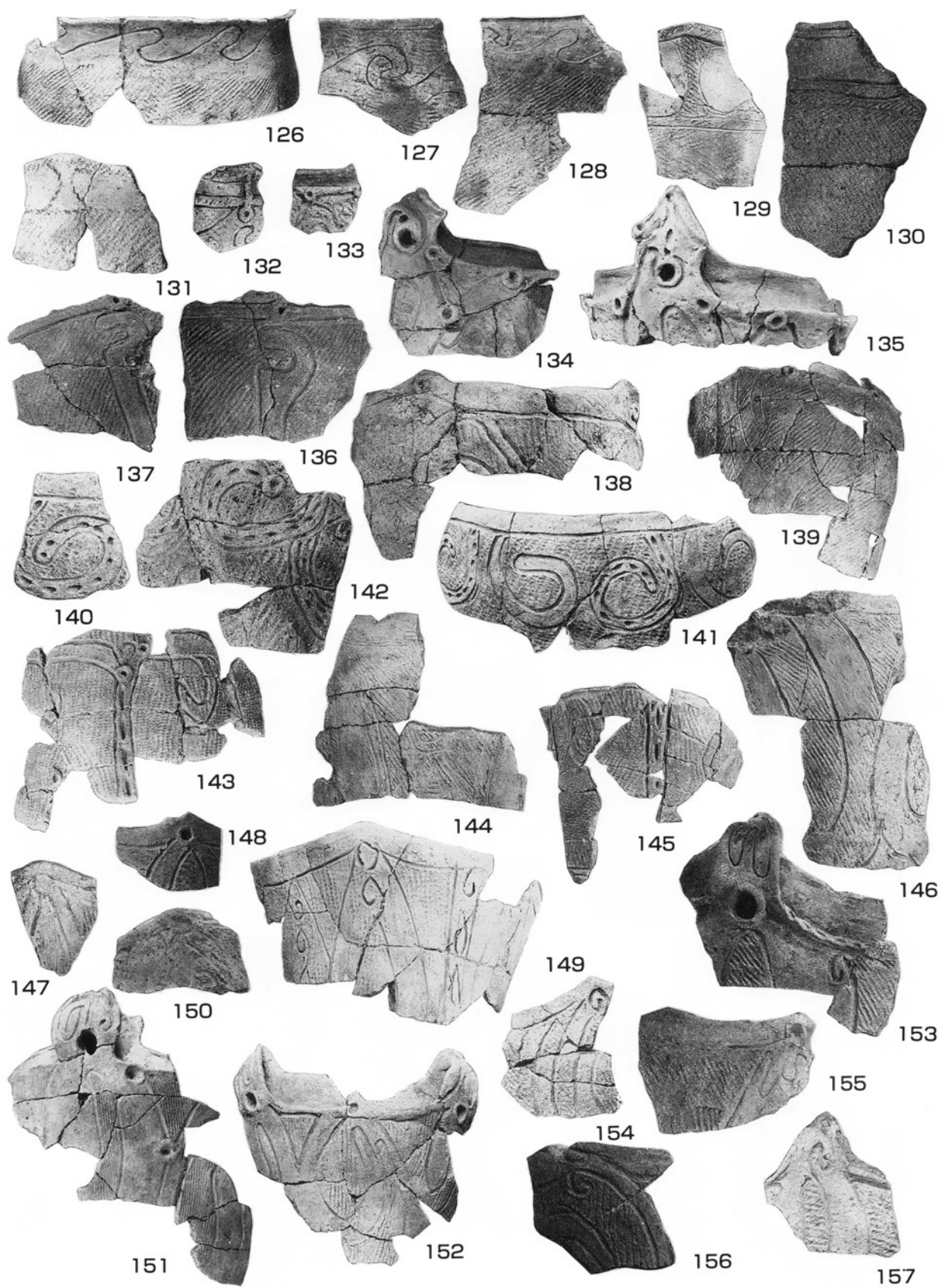
写真図版 8



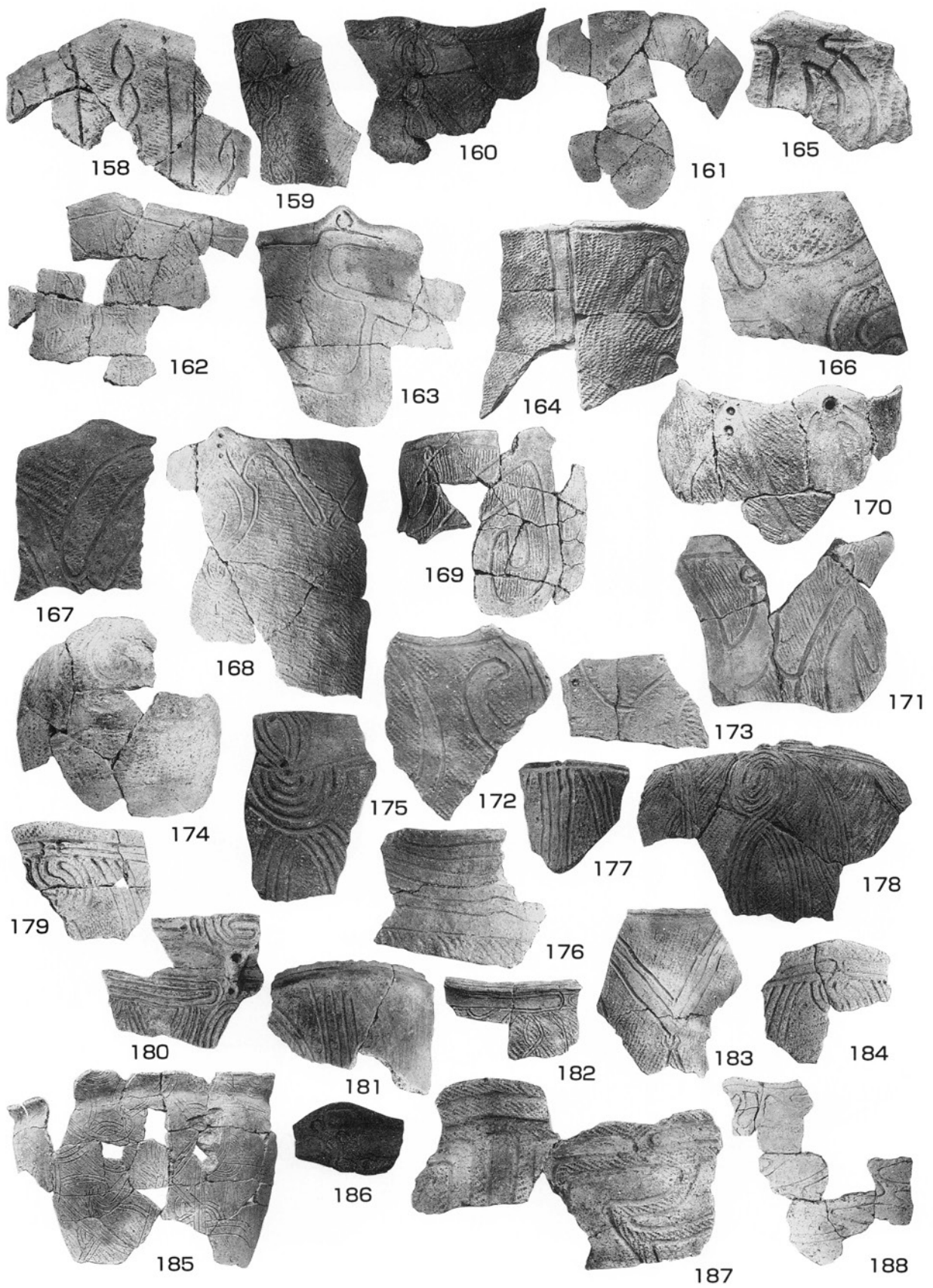
写真図版 9



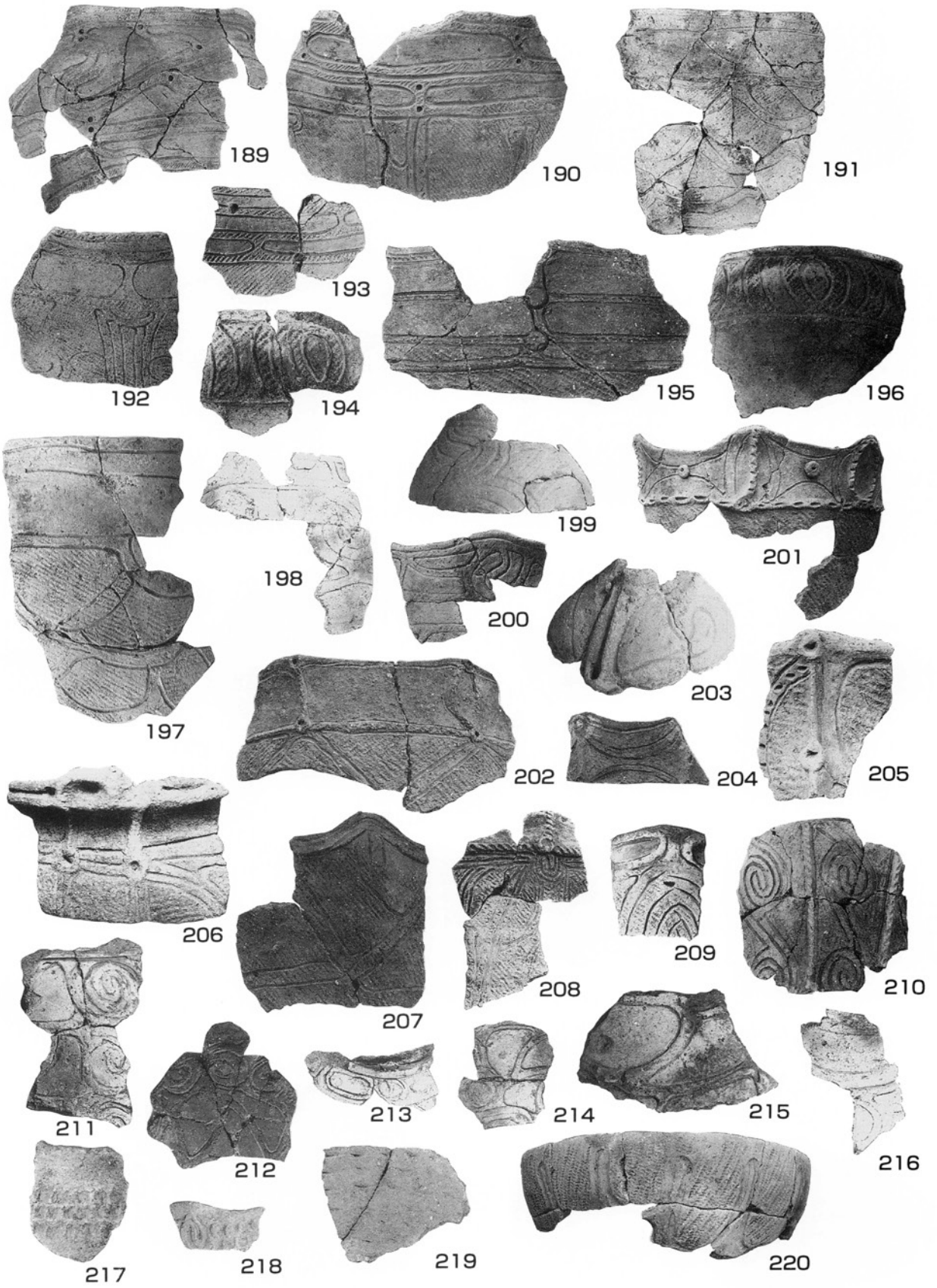
写真図版 10



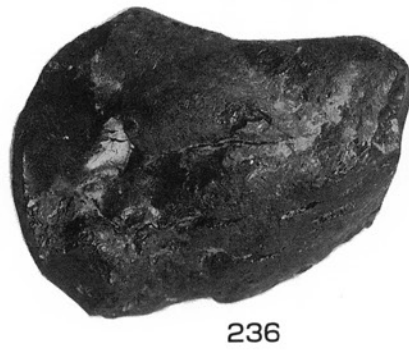
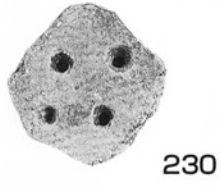
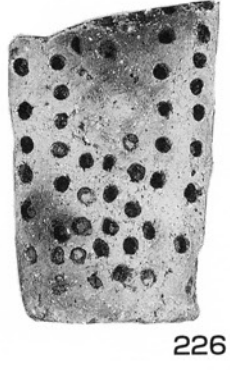
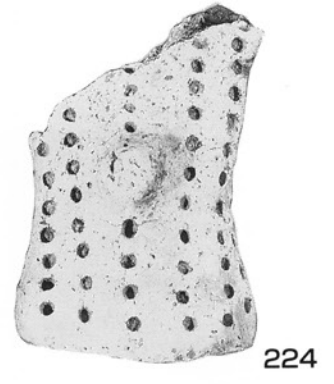
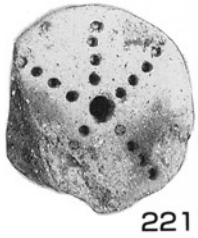
写真図版 11



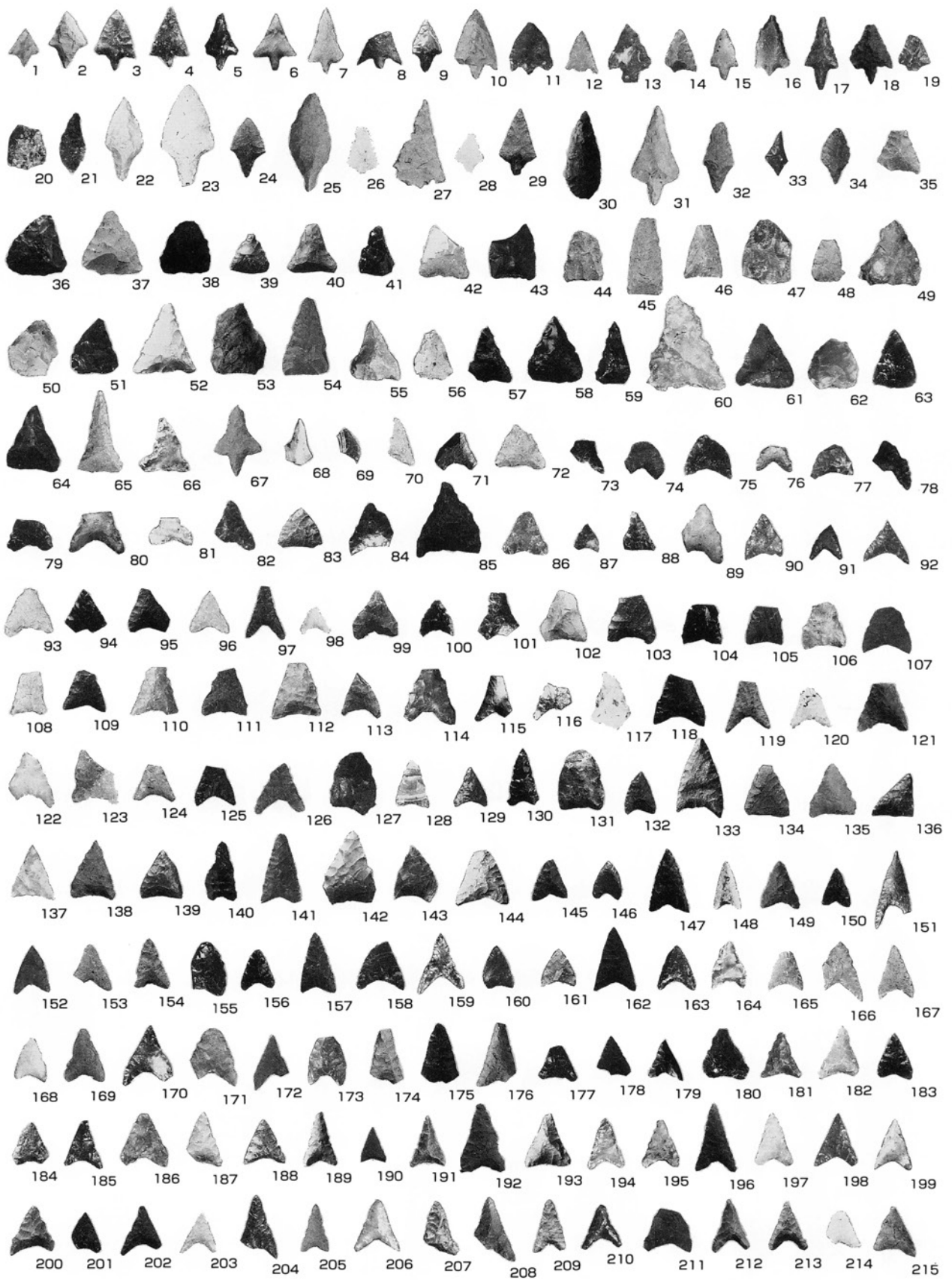
写真図版 12



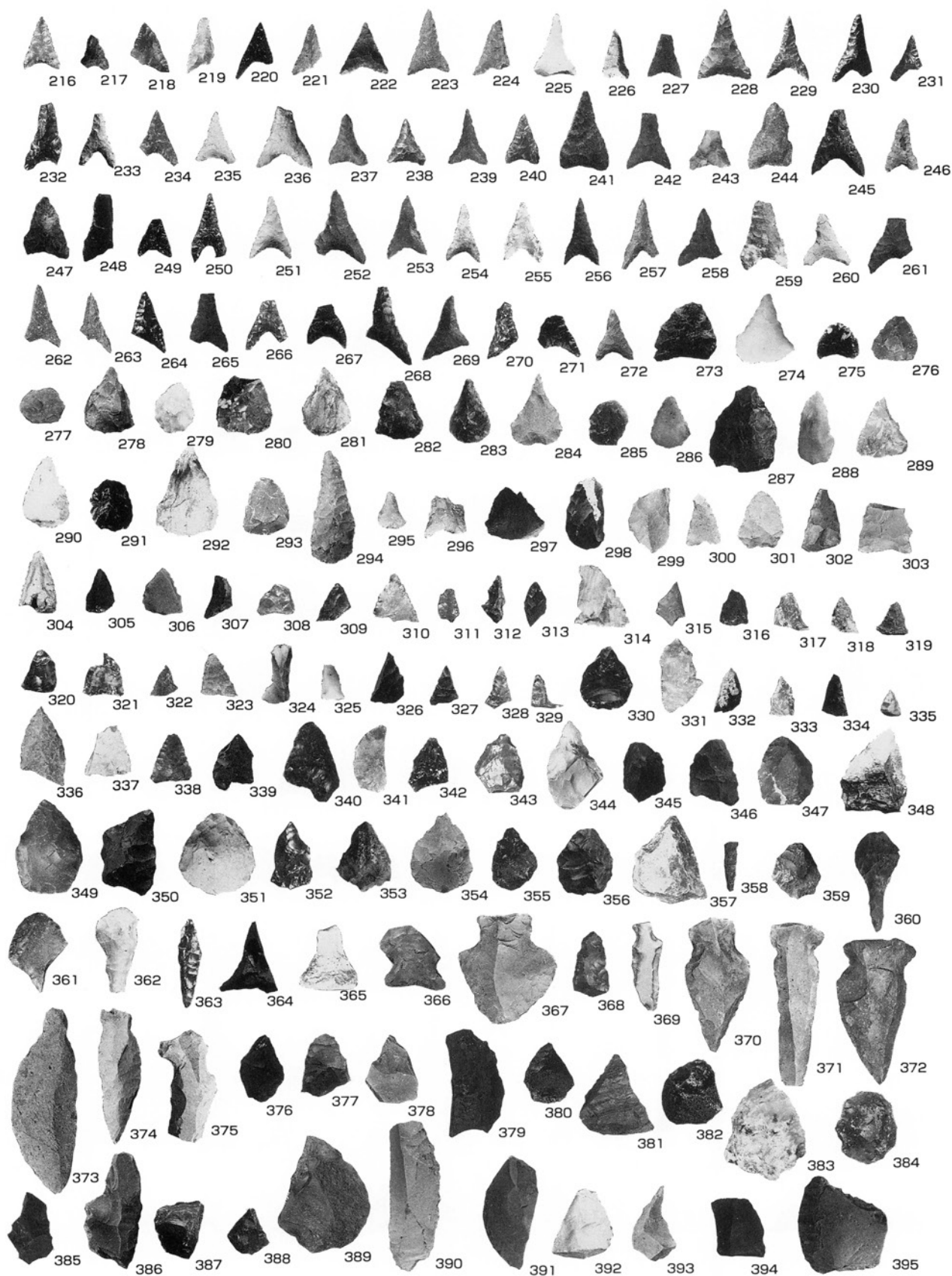
写真図版 13



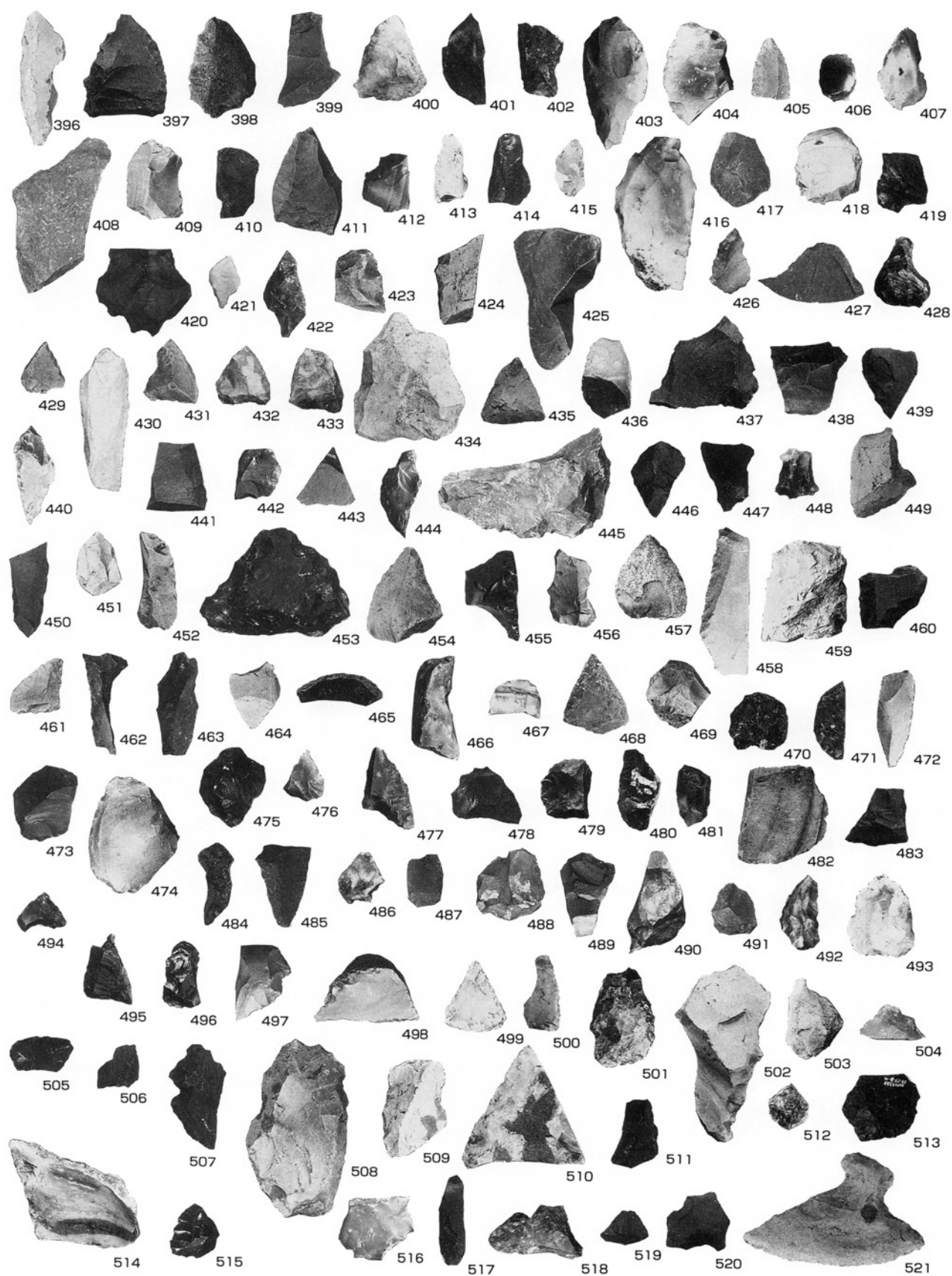
写真図版 14



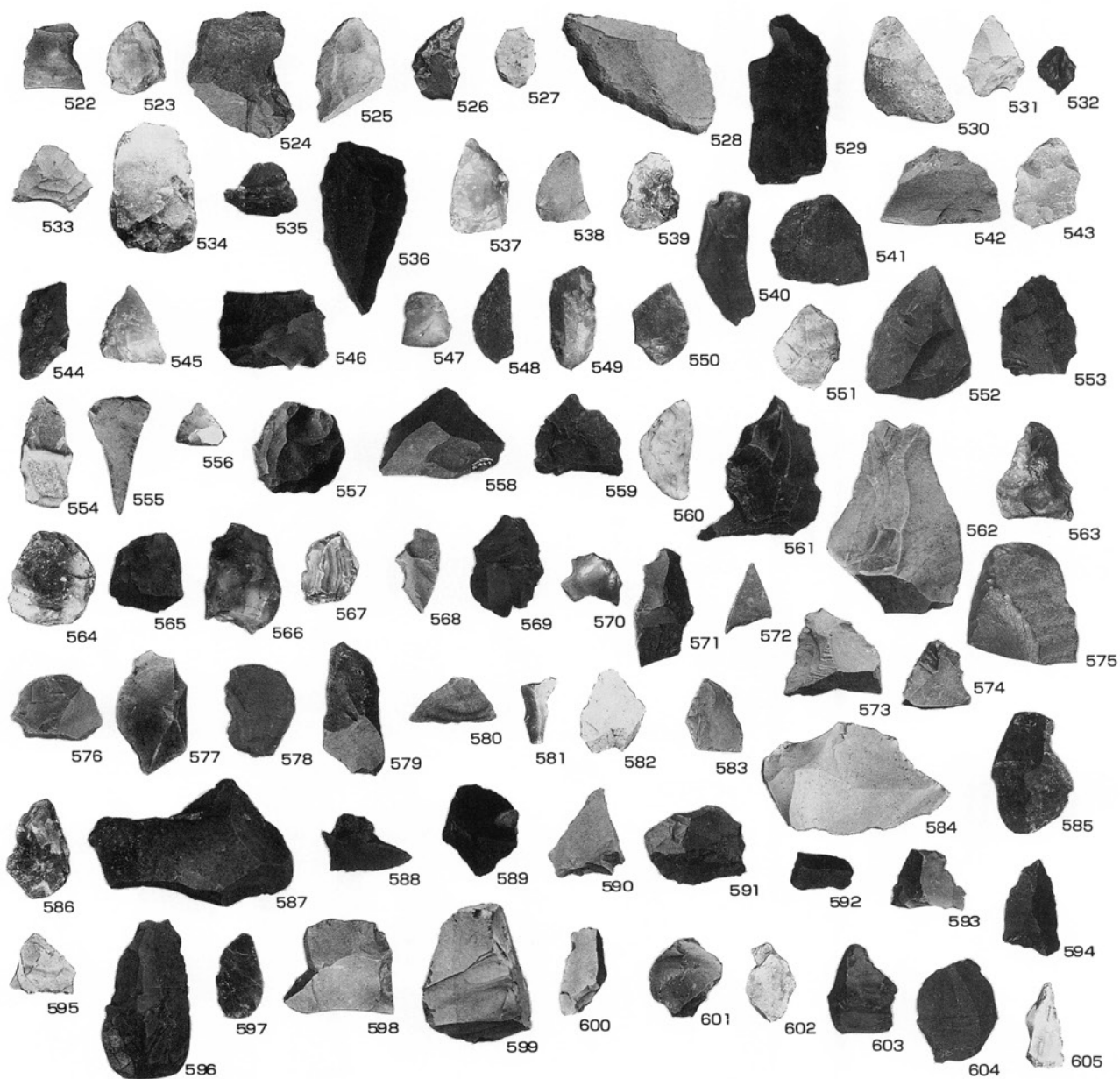
写真図版 15



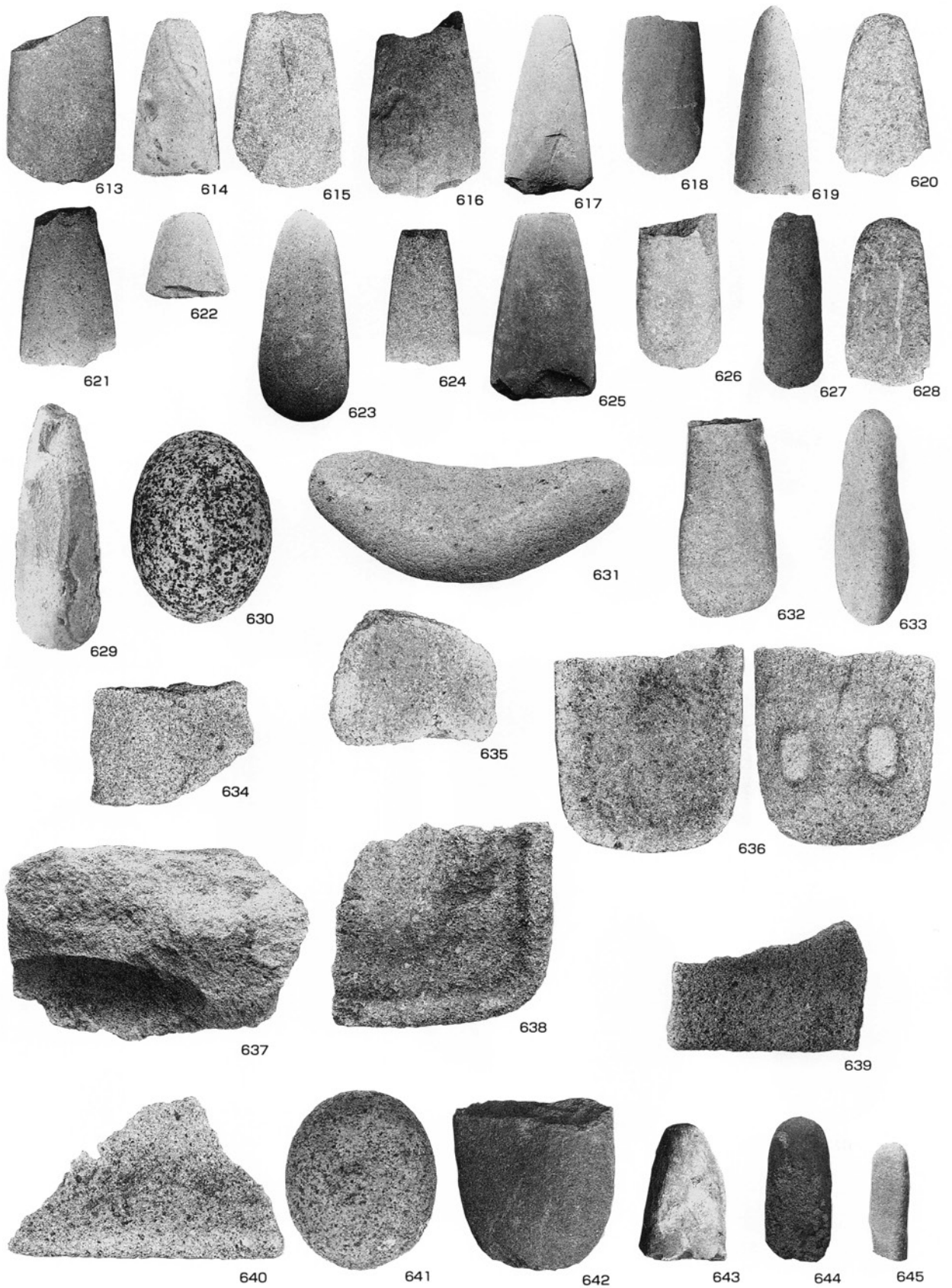
写真图版 16



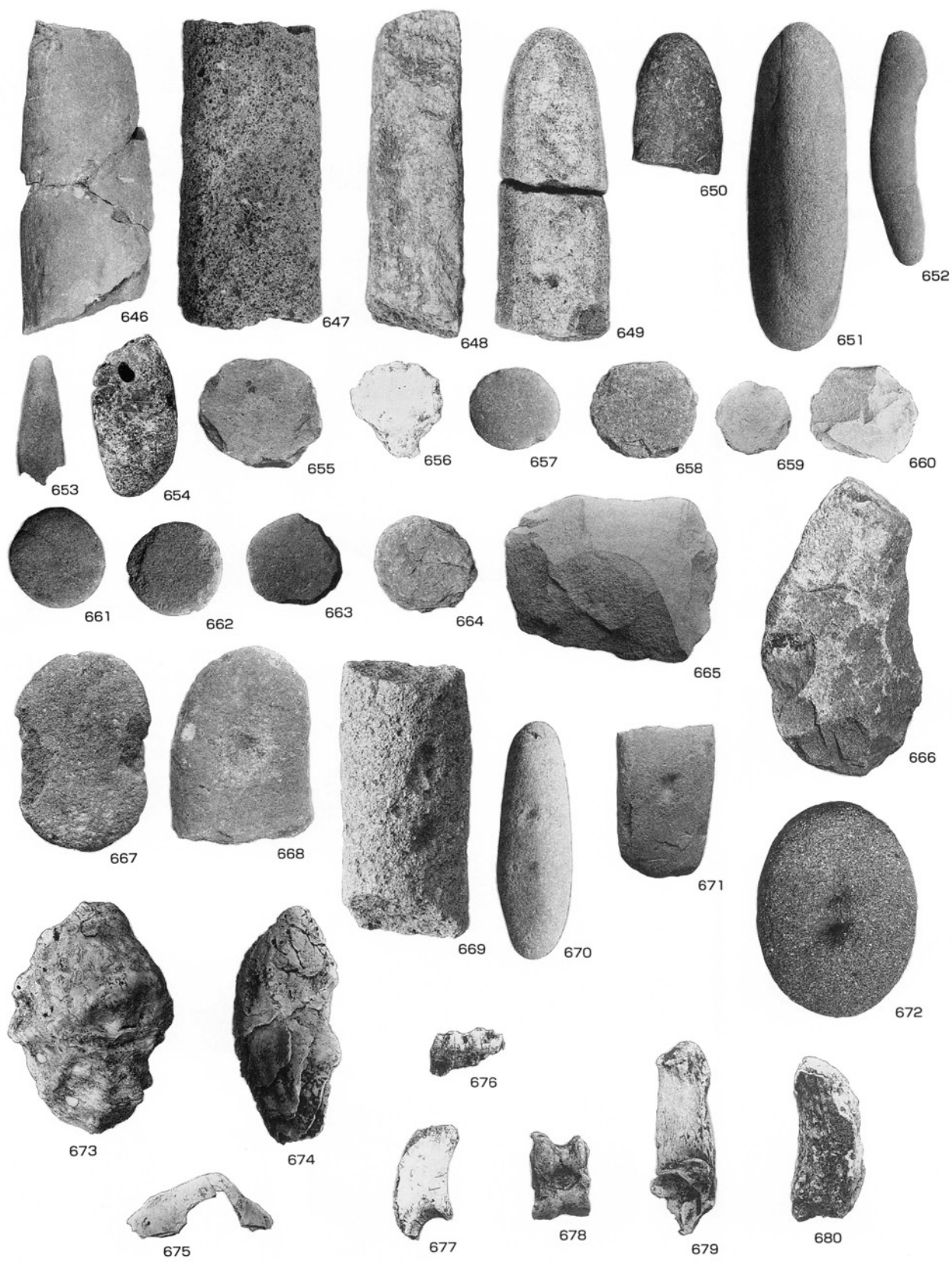
写真图版 17



写真図版 18



写真図版 19



写真图版 20

報 告 書 抄 録

ふりがな	どうのまえかいづかはくつちょうさほうこくしょいち							
書名	堂の前貝塚発掘調査報告書1							
副書名	団体営農道整備事業農道久野立山線改良工事に伴う緊急発掘調査							
巻次								
シリーズ名	陸前高田市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第21集							
編著者名	佐藤正彦 熊谷賢 高橋和弥							
編集機関	陸前高田市教育委員会							
所在地	㊦029-2205 岩手県陸前高田市高田町字館の沖110 TEL 0192-54-2111							
発行年月日	西暦 1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
どうのまえかいづか 堂の前貝塚	いわてけんりくぜんたかたし 岩手県陸前高田市 よねさきちょうあざどうのまえ 米崎町字堂の前 85-1ほか		NF68- 2130	38度 59分 56秒	141度 40分 37秒	19961101~ 19961214	196m ²	団体営農道 整備事業農 道久野立山 線改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡		主な遺物		特記事項	
堂の前貝塚	貝塚 集落跡	縄文時代	竪穴住居 土坑	1棟 151基	縄文土器(中・後期) 土偶 土製品 石器 石製品 骨角器 自然遺物(動物遺存 体)		縄文時代後期の集落跡 縄文時代後期初頭の遺 物包含層	

岩手県陸前高田市

堂の前貝塚発掘調査報告書Ⅱ

(陸前高田市文化財調査報告第21集)

発行日 1999年3月

編集・発行 陸前高田市教育委員会

岩手県陸前高田市高田町館の沖110

TEL (0192) 54-2111

印刷 (有)高田活版

岩手県陸前高田市高田町字馬場前114

TEL (0192) 55-2694